

344
a
43



0031054002

0031054-002

a 344-43

租税研究

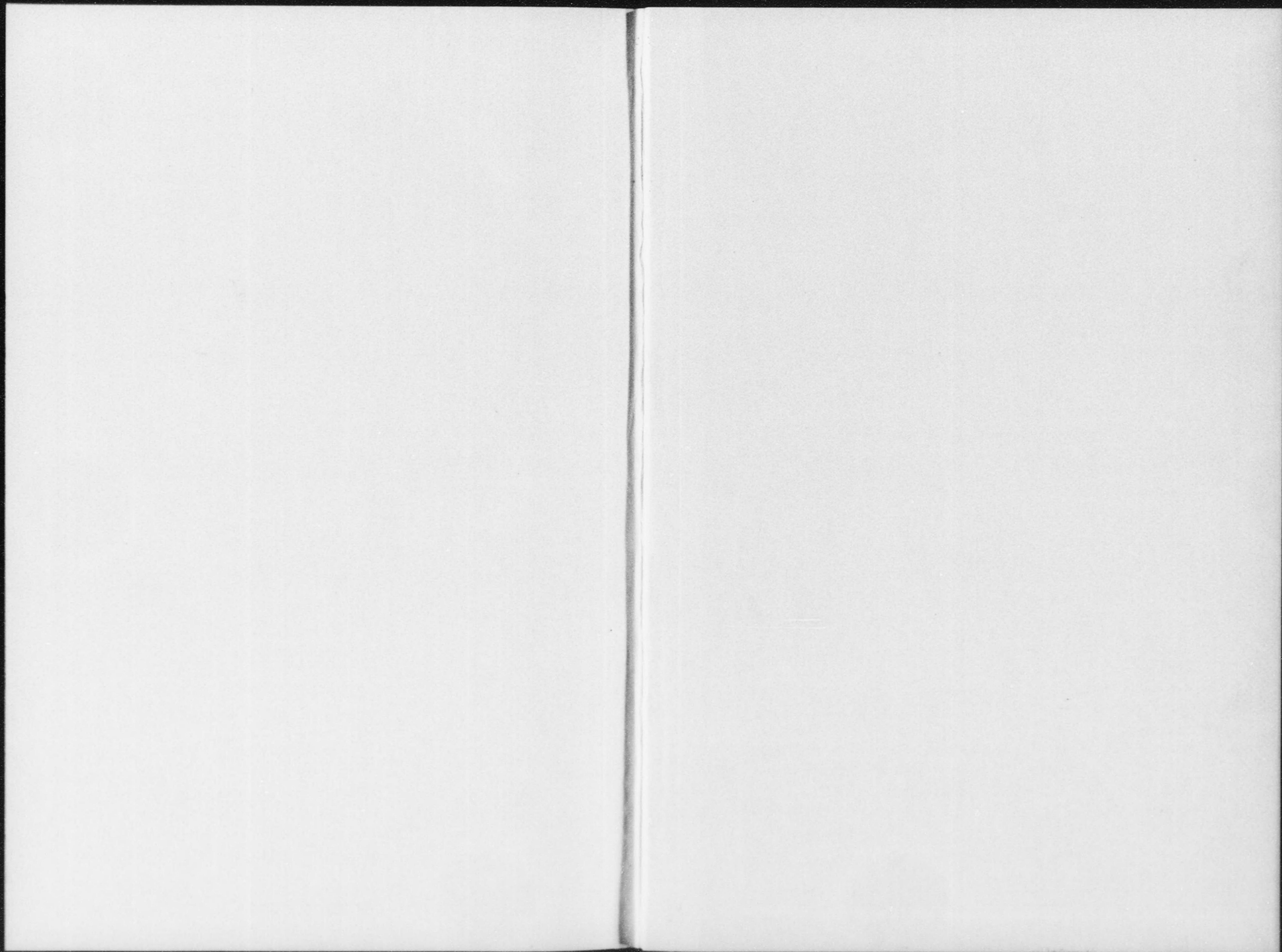
神戸正雄・著

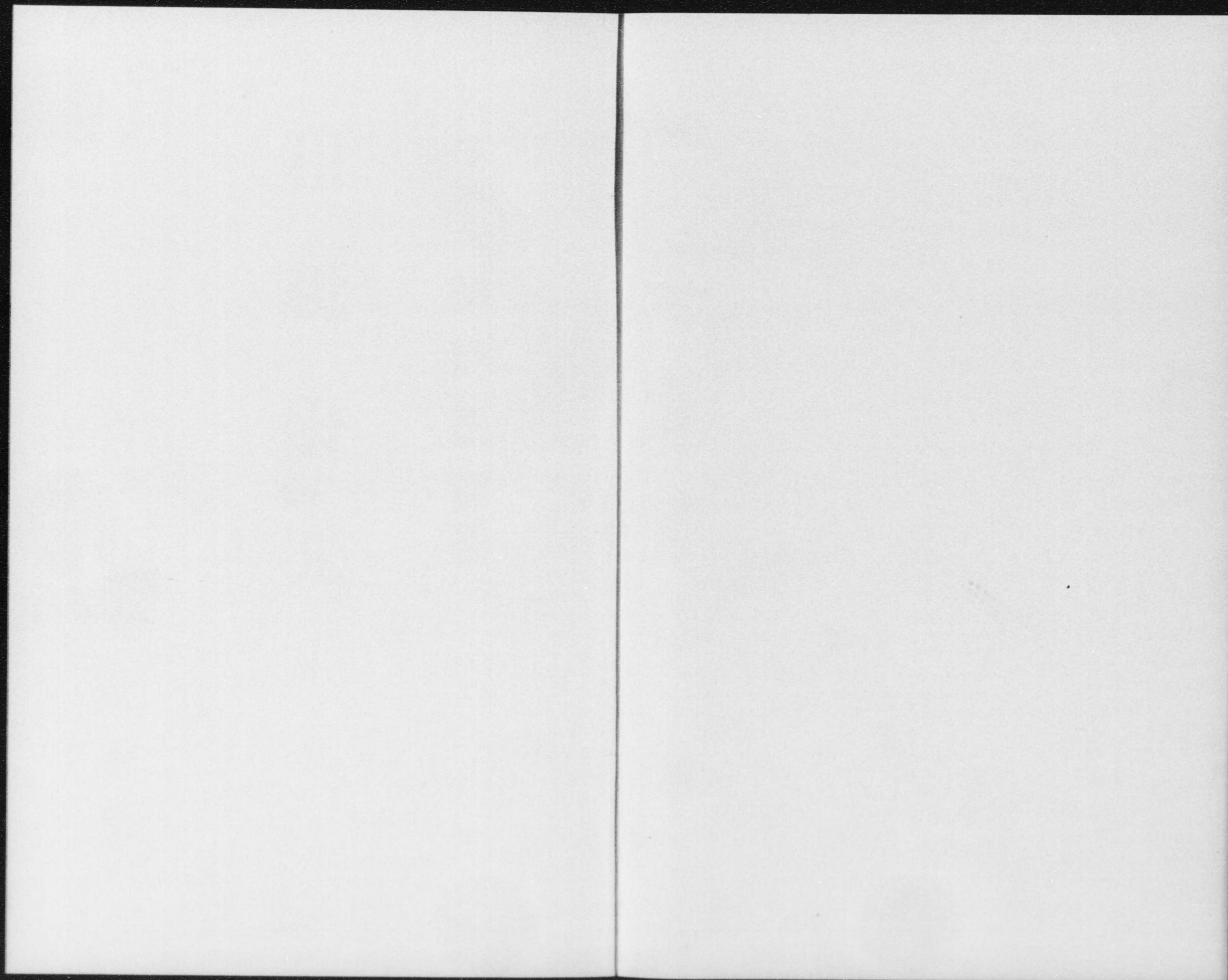
弘文堂書房

第1-10卷

1919-1930

AEB





エト50-85

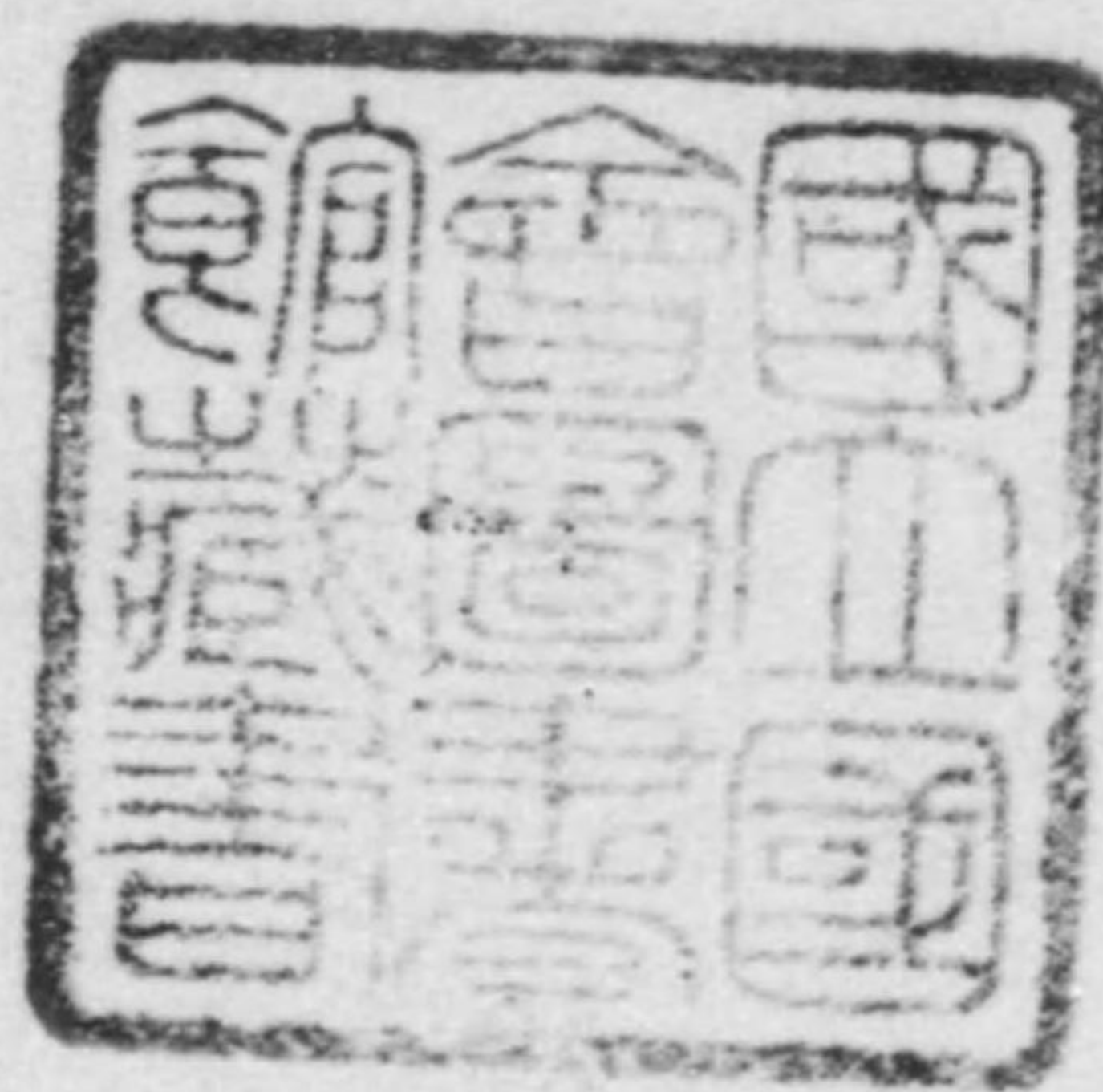
法學博士神戸正雄著

租稅研究

第二卷

京都弘文堂書房

2 344
43



1517

租稅研究第二卷序文

昨年ノ七月ニ租稅研究一卷ヲ公表シタカ、元ヨリ當時讀者ノ多キコトヲ豫想シナカツタ。然ルニ實際ニハ全ク豫期以上ノ需要ノアリシニ誘ハレテ、茲ニ又タ租稅研究一卷ヲ刊行スルコトトシタ。

本書收録スル十五編ハ其論及範圍カ前ノヨリ稍々狹小タルヲ免レナイカ、時勢ノ趨向上、刻下内外ニ亘ツテ直接課稅ノ一トシテ爭議ノ中心トナツテ居ル所ノ經常及臨時財產稅ト、間接消費稅ニ於ケル課稅方法革新ニ關スル根本的ニシテ一般的ナル重要問題ト、地方財源トシテ重キヲ成スヘクシテ從來ノ我邦ニテ閑却サレタル特別課徵

並ニ住居税關係ノ問題トヲ研究對象トスルニ於テ、苟クモ財政特ニ租税ニ興味ヲ有ツ讀者ニハ凡ヘテ切實ナルモノハカリテアル。

今ヤ我邦ニテモ租税改革ノ氣運ハ確カニ成熟シタ。最近政府モ、爲メニ稍々大仕掛ノ調査會ヲ設ケテ之ヲ遂行シヤウトシテ居ル。併シ一般人ノ何人ニモ利害ノ累ル所ノ重大問題ハ之ヲ獨リ政治家行政官ニ任カスヘキテハナイ。實業家資本家ハカリカ之ニ容喙スヘキテモナク、有ラユル階級ノ有ラユル人々モカ之ニ參加シナクハナラナイ。人々カ今ハ空漠タル社會問題ヨリモヨリ切實ナル此租税問題ニ對シテ熱心ニナラナクテハナラナイ。人々カ今少シク眞面目ニ此問題ヲ考慮スルコトトナラナクテハナラナイ。

私ノ租税研究ハ固ヨリ之ニテ完成ハシナイ。私ノ生命ト精力トノ續カン限り、此上トモニ續々之ヲ成シ且ツ公ニスルテアラウ。其ニ就ケテモ私ハ國家カ私ニ向ツテ斯問題ノ研究上ニ便宜ナル地位ヲ與ヘ居ルコトヲ衷心感謝スル。タタ其成果ノ足ラサルコトノミハ私ノ憂ヒ且ツ恥ツル所テアル。

大正九年八月

神戸 正雄 識

租稅研究第二卷目次

第一部 財產稅……………

第一編 經常財產稅ト租稅給付能力……………

緒言 (一)本研究ノ目的(A)理論上ノ重要(B)實際上ノ必要(二)説述ノ順序)

第一段 財產ノ租稅給付能力表示

其一 一般財產ノ給付能力表示 (一)財產ノ範圍(二)一般財產ノ給付能力有無)

其二 收益財產ノ給付能力表示 (一)收益財產ノ價值決定(二)收益財產ノ給付能力(A)元本財產侵蝕危險(イ)財產稅ニ於テ(ろ)收益稅トノ比較(B)收益適應可能(イ)財產稅ニ於テ(ろ)收益稅トノ比較)

其三 使用財產ノ給付能力表示 (一)使用財產ノ免稅點(二)使用財產ノ給付能力(A)元本財產侵蝕危險(イ)財產稅ニ於テ(1)無形收益ノ存在(2)所得トノ關係(ろ)收益稅トノ比較(B)所得適應可能(イ)財產稅ニ於テ(ろ)收益稅トノ比較)

第二段 財產稅ノ所得稅補完 (一)財產稅ノ所得稅補完其モノ(A)非回期的所得ノ捕捉(B)所得申告脫漏補完(C)過小所得申告補完(D)收益財產ノ安全度斟酌(E)使用財產ノ無形收益捕捉(F)收益財產ノ投機收益捕捉(G)休止收益財產捕捉(H)怠使收益財產捕捉(I)財產重課(J)法人留保所得補完(二)財產稅ノ補完ト收益稅ノ其トノ比較(A)前掲諸點(B)其他ノ點)

結論 (全文ノ要旨)

目次

第二編 經常財産税ノ利弊……………三三三

緒言 (一)本研究ノ目的 (二)説述ノ順序

第一段 財産税ノ經濟上ノ利弊 (一)根本的ノ經濟上ノ利弊 (A)財産元本侵蝕ノ可能 (イ)肯定 (ロ)否定 (1)普通ノ場合 (2)享樂財産 (3)利用懈怠 (4)不利ノ事情 (5)投機利用 (B)資本蓄積制限ノ可能 (イ)肯定 (ロ)否定 (C)勤勉、節約、財産利用ノ注意、奢侈及投機ノ謹慎 (二)支葉的ナル經濟上ノ利弊 (A)企業心抑制ノ可能 (B)企業壓迫ノ可能 (C)企業信用損傷ノ可能)

第二段 財産税ノ社會上ノ利弊 (一)社會階級間ノ關係上ヨリノ利弊 (A)社會組織破壊ノ可能 (イ)肯定 (ロ)否定 (B)資金基金減少ノ可能 (イ)肯定 (ロ)否定 (C)貧者有利、反感緩和 (二)道義上ノ利弊 (A)奢侈及投機ノ抑制 (B)虚偽申告ノ誘惑 (三)文化上ノ利弊)

第三段 財産税ノ財政上ノ利弊 (一)財政收入上ノ利弊 (A)多收ノ可能 (イ)肯定 (ロ)否定 (B)收入ノ不動 (イ)肯定 (ロ)否定 (二)租税技術上ノ利弊 (A)課税物件ノ捕捉及評價ノ困難 (B)計算上ノ困難)

結論 (全文ノ要旨)

第三編 臨時資本税ト公平負擔……………五五

緒言 (一)本研究ノ目的 (A)本税ノ大勢 (B)研究ノ必要 (イ)實際上 (ロ)學術上、(二)本研究ノ物體、(三)説述ノ順序

第一段 本問題ノ爲メノ先決問題

其一 資本税 (一)資本税ノ本體 (A)本税 (B)附帯税、(二)資本税ノ性質 (A)名稱ヨリ見テ (B)内容ヨリ見テ (イ)臨時的 (ロ)財産沒收的)

其二 公平負擔ノ要求 (一)公平負擔要求ノ意義 (A)此要求ノ根本義 (B)其解釋 (イ)從來ノ其ノ區々 (1)過激説 (2)緩和説 (3)折衷説 (ロ)今後ノ大勢、(二)公平負擔要求ノ重要 (A)從來 (B)今後及本來)

第二段 本問題

其一 現代對後代關係 (一)現代ノ負擔ノ辯護 (二)其不當)

其二 資産對人力關係 (一)資産ノ課税ノ辯護 (A)戦争ノ利益ニ對スル補償 (B)軍務不就ニ對スル補償 (C)給付能力 (イ)異論 (ロ)辯護 (二)資産ノ課税ノ不當 (A)其理由 (B)補充税)

其三 自然人對法人關係 (一)自然人ノ課税ノ不當 (二)其辯護)

其四 收益財産享樂財産關係 (一)併課ノ不當 (二)其辯護)

其五 收益財産相互關係 (一)同等課税ノ不當 (二)其辯護)

其六 評價問題 (一)評價難ヨリ生スル不公平 (二)其辯護)

其七 脱税問題 (一)脱税易ヨリ生スル不公平 (二)其辯護)

結論 (全文ノ要旨)

第四編 臨時資本税ノ利弊……………八八

緒言 (一)本研究ノ目的 (二)説述ノ順序)

第一段 資本税ノ經濟上ノ利弊

其一 資本税ノ經濟上ノ不利 (一)生産力ノ減少、(A)資本ノ減少、(イ)政府ノ資本引上ニ依リ、(ロ)資本外國流出ニ依リ、(B)人力ノ減少、(二)生産力ノ増加制限、(A)努力及節約ノ阻碍、(イ)二度ビ資本税ノ起サルルコトヲ恐レテ、(ロ)努力所得ノ特別税及資産所有ノ宥恕的年賦支拂負擔ノ爲メ、(B)外國資本ノ流入難、(三)經濟界擾亂

(A) 價格ノ大下落、(B) 營業ノ破産)
 其二 資本税ノ經濟上ノ利益 (一) 努力奮勵、(二) 資本増加、(A) 貯蓄増加、(B) 外資流入、(三) 通貨緊縮、(四) 國際活
 動ノ容易、(五) 財産回復、(六) 有限會社ノ地位改良)

第二段 資本税ノ財政上ノ利弊

其一 資本税ノ財政上ノ不利 (一) 然ラザレバ生産者ニキ利益ヲ失フコト、(A) 公債ニ關シ、(イ) 國民經濟力ノ進歩
 ニ依ルモノ、(ロ) 通貨價值ノ下落ニ依ルモノ、(ハ) 低利借換ニ依ルモノ、(B) 租税ニ關シ、(二) 其ノ損害、(A) 財政ノ
 放漫、(B) 租税收入ノ減少、(三) 其他ノ缺點、(A) 公債破産、(B) 公債破産ト革命トノ中間、(C) 脱税多)

其二 資本税ノ財政上ノ利益 (一) 收入ノ確實、(二) 租税負擔ノ輕易、(三) 財政信用ノ回復)

第三段 資本税ノ政治及社會上ノ利弊
 其一 資本税ノ政治及社會上ノ不利 (一) 社會主義ノ第一步、(二) 壓迫ノ道具、(三) 勞働者ノ不利)

其二 資本税ノ政治及社會上ノ利益 (一) 富者特ニ無努力所得重課、(二) 無產者ノ反感緩和、(三) 民衆福利増進)

結論 (全文ノ要旨)

第五編 臨時資本税ノ課徵方法

緒言 (一) 本研究ノ目的、(二) 説述ノ順序)

第一段 資本税ノ賦課方法

其一 課税物件ノ捕捉 (一) 課税物件捕捉ノ方法、(二) 捕捉上ノ困難及疑問 (A) 捕捉ノ困難、(イ) 虚偽申告ノ行ハレ易キ
 物、(ロ) 状態ノ變動常ナキコト、(B) 捕捉上ノ疑問)

其二 課税物件ノ評價 (一) 課税物件評價ノ方法、(二) 評價上ノ困難及煩累 (A) 評價ノ困難、(B) 評價上ノ煩累)

第二部 消費税

第六編 消費税カ生産者ニ及ホス影響ノ社會政策的考察

緒言 (一) 本研究ノ目的、(二) 説述ノ順序)

第一段 消費税ノ社會政策上生産者ニ及ホス不良影響

其一 不良影響ノ本質 (一) 中等階級政策上ノ不利、(二) 不利ノ緩和 (A) 有利ナル影響、(イ) 生産上ノ利益、(ロ) 倫理及衛生
 上ノ利益、(B) 中等階級政策上太ダシク不利ナラザルノ點)

其二 不良影響ノ原因 (一) 自然ノ大勢ニ放任スル結果 (A) 大企業ニ於テ生産費ノ小ナルコト、(B) 大企業ニテハ租
 税轉嫁困難ノ場合ノ抵抗力大ナルコト、(C) 大企業ニハ稅務吏買収ノ便利大ナルコト、(D) 租税取締規定ガ大企業
 ニ一層安易ナルコト、(二) 税法ノ積極的施設ノ結果 (A) 小企業ノ禁止、(B) 課税標準ノ定メ方)

第二段 消費税ノ社會政策上生産者ニ及ホス不良影響ノ匡正案 (一) 根本策、(二) 應急策 (A) 大小企業ニ差等課税シ特
 ニ累進税ヲ課スルコト、(B) 税法ニ於ケル小企業不許可ノ規定ヲ解放スルコト、(C) 稅務官吏ノ間ニ社會政策上ノ觀
 念ヲ統一スルコト)

結論 (全文ノ要旨)

第七編 消費税ニ於ケル累進課税

緒言 (一)本研究ノ目的 (二)説述ノ順序

第一段 消費税ニ於ケル累進課税ノ方法及其説明 (一)方法ノ大別 (二)問題ノ累進 (A)關稅及使用税ノ範圍ニ於テイ
關稅ノ使用税 (B)普通ノ狹義消費税ノ範圍ニ於テイ (普通ノ方法) (進步シタル方法)

第二段 消費税ニ於ケル累進課税ノ批評及其改造 (一)批評 (A)從價累進ノ缺點 (イ)恣意及惡徳 (B)實行範圍ノ狹小 (B)
皮相累進ノ弱點 (二)改造—政府專賣)

結論 (全文ノ要旨)

第八編 酒ノ政府專賣ト公益……………一六八

緒言 (一)本研究ノ目的 (二)説述ノ順序

第一段 本問題ノ前提

其一 公益ノ意義 (一)財政關係以外ノ公共的利益 (二)特ニ倫理及衛生上ノ利益)

其二 公益ノ本問題ニ於ケル重要 (一)一般政務ニ於ケル公益ノ重要 (二)特ニ酒課税問題ニ於ケル公益ノ重要)

第二段 本問題

其一 酒ノ消費ノ方面ヨリ見タル本問題 (一)酒ノ消費量ヨリノ觀察 (A)消費量ノ調節 (B)消費機會ノ制限 (二)酒ノ
品質ヨリノ觀察)

其二 酒ノ原料ノ方面ヨリ見タル本問題 (一)日本米ノ節用 (二)常平倉ノ運用)

結論 (全文ノ要旨)

第九編 住居税ト公平負擔……………一八三

緒言 (一)本研究ノ目的 (二)説述ノ順序

第一段 住居税ト所得又ハ財産

其一 住居税ト所得 (一)住居税ガ所得ニ對シ公平ナリトイフ見解 (A)所得ノ大小ヨリ (B)所得ノ種類ヨリ (二)右見
解ノ批評 (A)大體上ノ考察 (B)精細の考察 (イ)同額所得者ニツキ (1)主觀的動機ヨリノ差異 (2)客觀的動機ヨリノ差
異 (B)異額所得者ニツキ (三)右批評ノ實際上ノ適用)

其二 住居税ト財産

第二段 住居税ト支出 (一)住居税ガ全支出又ハ全奢侈的支出ニ對シ公平ナリトノ見解 (二)右見解ノ批評 (A)此税ノ
不公平 (B)他税トノ相對的公平)

結論 (全文ノ要旨)

第十編 住居税ノ本資及其構造……………二〇三

緒言 (一)本研究ノ目的 (二)説述ノ順序

第一段 住居税ノ本質

其一 住居税ノ定義

其二 住居税ノ部屬 (一)直接税間接税ノ區別ニ於テ (二)所得收益財産交通消費税ノ區別ニ於テ (A)消費税也 (B)他
税トノ關係 (イ)收益税トノ關係 (1)家屋税トノ關係 (2)營業税トノ關係 (B)所得税トノ關係)

第二段 住居税ノ構造

其一 住居税ノ課税物件 (一)住居ノ意義 (二)住居ノ範圍 (A)入ルベキモノ (B)除クベキモノ)

其二 住居税ノ課税標準 (一)古式ノモノ (二)現代式ノモノ (A)賃貸價格 (B)其他ノ標準)

- 其三 住居税ノ免稅點 (一)免稅點ヲ設クル主義 (二)之ヲ設ケザル主義
- 其四 住居税ノ稅率 (一)貸賃價格ニ對シ累進トスルノ主義 (二)其他ノ定メ方
- 其五 住居税ノ租稅主體 (一)住居者 (二)其他ノモノ
- 其六 住居税ノ課稅權者 (一)實例 (二)理論
- 其七 住居税ト他税トノ結合
- 其八 住居税收額ノ使途

結論 (全文ノ要旨)

第十一編 住居税ノ利害ト高級住居税ノ提案……………二二五

緒言 (本研究ノ目的及説明ノ順序)

第一段 住居税ノ長短

- 其一 住居税ノ長所 (一)財政上A收入源トシテノ價値(イ)多收(ロ)増進B一ノ税トシテノ重要(イ)直接税トシテ(ロ)消費税トシテ (二)經濟上A生産不課B生産進捗 (三)道義上A道義不棄B奢侈虛榮制限 (四)社會A雇賃上騰ノ制限(イ)不勞利得抑制(ロ)貧民生活安易B社會感情融和 (五)收稅技術上A課税ノ容易B課税ノ確實
- 其二 住居税ノ短所 (一)社會上A生活困難B衛生風教損害C人口増加制限 (二)文化上 (三)經濟上

第二段 高級住居税ノ提案

其一 提案ノ大綱

- 其二 提案ノ細目 (一)課稅物件 (二)課稅標準及稅率 (三)租稅主體及課稅權者

結論 (全文ノ要旨)

第三部 特殊の課徵物……………二四四

第十二編 特別課徵ノ本質……………二四四

緒言 (一)本研究ノ目的 (二)説述ノ順序

第一段 特別課徵ノ用語及由來 (一)用語 (二)由來

第二段 特別課徵ノ意義及特徵 (一)定義 (二)特徵A必要的特徵(イ)一ノ課徵物タルコト(ロ)政府ノ施設ニヨリ特段ナル利益ヲ受クル者ニ對シ課徵サルルコト(ハ)一定地域内ノ受益者ニ配當スベキモノナルコトB其他ノ特徵(イ)當該費用ノ一部ヲ充タスガ爲メナルコト(ロ)特段ナル利益ニ應ジテ配當サルルコト(ハ)其高サガ利益ノ價値ヲ超エナイコト(イ)利益ニ對シ比例的ナルコト(ロ)施設ノ利益ガ可分のナルコト(ハ)各人ニ或階級ノ成員トシテノ課セラルルコト(イ)特ニ多ク地方財政ニ現ハルルコト(ロ)多ク特別地方改良ニ現ハルルコト(イ)額ガ一方的ニ政府ニヨリ定メラルルコト(ロ)合計收額ガ豫定サルルコト(イ)間々特徵トシテ擧ゲラルルモ本來特徵タラザルモノ(イ)永續的の事物ニ基キ随フテ臺輾ニ基キテ課セラルルコト(ロ)資本勘定ノ爲メ即チ永續的設備ヲ増加スル爲メニセラルルコト(ハ)其利益ガ不動産ノ中間物ニヨリ得ラルルコト(イ)經濟的領域ニ現ハルルコト(ロ)公務ガ營造物ノ制定及管理ニ限ルコト(ハ)通例附加税トシテ徵收セラルルコト(イ)規則正シキ支拂ナルコト(ロ)一回的又ハ割賦的支拂ナルコト(イ)特別改良ノ建設ノ前又ハ時トシテ後ニ要求セラルルコト(ロ)一時的ナル賦課機關又ハ既存ノ通例ノ機關ニヨリ徵收セラルルコト)

第十三編 特別課徵ノ課額ノ決定……………二六八

緒言 (一)本研究ノ目的 (二)説述ノ順序)

第一段 特別課徴課額決定ノ理論上ノ考察 (一)費用及利息ノ内容(A)費用(イ)夫ノ施設ノ全費用(ロ)全費用中一定部費用ノ指定(B)利益(イ)實際の利益(ロ)推定の利益(二)費用及利息ノ連絡(A)賦課全額ノ最高限(B)各箇ノ賦課額)

第二段 特別課徴課額決定ノ實際上ノ應用 (一)道路ノ建設及擴張費(A)實際の利益ニ依ル場合(イ)利益ノ合計カ指定費用ヲ超過スル場合(ロ)利益ノ合計カ指定費用又ハ其以內ナル場合(B)推定の利益ニ依ル場合(二)道路ノ維持又ハ修繕費)

第十四編 特別課徴ノ利害並ニ其當否……………二八三

緒言 (一)本研究ノ目的(二)説述ノ順序)

第一段 特別課徴ノ正當

其一 特別課徴正當ノ理由 (一)特別利益ニ對スル特別課徴ノ賦課ノ正當(A)特別利益ニ對スル報償ノ正當(B)特別損害ニ對スル賠償(二)別ニ租稅手数料ノ賦課ノ肯定(A)租稅(B)手数料(イ)存立ノ理由ト其場合(ロ)其行ハレサル場合(1)一般稅ニ依ル場合(2)特殊稅ニ依ル場合)

其二 特別課徴ヲ設クルニ適當ナル施設

第二段 特別課徴ノ利害

其一 特別課徴ノ利益 (一)政治上、必要ナル改良事業ノ進行ヲ促スノ利アルコト(二)人々ニ不平不滿ナカラシメ、社會上及經濟上有利ナルコト(三)財政上、收額ノ確實トイフ利アルコト(四)租稅技術上、徵收ノ容易トイフ利アルコト)

其二 特別課徴ノ弊害 (一)其賦課上(A)面倒ナル計算(B)恣意的決定(C)不公平配當(二)其徵收上)

結論 (全文ノ要旨)

第十五編 手数料決定上ノ二問題……………二九九

緒言 (一)本研究ノ目的(二)説述ノ順序)

第一段 手数料對特別課徴順位問題 (一)本問題(二)本問題ノ應用トシテ手数料内部ノ順位問題)

第二段 手数料額決定ノ標準

其一 手数料總額ノ決定 (一)全費用中ノ一定部タルコト(二)一定部ノ定メ方)

其二 手数料總額ノ分配 (一)主タル分配標準(A)利益ニ依ル場合(イ)理由(ロ)標準(B)費用ニ依ル場合(イ)理由(ロ)標準(0)右兩場合ノ總括的批評(二)特段ナル標準(A)給付能力ノ考慮(イ)特ニ貧民ノ爲メノ免除又ハ輕減(ロ)一般ニ給付能力ノ考慮(B)豫防又ハ教育ノ理由)

結論 (全文ノ要旨)

租 稅 研 究

第二卷

神 戶 正 雄 著

第一 部 財 產 稅

第一 編 經 常 財 產 稅 卜 租 稅 給 付 能 力

緒 言

(一) (A) 元來財產稅ハ最古キ租稅ノ一テアツテ、古代并ニ中世ニ在テハ租稅トイヘハ先ツ之ニ偏重スルノヲ例トシタ(註一)。處カ其後段々ト經濟社會ノ進歩スルニ伴ヒテ、人々ノ經濟上ノ地位ノ優劣カ財產ノ高サノミニ依リテハ表ハサレザルコトトナツタノト、更ラニハ租稅ノ給付能力ニ關スル學問的考究モカ一段ト精巧トナツタトニヨリテ、此ニテハ到底不満足トイフコトカ痛切ニ感セラルルコトトナリ、最早今日テハ所得カ少クトモ最良ナル給付能力ノ表示ト見做サレ(註二)、到ル處ニ所得稅中心主義カ行ハルルコトトナツテ居ル。固ヨリ

果シテ嚴正ナル理論上、所得ガ最良ノ給付能力表示テアルカニハ疑問カアルカ、其ハ此處ニハ別論トシ、兎モ角實際界ニ於テ多クノ國ニテ所得税ガ租税制度ノ中心トナリ又ハナラントシツ、アツテ、日本テモ特ニ最近年ニハ著シク此實ヲ示シテ居ル。處テ此所得税ノミニテ直接税ヲ作ル主義ヲトルナラハ(註三)知ラヌコト、此ニ他ノ税ヲモ配置シテ直接税體系ヲ構成セシムル所ノ多クノ國々ノ例ヲ追フコト、スルナラバ、其ノ此ニ配合スル税トシテハ財産税ガ適當デハアルマイカト考ラル、○所得税ノ補完税トシテハ此ガ最良クハナイカト思ハル、○併シ既ニ先例モアル通り収益税ト配合スルコトモ確カニ其一方法テハアル。茲ニ於テ其ヲ決スル爲メニ理論上(一)先ヅ財産カ果シテ給付能力ノ表示トシテ適當ナリヤ否ヤ、(2)更ラニ財産税ガ所得税ノ給付能力捕捉上ノ缺陷ヲ補完スルニ足ルヤ否ヤ、(3)終リニ此等ノ點ニ於テ収益税ト比較シテ財産税ガ優レリヤ否ヤトイフコトヲ議スルコトカ根本的重要ヲモツ。私ハ今之ヲ研究シテ見ヤウト思フ。尤モ財産税ノ良否トイフコトハ此丈ノ研究テハ盡キナイガ、他ハ追々ト吟味スルコト、シテ、何レニモセヨ此給付能力ノ觀察點ハ租税ニツキテハ第一位ノ問題デアルカラ、幸ニシテ此ニ於テ財産税ノ爲メ有利ナル結論ガ得ラル、ナラハ、財産税採用ノ爲メニハ大ナル強味トナル。(B)特ニ私ガ今此問題ヲ捕へ來

ツタノハ、一ニハ最近ノ日本ノ事情ニモ考慮シタカラテアル。最近ノ我邦ノ税制整理テハ所得税ニツキ思ヒ切ツタ改革カ企テラレタカ、収益税ノ方ニハ全ク手カ着ケラレナカツタ。地租ヤ營業税ハ其儘トセラレタ。處カ此カ果シテ其儘ニシテ差支ナキ程完全ノモノカ何ウカ。實ニ此地租營業税其モノカ既ニ時勢ニ後レ實情ニ適ハナイ。然リトテ之ヲ改正スルコトハ非常ナル反對及困難ニ遭遇スル。加之所得税ニ配合スヘキ収益税トシテハ、本來地租營業税ノミニテハ不完全テ、別ニ少クトモ家屋税資本利子税ナカルヘカラステアルカ、之ヲ新ニ設クルトスレハ其カ却テ面倒テアリ、特ニ家屋税ニハ地方税トノ關係ニツキ考慮スヘキモノカアル。其故ニ若モ此際我邦ニテ租税ノ大改革ヲナスナラハ、一切ノ収益税ヲ地方團體ニ交付シテ、國家トシテハ所得税ニ配スルニ財産税ヲ以テスルノカ、手取早キ合理的の改革テハナカラウカト考エラル、○又私カ曩キニ戰時利得税ノ永續性ノ論文ニテ述ヘタルコトアル如ク、時勢ニ適合シタル税トシテハ今後我邦ニモ財産増價税ヲ要スル。此ヲ設クル前提又ハ土臺トシテモ一刻モ早ク財産税ヲ設ケタシトノ希望ヲ起サ、ルヲ得ヌ。更ラニ進ンデ考フレバ今日ノ民衆的傾向ノ盛ナル時世ニテハ努力又ハ努力トイフモノノ神聖ガ高調セラレ、左シタル努力ナクシテ生活スル所ノ財産階級ニハ出來ルタケ重ク課

稅スヘシトイフ要求カ強クナリ(註四)、更ラニハ又此戰爭ノ齎ラシタル新シキ富ノ分記(註五)即チ富ノ集中モカ益々此要求ヲ助ケナケレハナラス。日本テモ此勢ハ益々増長シ、此點カラシテモ明確ナル財產稅トイフモノ、新設カ避クヘカラサル運命ノ如クニ思ハル、。私ハ實ニ右ノ如キ理論上ノ重要ト實際上ノ必要トヲ考慮シテ敢テ此ニ本問題ヲ捕エ來ツタノテアル。

(註一) 財產稅ガ古キ時代ニ一般ニ行ハレタル理由ニツキテハ多少學者ノ間ニ見解カ異ル。

(1) 其臨時收入源トイフコトニ之ヲ求ムルモノ——例之ろつじヤハ多クノ國民ニ於テ財產稅ガ所得稅ヨリモ古イ何トナレハ凡ヘテ租稅ハ永キ間、臨時的ノモノトシテ行ハレタカラトイヒ、わぐなハ國民生活ノ原始的狀態ニ於テ定住ト規則正シキ農業ヘノ過渡トノ生ジタコトヲ前提シテ、或財產稅カ特ニ臨時收入トシテ其全財產ノ粗ナル評定ニ依ツテ現ハルルトイフ。¹⁾

(2) 捕捉容易トイフコトニ之ヲ求ムルモノ——例之わるカハ財產稅ハ所得稅ヨリモ一層古キモノテアル。何トナレハ人ハ特ニ動的資本ノ發達ノ未タ幼稚ナル時代ニハ或人ノ所得ヨリモ一層容易ニ其財產ヲ見積ルコトヲ得ルカラトイヒ、ふおつげモ古キ時代ニハ人カ容易ニ知リ得ヘキ特徴ヲ要シタ。ソシテ此ニハ財產以外ノモノカ供セラレナカッタトイヒ、わーべるビモ人カ容易ニ認知スヘキ簡單ナル特徴ヲ要シタル古キ世紀ニハ租稅ハ多クハ人頭及財產稅テアツタトイヒ、ばすてーぶるモ財產稅ハ土地資本又ハ勞働ノ收益ニ於ケル別々ノ稅ヨリモ一層古イ。存在スル所ノ富ノ合計ハ公平ナル課稅物件テナイニシテモ捕捉ノ容易ナル物件テアルトイフ。²⁾

(3) 當時ニ於テハ其カ公平ナリトイフコトニ理由ヲ求ムルモノ——例之せりぐまんハ財產ハ原始的社會ニテハ或度

1) Roscher, System d. Fw. 5 Aufl. I. S. 421-3. Wagner, Fw. 2 Aufl. II. S. 497.
2) Walcker, Fw. S. 54. Vocke, Grundzüge d. Fw. S. 224. Eheberg, Fw. 9 Aufl. S. 281-2. Bastable, Public finance. 3 ed. p. 469.

マテ眞ノ能力ノ標準テアツタ。各自由人カスヘテ財產所有者テ、凡ヘテノ者カ土地產物ニヨリテ扶持セラレタ。富ノ比較的平等ナルコトカ機會ノ比較的ノ平等ヲ與エ、支拂能力ニ於テ未タ人々ノ間ニ大差ハナカツタ。此社會ノ古キ時代ニハ財產カ實ニ粗ナル能力ノ標準テアツタトイヒ、ふおつげモ財產特ニ土地財產ヲ有ツ者ハ發達ノ幼稚ナ時代ニテハ可ナリ同等ナル、隨フテ土地財產ニ對シ少クモ略ホ同割合ナル勞働力ヲモ有タナケレハナラナカツタトイフ。³⁾

(4) 當時ノ無原則ニ理由ヲ求ムルモノ——例之びゆつじゆハ財產稅ハ古キ時代以來頗ル通例トナツタ。何トナレハ國家經濟ノ精巧ナル原則ナシニ處置スル統治者又ハ政治家ニハ、其欲望満足ノ爲メニ必要ナルモノヲ、彼カ最多ク蓄積アリト信スル處ニ取ルヨリハ一層自然ナル何モノモカナイカラトイフ。⁴⁾

(註一) 例之びりゆーハ所得稅ハ資本稅ヨリモ選ムヘキモノトイヒ、びりゆーモ年々ノ稅ニハ收益ニ依ル義務者ノ財產ノ増加、稅其モノト等シク回期的ナル増加(所得)ヨリモ一層公平ナル基礎ハナイトイヒ、じゆふれーモ一般財產稅ハ一般所得稅ヨリ愈々益々壓迫サルヘキカ如シトイヒ、せりぐまんモ能力ノ標準カ財產ヨリ產物(收益)過程又ハ儲ニ移ル、近世ノ社會ニテハ再ヒ所得ニ移ツタトイフ。⁵⁾

(註三) じゆふれーハ(所得稅ヲ甘ク成形スレハ)此カ單一ノ直接一般稅トナリ得ルトイフ(單一稅テハナイ)カ、斯クスルコトハ給付能力ヲ漏ラス上ヨリモ不利、收入豐富時期スル上ヨリシテモ不利テアル。

(註四) びりゆーハ(資本稅カ所得稅ニ劣ルトイフ考)チ民主的精神カ不生産的價値ノ奢侈稅ノ下ニ來ルベキニ利益、即チ其所有カ奢侈ト見做サルルコト、及勞働ノ所得ヲ減少スルコトノ爲メニ變更シ得ルトイフ——はりふあつく侯カ一六九三年當時ノ課稅狀態ヲ叙スル所ニ依ルト、當時課稅上、大小貴族ハ王政ノ重ナル基礎及支持者ナルカ爲メ、及彼等ノ威嚴ノ必要ナル維持ノ爲メニ常ニ寛大ニ取扱ハレタ。富メル金貸及商人ハ民主政ノ固有ノ基礎ナルカ

3) Seligman, Essays in taxation. 8 ed p. 57. Vocke, ebenda.
4) Murhard, Theorie und Politik der Besteuerung. S. 209.
5) Beaulieu, Traité de la science des finances. 5 éd. I, p. 500. Parieu, Traité des impôts. 2 éd. I. p. 517. Schäffle, Steuern. B. T. S. 133. Seligman, l. c. 57. 58.
6) Schäffle, ebenda.
7) Parieu, l. c. p. 517-8.

爲メ其數ノ増加并ニ其成長ヲ妨グルカ爲メニ一般ニ一層嚴格ニ課税セラレタ。美術家ト労働者トハ貴族及紳士ニ從屬シ王政ノ更ナル支持者ナルノ故ニ通例免稅セラレタトイフカ、此ハ王公貴族ノ全盛時代ノコトアル。移シテ來ルヘキ民衆労働者ノ優勢時代ヲ想像スレハ、蓋シ財產稅重課トナルノ外ナキコトアラウ。

(註五) みじゆるぞんハ戦争ノ此結果ヲ高調ス。⁹⁾

(二) 本文説述ノ順序トシテハ、先ツ以テ財產稅ノ物件タル財產力如何ニ給付能力ヲ表示スルヤラ收益財產ト使用財產トニ分ツテ考察シ、次キニ財產稅力如何ニ所得稅ノ漏ラスコトアルヘキ給付能力ヲ捕捉スルヤラ述ヘル。ソシテ其ノ收益稅トノ比較ハ別項トセズ、其々ノ問題ニ附帶シテ述ヘルコトトスル。

第一段 財產ノ租稅給付能力表示

其一 一般財產ノ給付能力表示

(一) 財產トイヘハ或人格者ノ支配ニ屬スル外界ノ範圍(註六)テアツテ其中ニハ普通ニ動產トイヒ不動產トイフモノヲ含ミ、物權的ナルト債權的ナルトカアル。其人格者自ラノ精神及肉體力ノ如キモ見様ニヨリテハ財產デアアル。其働キニ依リ生スヘキ收益ヲ還元シテ其財產價值ヲ見出スコトモ出來ル(註七)。若モ財產稅ヲ以テ唯一ノ直接稅トスルノ主義ヲ採ルナラハ、

8) Soward and Willan, The taxation of capital. p. 1-2.

9) Michelson, Le probleme des finances publiques après la guerre. p. 137 &c.

人ノ力ニ存スル此價值ヲモ財產ニ入レテ課税スルヲ至當トスルケレトモ、別ニ所得稅ヲ設ケ之ヲ中心トシテ直接稅ヲ構造スルコトトスルナラハ、其所得稅ニ配合スル財產稅トシテハムシロ人自身ニ屬スルモノヲ除キテ單ニ外界ノ範圍ニノミ限ルノ力適當デアアル。斯クテ一般ニ人的物的兩元素ヨリ生スル所得ヲ課スル所ノ所得稅ト、物的元素タル財產ノミ課スル所ノ財產稅トヲ以テ財產重課(註八)ノ趣旨ニ適ハシムルコトヲ得ル。

(註六) へつけるハ財產稅ノ財產ヲ以テ、箇人經濟ノ管理權利主體ノ處分區域ニ於ケル欲望満足ノ基本タル或額ノ經濟財(物財)ト爲ス。¹⁰⁾

(註七) (1) らうハ労働所得ヨリシテ測定シタル財產元本ヲ計算スルコトニ依リテ、此所得ニ財產稅原則ヲ齎ラスコトヲ得タトイヒ、ふあいふあいモ人ハ財產稅ヲ凡ヘテノ營利能力ヲ財產ニ算入スルカ如クニ理解スルヲ得ル。——如何ニ各人ノ人的營利能力ヲ見積ルヘキヤ。——此ニ於テ近接的解決ニ導キ得ル唯一ノ方法ハ此ヨリ引カレ得ル所得ニヨツテ之ヲ見積ルコトデアルトイヒ、ろつじあハ所得及財產ノ意義ヲ其具完全ナル國民經濟的意義ニテ理解スルトキハ、所得稅ト財產稅トノ意義カ大部分一致スル。即チ人的労働力カ人ノ財產ニ屬スル——ダケニテ然リトイヒ、あだむすモ人的所得ノ還元價值ノ觀察ノ外ニ置クヘキモノテナイコトヲ説ク。¹¹⁾ 然ルニ實際ニハ由來此人的ノ力ヲ財產ニ入ルルコトカ行ハレナカッタ。其理由ハあだむすニ依レバ次キノ如クデアアル。即チ第一ニハ人ノ自由ニ基ク財產ハ土地、資本ト異ツテ商業的財產テナク、財產トシテ市場ニ現ハレナイカラ。第二ニハ此種ノ人的財產力重要トナツタ後多年、立法政策ヲ支配シタ所ノ正統經濟學ノ樂天觀ニ因ル。即チ政治家ハ租稅目錄ニ凡ヘテノ財產ヲ含メルコトニツキ考慮シナカッタ。ソレハ夫ノ見解ニヨレバ此ニ相當スル財產ヲ直接ニ課税スルト否トナ問ハス凡ヘ

10) Heckel, Lehrbuch. I. S. 404.

11) Rau, Grundsätze d. Fw. 5 Aufl. II. S. 205. Pfeiffer, Staatseinnahmen. II. S. 300. Roscher, a. a. O. S. 423. Adams, Science of finance. p. 368.

12) Adams, I. c. p. 367.

テノ所得カ税ヲ逃ルルコトヲ得ナイカラテアル。(3)期々實際ノ財産税カ人的所得ノ還元價値ヲ算入シナイ所カラシテ、此點カ通例、財産税ノ缺點ノ一トシテ擧ケラレテ居ル。例之ハ一ハ財産税ハ此カ單一ノ直接税トシテ課セラルトキハ、資本財ノ助ナクシテ經濟的ニ使用セラレタル人的労働ノ收益カ免税サルコトノ大缺陷ヲ有ストイヒ、ふあいふあ一ハ一般財産税ノ第一ノ缺點ハ之ニヨリテ努力又ハ職業ヨリ得ラルル所得カ全ク課税サレナイコト、而カモ頗ル大ナル労働所得ヲ有スル人ハ小財産ヲ有スル他ノ人ヨリハ一層容易ニ擔税シ得ルコトテアルトイヒ、ろつじヤ一モ亦、疑モナク租税能力アル最高ノ勞賃カ財產税ニ於テ全ク免税セララルコト(醫師、第一位ノ美術家)ニ此税ノ缺點カアルト爲シ、わるか一ハ財産税ニテハ人ハ逐例財產ニ屬スル所ノ勞働カ免税スルカ、ソシテ此ハ間接税ヲ重ク負ハサル所ノ手工労働者、小俸給役人等ニハ正當テアルカ、王侯的生活ヲ爲ス所ノ美術家、音樂家等ニハ不當テアルトイヒ、こつさハ人的所得免税ノ不當ナル理由トシテ、此實民階級ニ必スシモ利トナラサル財政上ノ特權カ貯蓄慾ヲ減少シ、此制度カ特ニ目的トスル所ノ資本ノ増加ヲ妨クルコトトナルコトヲ擧ケ¹³⁾

(註八) 1)ふおつけ、へつける、はーべるひ、ろつじあー、ぼるぐさ、ふいすちんぐ、こーん、ありすこあ等¹⁴⁾ 財產税カ財產重課ノ此目的ニ應スルコトヲ説ク。(2)ソシテ普魯西ノ財産税ノ立法理由中ニモ之ヲ擧ク¹⁵⁾ (3)尙ホ財產重課ノ理由トシテありすこあハ労働所得ハ實際、労働スヘキ能力、機會、労働者ノ生存及健康状態ニ係ルノニ、資本所得ハ全ク此等ノ種々ナル元素ヨリ獨立ナリトイフコトヲ擧ケ、ふいすちんぐハ財產所有者ノ財產元本ニ屬スル源ハ、其労働給付ヨリ多少獨立シタル隨フテ其死後ニモ續ク所ノ收益ヲ生スル、恰モ此カ國民經濟的の理解ニ依レハ高キ租税給付能力ノ單一ノ内部ノ原因テアル。何トナレハ財源ノ所有者ハ純労働所得ヲ指定サレタルモノト同一ノ標準テハ自己及其一族ノ爲メニ貯蓄及豫備金ノ心配ヲシナクテモ良イカラトイフ。此モ其通りテハアルカ其ノミテナク、人的所得カ恩給遺族扶助料労働保險等ニテ十分確實トナツテ居ル場合テモ労働所得其モノカ財產所得ト異リ所得者

13) Eheberg, a. a. O. S. 283. Pfeiffer, a. a. O. S. 300. Roscher, a. a. O. S. 423. Walcker, a. a. O. S. 55. Cossa, Grundriss d. Fw. S. 12.
 14) Voelke a. a. O. S. 3/6. Heckel, a. a. O. S. 404. Eheberg, a. a. O. S. 283-4. Roscher, a. a. O. S. 423-4, Borcht, Fw. S. 116. Fuisting, Grundzüge d. Steuerlehre. S. 276. Cohn. System d. Fw. S. 476. Haristoy, Finances d'après-guerre et conscription des fortunes. p. 101.
 15) Fuisting, a. a. O. S. 278.
 16) Haristoy, l. c. p. 101. Fuisting, a. a. O. S. 276.

ノ苦心努力ニ出ツル所ニモ、所得者ヲシテ所得ヲ一層貴ク感セシメ、隨フテ給付能力ノ割合ニ小イトイフ根據カアル。

(二)斯カル財産ニ給付能力アリヤ、財産ハ給付能力ノ表示ナリヤトイフノニ、夫ノ所得ノ如ク年々新ニ出テ來ルモノノミナラス、此ノ如キ既存ノ財産所有其モノモカ、其ヨリシテ所得ノ出ツルト否トニ論ナク一ノ明ナル給付シ得ルカヲ示ス(註九)。大抵ハ財産ノアル所、其大サニ伴フテ相當租税ヲ出シ得ル位ノ收益所得ヲ伴フ所テアルカ、假令萬一ニモ此收益又ハ所得ノナイ場合カアツテモ、兎モ角財産ノ存スル以上、其處ニ出シ得ルモノハアル。尙ホ次キニ財産ノ重ナル種類タル收益財産ト使用財産トニ分ツテ詳述シヤウ。

(註九) へるまんハ之ニツキテ曰ク、年々ノ經濟的成果ノ大サカ個人經濟ノ租税負擔ニ取り最高ノ重要ヲ有ツモ、此ニ於テノ租税力カ現ハレナイ。個人經濟ノ經濟的及社會的の生存能力及存續ハ財産所有ニヨリテ條件セラレ又保證セラルル。此カ或何等カノ經濟的の換貨ヲ見出スヤ否ヤハ問ハナイ。此財産所有トイフコトハ所有者ニ對シ無產者ニ比シテ大イナル利益ヲ保證スル。所有者ニ經濟生活ニ於ケル本質的の有利ナル地位ヲ與フル。此カ此個人經濟ノ一層高キ給付能力ヲ表ハス。故ニ此事實ヲ租税ノ貢獻義務ニツキ考慮スルコトハ公正原則ニ適フ。此カ特段ナル財産税ニヨリテ生スル¹⁷⁾

其二 收益財産ノ給付能力表示

17) Herrmann, Das Besitzsteuerproblem in Deutschland und in Frankreich. S. 3.

(一)一體、課稅技術ノ便宜ヨリシテ收益財産ノ價值ヲ測定スルノニハ、其收益ヲ相當平均利率ニ還元シテ見積ルコトモアルカ、此ハ收益稅トシテハ兎ニ角、財産稅トシテハ變則又ハ例外的ノコトデアツテ、財産稅テハ財産ノ普通價格又ハ時ノ平均的賣買價ヲ以テ標準トシナケレバナラヌ(註一〇)。儲テ然ラバ斯カル收益財産ノ普通價格ガ果シテ給付能力ヲ示スヤ否ヤ。

(註一〇)「こんらーど」曰ク、此稅テハ財産物體ノ時價ニ依ルヘキモノデアアル。之ヲ確知スル能ハサルトキ、收益ヲ確定シテ其平均利率ニテ還元スヘキデアアルト。勿論株式や債券ノ如キハ、ばすてーぶるモイフ如ク、其時價カ所得ノ結果ニ屬スルモノ即チ之ヲ還元シテ定マツタモノトモ見ラレルカ、併シ其ハソウ明確テナイ。此稅ノ課稅標準トシテハ其ノ實際價格トシテ現ハレタモノノ平均ニヨルベク、殊更ラニ收益ノ還元ヲ行フテ定ムヘキテナイ。

(二)Aイ收益財産ハ大抵ハ或收益ヲ生ジ、其ヨリシテ此財産稅ヲ給付シ得ル。別ニ元本價值ヲ損減スルコトナクシテ此稅ヲ拂ヒ得ルデアラウカ、唯タ收益財産カ一時静止状態ニ置カレテ收益ヲ生セサルコトカアリ、其トキニハ財産稅ハ財産元本ヲ侵蝕スルコトトモナラサルヲ得ヌ(註一一)。其收益ヲ生ズル場合デモ其收益カ極メテ小ナルカ爲メ、又ハ嘗テハ相當ニ大カツタノカ小サクナツタカ爲メニ(註一二)、稅法カ平時ノ其トシテハ相當ニ低イ率ヲ定ムルノ用心ヲシタニモ拘ラズ、此稅カ財産元本ヲ侵蝕スルコトモアリ得ル。處テ如何ニ財

18) Conrad, Grundriss. Fw. 2 Aufl. S. 39.

19) Bastable. l. c. p. 470.

産其モノカ給付能力ノ表示ナリトハイヘ、平時ノ稅カ財産元本侵蝕マテ行クノハ過重ノ負擔デアツテ、之ヲモ給付能力ニ應スルモノトハイハレナイ。平時稅トシテハ其カ財産ニ依ツテモ結局收益又ハ所得ノ大小ニ應スルコト、モナリ且ツ收益又ハ所得ヨリ出シ得ラル、程度ノモノテナケレハナラヌ。然ルニ財産稅カ此ノ如ク財産元本侵蝕マテ行クコトアリトスレバ、此ハ何トシテモ不當トイハナケレハナラヌ。併シ或收益財産ニツキ平時ノ低キ財産稅モ拂ヘヌホトノ無又ハ小收益ヲ生スルトスレハ、其ハ多クハ所有者ノ怠慢又ハ無智ノ結果デアアル。法律ハ之マテ保護スルニハ及ハヌ。或人カ自ラ財産ヲ利用スルコトカ出來ナケレハ之ヲ他人ニ貸シテ其ヲ利用セシメテモ、或ハ之ヲ賣却シテ金トシテ利殖シテモ良イ。此場合安全ニ而カモ相當ニ大ナル利益ヲ舉クルコトヲ得ル。今日ノ日本ナレハ五分ヤ六分ナラ何人テモ利殖シ得ル。然ルニモ拘ラス其ヨリシテ無收益カ又ハ一分トカ二分シカ利益ヲ舉ケナイトイフナラハ、其ハ恐ラク餘程ノ怠慢無智デアアル。此ノ如キハ保護スル必要ナキノミナラス、經濟政策上ハ之ヲ抑制スルカ爲メニムシロ一層重課シタイ位デアル。少クトモ他ノ普通收益ヲ舉クルモノト同様ノ稅ヲ課スルノハ少シモ不當テナイ。或ハ其所有者カ計畫的ニ投機ヲ爲シツ、アルカ爲メニ折角ノ收益財産ヲ無又ハ小收益ニ置クコ

トカアル。此ノ如キモノハ經濟及社會政策上ハムシロ一層重課シタイ程テアル。(註一三)之ニ普通ノ税ヲ課スルヲ躊躇スルニ及ハス。又此場合ニハ元本價值ノ値上リニ於テ潜在スル收益アリト見ルコトヲ得ル。其ニテ擔ハル、コトモカ出來ル(註一四)。或ハ夫ノ小收益又ハ無收益カ時トシテ大ナル收益ヲモ舉ケ得ルコトノ廻リ合セトイフコトモアル。然ルトキハ此種ノ利益ノ動搖ノ大ナルモノニ放資シタ者カ、一時ハ元本マテモ損シテモ、其ハ彼等カ過去ノ他ノ時ニ普通以上ノ大利益ヲ舉ケタコト并ニ將來ニ於テ同様ノ大利益ヲ舉ケ得ルコトニヨリテ埋合セハ得ラレル(註一五)。既ニ一國ノ制度トシテ財産税ノ出來ル以上ハ、人々ハ動搖大ナル物ニ放資スルナラハ、時ニ元本マテモ喰込ムコトアルヲ豫期シテ備フルコトヲ得ル。又斯カル元本侵蝕トイフコトハ少クトモ或場合ニハ永クハ續カナイ。何トナレハ既ニ或收益財産カ右ノ如キ事情ニテ一分二分トイフカ如キ利益シカ舉ケナイコトニナレハ、名義資本ニ對シテコソ一分二分ナレ、實際ノ賣買價ヨリ見積リタル資本カライヘハ、其賣買價ノ下落ニヨリテ利益カ此價格ノ七分ニモ八分ニモ當ルコトニナルコトカアルカラテアル。課税標準トシテハ名義資本テハナクテ資本ノ賣買價デアツテ、此ニ依ル新シキ改定ノアルマデハ納税者カ一時困ルケレトモ、間モナク此カ行ハレテ救済サレヤウ。テ此場

合ニモ元本價值ニ對シテ相當ノ收益カアルコトニナリ、茲ニ財産税ハソソナニ過當ノモノテナク、給付能力ニ應ジタモノトイヘル。其困マルタケテハ前ニイツタヤウニシテ用心スルコトカ出來ル。(ロ)ソレカラ此ニ説ク點カラ見テ財産税ト收益税ト何レカ安全カトイフト收益税ノ方カ直接ニ收益ニ據ルタケ安全ノ如クテアル。ケレトモ收益税ニテモ課税技術上ハ其前年ノ實收ニ依ルノ外ナク、然ルトキハ矢張り有利ナル年ヲ承ケタル後ノ不利ノ年ニハ當業者ノ一時困マルコトカ出來ル。況ヤ收益税カ收益主義テナク外形標準主義ニ依ルニ於テハ屢々困マルコトカ生スル。此點ニ於テ財産税ト收益税トニ大差ハナイ。

(註一) ろつじあーハ之ニツキ財産税カ靜止財産ヲ活動財産ト同高サニ負擔セシメルコト即チ吹キ消サレタル鑛鑛爐、港内ニ停留シタル船舶ヲ十分活動狀態ニ在ル同種ノモノト同高サニ課税スルコトニ於テ此税ノ缺點ヲ認ム、²⁰⁾一べるヒモ亦此税ノ缺點ハ分別ノ困難ノ爲メニ靜止財産ヲ多クハ收益ヲ生スルモノト一様ニ課税スルコト又ハ少クトモ此二ノ種類ノモノノ爲メニ税率ノ正當ナル分級ノ見出シ得サルコトニアリトス。²¹⁾

(註二) ろつじあーハ不變ノ高サノ財産税ハ土地及資本ノ下ル所ノ收益ニ於テ愈々嚴シク壓迫スルコトニ於テ缺點アリトス。²¹⁾

(註三) せりぐまんハ曰ク不動産カ往々ニシテ投機目的ニテ保タルル。其空地ヲ免税スルコトニヨリテ斯カル投機ヲ獎勵スルカ如キコトヲ爲ササルコトカ社會ノ義務テアルト²²⁾

(註四) ろつじあーハ曰ク、其財産ヲ投機の考ニテ無收益ニテ放下スル爲メ所得ヲ舉ケサル富豪ハ其ニモ拘ラス類

20) Roscher, a. a. O. S. 423. Eheberg, a. a. O. S. 283.

21) Roscher, a. a. O. S. 423.

22) Seligman, l. c. p. 60.

ル租税能力アルモノテアルト。²³⁾

(註一五) ろつしあーハ曰ク、數年間不利ナル營業ノ結果ニ於テ所得ヲ擧ケサル富豪ハ其ニモ拘ラス頗ル租税能力アルモノテアルト。²⁴⁾

(B)イ更ラニ收益財産ノ價值ノ大小ト其收益ノ大小ト必スシモ比例シナイ。財産ニヨリテハ收益小ナルモノニシテ價值ノ大ナルカアリ、收益大ナル割合ニ價值ノ小ナルカアル。財産税ハ前者ヲ後者ニ比シテ過重ニ負擔セシメルトイフ非難モアルカ(註一六)、勿論此ニ問題トナル價值ハ主觀的個人的ノテハナクテ市場的平均的ノテアルカ(註一七)、斯カル價值ガ割合ニ大イトイフノハ其ノ價值ノ割合ニ小イモノニ比シテ一層安全ナルモノトイフコトヲ示ス。此一層安全ナルモノトイフコトハ矢張り一ノ力テアツテ、單ニ收益金額ノ大小ノミナラズ、此安全度ノ大小モカ給付能力ヲ示ス。夫ノ財産所得カ勤勞所得ヨリモ一層安全ナルノ故ニ同一額ノ所得ニテモ其給付能力一層大ト認メラルルト均シク、同資産而カモ收益財産テモ其安全度ノ大ナルモノハ其小ナルモノニ比シテ一層給付能力大ニ随フテ重キ負擔ヲ爲スヘキテアル(註一八)。或ハ或財産ノ收益カ他ノ略ホ同様ノ事情ニ在ル財産ノ收益ヨリモ小イコトカ當事者ノ怠慢無智ニ依ルコトカアル。即チ折角ノ良田ヲ自ラ耕作モセス他人ニ貸シモ

23) Roscher, a. a. O. S. 424.

24) Roscher, ebenda.

セスニ置クコトカアル。斯ルモノハ前ニモイフ如ク租税ニテ寛大ニ扱フニ及ハナイ。ムシロ國民經濟上一層重課シタキ位テアル。少クトモ此際收益ノ大小ニ依ラスシテ普通價格ニ依ルノカ彼等ノ勤勉ヲ刺戟スルニモ良イ。或ハ又投機ノ爲メ收益ノ小ナルモノニ就キテモ之ヲ斟酌スル必要ナキモノタルコトハ前ニイヘル通りテアル。或ハ又財産價值ハ同一テアリナカラ、或人ハ其努力ノ大ナリシ結果トシテ他人ヨリモヨリ多クノ收益ヲ擧クルコトカアル。此場合ニハ一見スレハ收益ニ依ル方カ給付能力ニ應スルニ適切ノ如クテアル(註一九)併シ此ニハ細カクイフト二ノ場合カアル。其カ非常ニ多ク苦痛ヲ伴フカ如キ努力ノ結果テアレハ、爲メニ大收益ヲ擧ケタ人ハ、同一ノ收益金額ニツキテモ其認ムル主觀的ノ價值ハ大テアリ、随フテ給付能力割合ニ小ト見ナケレバナラス。此場合收益ノ大小ニ依ラス財産價值ニヨル課税ノ方カムシロ適切テアル。ムシロ公平テモアリ、努力ノ獎勵ニモナツテ生産政策上望マシイ(註二〇)。唯タ格別ノ努力ナクシテ人ノ天賦ノ才能ノ優レタル爲メニ大收益ヲ擧クル者ニ至テハ、其カ財産税ニヨリ收益税ニ於ケルヨリモ、有利トナツテモ、各人ノ力ノ等差ヨリ生シタ自然ノ分配故致方ナイトモイヘルカ、併シ給付能力論ヨリ精密ニイヘハ此點ハ財産税ノ缺點テアル。其ハ併シ財産税カ所得税ト並行スレハ所得税ノ方テ之カ

捕捉ヲ爲スコトニテ甘ンスル外ナイ。若夫レ時運ニヨリ過大ノ利ヲ舉クルモノニ至テハ別ニ増價稅等ニヨリ捕捉スルノ外ナク、此レ亦タ財產稅ノ缺點トイヘハ缺點テアルカ、收益カ大體價值ト伴フ所テアルカラ、財產稅ハ收益財產ニ於テ大體收益ニモ伴ヒ、給付能力ニモ適應スルトイフテ良イ。(ロ)斯ク論シ來レハ收益財產ノ元本價值ニ應スル課稅ハ收益ノ大小ノミニ依ル收益稅ヨリモ大體一層給付能力ニ適合スルトイフヲ得ル。

(註一六) ばすてーぶるハ之ニツキ第二ノ財產稅ノ故障ハ財產課稅能力ノ公平ナル標準テナイトイフ事實ニアル。富ノ或形ハ他ノモノヨリモ低キ收益ヲ生スル。或場合ニハ支出ヲ含ムコトアラリトイヒ、むるはるミハ價值アル物カ假令同質同量ナリトモ其所有者ニ同丈ケ多クヲ生スルヤ既ニ之ヨリシテ單ナル財產所有カ租稅制定ノ爲メニ全ク不良ナル原則ナルコトカ明トナルトイフ。一其レハ一應ノ見方トイフコトヲ得ルモあだむカ大工ノ道具ノ價值ハ大工ノ還元所得ヨリモ少イ。ソレカラ商人ノ財產ハ商品テアルカ其商品ノ價值ハ慣行利率ニテ還元サレタル商人ノ所得ト何等ノ關係ヲモタヌ。商人ノ所得ト商品ノ額トノ間ニ或經濟上ノ關係カ存スルトシテモ其ハ問題ノ商品ノ種類、營業ノ營マルル場所ノ大サ及商人自ラノ人的性質ニヨリ異ルトイフノ、商品又ハ道具ノ純物的ノ價值ト物的人的兩要素ノ結果タル所得トヲ混同シテ誤テアル。

(註一七) ふいすちんぐハ曰ク、價值ヲ公法ノ範圍ニテ特ニ租稅目的ノ爲メニ一般且到ル處ニ公平ナル平等ニテ生スル負擔ノ分配標準トシテ利用スルコトニ關スル場合ハ唯タ客觀的價值即チ普通價值ノミカ問題トナルト。²⁵⁾

(註一八) 1)ろつじあーハ曰ク、多クノ財產放下ニ於テ收益ノ高サハ放下ノ安全トハ逆比關係ニ立ツ。所得稅力專ラ

25) Bastable, l. c. p. 47c. Murhard, a. a. O. S. 209.
26) Adams, l. c. p. 371-2.
27) Fuisting, a. a. O. S. 287.

收益ノ大サノミニ考慮シ、此ニ存スル保險料ヲ通例考慮ノ外ニ置クノニ、所得稅ヲ補完スル財產稅ハ其ニ平準ヲ供スルト²⁸⁾。或ハしゆわつ(むるはるミニ依ル)ハ人ハ一日ノ中ニ大財產ヲ失ヒ得ル商人ヲ自然ノ擾亂(天災地變)ノ外ニハ財產ヲ破壊スルモノナキ同位富メル地主ト同一ニ課稅スルヲ得ルヤトイフケレトモ、此事ハ富ノ値ノ中ニ安全度トシテ自ラ考慮サレテ居ル。或ハ又ふあいは財產稅ノ第二ノ不公平トシテ此カ財產ノ實際ノ收益能力ニ考慮ヲ取ラサルコトヲ擧ケ、其資本ノ一層大ナル收益カ唯タ其所有者ノ一層大ナル努力ニ歸スヘキタケテハ課稅カ之ヲ當然不問ニ附シ得ルモ、收益ノ相違カ所有者ノ異リタル努力ヨリハ、ムシロ當該財產ノ種類ノ特段ナル性質ニ歸スヘキコト屢々アリト爲シ、其例トシテ十萬たりらノ財產カ同一ノ良キ經營ニテ必スシモ同一ノ收益ヲ生スルコトカ出來ナイテアラウ。例之銀行又ハ商業チ之ニテ營ム人ハ此財產ノ基礎ニテ營ム大ナル信用ヲ得ルノミナラス其自ラノ財產チ一年ニ數回運轉スルヲ得ル。之ニ反シ之ヲ高價ナ機械而カモ其餘々ナル運轉ヲ要スル所ノ工業ニ置クトキハ同一資本カ多クノ場合一層小收益ヲ生スルテアラウ。實ニ往々ニシテハ永キ時ノ間全ク何モノチモ生セサル土地及工業カアル。而カモ此カ財產稅ニヨリテ一割又ハ二割ヲモ年々利スヘキ他ノ營業ト同タケ負擔セシメラルルコトトナルトイフカ、今日ノ營業自由、自由競争ノ行ハルル時世ニ於テ、或營業カ人的關係時運關係及安全度ヲ別トシテ特ニ有利トイフコトニナレハ其處ニ人々カ集マリ來ツテ、永ク續カナクナルテアラウ。尤モ艱難ノ困難ナトモアルカラ其ニモ拘ラス夫ノ狀態ノ永續スルコトハアル。併シ其場合ニハ財產元本價值カ買價トシテハ變化シテ、收益ト價格トカ公平ヲ得ルコトニナルヘク、隨テふあいは心配ハ大抵ナクナルテアラウ。

(註一九) ばーべるハ曰ク人カ財產ノ交通價值ニ來ルトキハ、經濟主體カ收益財產ノ利用ノ上ニ爲スヘキ人的影響ヲ不考慮トシ、隨テ課稅スヘキ給付能力ノ測定ニ取リ特段ノ重要アル要素ヲ不考慮ナラシムト。³¹⁾

(註二〇) ぶあいはふあいは之ニツキテ曰ク、或人カ其資本ニ於テ、特段ナル勉強(一層大ナル巧妙)ニヨリテ他人ヨリ

28) Roscher, a. a. O. S. 424.
26) Murhard, a. a. O. S. 220.
30) Pfeiffer, a. a. O. S. 300-301.
31) Eheberg, a. a. O. S. 283.

モ一層多クヲ擧ケルコトヲ得タトキニ、彼ハ完全ニ彼ノ一層大ナル努力ノ果實ヲ受ケル。而シテ此カ唯々其キ刺戟トシテノミ働キ得ルト。³²⁾

其三 使用財産ノ給付能力表示

(一) 次キニ使用財産ノ中テモ一定ノ大サ以下ノモノハ此ハ所得稅ニ於ケル免稅點以下ノモノト同様ニ、生活最小限ノ爲メニ必要ナルモノトシテ除外シテ良イ(註二一)。此ヲ或ハ物品ノ種類ニ依リテ定メルコトモアルカ、サウスルト富者ノ處テ給付能力大ナルモノヲ見逃シ、貧者ノ處テハ給付能力ノ殆ト缺ケタルモノヲ捕捉スルコトニナルノ不都合ヲ生スル(註二二)其故矢張り金額ヲ定メルノカ適當テアラウ(註二三)。

(註二一) ふおつけハ之ニツキ、避クヘカラサル生活必要ニ用立ツヘキ使用財産ノ部分ハ計算ノ外ニ立タナケレハナラストイヒ、³¹⁾ べるひモ利用又ハ使用財産ヨリシテハ必要ナル生活維持ニ用立ツヘキ部分カ租稅ノ測定ニ於テ慮ノ外ニ止マルヘキコトハ明ナリトイヒ、³²⁾ こんハ一般財産稅ノ存スル處ニハ、生活必要ニ用立ツ使用財産ノ爲メニ斟酌ノ與エラレルコトハ通例ナリトイフ。³³⁾

(註二二) 但シ此終ノ點ハ貧民ノ奢侈品ニ關スルタケテハ課稅スルモ差支ナイトモイヘルカ、前ノ點即チ富者ノ家具食器ノ如キモノニ對シ、其カ家具食器ナルカ故ニ免稅スルハ無用ナル考慮テアル。其物ノ價ノ高キ以上、³⁴⁾ ドシク課稅スヘシ、其處ニ大ナル給付能力現ハルト見テ良イ。ふおつけハ曰ク、(物品ノ種類ニ依リ免稅スルコトハ)時ノ事情ニヨリ大ナル不公平ヲモツ。何トナレハ此際上流者特ニ貴族ノ高價ナル物體カ、農民ノ同種ノツマラヌ物ト同

32) Pfeiffer, a. a. O. S. 298-9.

33) Voelke, a. a. O. S. 227. Eheberg, a. a. O. S. 282. Cohn, a. a. O. S. 480.

様ニ扱ハレルコトニナルカラト。³¹⁾

(註二三) 尤モ此ニ詳シクイフト、農民ノ如キ自給生活ヲ爲ス者ニハ、其生産スル生活材料ニツキ特別ノ斟酌ヲ與フルヲ要スルテアラウ。之ニツキふおつけハ曰ク、勞働者手工業者商人役人等ハ生活方便ノ何等ノ蓄ヲ要シナイ。併シ農民ノ如ク一ノ收穫ヨリ次ノ收穫マテ自己、自己ノ家族僕婢ノ爲メノ生活方便、其動物ノ爲メノ飼料ヲ用意シナクテハナラヌ者ハ常ニ多少大ナル貯ヲ要スル。彼ハ或一定ノ一般價値大ノ免稅ヲ頗ル不利トスル。此弊ヲ避クル爲メニ農業者ニ恩典ヲ與エナクテハナラヌ。彼等ハ一般的ニ許サレタル價値ノ外ニ、自己ノ必要ノ爲メニ要スル貯ノ價値ヲモ控除スルコトヲ得ナクテハナラヌト。³⁵⁾

(二) (A) 儲テ右ノ或度以上ノ大金額タル使用財産カ給付能力ヲ示サトイフニ、此ハ全ク收益ヲ擧ケナイカラ、之ニハ給付能力ハナイ。之ニ課スルハ不當テアリ、之ヲ課スルノ結果ハ元本財産ヲモ侵蝕スルカライケナイトイフ非難カアル(註二四)。併シ其ハ誤テアル。(1) 第一此ニ收益カナイコトハナイ。有形テハナイカ、無形ノカアル。之ヲ見落シテハナラナイ(註二五)。例之或人カ自己ノ所有ニ係ル家屋ニ住居スル。此時ニハ彼ハ之ヲ他人ニ貸シタラハ得ラルヘキ屋賃ニ該當スル無形ノ收益ヲ得テ居ル。有形ノ屋賃カ給付能力ヲ示スナレハ此無形ノ收益モカ之ヲ示サヌコトハナイ。然ルニ前者ノミヲ給付能力ヲ示ストシテ課稅シ後者ヲ給付能力ヲ示サストシテ免稅シテハ、人民ノ物ノ用法ノ選擇次第テ課否カ分レルコ

34) Voelke, a. a. O. S. 227.

35) Voelke, a. a. O. S. 227-8.

トニナリ、甚タ以テ不公平テアル(註二六)。其カ如何ニ不當ナルカハ次ノ例ヲ考フレハ一層明カテアラウ。茲ニ均シク十萬圓ノ財産ヲ有テタル二人カアルトシ、甲ハ其十萬圓ニテ株ヲ買ヒ其ヨリ配當五千圓ヲ擧ケ、但シ借屋住居ヲシテ屋賃ニ五百圓ヲ支出シテ、結局住屋以外ノ支出ニ充テ得ル餘裕四千五百圓トスル。ソシテ乙ハ十萬圓ノ内、九萬圓ニテ株ヲ買ヒ之ヨリ四千五百圓ノ配當ヲ受ケ、一萬圓ニテ家屋ヲ買ヒ其ニ住居スルトスレハ、彼乙モ亦家屋以外ニ支出シ得ル餘裕ハ甲ト均シク四千五百圓テアリ、且ツ總財産モ均シク十萬圓テアル。ソシテ孰レカトイヘハ乙ノ方カ屋主テアルタケ社會的地位ハ高イ。其ニモ拘ラス甲ニハ五千圓ノ全體ヲ收益ト見做シ、乙ニ於テハ四千五百圓タケヲ收益ト見做ストスレハ何ウシテモ課税ノ公平ヲ得タモノトハイハレナイ。此事ハ獨リ住屋ノミナラス、家具什器ナトニモ當ルノテアル。此ニモ矢張り無形收益カアル。矢張り其價值ノ普通利率ニ當ルタケノ收益ヲ得ルモノト見ナケレハナラス。之ニツキ課税ヲ受クルノヲ嫌トイフナラハ之ヲ縮少スレハ良イ。生活必要以上ノ部分ノ使用財産ニツイテハ差支ナイ。人ハ財産價值ニツキテハ有形ノ收益ヲ得テ收益財産ニ放下スルノト、無形ノ享樂的收益并ニ物ニヨリテハ値上リニヨリ生スヘキ潜在シタル收益ヲ得ンカ爲メニ使用財産ニ放下スルトヲ選擇スルヲ得

ル。彼カ使用財産ヲモツ以上ハ之カ無形收益ニ甘ンシテ居ルモノト見ルヨリ外ナイ。ソシテ此ニハ別論テアルカ、生産政策上社會政策上カライフテモ此ノ如ク不生産的使用財産ニモ税ヲ課スルコト、ナルノハ、斯カルモノ而カモ奢侈的ナルモノヲ節用セシムルコトナリテ一層有利トイヘル。又財政上カラ見テモ將來ノ財源ヲ養フヘキ所得ヲ税スルヨリハ、將來ノ財源ヲ狭メルヘキ使用財産ノ方ヲ税スルヲ選ムヘシトスル(註二七)。(2)或ハ此等ノ使用財産ノ收益ハ收益テハアルカ、無形ノテアルカラ、其ヨリ税カ出セナイ。出セハ元本財産ニ喰込ムノ外ナシトイフテ非難スルカモ知レナイカ、人ハ必スヤ何等カノ有形ナル所得ヲモツ、其レナシトイフハ殆ンドナイ。ソシテ彼ハ其所得ニ應シタル使用財産ヲ持ツ。或ハ使用財産ニ應シタル所得ヲ持ツ。又ハ持ツヘキテアル。有形所得ノ割合ニ過大ナル使用財産ヲ持ツ者ハ使用財産ニ課セラレタル財産税ニテ困マラウカ、其ハ彼ノ怠慢無智ノ結果ニハ斟酌スルニ及ハヌ(註二八)。彼等モ恐ラクハ既ニ財産税カ出來ル以上ハ、所得ニ應シタ程度、其財産税ノ拂ヒ得ル度マテ使用財産ヲ整理縮少スルコトトナルテアラウ。然ルトキハ恐ラクハ使用財産税ハ其所得ニテ納メラルルヲ得ヤウシ、又他方カライフト平時ノ税法ハ所得ニ應シテ納メラルル程度ノ財産税ヲ定メルコトトナルテアラウ。テ使用財産ニ依ツ

テ稅ヲ取ルノハ、使用財産ヲ課稅標準トシタノニ止マツテ、其財産ヨリ取ルノテナク、全ク所得ヨリ取ラウトイフノテアル(註二九)。(ロ)斯ク考エ來ルト、財産稅ノ方カ生地、有形收益ニ限ツテ課スル所ノ收益稅ヨリモ一層適切ニ危險ナシニ有ラユル收益ニ課稅スルトイフコトニナル。

(註二四) 例之むるはるこハ或人ノ所有スル物カ彼ニ年々或物ヲ生スルヤ、如何ニ多ク生スルヤ——既ニ此ヨリシテ單ナル財産所有ハ租稅制定ノ爲メニ全ク不買ナル原則ナルコトカ明トナルトイヒ、らうハ其所得ノ割合ニ異常ニ大ナル家具ヲ有スル者ハ此稅ニヨリ損失ヲ被リ——彼ハ不用ナルモノノ外ニ、頗ル有用ナル物ヲモ稅ノ爲メニ放棄セナケレハナラヌコトトナルトイヒ、るつしあ—ハ此稅ハ繪畫ノ蒐集、不住居邸宅ノ所有者ヲ稅カ水ク續ケハ物體其モノヲ消盡セサルヘカラサル程ニ課稅ストイヒ、ばいて—ぶるハ一般ニ財産ヲ租稅ノ基礎トスルコトニ於テ、常ニ社會ノ蒐集シタル財源ヲ侵蝕スルノ危險アリト爲ス。

(註二五) ろつしあ—ハ使用財産ノ自己享樂ハ所得ニ屬ストイヒ、わるか—ハ例之繪畫蒐集室ノ所有ハ富メル人(商人ニ非ス)ニハ其賣價ノ利子ト少クトモ同丈ケノ愉快所得ヲ供シナクテナラヌ。何トナレハ然ラサレハ彼ハ其繪畫ヲ賣却スルカラトイフ。

(註二六) あだむすモ、使用ニ指定サレタル富ニ於ケル財産(使用財産)ニツキ家内の放棄(自家用)ト商 的放棄(貸付)トヲ區別シテ商業的放棄ノミカ租稅ヲ課セラルトキハ不公平カ存ストス。

(註二七) せりぐまんモ曰ク、資本ヲ不生産的富ニ變スルコトハ租稅ノ支拂ノ爲メノ唯一ノ眞ノ資源タル所得ヲ破壊スル。不生産的財産ヲ免稅スルコトハ政府ノ分前ヲ減スルコトトナルヘシト。

(註二八) ぶあいふあ—ハ曰ク、國家カ財産稅ニ於テハ唯々財産即チ各人カ利殖的ニ放置シ得ル物(斯ク放置スルトセサルトハ各人ノ隨意)ノミヲ考察ニ置ク。然ルニ或人カ其財産ノ一部ヲ貪慾ノ爲メ、又ハ馬鹿ナル奢侈慾ノ爲メニ之ニ放置セサルコトヲ選ミタルトキハ、彼ハ此カ爲メニ寛大ナル處置ヲ受クヘキモノテナイト。

(註二九) ぶあいふあ—ハ之ニツキ、稅カ財産又ハ資本ニ課セラルルコトハ、此カ財産又ハ資本ヨリシテモ擔ハルコトチ少シモ證明シナイ。吾人カ此稅ヲ一般所得及他ノ稅ト均シク其所得ヨリ拂フコトカ全ク可能テアルトイフ、以テるハハ通例ノ財産稅ノ目的ハ財産部ヲ取ルノテナクテ財産ニヨリ測定サレタル給付能力ノ課稅テアル。稅源ハ財産テハナクテ財産ノ助ニヨリ得ラルル所ノ所得テアルトイヒ、るじじ—ハ資本稅ハ資本ヲ稅スルノテナクテ、所得ヲ稅スルモノト考エラルルヲ得ル。然ルトキニ稅カ資本ニヨリ測定セラレテ所得ニ課セラルルトイヒ、せりぐまんハ吾人カ不生産的財産ヲ課稅セントスルコトハ、此等消費物ノ所有カ其維持ノ費用ヲ含ミ又ハ彼等ノ所有カ此等ノ奢侈品ヲ持ツコトヲ得ルノミナラズ、其所得ニ於テ愉快ニ生活スルヲ得ルコトノ間接ノ證明ヲ成ストイフ信仰ノ爲メノミテアル。——財産ノ特殊ノモノノ課稅ハ相對的所得ヲ課スル間接ノ方法ト考エラルルコトカ出來ルトイフ。

(B)イ次キニ使用財産ノ大小カ必スシモ收益又ハ所得ノ大小ト伴ハナイ。即チ使用財産ノ大小ハ人々ノ嗜好慣習地位職業年齢健康家族數、住所地ノ都鄙氣候風土等ニ依ルカラ、所得小ニシテ大ナル使用財産ヲモツカアリ、所得大ニシテ小ナル使用財産ヲモツカアル。テ使用財産ニ依ルトイフト所得ニ對シテ見レハ不公平ナル負擔トナルトイフ非難カアル(註三〇)如何ニモ其ハ精密ニイヘハ其ノ通りテアル。使用財産ノ大小ハ必スシモ所得ノ大小ト並行

40) Pfeiffer, a. a. O. S. 297.

41) Pfeiffer, a. a. O. S. 296. Ebelberg, a. a. O. S. 281. Roger, Les impôts sur le

capital. p. 25. Seligman, l. c. p. 60.

36) Murhard, a. a. O. S. 209. Rau, a. a. O. S. 201. Roscher, a. a. O. S. 423. Bastable, l. c. p. 470.

37) Roscher, a. a. O. S. 423. Walcker, a. a. O. S. 55.

38) Adams, l. c. p. 377.

39) Seligman, l. c. p. 60.

シナイ。併シ其カ大體ニ於テ反比例スルトイフ程テハナイ。矢張り大體ニ於テ所得ノ大ナルモノ自ラ使用財産モ大トナル所テアル。固ヨリ反對ノ場合モ起リ得ルカ、其テモ其使用財産ノ割合ヲ如何ニスルカハ各人ノ自由ニ任カサレタル所テアツテ、或人カ所得ノ小ナルニ拘ラス使用財産ヲ過大ニ持チ、爲メニ財産稅ノ負擔ノ大イノニ苦シムトシテモ、其ハ自業自得トイハナケレハナラヌ。既ニ一旦、使用財産ニ於ケル財産稅カ定マルトキハ、自ラ各人カ適當ニ其使用財産ヲ整理スルコトトナラウ。ソシテ前ニモイフ如ク使用財産ノ享樂モカーノ無形收益ト見ラレ隨フテ無形ノ所得トモ見ラレルナラハ、假令有形ノ所得ニ比シテハ使用財産稅カ不公平ニナツテモ、之ニヨリテ大ニ埋合セカ得ラレ、其不公平ヲ緩和スルコトヲ得ル。(ロ)ソレカラ收益稅ト比較スルト、收益稅モ各部的ノ收益ヲ見テ課稅シ隨テ全體ノ所得ニ適應セサルコトトナルノ缺點ヲ持ツカラ、財産稅トハ此點ニ於テ大差ナシトイフテ良イ。ムシロ財産稅ニテハ無形收益ヲ考慮スルタケ一層公平ヲ得ルトイフコトカ出來ヤウ。

(註三〇) ふおつけハ之ニ就キテ、使用財産ニ於ケル給付能力ノ測定ハ誤テアル。何トナレハ此二ノモノカ往々ニシテ全ク正比例ニ立タナイカラ。——使用財産ノ稅ハ人カ嗜好ノ變更ニヨリテ之ヲ脱スルヲ得ルコトヲ消費稅使用稅

ト共通トスル。又田舎人ト都會人トノ間ニ大ナル區別カアル。——更ニハ此二階級ノ内ノ各階ノ者ニ於ケル相違カ非常ニ大。新家庭ヲ作ツタ若夫婦ハ往々ニシテ其所得ノ割合ニハ大ナ家具ヲ備へ、若キ營業者ハ其富有ノ増加ト同一歩調ヲ取ラサル質素ナ家ヲ持ツコトトナリ、猶太人ノ商人ハ初メニハ質素ナ生活ヲ爲シ、相當資産ノ出來タ所テ堂々タル生活ヲ爲スコトトナル。財産家ニシテ家運傾キタル後モ尙水ヲ體面ヲ維持スルコトカアリ、蒐集品等ニツイテハ人ノ嗜好熱心ニ係ルコトカ多イトイフ。よーべるヒモ亦々使用財産ハ租稅測定ノ誤リタル基礎也トイフコトカ正當ニ注意セラレタ。何トナレハ此ト給付能力トノ間ニハ往々ニシテ相當ノ割合カ存シナクテ、使用財産ノ範圍、種類及品質ハ慣習嗜好地位等ニカカルカラトイフ。尤モ彼ハ別ニ使用財産ノ或物、例之凡ヘテノ種類ノ蒐集品貴重ナル住宅装置、裝飾品カ通例高キ給付能力ヲ示シ、他ノ者カ之ヲ利用スルニ於テハ稅ヲ拂ヒ得ヘキ財産價值ヲ含ムコトヲ看過スヘカラストイフテ居ル。¹²⁾

第二段 財産稅ノ所得稅補完

(一) 財産稅ノ所得稅補完其モノ——財産稅ハ其自ラ或給付能力ノ表示ヲ捕エテ課稅スルコト右ニ述ヘタ通りテアルカ、別ニ又所得稅ノ給付能力捕捉ノ足ラサル所ヲ補充スルトイフ點カアル(註三一)。今之ヲ細カニ檢ヘテ見ヤウ。

(註三一) ありすまあハ之ニ就キテ曰ク、資本稅ハ所得稅ニ於ケル缺陷アル課稅ヲ補完スルモノテアルト、へつけるモ亦財産稅ハ近世ノ財産及營利事情ノ多様ニ於テ給付能力アル收益ノ大サノ或部分カ全ク捕捉セラレス又ハ十分ニ捕捉サレサル收益稅并ニ所得稅ノ缺陷ヲ充タスコトヲ得ルモノテアルトイフ。尙ホ普魯西ノ財産稅立法者ノ趣旨

ノ一モマタ所得稅力給付能力アル元素ノ相當ナル捕捉ノ爲メ不十分ナル處ニ財產稅ヲシテ補充的ニ現ハレシムルコトニ在ツタ。⁴³⁾

(A) 規則正シク繰返ヘササル即チ非回期的ノ所得モ亦所得トシテ所得稅ニテ課稅スルヤハ一ノ問題テアルカ、此ニモ確カニ少クトモ給付能力ハアツテ、之ヲ課稅スルノハ不當テナイ然ルニ所得稅テハ之ヲ所得トセサル實例カ多ク、又之ヲ所得ト見做シ、隨フテ所得稅賦課ノ標準ヲ前年ノ實額ニ求ムル主義ヲ採ルトシテモ、斯カルモノハ事實上漏レテ行ク傾カ大イ。其ヲ所得ト見做シ、而カモ所得稅賦課ノ標準カ來ルヘキ所得ノ豫算ニ依ル主義ヲ採ルトスレハ尙更ラニ其レノ漏レル恐カ大イ。然ルニ財產稅カ別ニアレハ斯カル所得ニテ少クトモ其カ結局財產トシテ殘ルタケテハ又財產ヨリ追跡サル、タケテハ捕捉セラル、機會ヲ得ルコト、ナル。(註三二)。

(註三二) ありすまあハ資本稅ハ非回期的ノ非常收入ヲ稅ストイフ。⁴⁴⁾

(B) 其他ニテモ所得稅ノ申告ニハ漏レルモノカアリ得ルカ、此モ財產トシテ殘ルタケテハ財產稅アレハ捕捉セラル、機會ヲ得ルコトニナル。又所得カ財產ヨリ出ツルタケテハ、財產稅ノ方ノ材料ニヨリ追跡シテ所得申告ヲ匡正スルコトモ出來ル。

(C) 尙又所得稅ニテハ兎角其所得金額ヲ實際ヨリモ過小ニ申告スル恐カアル。此モ財產稅カアルト其方ノ根據ニヨリ匡正セラル、コトモアルシ(註三三)、又其方テハ逃ケテモ財產稅ノ處テ捕捉サル、コト、モナリ得ル。

(註三三) ぼるぐこモ財產稅ニハ近世的原則ニ從ツテ建テラレタル租稅體系ニ於テハ、所得稅ノ爲メノ租稅申告ノ監督ノ可能ヲ增加スルノ任務アリト爲ス。⁴⁵⁾

(D) 收益財產ノ安全度ノ大小ニ依ル給付能力ノ大小ノ如キモ、所得稅テハ通例斟酌スルヲ難シトスル所デ、所得金額ノ大小ニ應シテノミ課稅サル、コト、ナル。然ルニ財產稅テハ必然之ヲ斟酌シテ課稅スルコトニナル。即チ收益金額ハ同シテモ安全度大ナルモノハ自ラ元本價值カ大イコト、ナツテ此カ行ハル、。

(E) 夫ノ使用財產ノ無形ノ收益ノ如キモノカ所得稅ニ於ケル所得カハ問題トナルカ、兎角所得稅テハ之ヲ見逃カスコト、ナリ易イ。併シ此モ確カニ一ノ給付能力ノ表示タルヲ失ハナイコトハ前ニ述ヘタ通りテアル。然ルニ其ニ對シテハ財產稅カアレハ自然課稅カ及フコトニナル。之ヲ以テ所得稅ノ見逃ガス所ノ給付能力ヲ捕捉スルコトハ適當テアル(註三四)。

(註三四) 諸多ノ學者モ此ヲ以テ財產稅ト所得稅トノ差異ト認メ又ハ財產稅ノ相對的長所トシテ居ル。例之、こつマハ財產稅ハ所得稅ノ免除スル所ノ財產ノ不生産的部分ヲモ課稅スルコトニ於テ所得稅ト異ルト爲シ、ぱりゆーモ實

45) Borght, a. a. O. S. 116.

43) Haristoy, l. c. p. 104. Heckel, a. a. O. S. 408, Fuisting, a. a. O. S. 278.

44) Haristoy, l. c. p. 106.

本税ハ所得稅ニヨリテハ免稅サルル所ノ不生産的價値ヲ稅スルコトニ於テ此ト根本的相違アリト爲ス。ありすこゝハ財產稅ハ所得稅ノ課セラレサル資本ノ或部ノモノヲ課稅スル。何トナレハ義務者ハ彼ニ所得ヲ擧ケナイカ併シ其信用ヲ増加シ又ハ使用及享樂ニ向ケ得ル物ヲ獲得スルヲ得ルカラトイヒ、こゝハ使用財產ノ課稅モカ元來根本的所得課稅ニハ考察ニ來ル所ノ任務ヲアル。而カモ所得ノ本質ニ關スル不明ニ於テ——立法カ財產稅ヨリ出發スル時ニ解決ノ爲メ一層其見込アリト爲シ得るか——ハ所得稅ニテハ人カ狹キ非科學的ノ所得觀念ノ結果并ニ富メル貴族及資本家ニ對スル偏頗心ヨリ、奢侈的使用資本ノ利用ヲ免稅スルヲ例トスル。然ルニ例之、繪畫蒐集室ノ所有ハ所有者タル富者ニハ賣價ノ利子ト少クトモ同丈ノ價、同丈ノ愉快所得ヲ供シナケレハナラヌトイヒ、へつけるハ財產稅ハ固有ノ經濟上ノ收益ヲ生ジナイテ所有者ノ人的享樂ニ用立チ且ツ通例高キ租稅力ノ確ナル徵候ヲ示ス所ノ財產ノ頗ル價値アル部分ヲ最容易ニ租稅 術上捕捉スルヲ得ト爲ス。⁴⁶⁾

(F) 收益財產ニシテ所有者ノ計畫的投機ノ爲メニ有形收益ヲ生セス又ハ其小ナルモノ、如キモ、元本價 増加トイフカ如キ潜在シタル收益アルノ故ニ、此ニ確カニ給付能力アリト認ムヘキテアルカ、其ニハ所得稅ハ課セラレヌコト、ナル。然ルニ財產稅カアレハ其ニモ課稅サルルコトニナリ得ル(註三五)。

(註三五) ありすこゝカ資本稅ハ其所有者ニ享樂ヲ與エス及繼續的收益又ハ所得ヲ與エサル財產ヲ課稅スルノ長所アリトスルハ此場合ヲ指スノテアル。

(G) 元來收益ヲ生スヘキ收益財產ニシテ一時、時運ノ不利ナルカ爲ヌ又ハ其他ノ避クヘカラ

サル事情ニテ收益ヲ生セス又ハ小收益シカ生セサルモノ、如キモ、所得稅ニテハ課稅セラレサルコトニナツテモ、未來ノ蓋然的收益ヲ生シ得ベキ物トシテ收益ニ拘ラサル大價値ガアリ、其カ又一ノ給付能力テアル。財產稅ハ之ヲ捕捉シテ課稅スルコトニ於テ所得稅ヲ補充スル(註三六)。

(註三六) へつけるハ之ヲ認ム。曰ク、財產稅ハ元來收益ヲ生スヘク放棄サルヘキモノテアルカ偶々一時無收益ナル財產又ハ財產物體(例之、返済サレタル資本ニシテ未タ再投資サレサルモノ又ハ暫ラク無配當トナル株式及營業持分)ヲ課稅スル爲メノ適當ナル租稅形式トシテ現ハルト。⁴⁸⁾

(H) 所有者ノ無智怠慢ノ爲メニ小收益又ハ無收益ヲ擧グル所ノ收益財產ノ如キ、所得稅テアレハ單ニ現ハレタル收益ニ依リテ課稅スルニ止マル。併シ此財產ハ假令其收益ハ小テアツテモ無テアツテモ其收益關係以上ノ價値カアル。其以上ノ給付能力アリト認ムヘキテアル財產稅ハ此ニ相當ナル課稅ヲ爲スコトニナル。

(I) 夫ノ財產所得ト勤勞所得トノ差等課稅又ハ財產重課トイフコトハ所得稅ノ往々ニシテ無視スル所テアリ又ハ之ヲ斟酌スルコト輕キニ失スル所テアル。財產稅ハ多少此缺陷ヲ補充シテ給付能力ニ相當ナル課稅ヲ爲サシムルコト、ナルヲ得ル。尤モ其カ度ヲ過コストキハ却ツテ此目的ヲ正當ニ達シナイコトニナラヌトモイヘナイケレトモ。

48) Heckel, a. a. O. S. 408.

46) Cosca, a. a. O. S. 127. Parieu, l. c. p. 517. Haristoy, l. c. p. 104. Cohn, a. a. O. S. 478. Walker, a. a. O. S. 55. Heckel, a. a. O. S. 408.

47) Haristoy, l. c. p. 105.

(J) 尙ホ一ツ所得稅ヲ課スルニツキテ、法人所得ノ如キモノヲ自然人ニ配當セラル、處ニ於テ課稅スルトシテ、其ノ配當セラレスシテ法人ニ留保セラレ之ヲ脱セントスル利得カアリ得ル。此ニハ所得稅ノ特別ノモノトシテ法人ニ課稅スルコトニヨリテ補充シ得ルカ、別ニ財產稅カアレハ夫ノ留保所得カ大ナレハ自ラ自然人ノ處テ其持ツ所ノ株券ノ市價カ、其配當ノ大サニ比シテ割合ニ大イコトニヨリテ多少重イ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得ル。之モ財產稅ノ一ノ補充力テアル。

(二) 財產稅ノ補完ト收益稅ノ其トノ比較——右述ヘタル所得稅ノ給付能力捕捉ノ補完トシテノ財產稅ノカハ之ヲ收益稅ノ同種ノカト比シテ優劣如何トイフニ、

(A) 前掲ノ諸點——ニ於テハ右ノ(一)ノ(D E F G H及J)ニイフ如キ財產稅ノ補完ハ收益稅ニハ行ハレ難ク、(尤モJ)ノ點ハ收益稅ニテハ之ニ代ルヘキ力ヲ持ツ。財產稅ニシテ能クシ得ル所テアル。又(一)ノ(A B C)ニイヘル所得申告上ノ缺陷ノ匡正ニ關シテハ、所得稅ノ下ニ行ハルル弊害ハ其ト類似ナル收益稅ノ收益申告ニモ行ハレテ、收益稅ニテハ所得稅ノ缺陷ヲ補完スルニ足りナイ。ムシロ別種ノ標準タル財產ヲ持來ツテ之ニテ匡正スルノガ一層有功テアル。尤モ所得申告ノ外ニ收益申告カアレハ、所得申告カ其ノ爲メ一層精確ニ近クトイフコ

トハアル(註三七)。其故收益稅ノ補完モ無意義テハナイカ、併シ此方ハ單ニ所得申告ヲ完全ニ近カシムルニ就キテノ補助ニ止マリ、財產稅ノ場合ノ如ク所得稅ノ捕捉シ得サルモノヲ捕捉スルコトニ於ケル眞ノ補完ハ收益稅ニハナイ。(I)ノ財產重課ニ至ツテハ收益稅ニテモ相當達セラルルガ、唯タ此ニテハ各種收益源ニ依リ稅率賦課方法等カ異リ隨フテ不均等負擔ヲ生シ易イカラ(註三八)、ムシロ財稅ニテ統一的ニ差等課稅ヲ行フタ方カ一層適切ノヤウニ考エラレル。

(註三七) ふいすちんぐハ此點ニツキ、收益稅制度ハ、所得稅ト收益稅トノ賦課手續カ交互助成ヲ爲シ、一方ノ成果カ他方ノ目的ノ爲メニ利用サルルカ如クニ成形サルルヲ得ルトイフ。⁴⁹⁾

(註三八) わぐな一ハ曰ク、收益稅テハ租稅ノ種類ニヨリ收益ノ認知及捕捉方法カ全ク不平等テアルト。⁵⁰⁾

(B) 其他ノ點——テハ財產稅ニハ人的事情ノ考慮、負債ノ斟酌、累進課稅、免稅點等ノ適用カ行ハレ易イカ、收益稅テハ其カ全ク行ハレナイテハナイニセヨ、前者ニ比シテ不十分タルヲ免レナイトイフコトカアル(註三九)。尤モ所得稅其モ、カ大抵此等ノ事項ヲ考慮シテ出來テ居ルカラ、其上、財產稅ナリ收益稅ナリテ之ヲ考慮スルニ及ハヌトモイヘルカ、併シ本稅タル所得稅カ既ニ之ヲ考慮シテ居ル程大切ナモノナレハ、其ヲ補完スヘキ稅カ之ヲ考

49) Fusting, a. a. O. S. 304

50) Wagner, a. a. O. S. 537.

慮スルト否トハ、其補完稅ノ補完作用ノ完全不完全ニ關スル。之ヲモ茲ニ考フルノハ無用
テナイ。何レニモセヨ全體上所得稅ノ補完トシテ財產稅ノ方カ收益稅ニ勝ルコトハ明カテ
アル。

(註三九) ろつしやーハ財產稅カ所得稅トノ結合ニ於テ負債ノ減却、人的元素ノ考慮、累進及租稅義務ノ下限ノ可能
ニヨリ收益稅ニ勝ルト爲ス。

結 論

以上要之、財產稅ノ課稅標準タル財產價值ハ給付能力ノ觀點ヨリ見テ、一見甚タ不適當テ
アツテ非常特別ノ場合ノ外ハ採ルヘカラサルモノノ如クテアルカ、實際良ク考フルト給付
能力表示ノ資格カアリ、之ニ依ルノ稅ハ適當ニ構成スレハ所得稅ノ補完トナリ、而カモ其
ニ於テ收益稅ニ勝ル所テアル。故ニ所得稅ヲ中心トスル租稅體系ニテハ此ニ收益稅ヨリモ
ムシロ財產稅ヲ配合スルノカ少クトモ給付能力ノ觀點ヨリシテハ適當ト思ハレル

(大正九年五月)

51) Roscher, a. a. O. S. 424-5.

第二編 經常財產稅ノ利弊

緒 言

(一) 私ハ前ノ論文ニ於テ財產稅カ給付能力ニ應スルノ租稅タルコト並ニ其ニ就キ所得稅ノ補
完稅タル資格アルコトヲ述ヘタ。ソシテ其給付能力原則ニ適フト否トハ租稅トシテノ資格
ニ於テ最重要ナル關係ヲ有ツカ故ニ、既ニ其レタケニ於テ大體此財產稅ノ採用スヘキ所以
ノモノヲ認ルヲ得タ。併シ或稅ノ採否ヲ決スルノニハ、尙別ニ經濟上社會上財政上等ヨリ
見タル諸多ノ利弊ヲモ攻究シテ見ナクテハ安心カナラナイ。テ私ハ今之ヲ試ミヤウト思フ
(二) 本文説述ノ順序トシテハ、先ツ以テ本稅ノ經濟上ノ利弊ヲ説キ、次ニ社會上ノ利弊ニ、
終リニ財政上ノ其ニ及ホウト思フ。

第一段 財產稅ノ經濟上ノ利弊

(一) 根本的ノ經濟上ノ利弊

(A) 財產元本侵蝕ノ可能イ(財產稅ヲ取ルトイヘハ財產ヲ課稅物件ト爲シ其價值ヲ課稅標準

トスルカラ、享樂財產又ハ使用財財ノ如ク收益ヲ生セサルモノハ之ニ課セラレタル稅ヲ拂
 フル爲メニ財產ヲ賣却セサルヘカラサルコト、ナルノ外ナキカ如クニ見ユル。又收益財產
 ニシテモ之カ利用ヲ怠ツタ場合並ニ利用ハシテモ時利アラスシテ又ハ其他避クヘカラサル
 事情ノ爲メニ小收益シカ生セサルカ、無收益ニ終ルカ又ハ更ニ缺損サヘ生スル場合ニハ、
 財產ヲ賣却セサルハ稅ノ拂ヒ得サルカ如クニ見ユル。更ニハ收益財產ヲ相當ニ利用シテモ
 稅ノ高サ如何ニヨリテハ又其稅カ其收益以上ニナルコトモアリ得ル。特ニ之ヲ投機的ノ考
 ニテ利用スル場合ノ如キ有形收益カ甚小ニ、時ニハ其カ無收益ナルカ如クニモ見エ隨テ又
 此場合ノ財產稅カ財產ノ賣却ヲ餘儀ナカシムルカ如クニ見ユル。斯ノ如クニシテ財產稅ニ
 ハ財產元本ヲ侵スノ危險カ太タ多様ニ存スルカ如クテアル(註一)。

(註一) ばすてーぶるハ曰ク。嚴格ナル意義ニテハ資本ノ上ニ歸スル稅ハ社會ノ富額ヲ減少シナケレハナラヌ。此ノ

如キハ無限ニ繼續スル能ハサルコトテアル。財產ヲ租稅ノ基礎トシテ用ユルコトニ於テ、常ニ社會ノ蒐集シタル財
 源ヲ侵蝕スルノ危險カアル¹⁾。

ロ) 併シナカラ第一ニ(1) 臨時的ノ財產稅テナクテ經常的ノ財產稅テアル以上ハ、其稅ノ高サ
 ハ相當ニ低ク定メラレ、普通人カ普通ノ方法ニテ財產ヲ利用シテ生スヘキ收益ニテ優ニ拂

1) Eastable, Public finance. 3 ed. p. 470.

ヒ得ル程度ノモノトセラレテアラウ(註二)。例之財產價值カ我邦ニテ最確實ナル處ニ放下
 サル、トシテ五分カ得ラル、トスレハ、其半分即チ二分半以内、先ツ一分見當ノ處ヲ取ル
 トスレハ、大抵ハ財產元本ヲ賣却セストモ、其收益又ハ所得ヨリ納稅シ得ルコト、ナル。
 夫ノ稅ニヨリテ財產元本ヲ侵蝕スルトイフコトニハナラヌ(註三)。財產元本トナリ得ヘキモ
 ノ又ハ特ニ生産資本トナリ得ヘキモノヲ此稅ニヨリ取り、爲メニ國民經濟ノ發達上不利ト
 イフコトハアレトモ、其ヲイヘハ他ノ諸稅ニモ共通ノ事テアル。此稅タケノコトテハナイ
 特ニ私人ノ手ニアツタナラハ生産的ニ利用サレタルヘキモノカ、政府ノ手ニ入ツテ軍事費
 等不生産的ニ使ハル、場合ニハ國民經濟上甚タ不利テハアルカ(註四)、其モ他稅ニモ共通ノ
 コトテアル。(2) 其カラシテ享樂財產ハ收益ナキ故ニ財產元本ヲ賣却シテ納稅スルコトトナ
 ルトイフケレトモ、斯カル財產ヲ有ツ者モ固ヨリ無形收益ハ之ヲ得テ居リ、ソシテ他面ニ
 於テ相當ノ所得ヲ持ツテ居リ、其所得ト此財產トカ相當ノ割合ヲ持チ、即チ彼ハ其所得ニ
 ヨリテ財產稅ヲ拂ヒ得ル程度ノ使用財產ヲ持ツコトトナルヘク、彼ハ元來此レタケノ注意
 ヲ爲スヘキモノテアル。稅カ所得ヲ以テ納メ得ナイトイフナラハ其ハ過大ノ此種財產ヲ持
 ツタカ爲メニ外ナラナイノテ(註五)、彼ニシテ所得ヲ以テ夫ノ稅ヲ拂フニ堪ヘストイフナラ

ハ、之ヲ賣却シテ之ヲ持ツニ堪へ得ル人ノ手ニ移スヘキテアル。斯クシテ甲トイフ箇人經濟テハ財産元本カ減少シテモ、乙トイフ經濟テ所持セラレルコトニ依リテ、國民經濟上適當ノ處ニ享樂財産カ落着クコトトナリ、ソシテ財産元本ノ減少ニモナラナイ。國民經濟上心配スヘキモノテナイノミナラス、財産ノ適當ナル分配ヲ進メ、且ツ人々ヲシテ財産ヲ出來ルタケ收益財産ニ向ケシメ、斯クテ收益財産ノ増加ヲ促シテ國民經濟ノ進歩ニ貢獻スル假令使用財産ノ増加ハ幾分カ抑エラレテモ、他方收益財産ノ増加ニヨリテ優ニ全體上財産増加ヲ進メルコトトナリ得ル。其收益財産ノ増加ハ望マシキモ夫ノ虛榮等ノ爲メニ餘リニ多ク享樂財産ヲ持タウトイフカ如キハ少シモ保護スヘキモノテナイ(註六)。(3)或ハ收益財産ノ利用ヲ怠ツタ者カ財産元本ヲ賣却スルコトニナツテモ、此ハ彼ノ自業自得テ、租稅法カ之ヲモ保護スルニ及ハヌ。又此稅アルカ故ニ却ツテ、人々ヲシテ其收益財産ノ利用ニ一層注意深カラシメ、隨フテ其レタケ經濟上ノ發達ヲ促スコトニモナル。(4)ソレカラ時利アラヌシテ又ハ其他ノ避クヘカラサル事情ノ爲メニ無收益小收益又ハ損失ヲ生シタル場合ニ、財産稅ヲ拂フコトノ難キコトハ氣ノ毒テアルカ、其ハ稀有ノコトテアリ、且ツ此ハ既ニ財産稅法ノ存スル以上ハ人々カ豫メ之ニ準備スヘキコトテモアリ、又此際財産價值ノ減少ニヨ

リテモ苦痛ヲ緩和セラレル。用心深クシテ居ツタナラハ多分財産元本ノ賣却ニ及ハヌシテ濟マウカ、其カ萬一起ツタニシテモ、其財産ハ國民經濟中ノ他ノ何人カノ手ニ入ツテ保存セラレ利用セラレ、稅ノ爲メノ故ニ國民經濟上財産元本ノ減少ニハナラナイ。假令夫ノ時運ノ不利等ニヨリテノ財産價值ノ減少トイフコトハアルニモセヨ。(5)或ハ投機的ノ考ニテ財産ヲモツ爲メニ小ナル有形收益シカ生セス爲メニ財産元本ヲ賣却シテ財産稅ヲ拂フコトニナルトイフカ、此ハ自業自得テアル。之ヲ宥恕スルニ及ハナイ。彼カ此投機ヲ敢テスル以上ハ、彼ハ其財産ヨリ生スルモノ以外ノ所得ニテ此稅ヲ拂フ工夫ヲ爲スヘキテアル。又斯カル投機ハ過度ニナラヌヤウニスヘキモノテ、此稅アルカ爲メニ却ツテ幾分之ヲ抑制シテ人々ヲシテ健全ナル經濟活動ヲ努メシムルコトトナルノ利カアル。

(註二) ぼるぐまハ曰ク。財産稅ノ重課ハ實行スルヲ得ヌ。何トナレハ然ルトキニ財産ノ繼續的減少カ行ハルルカラ
——財産ノ助ヲ以テ 出サルヘキ所得ニテ、稅ノ容易ナル支拂トイフコトノ疑ナキ程ニ低キ稅率ノミカ定メラルヘ
キモノテアルト²⁾

(註三) ろじいハ、資本稅ハ他ノ方法ヨリシテハ資本ヲ稅スルモノテナクテ所得ヲ稅スルモノト考ヘラルルヲ得ル。
然ルトキニ稅カ資本ノ上ニ測定セラレテ所得ニ課セラルル。此場合ニ資本ノ破壞ハナイテアラウトイヒ、こつさハ
合理的財産稅ニハ、適度ナル限界内ニノミ此カ動ク間ハ、資本ヲ減少スルトイフ非難カ爲サルコトカ出來ナイ。

2) Dought, Fw. S. 116.

何トナレハ富者ノ財産ノ上ノ税ハ財産ヨリ支拂ハレナイテ所得ヨリ拂ハルルカラトイヒ、ふあいふあ一ハ税カ財産又ハ資本ヨリ取ラルルコトハ、此税カ財産又ハ資本ヨリシテ擔ハルルコトヲ少シモ證明シナイ。各人カ此税チ一般所得税及其他ノ税ト均シク其所得ヨリ拂フコトカ全ク可能テアルトイフ³⁾

(註四) ふあいふあ一ハ曰ク、凡ヘテノ税ハ此カ軍事上ノ必要ノ爲メ又ハ其他ノ不生産的支出ノ爲メニ政府ヨリ支出サルルトキニ、例外ナシニ國民財産ヲ減少スル。何トナレハ此カ人民ノ手ニアツタナラハ常ニ一部ハ貯蓄セラレ又ハ生産的ニ使用サレタカラト⁴⁾

(註五) らうハ注意シテ曰ク、所得ノ割合ニ異常ニ大ナル家具ヲ有ツ者ハ損失ヲ被リ、彼カ其所得ヨリ税ヲ擔ヒ得ルタケニ此家具ヲ減少スルコトトナルト⁵⁾

(註六) ふあいふあ一ハ曰ク、國家カ財産税ニ於テ唯、財産即チ各人カ管轄的ニ放下シ得ルモノノミヲ考察ニ置ク。然ルニ或人カ其財産ノ一部ヲ貪慾ノ爲メニ又ハ馬鹿ナル奢侈ノ爲メニ放下セスニ置クコトヲ選ンタトキニ、彼ハ之カ爲メニ寛大ノ處置ヲ受クヘキモノテナイト⁶⁾

(B) 資本蓄積制限ノ可能イ次キニハ財産税カアルトイフト、人々カ財産ヲ有ツコトヲ愚ナリト感シテ、サウ勤勉セサルコトトナリ又得タル所得ハ之ヲ速カニ消費シ盡スコトトナルトイフ非難カアル(註七)。如何ニモ一應ハ斯カル傾アリトモイヘル。人々ニハ利己心カアリ、享樂欲カ強イカラ、所持シテ居レハ其カ國家ニ取上ケラル、トイヘハ、所有ノ爲メニ努力モセス、アルモノハムシロ速カニ自己ノ目前ノ享樂ニ充テヤウトイフコトトナリ得ル。(ロ)

3) Roger, Les impôts sur le capital. p. 25. Cossa, Grundriss d. Fw. S. 130.
Pfeiffer, Staatseinnahmen. II. S. 296.
4) Pfeiffer, ebenda. S. 296-7.
5) Rau, Grundsätze d. Fw. 5. Aufl. II. S. 204.
6) Pfeiffer, ebenda. S. 297.

併乍ラ又人ニハ享樂欲ノ外ニ所有欲カアリ、ソシテ奉公ノ念モカアルカラ、假令所得ヲ直チニ享樂ニ向ケスシテ財産トシテ残スニ於テ其ニ若干ノ税カ課セラルルトスルモ、其税カ残シタル全財産ヲ取去ルノテナクテ其一部ヲ殘シ置ク以上ハ、其殘サルヘキ一部ノ者ノ所有ノ爲メニ、同時ニ多少ハ奉公ノ爲メニ、即時ノ享樂ヲ止メテ所有ヲ爲サントシ而カモ其所有ヲ出來ルタケ多カラシメントシ、假令此ト同時ニ租税カ大キクナツテモ尙ホ之ヲ差引キタル残りノ所有ノ大ナランカ爲メニ益々多ク即時享樂ヲ節シヤウト努ムルコトトモナラウ(註八)。特ニ又此財産税ニアリテハ、所得税ト異ツテ税額カ收益ノ大小ニ干係ナク、生産的財産ニモ不生産的財産ニモ同ニ課セラルルカラ、同ク殘ストシテモ成ルヘクハ使用財産ヨリハムシロ收益財産トシテ殘サウトシ、益々收益ノ増加ヲ計ルコトニモナル(註九)。尙其上ニモ同收益財産ニツイテモ財産税テハ所得税ト異リ同一財産價值ニハ其實際收益ノ大小ヲ問ハス同税額ヲ課スルカラ、人々カ同收益財産ヨリシテモ出來ルタケ多クノ收益ヲ擧ケヤウトシテ一層勤勉努力スルコトニモナル(註一〇)。又所得税ト異リ此税テハ人カ所得ヲ得タタケテハ課税サレナイカラ、人々カ財産干係ヲ離レテモ一層勤勉トモナル。此ノ如クニシテ人々ノ理智力進ミ公共心モ進メハ、必スシモ財産税ノ爲メニ新蓄積カ制限サル、コト

トナラス、却テ人々ヲシテ一層勤勉且ツ節約ナラシメ且ツ又財産利用ニ注意セシメルコト、ナリ得ル。勿論税ノ高サノ如何ニモカカルケレトモ幸ニシテ其カ過高テナイナラハ、多分大シテ惡イ結果モナカラウト思フ。相當度ノ財産税アル場合ニ此税アルカ爲メニ蓄積ノ鈍ルトイフナラハ、其ハ其人民ノ智徳ノ低キ爲メニ外ナラナイ。斯カル恐アリトイフ場合ニハ教育ニヨリテ大ニ國民ノ啓蒙ヲシナクテハナラヌ。此啓蒙アルニ於テハ必スヤ此税アルコトカ却テ一層勤勉節約及財産利用注意ニツイテ刺戟ヲ與フルコト、ナラウ。即チ夫ノ惡結果ノ生ズルト否トハ少クトモ相當度ノ財産税ノ下ニテハ、税其モノヨリハ人ニカ、ルデ單ニ此税アルノ爲メノ故ニ特ニ新資本ノ成形ヲ妨クルトイフコトハ多分アルマイト思フ。實例モ亦之ナキヲ證スルカ如クテアル(註一一)。若モ財産税ヲ以テ強テ貯蓄ニ對スル罰金也ナトイフナラハ、其ハ獨リ此税ニ對シテノミナラス、凡ヘテノ所得ニ關スル税ニ對シテモ當ルコト、ナリ、其見地カライヘハ税トシテハ支出税ノ外選ミ得サルコトトナラナケレハナラヌ(註一二)。其モノノ仕方テハアルカ、併シサウナレハ少クトモ今日ノ實際立法ニハ期待シ難キ要求トナラナクテハナラヌ。

(註七)むるはるミハ財産カ斷ニス減少スルトキニ誰カ結局財産ヲ所有シヤウトスルモノアラナヤトイヒ、ぶあいふあ

一ハ財産税ノ缺點ハ此カ貯蓄ニ直接反對ノ影響ヲ及ボシテ、必然利得ノ出來ルタケ急速ナル消費ニ迫込ムコトデア
ルトイヒ、ろじのハ資本税ノ濫用ハ其遺產ヲ組成シ擴張シ又ハ維持スル考ニテ勞働スル者ヲ失望セシメテ、彼ヲ
シテ競争ヲ止メシムルノミナラズ、一層大マカニ生活セシムルコトトナルテアラウ。此カ企業及節約ノ精ノ輕減
又ハ抑壓トナルテアラウトイフ。⁷⁾

(註八) こつさハ曰ク。一般財産税ノ辯護者ハ此税カ浪費及奢侈ヲ止メルコトニ與フル刺戟ヲ賞揚スト。⁸⁾

(註九) こつさハ一般財産税辯護者カ、此税ニ多クノ生産的財ヲ生産的ノモノニ變スルコトニ於ケル刺戟ノ存スル
コトヲ賞揚ストイフ。⁹⁾

(註一〇) こつさハ一般財産税辯護者カ、此税カ人ノ勤勉ノ上ニ與フル有功ナル影響ヲ賞揚スト爲シ、ぶあいふあ
ハ夫ノ一層大ナル勉強及一層大ナル元氣カ此財産税ニ依ツテ罰セラレナイトキニ此カ此税ノ長所テアル。——此税
ノ下ニハ或人カ特段ナル勉強ニヨリ又一層大ナル巧妙ニヨリテ他人ヨリモ一層多ク其資本ヨリ得ルコトヲ知ルト
キニ、彼ハ完全ニ彼ノ一層大ナル努力ノ果實ヲ受ケル。ソシテ此カ唯其刺戟トシテノミ働キ得ルトイフ。¹⁰⁾

(註一一) こいんハ曰ク、財産重課ニヨリテ節約ト資本成形トヲ狭メルトイフ非難ハ有名ナル非難テ、他ノ點ニ於テ
此カ實ハ所得税ニモ向ケラルヘキモノテアル。ソシテ此迄、此非難ニ都合其證據ハ呈セラレナカツタト。¹¹⁾

(註一二) せりぐまんハ曰ク、此税カ貯蓄ニ對スル罰金トイフ非難ハ疑問テアル。何トナンハ同一ノ非難ハ支出ヲ超
ユルタケニテ所得ニ基ク凡ヘテノ税ニ對シテ爲サルヘキモノテアルカラ。テ吾人カ貯蓄ヲ税スルコトヲ避ケントス
ルトキハ、吾人ハ唯タ支出税ヲ課シナケレハナラヌコトトナルト。¹²⁾

(C) 勤勉、節約、財産利用ノ注意、奢侈及投機ノ謹慎——トイフコトカ財産税ニヨリ促サル
ル傾アルコト、並ニ隨フテ特ニ生産的ノ財産元本カ堅實ナル状態ニ於テ増加スルコトトナ

7) Murhard, Theorie und Politik der Besteuerung. S. 209. Pfeiffer, a. a. O. S. 301. Roger, l. c. p. 13.
8) Cossa, a. a. O. S. 128.
9) Cossa, eber. d.
10) Cossa, eber. a. Pfeiffer, a. a. O. S. 297. 298-9.
11) Cohn, System d. Fw. S. 487.
12) Seligman, Essays in taxation. 8 ed. p. 59.

ルノ傾アルコトモカ、前記ニヨリテ推測スルヲ得ル。少クトモ適度ナル財産稅ト理智アリ及奉公心アツキ人民トヲ前提トシテ斯ノ如キ傾アルコトハ斷言シ得ル。是レ明カニ此稅ノ長所トイフテ良イ。茲ニ重ネテ指摘スルノ値カアル。

(二) 支葉的ナル經濟上ノ利弊——トシテハ一般的財不況又ハ特定箇人ノ逆境ニ遇ヒタル場合ニ財産稅ノ生スルコトアルヘキ困難ヲ擧ケナクテハナラヌ。

(A) 企業心抑制ノ可能——先ツ以テ夫ノ一般的原因ニヨリ又ハ特別的原因ニ依リテ營業ノ損失ニ終リ又ハ小收益シカ生セスシテ、爲メニ財産稅ノ納付ノ困難ヲ感スルコトノアリ得ヘキヨリ、之ヲ心配シテ營業ニ從事スルコトヲ避ケル者ヲ生シ、企業心ヲ抑壓スルコトナラサルカ(註一三)トイフニ、此ノ如キコトノ全クナシトハイヒ得サルモ、其ハ夫ノ營業稅ノ如キニテモ外形標準主義ヲ採ルニ於テハ明カニ起リ得ルコトテアリ、前年ノ實收益ニ依ル主義ヲ採リテモ尙ホ且ツ免レザルコトテアリ、此稅ノ特有ノ缺點テナイノミナラス、其位ノコトハ多少ハ準備スルヲ得又準備スヘキモノテモアリ、且ツ一般的原因ヨリ生スル場合ノ如キニハ夫ノ財産價值ノ大ニ低下スルトイフコトモアツテ、國民ノ元氣サヘ相當ニアルナラハ、爲メニ生スル企業抑壓トイフコトモ左マテ大ナモノテハナカラウト思ハルル。

(一三) ぶあいふあーハ曰ク、財産稅ノ此結果トシテ、人々が租稅ニヨリテ損失トナル所ノ生産的事業ヲ嫌フコトトナルニ於テハ、愈々以テ不長テアルト¹³⁾

(B) 企業壓迫ノ可能——右ノ如クニシテ不利ノ境ニ立至レル營業ニ屬スル財産ニモ課稅スルノ結果ハ、假令其價值カ低下シテ居ルニモセヨ、矢張り或價值ヲ有チ、隨テ唯サヘ困ツテ居ル企業ヲ更ニ其價值ニ對スル課稅ニヨリテ愈々壓迫スルコトトナル。其カ良クナイトモイヘル。併シ此ハ前ニイフ所ニテモ知ラルル通り此稅ニ限ツタコトテモナク、又既ニ此稅アル以上、營業者ノ相當用意シ得ルコトテ、其位ソコトハ辛抱スル外ナカラウ。

(C) 企業信用損傷ノ可能——右ノ如クニシテ或企業カ不利トナル場合ニ、其ニ屬スル財産價值ノ小ナルコトカ此稅ノ賦課ノ爲メニ現ハルルトキニ、彼ノ信用カ一層多ク外部ヨリ疑ハルコトトナリテ、經濟界ヲ一層不良トナラシメサルカトノ掛念カアル(註一四)。斯カルコトモ全クナイトハイヘナイ。カ其ハ大抵ハ稀ナルコトテモアリ、假令其カ可ナリ多クアツテモ、眞實ノ曝露ナレハ己ムヲ得サルコトテモアリ、且ツヤ一方ニ賦稅ノ爲メニ信用ヲ損スルモノノアル反面ニ、却テ信用ノ増スモノモカアツテ差引キ埋合ノ得ラレテ居ルトイフコトモアル。テ之ヲ以テ強キ反對ト爲スコトハ出來ナイ。

13) Pfeiffer, a. a. O. S. 301.

(註一四) くればぐハ恰モ二ノ不幸ナル投機ノ後ニ於ケル商人ノ財産調(財産税ノ爲メノ)ガ——債權者ヲ不安ナラシメ、商人ノ期待セサル要求ヲ爲スコトニ依リテ、然ラサレハ單ニ一時的ノ苦痛タルヘキモノヲ繼續的不幸ト爲シ得ルトイフタ¹⁴⁾

第二段 財産税ノ社會上ノ利弊

(一) 社會階級間ノ關係上ヨリノ利弊

(A) 社會組織破壊ノ可能イ(財産税)トシテ 財産所有者ニ特段ナル負擔ヲ課スルコトハ懸カテ 社會主義ヘノ第一歩ノ如クニモ考ヘラルル。社會主義必スシモ不良テハナイカ、社會組織ノ改造ハ事重大テ慎重ニ考慮スヘク、隨フテ若モ此税ニ夫ノ傾向アリトスレハ多少躊躇セサルヘカラサルカ如クテアル。(ロ)然シ實際此税ハ必スシモ社會主義ヲ意味シナイ。單ニ給付能力アル所ニ税ヲ課スルコト所得税及其他ノ税ト異ラナイ。之ニヨツテ社會組織ヲ改造スルノテナク、ムシロ現組織ヲ維持シテ此下ニ此税ニヨツテ幾分ナリトモ富者ニ對スル貧者ノ反感(註一五)ヲ緩ムルコトカ出來、爲メニ一層此現社會ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトナル。ソシテ此事ハ今日ノ如ク戰爭ニヨリ貧富ノ懸隔ノ一層甚シクナレル時代ニハ一層大切ナルコトテアル(註一六)。ソシテ特ニ此税ニテハ、貧民ニテモ太シキ貧民テナイ以上ハ多少

14) Murhard, a. a. O. S. 226-7.

之ヲ負フノ機會カアリ、旁々此カ富者ノミノ負擔トハナラス、ソシテ貧民モカ負擔スルトイフテモ彼等ノ負フ所ハ極小額ユヘ、彼等ノ堪エラレナイトイフ程ノコトハナク、此點ニテ 勤勞所得ヲモ課税スル所得税ヨリモ遙カニ彼等ニ取リテ樂テアリ(註一七)、彼等ハ之ニ依ツテ満足スルテアラウ。財産家ハ之ニヨツテ重キ負擔ヲ エラレルコトトナツテモ、人的努力ナクシテ又ハ之ニ依ルコト少クシテ生活スル所ノ彼等トシテハ之ニ甘ニスルノ外ナク、特ニ前ニイフ如ク幾分貧民ノ負擔トナルコトモアリ、旁々財産家ニ於テ不平ヲイフヘキ筋合ノモノテハナイ。

(註一五) はるらーガ此税ノ辯護ヲ爲ス者ハ(財産階級ノ)高キ幸福ニ對スル内心ノ嫉妬ニ基クトイフガ¹⁵⁾ 其レ或ハ然ランテアツテ、其ハ如何ニモ下劣不當ナリトモ考エラルルガ、斯カルモノノ世ノ中ニ廣ク實在スル以上ハ政策トシテハ之ヲ緩和スルノ外ナイ。

(註一六) みじほるぞんハ此戰時中ニ生シタル財産ノ轉置カ頗ル重大ナル社會問題ヲ生シタトイフテ居ル¹⁶⁾

(註一七) ぱりゆーハ資本税ト所得税トノ根本的相違ハ、所得税ニヨリテハ課税サルル所ノ資本ナシニ生スル所得ヲ資本税ニテハ免税スルコトアルトイフ。¹⁷⁾

(B) 貸金基金減少ノ可能イ(此税カ富者ヲ傷クルノミナラス、事業資金隨テ貸金基金ヲ減少スルコトニ依ツテ、貧者ニモ不利トナラサルカ(註一八)ト云フ掛念カアル。實際其カ全ク無意

15) Murhard, a. a. O. S. 216.

16) Michelson, le problème des finances publiques après la guerre, Avant-propos. IX.

17) Parieu, Traité des impôts. 2 éd. I. p. 517.

味テハナイニセヨ、(ロ)斯クイヒ得ルタケテハ、所詮、所得稅收益稅等ニテモ同事カイヒ得ヘク、前ニイフ如ク此稅カ必スシモ財產元本ヲ減少セス新蓄積ヲ制限モセス、却ツテ人ノ勤勉節約等ヲ刺戟スルトスレハ、夫ノ資金ヲ減少スルトイフコトモ、他ノ直接稅ヨリモ甚シトハイヒ難ク、特ニ消費稅等ノ如ク貧民ノ生活ヲ壓迫スルコトノ著シキモノヨリハ、此財產稅ノ方一層有利トイフヘキテアル。

(註一八) ろつつハ下層貧民階級ヲ壓迫スル稅(例之消費稅)ハ一般の福祉ニ反スルノ影響ヲ有ツカ、此ハ常ニ唯消極的テアル。此カ唯々貧民ノミテ壓迫スル。然ルニ富者ノ重負擔ハ常ニ積極的ニ働キ、此カ富者ノミテ壓迫シナイテ此カ其有要ナル事業及貧民ノ扶養ニ使用シ得ル財ノ塊ヲ取去ルノ故ニ、同時ニ富者ト貧民トヲ倒スコトトナルトイフテ居ル。¹⁸⁾

(C) 貧者有利、反或緩和——右ニイフカ如クテ貧者ハ此稅ニヨツテ少クトモ他稅ヨリモヨリ多ク壓迫サルコトハナク、ムシロ確カニ富者ヨリモ一層有利トナツテ、彼ノ社會反感ヲ緩メルコトトモナラウ。

(二) 道義上ノ利弊

(A) 奢侈及投機ノ抑制——此稅カ奢侈ヲ匡正シ(註一九)且ツ投機ヲモ制スルコトトナル(註二〇)トイフコトハ、前ニ説ク所テモ了解シ得ラルル所テアリ、ソシテ此事カ道義上ニモ望マシ

18) Murhard, u. a. O. S. 230.

キコトテアルハカリテナク、特ニ此大戰後ノ各國ノ回復トイフ大事業ノ爲メニモ非常ニ重大ナルコトテアツテ(註二一)、各人ハ之ヲ十分ニスヘキテアリ、政策トシテモ之ニ重キヲ置カナクテハナラナイ。

(註一九) ろつしあハ財產稅ニヨツテ奢侈的財產(例之、庭園、獵場等)(其ノ所得稅カ全ク捕捉セサルカ又ハ唯不完全ニ捕捉スル所)カ課稅セラレルコトヲ得ルトイフ¹⁹⁾

(註二〇) せりぐまんハ曰ク、往々ニシテ投機的目的ニテ保タル所ノ空地ヲ免稅スルコトニ依ツテ、斯カル投機ヲ獎勵シナイコトカ社會ノ義務テアル。不生産的ノ不動產ヲ課稅スルコトハ、租稅ノ基礎カ財產ヨリモ收益テアツテモ完ニ論理的テアル。²⁰⁾

(註二一) みしほるぞんハニツキ、此大戰争ハ交戦國ニ國民的資本ノ減少ヲ生シタ。故ニ將來ノ經濟上ノ進歩ノ爲メニ、戰爭ニヨル此資本ノ減少ノ一部ヲ最速カニ回復シナケレハナラヌ。此目的ヲ達スル實際的ノ方法ハ一層多ク生産シテ一層少ク消費スルコトテアル。——テ將來ノ財政ノ中ニ立ニナケレハナラヌモノハ特ニ奢侈說ノ體系テアルトイフテ居ル。²¹⁾

(B) 虚偽申告ノ誘惑——此稅ニテハ各人ニ租稅申告ヲ命スル(註二二)トシテ、財產トイフ實ニシテ繼續的且ツ明瞭ナル基礎アルノ故ニ(註二三)、所得ノ如ク浮動スルモノヲ課スル所ノ所得稅ヨリモ一層虚偽トナルコト少シトモイヒ得ル。特ニ其カ田舎ノ土地財產ニ當ルカ(註二四)財產中ニハ隱匿シ易キモノカアリ(註二五)、ソシテ評價及計算ノ困難ナルモノカアツテ

19) Roscher, System d. Fw. 5 Aufl. I. S. 424.
20) Seligman, l. c. p. 60.
21) Michelson, l. c. p. 155—6. 181.

(註二六)、此間隙ニ對シテ人ノ不完全ナル良心(註二七)カ痲痺シテ又ハ假令正直テハアツテモ單ニ彼等ノ見方ノ偏傾ヨリシテモ(註二八)虛偽申告トナルコトアルヲ免レナイ(註二九)〇即チ此稅アルニヨリテ自ラ社會ノ道義ヲ幾分不良ニスルトモイヘル。併シ其ハ所得稅收益稅ナトニモアルコトテ、止ムヲ得ナイコトテアル。テ此稅ヲ起ス以上ハ斷エス租稅道義ヲ教育ニヨリテ鼓吹スルヨリ外ハナイ。

(註二二) ふいすちんぐハ一定ノ財産ノ意義ニ含マレタル多少信據スヘキ凡ヘテノ評價單位ノ決定、並ニ此ニ於ケル其普通價格ノ確知ハ、唯タ擔稅者ノ各ノ評價單位ニ向ケラレタル財産申告ノ法律上ノ強制ノ基礎ニ於テノミ違ヒラレルコトヲ得ルトイヒ、こんらーゴハ財産稅カ多クハ所謂宣誓稅テ自己申告ニ基クトイフカ、獨逸ノ事例テハ大抵申告強制ハナク、唯タ義務者ニ申告ヲ許スノ主義ヲ採ル。尤モざくせんこーたニテハ此強制カアル。

(註二三) こつさハ一般財産稅ノ課稅者ハ其確實ニシテ、續的且明瞭ナル基礎ヲ實據スル。ソシテ此稅ヲ以テ虛偽ノ行ハルルコト少キモノトストイヒ、らうハ財産稅ノ按所ハ、唯タ義務者ノ自己申告カ信據スヘキコトヲ前提シ得ルトキハ、義務者ノ全財産ハ、彼ノ所得ヨリモ一層容易ニ評定シ得ルコトノミテアル。何トナレハ全財産ハ各ノ時點ニ一定ノ與エラレタル大サ(此ニ於テ唯タ其成分ノ評價ノミカ不確實ヲモツ所)テアルノニ、所得ハ頗ル變動的テ數年ノ平均ヲ申告シ吟味スルコトノ難イモノテアルカラトイフ。

(註二四) こーんハ今日モ尙ホ瑞西ノ農民ニハ其財産ノ年々ノ收益ヲ計算スルヨリモ、其財産ノ價值ヲ確知スルコトカ遙カニ便利テ適當ナル評定方法ノヤウテアル。——所得ノ確知ニ關スル法律上ノ要求ハ、田舎ノ所得見積ノ信スヘカラサル成果ニ於テ其實行ノ困難ヲ示ストイヒ、わるかーハ特ニ動的資本ノ發達ノ幼稚ナ時代ニハ、或人ノ所得

ヨリモ一層容易ニ財産ヲ見積リ得ルモノテアルトイフ。²⁴⁾

(註二五) 動産特ニ貴重品ト有價證券トニ於テ此カ著シイ。せりぐまんハ之ニツキ、動産ノ脫稅ハ米殖民地ニ於ケル財産稅ノ存在ノ初メ以來殆ト常ニ注意セラレタ所アルトイヒ、ばすてーぶるモ經驗ニヨレハ動産ノ大部分カ申告サレナイ。——債券ヤ株券ハ賦課ノ時期ノ間容易ニ國外ニ移サルトイヒ、わーべるハ貴重品ノ所有ハ容易ニ監督ヨリ逃レルトイヒ、ふおつけモ凡ヘテノ種類ノ貴重品ノ所有ハ各ノ取締ヲ逃レル。一般ニ使用財産ノ各種類ノ爲メニ、高キ經濟發達ノ處テハ多クハ既ニ確知及測定カ非常ニ困難テアルトイヒ、はるらーモ財産ヲ凡ヘテ其種々ナ形ニテ認メルコトカ困難テアルト爲シ、こつさハ一般財産稅ノ反對者ハ人カ課稅物件ノ物理的明瞭ヲ其價值ノ經濟的明瞭ト混同シテハナラヌト主張スル。其故ハ此稅モカ確定ニ於テ所得稅ヨリモ小ナラサル困難ニ遇ヒ諸多ノ場合ニ一層大ナル困難ニ遇フトイフ(例之各箇ノ義務者ノモツ所ノ動産ノ確定ノ如シ)ニ在リトイフテ居ル。²⁵⁾

(註二六) (A) 評價(1)土地、ニツキテモざるこりうすノ如キハ各人カ如何ニ多少ノ精確ヲ以テ公平ナル見積ヲ爲スコトカ價格ニ關スルト收益ニ關スルトヲ問ハス困難ナルカヲ知ルトイフケレトモ、²⁶⁾此方ハマダ大シテ困難テハアルマイ。
 (2) 動産イ特ニ貴重品ニツキふつつけハ所有者自ラモカ其價值ヲ多少完全ナル度ニテ申告スルコトハ出來ナイテアラウトイヒ、わーべるハ貴重品ニテハ相當ナル價值ヲ確定スルコトハ殆ト不可能トイヒ、口有價證券ニツキばすてーぶるハ多クノ場合ニ財産ハ所得ヲ還元スルコトニヨリ得ラレル抽象テアル。株式取引所ノ扱フ財産ノ大ナル塊ニツイテ此カ當ツテ居ル。株式及公債ハ其所得ノ結果タル價值ヲ持ツ。其資本價值ハ見積ノ過程ニヨリテ違セラレル其外ニ、此カ精確ナル測定ヲ許サル方法ニテ常ニ變動スル。所得ハ一定ノ時ノ間ノ一定ノ收入ヲ隨テ租稅ノ爲メニ其キ物件テアルトイフテ居ル。²⁷⁾

(3) 營業財産ニツキテハふいすちんぐカ詳説ス。曰ク、營業財産ノ確定及評價カ最大ノ困難ヲ供スル。此ハ一方ハ買

24) Cohn a. a. O. S. 476. Walker, Fw. S. 54.
 25) Seligman, l. c. p. 23. Bastable, l. c. p. 473. 474. Eheberg, Fw. 9 Aufl. S. 182. Vocke, Grundzüge d. Fw. S. 229. Murhard, a. a. O. S. 219. Cossa, a. a. O. S. 128.
 26) Murhard, a. a. O. S. 215.
 27) Vocke, a. a. O. S. 229. Eheberg, a. a. O. S. 282. Bastable, l. c. p. 470.

22) Fuisting, Grundzüge d. Steuerlehre. S. 299. Conrad, Grundriss, Fw. 2 Aufl. S. 38. Heckel, Lehrbuch. I. S. 412.
 23) Cossa, a. a. O. S. 128. Rau, a. a. O. S. 205—6.

方項目、他ニハ時方項目ヨリ成ル所ノモノノ總體テアル。此ハ一定ノ時點ニ存スル所ノ凡ヘテノ貸方及借方項目ノ各箇ノ價值ノ額ノ計算ニ關スル。併シ信賴スヘキ商人簿記ニ於テスラモ、此評價ノ正當ハ前提セラレナイ。營業財産ノ各部ニ於テモ普通價即チ經濟交通ノ成果ヨリ導カルル所ノ客觀的賣買價ノ測定ニ關スル。併シ市場及取引所ノ事情ノ爲メニ之ヲ認ムルコトカ困難テアル。商人的ノ財産目錄及貸借對照表カ基礎ニ置カルルコトヲ得サルタケテハ、官廳カ營業財産ノ見積ヲ爲スノ外ナク、斯クテ其價值ニツキ見積ラルルモノハ人ノ知ル物體ノミテ、其存在ノ全ク又ハ大部分知ラレサル物體ハ見積ヲ逃レルコトニナルト。ソレカラ之ニツイテハふあいふあいモ、商人的財産ハ非常ニ見積困難テアル。何トナレハ此カイハ刻々ニ變化スルカラトイヒ、くれぐれモ商人的資本ヲ見積ル凡ヘテノ試ハ、此方同時ニ効果ナキモノテアルノニ、壓制及不公平ニ導クトイフ所テアル。²⁸⁾

(4) 交通物體トナラサル物、ニツキ、るつじあーハ曰ク、最正直ナル人ニテモ自己申告カ財産ニ就テハ所得ヨリモ一層困難テアル。人カ買ハサリシ所ノ而モ賣却モセサル所ノ多クノ財ノ評價ノ不確ノ爲メニト。²⁹⁾ 尤モ此ノ如キモノハ色々ノ方面ニアラウカ、併シ又今日ノ時代ニ於テハ餘程少イモノトイフテ良イ。

(B) 計算ニツキセリぐまんハ此稅ノ理論ハ確固タル一般財産、資産ノ負債ヲ超過シタル一定ノ超過ノ存スルコトヲ前提スル。ソシテ原始的社會狀態ニ於テハ、此カ確テアル。此ニハ財産ノ經マリタルモノカアル。何トナレハ此ニハ産業上ノ分科カナイカラ。然ルニ近世ニナリテハ、財産ハ諸多ノ元素ニ分レタ。隨フテ昔人カ此各元素ヲ別々ニ課稅シヤウトスレハ、何ノ部ヨリ負債ノ爲メノ減却ノ爲サル、キカテ決スルコトカ往々ニシテ不可能テアル。例之或簡人カ彼ノ貸スヨリモ多ク、帳簿勘定ニ於テ借ルコトトナル。此故ニ彼カ其帳簿勘定ニツキ稅ヲ拂ハサルコトヲ許ストシテ、其不動産ノ價值ヨリ負債ノ此過剩ヲ減スルコトヲ許スヘキヤ、此ハ明カニ許スヘキテナイ。併シ此カ爲サルレナケレハ、彼ハ其財産ニ課稅セラレスシテ負債ノ過剩ニ課稅セラレルコトニナル。——財産稅說ハ此ニ行

28) Fuisting, a. a. O. S. 301—2. Pfeiffer, a. a. O. S. 303. Murhard, a. a. O. S. 222—3.
29) Roscher, a. a. O. S. 423.

ハレナイ。——今ヤ財産ノ全體ノ塊トイフコトカナクナツタ。而シテ此ト共ニ一般財産稅ノ基礎カ消滅シタトイフテ居ル。³⁰⁾ 併シ此ハ何ニモ彼ノ如クニ心配スルニ及ハナイ。或人格者ノ凡ヘテノ貸方借方項目ヲ計算シテ財産稅ヲ課スヘキテアツテ、此點ニ於テ疑ハナイ。唯タ眞ノ疑問ハ此ニ負債ノ計算カ正確ニ行ハルルヤニ存スル。

(註二七) ぞいたーハ、財産稅ニ於ケル申告カ、人カ神、國家及同胞ニ對立スルトキニ眞實ヨリ遠カルヘカラサルコトヲ信シタケレトモ、其ハ多分餘リ人間ヲ正直ニ見過キタモノテ、ムシロ、らうカ義務者ノ申告ハ嚴重ナル道義及宗教上ノ原則ノ行ハルル處ニノミ必要ナル信賴ヲ有シタトイヒ、ふあいふあいカ今日ノ多クノ國テハ宣誓モ裁判上ノ目錄調製モ々租稅忌避ヲ妨グルコトカ出來ナイテアラウトイフタ方カ當ツテ居ル。³¹⁾

(註二八) しゆわるつハ高慢者ト詐欺師トハ一層多クテ申告スヘク、吝嗇家ハ一層少クテ申告スルテアラウ。而シテ彼等カ偽誓ヲ爲サストモ、或者ハ不安ナル資本ヲ安全ナルモノトシテ、他ノ者ハ最安全ナル物ヲ單ナル損失ノ可能ノ爲メニ不安ナルモノトシテ申告スヘシトイフ。³²⁾

(註二九) ぼるぐまハ此カ(單一又ハ主要ナル直接稅トナルトキハ)稅ノ危險ナル促進ヲ爲ストイヒ。はるらーハ此稅カ避クヘカラサル詐欺ヲ促ストイヒ、くれぐれハ宣誓ニヨル財産稅ハ一度ハ正直ニ行ハルルテアラウカ、此カ正當ノ國家財源トナルトキハ、確カニ國民ノ道義ヲ破ルコトトナルテアラウトイフ。³³⁾

(三) 文化上ノ利弊——文化上ヨリ見レバ、此稅ガ文化ノ發達ヲ幾ラカ制限スルコトアルヲ認メナケレバナラス。即チ人々ガ其得タルモノヲ一時的ノ享樂ニ充テナイデ又之ヲ營利資源トモシナイデ、住屋家具等ニ放下スルコトニヨリテ、此間ニ美術技術ヲ進ムルコトヲ得ルノニ、此ニ課稅ノ行ハル、結果ハ、之ヲ抑制スル恐ガアル(註三〇)。此ハ確ニ此稅ノ弊害デ

30) Feligman, l. c. p. 61—2.
31) Murhard, a. a. O. S. 212. Rau, a. a. O. S. 204. Pfeiffer, a. a. O. S. 304.
32) Murhard, a. a. O. S. 220.
33) Borgh, a. a. O. S. 116. Murhard, a. a. O. S. 218. 224.

アル。ケレドモ別ニ虛榮抑制ノ長所モアルコトテアルカラ宥恕スルニハ足ル。

(註三〇) ぶあいふあーハ之ニツキテ注意シテ曰ク、吾人カ英國ニテ多ク見ル如キ及文明國ヲ特徴スルカ如キ奢侈(吾人ハ之ヲ節約奢侈トイフ)カ此税ニヨリテ出來ルタケ妨ケラレル。然ルニ元來、國家ハ恰モ風ナル破壊的奢侈ヨリモ此節約的奢侈ヲ有利トスルノ凡ヘテノ理由ヲ有ツ所テアルト³¹⁾

第三段 財産税ノ財政上ノ利弊

一 財政收入上ノ利弊

(A) 多收ノ可能ニツキテイ此税ニ疑ヲイダクモアルガ、ソシテ其ハ一ニハ物件ノ捕捉ノ困難ニモ因ルカ、又一ニハ之ニヨリテ税ノ根源タル資本ヲ破壊スルコトニモ因ルトセラルル所テアル。(ロ) 併シ捕捉ノ困難トイフタトテ、サウ絶對的ノモノテハナク、資本ノ破壊モ此税ニ特ニ多イトハイフコトカ出來ス、ムシロ、此アルノ故ニ勤動節約資本利用ヲ勸メテ新資本ノ蓄積ヲ促ストイフコトモアルカラ、此多收ノ點ニ於テ大シテ悲觀スルニハ及ハナイ。(B) 收入ノ不動イ或ハ此税ニ於テハ一應財産價值ノ臺帳附力定マルト、其ガ永ク維持セラレルコトトナリ、隨フテ收税額ガ増加セサルノ心配モアルカ、(ロ) 併ジ其ヲ年々又ハ少數年毎ニ改訂スルナラハ、斯カルコトニハナラヌ。國富ノ増進ト共ニ益々收税額ノ増進ヲ見ルテ

34) Pfeiffer, a. a. O. S. 302.
35) Leaulieu, Traité de la science des finances, 5 éd. I. p. 499.
36) Murhard, a. a. O. S. 230-1.

アラウ。

二 租稅技術上ノ利弊

(A) 課稅物件ノ捕捉及及評價ノ困難——カ此税ニ存スルコトハ前ニモイフ如クテ(註三一)、隨フテハ又私經濟ノ内狀ニ立入ツテ調査スルノ厄介モカ生スル(註三二)。併シ稅務行政上此種ノコトハ他税ニモ多少ハアツテ、其レ位ノコトハ先ツ己ムヲ得ナイトシナケレハナラヌ。

(註三一) 註二五及註二六參照。

(註三二) ぶあいふあーハ非放資的財産ノ探求ハ私的事情ニ頗ル厄介ナル侵入ナシニハ可能テナイトイヒ、らうモ家具ニツキ吟味ノ大ナル困難アリト爲シ、はるらーハ此税カ厄介ナル吟味ニ導クトイヒ、しゆわるつハ國家カ果シテ家族ノ秘密ニ吟味的方法ニテ入込ムヘキモノテアルカ何ウカ。又或家長カ其浪費的ナル親族又ハ其死ヲ待ツ所ノ相續人ニ對シテ其財産狀態ヲ内密ニスルコトカ出來ナイテハ困マルテハナイカトイフテ居ル。

(B) 計算上ノ困難——モカ此ニアル。夫ノ負債ノ計算ノ面倒ナルコトハ、前ニモイフタカ(註三三)、尙ホ農業者ノ爲ノニスル特別計算トイフコトモアル(註三四)。此等ハ厄介ニハ相違ナイガ己ムヲ得ヌ。負債ノ方ハ相當ノ證明アレハ之ヲ斟酌シ、全財産ヨリ控除スルコトトスヘク、農業者ノ生活資料ノ蓄積ノ考慮トイフコトモ、調査時點ノ普通事情ニヨリ且ツ一戸平均口數ニ應シテ適當ナル一定額ヲ決定シテ其ヲ控除スルコトトスルノ外ハナイ。

37) Pfeiffer, a. a. O. S. 303. Rau, a. a. O. S. 204. Murhard, a. a. O. S. 218. 221.

(註三三) 註二六參照。

(註三四) ふむつけハ曰ク、(農業者ニハ其自然經濟的性質ノ爲メニ、自己ノ生活ノ必要ノ爲メニ要スル所ノ其生産物ノ貯ノ價值ヲ控除スルコトヲ至當トスルノニ) 此カ更ラニ手續ヲ非常ニ面倒トシ、控除ノ大サニツキ限ナキ困難ト争トナ生スル。見積カ出來ルタケ收穫ノ直ク前ニ行ハルヘシ(其時ニ食料及飼料カ最小テアルカラ) トイフコトテハ、マタ救濟ニナラヌ。何トナレハ收穫時カ事情ニヨリ六月ヨリ十一月ニ亘ルカラト。³⁸⁾

結論

以上要之財産稅ガ相當ノ程度ニ定メラルルナラハ、經濟上ニモ社會上ニモ將タ財政上ニモ格別ノ不利ヲ生ズルコトトハナラナイ。ムシロ其ニ於テ重大ナル利益カアリ良キ結果ヲ伴フ。最重イ弱點ハ租稅技術上ノ困難ト其レニ伴フ道義上ノ弊害トテアツテ、其外、文化上ノ缺點モアルカ、其等モ之ヲ其長所ノ大ナルニ比シテハ忍フニ足ル。ソシテ此稅カ別ニ前論文ニイフ如ク給付能力原則ニモ適ヒ得ルトイフ以上ハ、ムシロ一ノ良稅トイフテモ良イヤウニ思フ(註三五)。

(註三五) ぶあいふあー、假令吾人カ特ニ此稅ヲ勸ムル考ヲ有セストモ、吾人ハ此カ今日到ル處ニ行ハルル直接稅ノ大部分ヨリモ遙カニ良キモノトノ考ヲ認メナケレハナラヌトイフテ居ル。但シセリぐまんハ之ト反對ニ、一般財産稅ハ文明國ニテ知ラレタル最惡稅ノ一テアルトマテイフテ居ル。³⁹⁾

38) Voelke, a. a. O. S. 228.
39) Pfeiffer, a. a. O. S. 295—6. Seligman, l. c. p. 62.

第三編 臨時資本稅ト公平負擔

緒言

(一A) 平和第一年ノ議會ニ租稅問題ニツキ大波瀾ヲ見サル日本國民ハ洵ニ幸福ナル哉。租稅負擔ヨリ觀タル我邦ノ天下ハ實ニ太平無事テアル。之ニ引キ換エ歐米ノ天地ハ是ヨリシテ租稅ニ就キ大混亂ヲモ生スルノ兆カアル。敗レタル國ハ更ニモイハス、勝チタル大國トテモ之ニツキ大騒動ヲ起サスニハ濟ムマイ。其一例トモ見ルヘキハ既ニ戰時中ヨリシテ戰後ノ租稅トシテ英國ニテ大問題トナツタ資本稅ノ如キカアル。其案ニ依レハ戰爭國債ノ全部又ハ一部ヲ消却スル爲メニ一回的ノ資本稅ヲ或度以上大ナル各人ノ財産ニ對シ九分以上六割二分見當ニ取ラウトイフ¹⁾ノテ、ツマリ財産ノ沒收ヲ行ハウトイフ譯テアル。斯カルモノハ固ヨリ財産家ニトリテハ非常ナル苦痛テ、到底大紛争ノ上テナクテハ通ルマイ。然ルトテ之ヲ課シナケレハ、而モ國債破棄ヲ行ハストスレハ、戰後ニハ戰時中ノ二倍ニモ當ル所得及超過稅ヲ課スル外ナキコトトナリ、其結果最高ノ處テハ所得ノ八割三分(磅ニツキ十六志七片)ニモ達スル²⁾ノ重稅ヲ負フコトトナル。此モ隨分偉ライ稅テ其ヲ永イ間年々擔

1) Lawrence, A levy on capital. p. 59.
2) Lawrence, l. c. p. 72.
3) Pigou, A special levy to discharge war debt. (in The Economic Journal. June. 1918. p. 142).

フトイフコトニナルト、其ヨリカ、苦シクテモ一度ニ思ヒ切ツテ前記資本稅ヲ選マウカトイフコトニモナル。茲ニ於テ彼國ニテ目下之ニツキ賛否兩論カ盛ニ争ツテ居ル。此ハ英國ノ事テアルカ、追テ他國ニテモ同様ノ問題ヲ生シナクテハ濟ムマシク(註一)否ナ獨、埃甸ニテモ既ニ己ニ問題ニナツテ資本沒收ノ賛成者少カラストイフコトアリ、佛國ニテモ是ヨリ問題トナラウトシテ居ル(註二)Bイ)儲テ斯カル極端稅ハ多分我國ニテハ起ス必要ナクテ濟ムト思フカ、併シ其ニシテモ此ニ現ハレタル所ノ『資本重課』トイフ一ノ兆候ノ見逃カスヘカラサルモノカアツテ、此ニ於テ日本租稅ノ將來ニツキ考慮スルヲ要スルト思フシ(ロ)又假令此ガ我國ニハ實益ナシトスルモ、今日世界ニ一ノ新問題トシテ現ハレタ以上ハ、學問上之ヲ傍觀スルヲ許サヌ。之ニツキ嚴正ナル學術的批判ヲ加フルノガ私共ノ任務テモアルカラ、暫ラク之ニツキ卑見ヲ返ヘテ參考ニ供サウト思フ。

(註一) ろーれんすハ曰フ。此資本稅問題ハ單ニ國家的重要ヲモツノミナラス、國際的重要ヲ有ツ。平和ノ克復サルルトキニ各ノ交戰國ニテ此ガ喧シキ時事問題トナルテアラウト。ろじじーハ曰フ。諸多ノ學者ハ戰後ニ吾人ノ稅制ヲ改造シナクテハナラヌト考フルト。

(註二) ありすこあハ此財產沒收原則カ英獨埃甸ニテ既ニ重要ナル信者ヲ得タルノ點ヲ示シテ、此資本稅ヲ佛國ニテ鼓吹シテ居ル。

4) Lawrence, l. c. p. 10. Roger, Les impôt sur le capital. Introduction. p. 5.
5) Haristoy, finances d'après-guerre et conscription des fortunes. p. 121.

(二)ソシテ此資本稅ニ關スル問題ハ多イ。其實行ノ成否其經濟影響ノ良否ナトモ問題テアルカ、其等ハ後編ニテ研究スルコトトシ、茲ニハ先ツ特ニ其ノ果シテ負擔公平ニ反セサルヤニツキテ研究シヤウト思フ。或ハふーくノ如キハ此公平ニツイテハ之カ反對者モサウ論シナカツタ。之ニツキ或說ヲ考フルコトハ困難ナリトモイフカ、實ハ決シテサウテナク、可ナリ公平負擔ノ點ヨリノ異論カアル。今其ヲ捉エテ吟味シ批評シヤウト思フ。

(三)其レカラ之ヲ論スルニ就イテハ先ツ以テ、議論ノ先決問題トシテ此資本稅ノ本體性質ヲ明ニシ及ヒ負擔公平要求ノ意義重要ヲ述ヘ、然ル後、本問題ニ移ツテ此稅ト公平負擔要求トノ關係ヲ說カウト思フ。

第一段 本問題ノ爲メノ先決問題

其一 資本稅

(一)資本稅ノ本體 (A)今日問題トナツタ所ノ資本稅トハ此ニ戰後ノ大公債負擔ヲ整理スル爲メニ此際一回限リ、或度以上ノ大サノ箇人ノ財產ニ累進的負擔ヲ課スルモノデアル。一回限リトイフテモ本人ノ選擇ニヨリ年賦ニテ納ムルコトハ許サルル(註三)。此稅ハ餘リニ小

ナル財産ニハ課スベキテナク、自然適度ノ大サヲ定メテ其以上ニ課スルコトトナルガ、其ニハ一千磅即チ一萬圓位ニ定メヤウトイフ考ガアル(註四)。箇人トイフタガ、此ハ多少範圍ヲ廣メテ團體ニモ課スル。トヲ適當トスルモノモアラウ。併シ夫ノ營利會社ノ如キニツキテハ、會社ニテ課セスムシロ單ニ株主社員ノ處テ取ラウトイフノテアル(註五)。而シテ其課稅ノ物體トナル所ノ財産ハ動不動ヲ問ハス、資本財産ト享樂財産トヲ問ハス、凡ヘテノ財産ニ課スルトイフカラ、資本稅トイフ名稱ハ實ハ適切テナイ(註六)。尙ホ人的能力モ其收益カラ還元シテ之ニ加フルコトカ出來、又之ヲ至當トモイヘルカ(註七)、併シ之ヲ除外スルトイフ考モアル(註八)。(B) 兎ニ角本稅ニ附帶シテ、努力所得ニ對シ現在所得稅ヲ拂フ凡ヘテノ人ニ、其生存ノ殘年ノ間ニ附加的年稅ヲ課スルコトカ可能テアル。

(註三) あーのるごハ例之此稅ヲ十六ノ半年賦ニテ即チ八年間ニ拂ハシムルコトカ出來ルトイヒ、びぐーモ相續稅ノ場合ノ如ク年賦支拂ノ選擇ヲ與フルコトカ必要テアラウトイフ。

(註四) あーのるごハ一千磅以下ノ小資本家全額ノ案ヲ假定ス。

(註五) ろーれんすハ曰フ。一國ノ富ハ(1) 國家ノ富(2) 地方團體ノ富(3) 制體ノ富(4) 私人ノ富ト二分ルル。其中(1)ハ課セラレナイ。(3)ハ各項別ニ考察スヘク、一部ハ課セラレ、他部ハ課セラレナイコトナルヘク、(4)ハ當然課セラレ。併シ其課シ方ハ直接個人ニ課セラルルコトトナルヘク、會社其モノニハ課セラレナイコトトナルヘシト。あー

のるごハ此稅ハ箇人ノ上ニ課セラレ、株式會社ニハ課セラレヌ—各會社ノ資本ハ株ノ評價ニテ課セラルヘシトイフ。

(註六) ろーれんすハ曰ク、此ニ資本トイフ詞ハ一般ニ教科書ニ用井ラレル意味ノテナイ。此カ所得ヲ生スルト否トヲ問ハス、凡ヘテノ富ヲ含ム。隨テ資本ノ代リニ富ヲ用ユル方カ其カツタテアラウ。—即チ所得ヲ生スルモノ

(例之、土地、工場、船舶、鐵道及放資)タルト、單ニ人的ノモノ(例之家具、寶玉、娛樂用馬、自動車及衣類)タルトヲ問ハス、箇人及團體所有ニ屬シ得ル凡ヘテノ物ヲ含ムト。すこつごハ此カ有形資本ノミナラス、無形資本ニモ并ニ間々消費資本トイハレルモノ(例之家具、衣、寶玉等)ニモ適用サルヘキモノト解サルヘシトイフ。

(註七) びぐーハ曰ク、公平ノ觀察點ヨリシテハ人ノ腦ハ恰モ工場又ハ家屋ト均シク特別稅ノ目的ノ爲メニ課セラレルニ適スル—嚴格ナル公平ハ腦力ノ資本價值カ通例ノ物質的資本ノ傍ニ置カレ、一緒ニ特別稅ノ基礎トシテ扱ハルルコトヲ要求スルト。

(註八) ろーれんすハ此ニハ努力所得ノ還元價值ヲ含マストイフ。すこつごハ人的努力ニヨリ得ラルル所得ニモ適用サルヘキレびーチ計畫スルコトハ容易テハナイ。其カ結局眞ノレびーチハナイコトトナリ、年賦ニヨル支拂ノ制度トナリ、即チ結果ニ於テ努力所得ニ對スル特別所得稅トナルヘシトイフ。

(二) 資本稅ノ性質 (A) 此カたきすトモイハルルカ、諸多人ニヨリレびート呼ハレテ居ル。レびートイヘハ稅トハ別ノヤウニモ思ハルルカ、用例カライフト必スシモ別テナイ(註九)。然ラハ斯カル臨時一回的ニ財産ヲ沒收スルモノカ稅トセラレテモ良イカトイフト、(イ) 實際租稅ニハ經常的ノモノガ多イカ、經常的ナラサレハ稅テナイトイフコトハナク、稅ニ臨

10) Lawrence, l. c. p. 60. Arnold, l. c. p. 163.
 11) Lawrence, l. c. p. 9. 58. Scott, Some aspects of the proposed capital levy. (Economic Journal. Sept. 1918. p. 248.)
 12) Pigou, l. c. p. 145.
 13) Lawrence, l. c. p. 58. Scott, l. c. p. 248.
 14) Hook, l. c.
 15) Lawrence, l. c. Pigou, l. c. Arnold, l. c. Scott, l. c. Mitchell, A levy on capital. (Economic Journal. Sept. 1918.)

6) Hook, A tax on capital and redemption of debt. (Economic Journal. June. 1918. p. 167)
 7) Pigou, l. c. p. 147.
 8) Arnold, A capital levy-The problems of realisation and valuation. (Economic Journal. June. 1918. p. 161.) Pigou, l. c. p. 150.
 9) Arnold, l. c. p. 163.

時的ノモ行ハレ得ル。故ニ斯カル一回的ノモ稅トイフテ良イ。(ロ)又稅ハ普通ノ狀態ノ下ニテハ所得ニテ拂ヒ得ル度ニ止マルヘキテハアルカ(註一〇)、非常ノ場合ニハ財産元本ヲ侵スコトモ認メラルル(註一一)。カラシテ此戰後ノ大負擔整理ヲ斯カル稅ニ依ラザレバ非常ニ堪エ難キ他ノ稅ニ依ルノ外ナシトイフ苦シキ立場ヲモ斯カル非常ノ場合ト認メテ、元本侵蝕ヲ承認スヘキテアル。之ヲ稅トシテ良イ。尤モ從來學者カ其ニテ非常ノ場合ト見タノハ寧ロスカル戰後ノ場合テハナクテ、戰爭當時、敵我前ニ在ルノ時ヲ見テ居ル(註一二)カ、併シ此度ノ戰爭其モノカ有史以來ノ無前例ノ大戰爭テ、此戰後ノ公債負擔カ異常テアルカラ、之ヲモ非常ノ場合トシテ認ムル新解釋ヲ開クノハ敢テ不當テナイ。

(註九) じよんカ舉ケタ租稅ヲ表ハスヘク用井ラレタ詞ノ表ノ中ニ、れびトイフカアル。又彼ニヨルトほつぶすモ之ヲ用井タトイフ。¹⁷⁾

(註一〇) せりぐまんハ曰ク、租稅ニ於ケル能力ノ標準ハ財産ヨリ產物、收入又ハ儲ニシツタ。——財産稅ノ不當ナハ此カ貯蓄ニ對スル罰金ナルカ故テハナクテ、財産カ能力ノ標準テナイカラト、ぼるぐまカ財産ノ高サノミニテハ所得ノ高サ及課稅スヘキ給付能力ニ對スル結論ヲ許サナイトイフノモ同趣旨テアル。又につちハ殆ント到ル處ニ、近世國家ノ立法カ課稅ノ標準トシテ資本テハナクテ所得ヲ取ルノ傾チ有ツテアルトイフ。¹⁸⁾

(註一一) (イ)斯カル非常財産稅ヲ認ムルハ例之、ろつじあー、彼ハ曰ク、規則正シク繰返サルル所ノ租稅ヲ拂フヘキ能力カ自由所得ノ大サニ係ルカ如クニ、臨時ノ一回的ノ租稅支拂ノ能力ハ處理スヘキ財産ノ大サニ係ルト、ふーく

モ亦曰ク、嚴格ニ流動的ナル經費ハ社會ノ收入ノ上ニ於ケル年々ノ稅ニヨツテ應スルヲ適當トシ、其目的又ハ必要カ社會ノ永久的利益ニ一層關係スル異常ナル經費ハムシロ資本經費ニ屬シ、國家ノ資本財源ヨリ應セラレヘキテアルト。¹⁹⁾

(ろ)ムシロ反對意見ヲ懷クハ例之こーん、彼ハ曰ク、實際的財産課稅ノ實現ハ租稅制度ノ今日ノ發達度ニテハ唯可能ノ少イモノテアル。一方ニハ吾人ノ今日ノ國ニ於ケル公信用ノ發達カ非常ナル需要ヲ充タスカ爲メニ臨時ノ財政方便ヲ齎ラスカラ——ソシテ他方ニハ斯カル財産稅ニ對シテ必要ナル國民的成熟ノ前提タル道義的要素カ今日ニモ將來ニモナイカラト。匿名政治家モ亦イフ。今日ニ於テハ此場合(臨時財産稅)ハ最早現ハレナイテアラウ。何トナレハ國家ノ非常ナル一時的貨幣需要ハ容易ニ起スヘキ公債ニヨリテ最良ク充タサレ、此カ漸次ニ諸多ノ既存稅ノ收入増加ニヨリテ償還サルルコトヲ通例トスルカラト。²⁰⁾

(ハ)財産元本侵蝕ヲ認ムルモ之ヲ稅ト爲ササルハうんぶんばつは、彼ハ曰ク、財政カ國民財産ヨリノ元本ヲ使用スルコトハ決シテ排斥スヘキモノテナイ。——併シ財産元本ノ稅ハ原則上ヨリイヘハ一ノ稅テナイ。單ニ租稅ノ名ヲ持テル財政收入方、テ、其原則ハ單ニ國庫ノ特權ニ存スルモノテアルト。²¹⁾

(註一二) 例之こーんハハ斯カル實際的財産稅ハ國家ノ經常收入ヲ成スコトハ出來ナイテ、唯タ凡ヘテ他ノ方便ノ斷エタル非常困難時ニノミ課セラレ得ルコトハ證明ヲ要セストイヒ、へつけるモ亦タ、此國民經濟上ニモ實際的ナル財産稅ハ、唯タ臨時ノ必要及非常ナル急迫時ニノミ取ラレルテ得トイヒ、ばすてーぶるハ社會ノ自由所得ヲ吸收シ及其集積セラレタル富ノ額ヲ減スルカ如キ重キ稅ハ國民的危機ノ外何モノモカ辯護シナイテアラウトイヒ。ろつじあーハ最健全ナル國家ニテモ危機ニ進ムコトカアル。特ニ對外的危險ニヨツテテアル。其場合租稅カ純國民所得ノ限界内ニテハ不十分テ、ムシロ財産元本ニ深キ侵蝕ヲ生セサルヘカラサルコトナルトイフ。更ニぶあいふあー

19) Roscher, Fw. 5 Aufl. I. S. 421. Hook. l. c. p. 169.
20) Cohn, Fw. S. 483-484. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 276.
21) Umpfenbach, Fw. S. 159. 160.

16) Eberberg, Fw. 9 Aufl. S. 189. Heckel, Lehrbuch d. Fw. I. S. 143. Cossa, Grundriss d. Fw. S. 73. Rau, Grundsätze d. Fw. 5 Aufl. I. S. 446. Staatsmann a. D., Fw. S. 211.
17) Jones, The nature and first principle of taxation. p. 247. 250.
18) Seligman, Essays in taxation. 8 ed. p. 57. 59. Borgh, Fw. S. 116 Nitti, Principes de science des finances. p. 326.

ハ財産稅ハ通例ハ採用セシメナイ。唯々臨時稅トシテ特段困難ノ時ニノミ採ラルルトイヒ、らうハ非常ニ増加シタル國費ノ時ニ一般財産稅カ短期間ノ稅トシテ、ムシロ辯護セラルルトイフ。²²⁾孰レモ戰時ヲ見テ居ル。

其二 公平負擔ノ要求

(一) 公平負擔要求ノ意義 (A) イフマテモナク此要求ハ租稅原則ノ一タル公正原則ノ要求テ、其ハ各人ノ給付能力ニ適應スルノ要求テアル。其力ノ存スルタケニテハ凡ヘテノ人ニ又其大小ニ應シテ相當ニ負擔セシムヘシトイフコトアル。其結果トシテハ大財産家ハ小財産家ヨリモ相對的ニモ大ナル負擔ヲ爲スヘキコトナリ(累進) 資産所得者ハ勤勞所得者ヨリモ相對的ニ大ナル負擔ヲ爲スヘキコトトモナル。然ルニ其ノ原則上、相對的ニモ大ナル負擔トイフテモ、實際ニ當ツテハ如何ナル度ニ於テ其率ヲ増減スルヤニ確固不動ノ標準カナク隨テ各人々ノ主觀的狀態ニ依ツテ異ルコトニナルカ、其ハ兎ニ角トシテ其當時ニ於ケル時代思潮ニヨリ、又其時其處ノ客觀的事情又ハ必要ニヨツテモ、其適當トセラルル差等ニ大小ヲ生スル所テアル。要スルニ彼ノ原則ハ本來其適用上ニ屈伸力カアル。(B) 然レハ(イ) 從來學者ニヨツテ多少見方ヲ異ニシ、(1) 或ハわぐなノ如ク租稅ニハ財政上ノ目的ノ外ニ、社會政策上ノ目的ガアツテ、此ニテハ租稅ニヨツテ貧富ノ懸隔又ハ國民的所得及財産ノ分配

22) Eheberg, a. a. O. S. 281. Heckel, a. a. O. I S. 410. Bastable, public finance. 3 ed. p. 90. Roscher, a. a. O. I S. 188. Pfeiffer, Staaseinnahmen. II. S. 304. Rau, a. a. O. II S. 206.

ヲ調整スヘシ(註一三)トイフカ、其カライヘハ租稅ニテ、ウント大所得又ハ財産者ヲ重課スルヲ公平トスルコトニナル。(2) 然ルニ之ニ對シテ其ハ亂暴タ。租稅ニ斯カル目的カアツテハナラヌ。其ハ却ツテ民主主義ニモ反スルトイフカアル(註一四)。處カ其主張者ト雖モ矢張り累進稅ヤ資産重課ヲ認ムルコトニナルカラ、結局わぐなノ說ニ一歩近ツイテ居ル。彼カ如キ意味ニテ民主主義ヲ破ルトカ、私有財産ヲ不當ニ侵ストカイフコトヲ避ケヨウトスルナラバ、一切比例課稅ニテモ行クヨリ外ハナイ。其ニ行カサル處ニ若干ノ社會政策觀カ潜ムトイフモノテアル。(3) 或ハわぐなノ租稅ニヨル分配調整ヲ否定シツツ、社會共同生活ノ必要及利益ニ從フノ要求ヲ以テ、租稅ノ社會政策上ノ意義トスルカアル(註一五)。此ニ至テハ意味ノ取リヤウ次第テ、廣クモ狹クモ解セラルル。或ハ斯カル詞ノ方カ事情ニ應シテ最良ク屈伸シ得ルノテ、恰モ此場合ニ適當カモ知レナイ。(ロ) 何レニセヨ今日ノ時世特ニ此大戰後ニハ貧富ノ懸隔カ一層大トナツタトイフ客觀的事實カアリ、之ヲ見ル所ノ一般人ノ頭ニモ大體從來ヨリモ一層、民主主義的ニナツテ來テ居ルトイフコトカアル。此ニ於テカ夫ノ可動的ニシテ屈伸力アル公正原則ノ適用ハ從來ヨリモ一層多ク、大所得者并ニ資産所得者ヲ重課スルコトトナル外ハナイ。其度合ハ國ニヨリ多少異ルテハアラウカ、大勢ハ兎モ

角其ニ在ルヲ疑ハナイ。

(註一三) わぐな一ハ租稅ニ於テ純財政上ノ目的ノ外ニ、尙第二ノ社會政策的目的カ區別サレ、且ツ定メラルルコトヲ得ル。即チ其ハ國民所得及財産ノ分配ニ對シテ調整的ニ干渉シ、隨フテ自由交通ニ於テ行ハルル分配ノ變更カ生スルカ如クスルノ目的デアルトイフ。²³⁾

(註一四) ろじのハ曰ク、租稅ニヨツテ財産ノ不公平ヲ匡正スヘキモノテナイ。國家ハ戰敗國ニ於ケル戰勝者テナイ。如何ナル權利ニ基キテ國家カ或者ニ與フル爲メニ他ノ者ヨリ取ルコトヲ得ルヤ。其ヲ爲ストモハ、其ハ自由且ツ健全ナル民主主義ト調和スヘカラサルモノデアアル。——社會ハ社會ニ有害ナルヘキモノヲ止メナケレハナラヌ感情及欲望ニ耽ルコトトナツテハナラヌ。蓋シ所有權ハ社會團體ノ爲メニ最重要且ツ最感シ易キ機關デアアル。此徵妙ナル機關ヘノ少シノ損害モカ團體全體ヲ危險ノ地ニ置クコトニナル。テ人格ノ獨立ノ如クニ、財産ノ獨立モカ保障サレナケレハナラヌ。²⁴⁾

(註一五) 例之へつけるハ曰ク、租稅ノ社會政策的職分ニ二義カアル。其社會政策的機能カ第一ニハ租稅制度カ社會共同生活ノ必要及利益ニ從ヒ、社會的公正ノ要求ハ文明發達ノ要求ニ從テ定メラルルコトヲ意味スルコトカ出來、第二ニハ國民所得及財産ノ他種ノ分配、隨テ各私經濟ノ所得使用ニ於ケル調整的影響ヲ意味スルコトカ出來ル。——社會問題ハ此第一方向ニノミ現ハレテ差支ナイモノテ、租稅ニテハ此カ唯々與エラレタル租稅負擔ノ分配ニツイテノミ決定ニ來リ得ル。此ニテハ單ニ給付能力アル個人經濟ノ一層大ナル負擔、弱キ人ノ相當負擔輕易、大ニシテ有基的ナル所得ノ一層大ナル課稅、小ニシテ無基的ナル所得ノ相當ナル宥恕、下級者ニ對スル消費稅ノ負擔ヲ所得財産及交通稅ノ形ニ於ケル財産課稅ノ相當ナル稅率ニヨツテ相當ニ平準スルコトヲ理解スルヲ得ル。之ニ反シ第二義ニ於ケル租稅ノ社會政策的任務ハ排斥スヘキモノデアアル。此カ租稅ニ全ク異様ナル目的ヲ歸スルコトトナルテア

ラウ。此機能ニハ租稅カ全ク相當シナイト。²⁵⁾

(二) 公平負擔要求ノ重要 (A) 由來租稅ノ原則中ニ就キ何レニ重キヲ置クカハ學者ニヨリ態度同一テナイカ、併シ此公正原則ニ重キヲ置ク者カ、ムシロ最多イ。或ハ之ヲ第一位ニ置キ(註一六)、或ハ之ヲ唯一原則トスル考サヘアル(註一七)。而シテ其ノ見解ノ區々ニ出ルノハ學者ノ思想傾向ニモヨルカ、又一ニハ知ラス識ラス學者カ當時ノ時勢ニ影響セラレテ居ルノニモ因ル。例之夫ノ學者カ一時特ニ公正原則ニ重キヲ置イタノハ、當時ノ社會ニ不公平ノ大ナリシ時弊ニ顧ミタ所カ多クヤウテアリ、其後財政々策の原則ニ重キヲ置クニ至テハ、軍國主義的、帝國主義的、國策傾向ニ影響セララルモノカ多ク、特ニ國民經濟の原則ニ注意スルニ至チハ其經濟界ノ不況ニ促サル所カ少クナイ。斯カルコトハ自ラノ間ニ影響サルルノテ、學者モ人間テアル以上ハ、其時代ヨリ超越スルコトカ難イ。(B) 此點カラ推セハ戰後ノ世界テハ軍國主義カ沒落シ平和主義カ盛ンニナルタケ、又民主々義カ興ルタケ何ヨリモ公正原則カ重ク見ラルルコトトナルテアラウト想ハルル。又本來カラ考ヘテモ、道義カ人生ノ最高ノ標準デアルカラ、斯クナルノモ不當チハナイ。今私カ資本稅ヲ批判スルニ當リテ、先ツ公正原則ヨリ批評シヤウト試ムルノモ、實ハ此原則ノ本來ノ高キ價值并

23) A. Smith, Wealth of nations. Bk. V. ch. II. Pt. II. Beaulieu, la science des finances. 5^e éd. I. p. 139. Mill, P. of P. E. Lk. V. Ch. II. § I. Nitti, l. c. P. 396. Umpfenbach, a. a. O. S. 160. Rau, a. a. O. I. S. 90 ff. Roscher, a. a. O. I. S. 223. Pfeiffer, a. a. O. I. S. 88 II. 15. 62. Hoek, öffentlichen Abgaben S. 3. Holferich, Allgemeine Steuerlehre im Schönborg, Handb. 2. Aufl. III S. 164 ff. Conrad, Fw. 2. Aufl. S. 26. Eberberg, a. a. O. S. 162 ff.

23) Wagner. Fw. 2. Aufl. II. S. 207.

24) Roger, l. c. p. 9. 10.

25) Heckel, a. a. O. I. S. 126-127.

ニ今後ノ時勢ニ於ケル其重要ヲ考慮スルカラテアル。

(註一六) あだむすみす、ぼりゆい、みる、につち、うんぶいんばつは、らう、るつしあー、ぶあいふあー、ほつく、へるふわりつひ、こんらーど、わーべるひ。²⁷⁾
 (註一七) こーん、ふなつげ、ふいすちんぐ。²⁸⁾

第二段 本 問 題

其一 現代對後代關係

(一) 現代ノミ負擔ノ辯護 (現代對後代關係ノ問題ハ國費負擔ニ關スル一ノ道義上ノ問題テハアルカ、租稅ノ負擔公平原則ノ適用テハナイ。租稅ノ公正原則ハ與ヘラレタル租稅必要額ノ分配ノ公平ニ關スル要求テアル。通例ハ此意味ニテ論セラルル所テアルカ、併シ進ンテ考フルト、此現代對後代ニ於ケル負擔關係ノ問題モ一ノ廣キ意味ニ於ケル公正原則ノ適用トイヘナイコトハナイ。其カ矢張り租稅ノ分配ニ關スル問題テアル。即チ現代對後代トイヘハ租稅カ公債カトイフコトニナルカ、其公債トイフノハ結局後代ノ租稅ニヨルノ負擔ニ外ナラナイ。其公債元利ハツマリ後代ノ租稅ニヨツテ充タサルコトニナル。故ニ又右ノ現代對後代關係ハ現代ノ租稅ニ依ルカ後代ノ租稅ニ依ルカトイフコトニナリ、異リタル時ニ

27) Colm, a. a. O. S. 241 ff. Vocke, Fw. S. 161 ff. Fuisting, Steuerlehre. S. 6 ff.

28) Pigou, l. c. p. 144.

於ケル租稅ノ分配ノ問題トイフコトニナル。異リタル時トイフテモ、時カ負擔スルノテハナクテ、ツマリ異リタル時ニ在ル人カ負擔スル即チ矢張り異リタル人々ノ間ノ租稅負擔ノ分配トイフコトニナル。其ニ於テ公平ナル負擔ノ行ハルルコトカ望マシキコトハイフ迄モナキコトテアル。テ此ハ夫ノ通例擧ケラルル公平負擔原則ノ適用テハナイカ一ノ公平負擔ノ問題故、此ニ序ヲ以テ之ニ論及スルノハ別ニ不都合テハアルマイ。儲テ此戰爭ノ終熄シタ時ニ、其當時ノ財産状態ニ應シテ戰費負擔ノ繼承タル公債負擔ヲ負擔シ盡シテシマウコトカ正當テアルカ何ウカ、トイフコトニ就テハ先ツ以テ之ヲ肯定スル説カアル。即チ其ニ依ルト戰爭ノ如キ異常ノ出來事ニ依ツテ負擔ノ基礎カ平時ニ於ケル所得ヨリ財源ニ變セサルヲ得サルノ故ニ、此戰後直チニ特別ナル一回的財源負擔ニヨツテ戰爭債ヲ消却スルヲ正當トスルトイフノテアル。ソシテ其ノ却ツテ戰時中ニハ戰費ヲ充タス爲メニ所得ニ依ルノ外ナカツタノハ、當時國家ノ必要トスルモノカ財源テハナクテ、ムシロ流動的ノ物テアツタカラテアル。然ルニ今戰爭ノ終熄スルニ及ヒテハ最早國家ノ必要トスルモノハ戰時ニ起サレタル公債トイフ財源(人民ニトリテノ)ニ外ナラス。隨ツテ此財源ニ應シテ戰費ヲ負擔セシムルトイフコトカ此ニ初メテ行ハルルコトニナツタシ、又之ヲ行フノヲ正當トスルト

イフノテアル(註一八)。特ニ又問題トナル所ノ公債カ内債ナル以上ハ、之ヲ拂フ爲メニ稅ヲ課スルニ於テ、現代カ現代ニ向ツテ拂フニ止マリ、現代カ格別ノ負擔ヲ重ネル譯テナク、現代カ後代ノ負擔ヲ特別ニ負フタトイフコトニハナラナイトモイフノテアル(註一九)。

(註一八) びぐーハ曰ク、戰爭ノ如キ異常ナル出來事ニ於テ、基礎カ所得ノ流ヨリ財產ニ變セラルヘキテハナイカ。勿論戰爭ノ行進中ニハ當時ノ必要トシタルモノハ所得ヨリ出サレナケレハナラヌ。如何トナレハ當時ノ財源ノ六量カ直接軍事ニ必要テナカツタカラ。(然シ今日戰爭終熄後トナリテハ、政府カ國內ノ財源ヲ利用シ得ルコトニナツタニヨツテ最早) 戰爭ニ依ツテ生シタル公債ヲ拂フタメニ戰後直チニ特別資本稅ヲ課スルコトノ公平ナルコトカ絶對ニ許サルト。²⁰⁾

(註一九) びぐーハ曰ク、内債ニ關スル以上ハ、現代カ之ヲ拂フ爲メニ此特別稅ヲ設ケタカラトイフテ、此カ然ラサレハ未來ノ時代ニヨツテ拂ハルヘキ費用ヲ自ラノ負擔トシタコトハナイテアラウト。²⁰⁾

(二) 其不當 論者ハ戰爭ノ爲メニ負擔ノ基礎カ所得ヨリ財源ニ移ツタコトヲ以テ本稅ノ理由トスルカ、其基礎カ財源ノミニナツタトイフノデナイコトハ論者モ認ムル所テアラウシ、特ニ其基礎カ財源ニモ行キ得ルコトカラシテ、直チニ現代ノ財源ノミニ行クト斷定スルコトハ出來ス、其ト共ニ未來ノ財源并ニ所得ニモ行キ得ルノ餘地ヲ存スル。ソシテ戰爭ノ影響カ現代限リテナク後代ニモ及フトイヒ得ル以上ハ、現代ノ財產ノミノ負擔トセスシテ、後代ノ負擔トシテモ若干殘スコトカ寧ロ正當ト考エラルル(註二〇)。既ニ負擔ヲ後代ニモ殘ス

20) Pigou, l. c. p. 137.

コトカ正當ナリトスルナラハ、假令現代ニ於テ凡ヘテ負擔シ得ルトモ、之ヲ負擔スヘキモノテハナイ。若シ夫レ内債ニ關スル以上ハ、其ノ支拂ノ爲メニ稅ヲトルノハ、現代カ現代ニ拂フニ止マツテ現代ノ特別ノ負擔テナイトイフニ至ツテハ、誤ツテ居ル。實際其カ現代ニ於テ生存スル人々ノ全體トシテハ別段ノ負擔テナイニシテモ、其中ノ人ニヨツテハ爲メニ負擔ヲ重クサルコトニハナル。其ハ如何ニ斯クナラサランコトヲ計ツテモ駄目テアツテ、或稅ヲ設ルトキニ於ケル避クヘカラサル一般事テアル。又全體トシテモ特段ナル施設ヲ行ヘハ若干ノ費用ノ負擔ヲ免レナイ。現代カ現代ニ拂フニ止マルカラ現代ノ特別負擔ヲ加ヘヌトハイヘナイ。假リニ其方ハ大シタコトテナイトシテモ、其カ爲メニ後代ノ負擔ヲ取去ラナカツタトハイヘナイ。現代カ戰爭債ヲ今消却シナイテ後代ニ殘スコトハ何トシテモ後代ノ負擔タルヲ免レナイ。其ヨリシテ後代カ若干ノ損害ヲ受クルヲ免レナイ。又此點ハ實ハ論者自ラ認メテ居ル程テアル(註二一)。要スルニ戰爭債ハ一部ハ後代ニモ殘スヘキモノテアル。唯タ其程度割合ヲ如何ニスルカトイフコトハ到底精密ニ指示スルヲ得ルモノテハナイ。カ兎モ角原則上ニハ斯ノ如クニイヒ得ル。

(註二〇) 之ニツキテ、つミハ英國國民ノ最大事ナル自由ノ防禦カ現在及直ク後ノ時代ノ双方ニ共通ノ利益ナルコトハ

争ハレナイ。——此故ニ實質的負擔カ現在ト將來トノ間ニ分割サルルコトカ唯ダ正當ノヤウテアル。資本稅案ハ費用ノ將來ノ分前タルヘキモノヨリ、其將來ノ所得ヲ免スルコトヲ目的トスルタケニ於テハ誤ツテ居ルトイツテ居ル。³⁰⁾尙ホふつくハ現戰爭ノ費用ハ(1)國ノ現存人民ノ人的幸福ヲ防禦シ又ハ改良スル目的(2)將來ノ人民ノ爲メニ、然ラサレハ彼等カ享ケ得サルヘキ幸福状態ヲ保全スル目的(3)社會ノ現存富ヲ保護シ、其子敵ノ捕獲又ハ破壊ヨリ保全スル目的ヲモツトシ、(1)(2)トハ戰費ノ一部カ三代ニ亘ツテ拂ラハルヘキコトヲ示シ——(3)其殘額カ國ノ現在ノ富ヨリ即チ資本稅ノ形ニテ應セラルヘキコトヲ意味ストイフカ、彼ノ曰フ如クニ戰費ノ負擔ヲ分別スヘキヤニハ疑カアル。³¹⁾

註(一) びぐーモ社會カ巨額ノ負債ヲ其成員ノ或モノニ負フトイフ事實カ直接ニ幸福ヲ減セストモ間接ニ之ヲ減シ又ハ減スルコトアルヘキモノテアルトイフテ居ル。³²⁾

其二 資産對人力關係

(一) 資産ノミ課稅ノ辯護

A) 戰爭ノ利益ニ對スル補償 資本稅ニ於テ資産ノミ課稅スルコトナリ、人的能力ヲ免スルニ就キ公平カ不公平カトイフコトカ争トナル。之ニ對シ其ヲ公平ニ適フトイフ風ニ見ル見解カアルカ、其ノ第一ハ、財産所有者カ特ニ此戰爭ノ力ニヨリ保護ヲ受クルコトカ多カツタカラ、一般的負擔ノ外、特ニ資本稅ニ依ル別段ノ負擔ヲ爲スノモ當然タト見ルモノテアル(註二二)

(註二二) ありすまわハ曰ク、戰費ハ凡ヘテノ人民ニ有功ニ働イタ。曾ニ吾々ノ權利及吾々ノ國民的威嚴ヲ防禦スル

30) Scott, l. c. p. 257.
31) Hook, l. c. p. 169.
32) Pigou, l. c. p. 138.

爲メニ有益テアツタノミナラス、此國ノ物質的資本ノ凡ヘテノモノノ防禦ノ爲メニ有益テアツタ。——所有者階級ハ佛軍隊ニヨツテ第一ニ防禦セラレ保護セラレタ——然レハ所有者階級カ戰費ノ決算ニ於テ大ニ貢獻スルコトカ正當テアルト³³⁾

B) 軍務不就ニ對スル補償 資産ノミ課稅セララルニツイテノ辯護ノ第二ハ資本稅ヲ課セラルル人ノ範圍カ主トシテ四十五歳以上ノ老年者階級テ、其カ二十歳以上四十五歳マテノ若年者ノ約六倍ノ資産ヲ有チ、前者ハ軍務ヲ免レ、後者ハ軍務ニ就イテ居ルカラ、前者ニ主トシテ課セラルル所ノ資本稅ハ廳カテ後者ノ軍務負擔ト補償セラレ平準セラレテ公平ヲ見ルコトトナル。特ニ又此資本稅ノ外ニ、之ニ附帶シテ人的所得還元價值ニ對スル年賦稅ヲトルトシテモ、其ハ資本稅ニ比スレハ極メテ小額ノモノニ止マリ、殆ント其十分一位ノモノテ、之ヲ止メニシタカラトイフテ大ナル不公平トイフコトヲ得ナイトイフノテアル。

(註二三) びぐーハ曰ク、異リタル年齢ニ屬スル人々ノ間ノ資本ノ分配ヨリ出發スルト、相續稅統計ヨリシテ實際此國ノ有ラユル物質的資本カ二十歳以上ノ人々ニヨツテ所有セララルコト、更ニ此等ノ人々ノ殆ント三分ノ一ヲ成ス所ノ四十五歳以上ノ人々カ全體ノ殆ント四分ノ三ヲ所有スルコト、隨フテ四十五歳以上ノ代表的人士ハ二十歳ト四十五歳トノ間ノ代表的人士ノ六倍タケノ物質的資本ヲ有ツコトカ推理セララル。然ルニ肉體上ノ力ニ於テ老年者チ超ユル所ノ若キ人々ハ其肉體力チ戰爭ニ向ツテ盡シタ。而シテ老人ハ之ヲ免レタ。テ此老人カ若キ人チ其財力ニ於

33) Haristoy, l. c. p. 93-4.

テ超ユルトイフ事實カ、主トシテ軍務ヨリ免レタル人々ニ歸スル所ノ資本稅ニヨツテ平準カ一部得ラルルコトヲ示ス。——又恐ラクハ所得ノ全體ノ四分三カ物質的資本ニ屬スル。又最大ノ人的所得ハ老人ニ屬スル故、之ヲ還元スヘキ年數ハ少クシテ可テアル。例之平均十年トス。之ヲ五分ニ還元スレハ現存無形資本ノ價值ハ現存物質的資本ノ價值ノ十分一位トナルテアラウ。——資本稅ヨリ人ノ腦力ヲ免除スルコトハ物質的資本ノ所有者ノ擔フヘキ負擔ニ大シタ差ヲ爲サナイテアラウ。——此計算カ正確ニ近キモノトスルナラハ、腦力資本ノ免セラルルコトニ依ル資本稅ノ不公平ハ小ナルモノテアルト。³⁴⁾

(C) 給付能力 (イ) 或ハ此資本稅ニ於テ小ナル資産ヲ有ツ者ガ小ナル人的所得者ト共ニ免稅トセラルノハ良イトシテモ、人的所得者ノ中ニ就キテ其高級者例之、醫師辯護士支配人等トナルト頗ル大ナル所得ヲ舉クルニ拘ラス、之ヲ免除スルノハ不都合トイフ者カアル。³⁵⁾ 其ハ一體、人的所得カ資産所得ヨリモ給付能力ノ少イトイフノハ人ノ老後死後等ノ心配ニ對スル用意ヲ要スルトイフ點ニアルノニ(註二四)、右イフ如キ人的所得者ハ收入モ大テ斯卡ル用意ヲ爲スノ餘力モ大イカラ之ヲ宥恕スル理由ハナイトイフノテアル。(2) 更ニ特ニ英國テハ所得稅ニ於テ既ニ資産所得ヲ勤勞又ハ努力所得ヨリモ重課スルコトノ斟酌サレテ居ルノニ、其上、資本稅ニテモ之ヲ斟酌スルコトトナルノハ二重テアツテ、餘リニ其斟酌カ過クルトイフ者カアル。³⁶⁾ (ロ) 併シ兎モ角、此資本稅ニ現ハレタ所ノ資産重課トイフコトハ給

34) Pigou, l. c. p. 145-6.

35) Lawrence, l. c. p. 80. Roscher, a. a. O. l. S. 423. Walcker, Fw. S. 55.

36) Lawrence, l. c. p. 79.

付能力ノ原則上、頗ル廣ク、殆ント一般ニ認メラルル所ユヘ(註二五)其ハ承認スルトシテ、(2) 僭テ論者ノイフ高級人的所得者免除ヲ不當トスル論據ハ當ヲ得ヌ、元來資産所得ヲ勤勞所得ヨリモ重課スルトイフノハ、勤勞所得ニハ死後老後失職等ノ用意ヲ要スルトイフ爲メテハナイ。其レタケナレハ、勤勞所得者モ間々恩給扶助料制度ニヨツテ十分保障サレテ居ル。却ツテ資産所得者ノ方ニ於ケル其財産ノ價值并ニ收入ノ動搖カ一層烈シイトイフコトモアル。例之、有價證券ノ値ハ屢々下リ、營業狀態ハ常ニ變動スル。土地家屋ニシテモ時ニ大損害ヲ受クル(註二六)。テ其ノ資産所得カ勤勞所得ヨリモ一層給付能力ノ大イトイフノハ全ク資産所得ハ眠テ居テモ所得カ舉ケラルルノニ、勤勞所得ハ或努力ヲ拂ハナクテハナラヌトイフ處ニ在ル。其ノ爲メニ所得者ノ所得ニ對スルノ評價、隨ツテ租稅ニ對シテ感スル苦痛ノ度合カ異ルトイフコトニ理由ヲ求ムヘキテアル。既ニ夫ノ差等課稅ノ理由ヲ此ニ置クコトトスレハ、高級人的所得者ノ免除モ必スシモ不當テナイコトニナル。尤モ實際ニハ假令彼等カ人的所得ノ關係カラシテハ此稅ヲ免セラレテモ、其大ナル所得ヲ以テ自然、財産ヲ買ヒ取ツテ持ツコトニナリ、其點ヨリシテ資本稅ヲ課セラルル可能モアツテ、全然夫ノ稅ヲ免ルルコトニハナラヌテアラウ。カ兎ニ角人的所得者タルノ點カラシテハ

彼等モ亦給付能力ノ割合ニ小ナルモノト認メラルヘキモノテアル。(3)若夫レ所得稅ニテ既ニ差等課稅カ行ハルル故此ニテ更ニ之ヲ行フハ重複トイフ非難ニ至テハ彼ト此トハ設定ノ動機モ異リ、彼ハ流動的經費ノ爲メニシ、此ハ一回的經費ノ爲メニスルモノテアルカラ、(註二七)兩者ヲ別々ニ考察スルカ至當テアリ、隨フテ彼ニ於テ既ニ差等課稅ノ行ハレテ居ルコトヲ別トシテ、單ニ此ニツキ差等課稅ヲ考ヘテ良イ。(4)尙ホ其外ニ此給付能力ノ點カラシテ、今度ノ戰爭ノ爲メニ資本家ノ間ニ大ナル富ヲ得タモノカアルカラ、此ニ對シテ此資本稅ヲ課スルノモ當然テアリ公平テアルトイフ見方ヲスル者モアル。

(註二四) 此理由ヨリ差等課稅ヲ説ク者ハ少クナイ。例之、ろつしあーハ曰ク、同一所得カ頗ル異リタル經濟的重要ヲ供シ得ル。特ニ相續シ得ヘク生涯保護サレタル所得(有基的ナル)ト老年、疾病、失職ニヨリ危フクセラレタル人の所得トノ間ニ區別サレナケレハナラヌト、こーんハ曰ク、此(差別課稅)ハ財產ニ基ク所得ノ租稅力ハ其一層大ナル安全ト永續性トノ爲メニ、人的所得ノ租稅力ヨリモ一層大ナルモノ也トイフ殆ント爭フヘカラサル考ニ基クト、しほふれーモ亦タ曰ク、無基所得ヲ宥恕スル主理由トシテ、今日ハ無財產所得タル租稅主體ハ老年及死後ノ爲メノ用意ヲ蓄積シナクテハナラヌト、財產所得ヲ有ツ者ハ然ウテナイトイフ考力ハルルト、彼ハ別ノ處ニ於テモ、勞力所得ヲ財產所得ニ比シテ宥恕スルノニハ、老年ノ爲メニ地位相當ノ用意ノ準備金(財產所得ニテハ既ニ財產其モノニテ與エラレル所)カ殘サルヘキコトヨリハ外ニ理由カナイトイフテ居ル。

(註二五) 此資産所得重課ニツキテハ夙ニあだむすみすカ之ヲ認メテ居ル。曰ク、土地ノ地代ト土地ノ轉通ノ借貸ト

ハ、所有者カ多クノ場合、或注意又ハ彼自ラノ注意ナクシテ享受スル所得ノ種類テアルト。此カ贊成者擧ケテ數フヘカラス。例之ばすてーぶる、わるか、うんぶいんばつは、ぼるぐま、こんらーど、へつける、わぐな一等ノ如シ。³⁹⁾

(註二六) しほふれーハ曰ク、凡ヘテノ勞働所得カ勞働所得トシテ小租稅能力テアルノテナイ。自分及其遺族ニ對シテ恩給權アル高キ役人ノ所得ハ少クトモ、利子ノ低下、資本喪失ニ曝サレタル中等ノ利殖者階級又ハ凡ヘテノ變動ニ脅カサル營業者ノ所得ト同位ニ有基的テアルト。⁴¹⁾

(註二七) ろーれんすハ此資本稅ト所得稅トノ間ニ五ノ差異カアルトイフ即チ一先ツ資本稅ハ放資ニ限ラレナイテ、所得ヲ生セサル人的財產ニモ及フ。例之私有自動車、馬及馬車、寶玉、家具等テアル。第二ハ全ク彼等自ラノ努力ニヨリテ得ラルル所ノ職業者又ハ營業者ノ所得ニハ課セラレナイ。第三ニハ資産所得ノ年々ノ稅ノ如ク、資本稅賦課後ニ生シタル貯蓄ニハ課セラレナイ。(四)ニハ所得稅トハ別異ニ累進トセラレル。(五)更ニ箇人ノ納稅者ノ觀點ヨリハ二稅ノ間ニ類似カアリ得ルトモ、國家ノ觀點ヨリハ大ナル差異カアル。若モ國家カ不勞所得ニ高キ稅ヲ課スルコトニ依ツテ其大公債ノ負擔ニ應スルナラハ、頗ル水キ時ノ間、國家カ重キ負債ヲ負フコトナリ、其人民ハ租稅ハ擔テ避ル爲メニ外國ヘ往住セントスルコトナリ、ソシテ新來住者ハ少クナリ、通貨膨脹カ繼續シ物價カ高位ニ止マルテアラウ。反之、資本稅ノ方法ニヨリテ公債ノ全部又ハ一大部ヲ拂ヘハ、國家カ全體トシテ其國ノ財產ノ一部ノ所有者トナルヘク、其稅ハ比較的輕クナルヘク、通貨膨脹ハ消失スヘク物價ハ下ルテアラウ。此故ニ此國ハ其將來ノ人民ノ爲メニ誘惑的ノ國トナルテアラウ。⁴²⁾

(二)資産ノミ課稅ノ不當 (A) 儲テ併シテ論者カ財產カ特ニ戰爭ニヨツテ保護サレタルノ故

39) A. Smith, Wealth of nations. Bk. V. Ch. II. Pt. II. Art. I. Bastable, l. c. p. 32; Walcker, a. a. O. S. 66. Umpfenbach, a. a. O. S. 175. Borcht a. a. O. S. 95-6. Conrad, a. a. O. S. 15. Heckel, a. a. O. I. S. 157., Wagner, a. a. O. II. S. 56.
40) Eheberg, a. a. O. S. 283-4. Heckel, a. a. O. I. S. 407. Borcht, a. a. O. S. 116.
41) Schäffle, a. a. O. A. T. S. 281.
42) Lawrence, l. c. p. 76-79.

37) Lawrence, l. c. p. 85.
38) Roscher, z. a. O. I. S. 400. Cohn, a. a. O. S. 482. Schäffle, Steuern. A. T. S. 281. Derselbe, Steuern. B. T. S. 116.

ニ特別ノ資本稅可ナリトイフノハ、今日ノ租稅根據ニ關スル說明ニ適ハナイ。租稅ハ保護ニ對スル報償テハナクテ、給付能力ニ對シ之ニ應シテ課セラルヘキモノテアル。戰爭ニヨツテ財產カ特ニ保護サレタリト見ルヘキモノテモナク、戰爭ニ依ルノ保護クライヘハ人モ財產モ區別アルヲ得ヌ。若夫レ資本稅ヲ軍務不就ノ對價トスルニ至ツテハ、四十五歲以上ト以下トヲ區別シテ、四十五歲以上ノ者カ資本コ多ク有ツニセヨ、其關係ハ精密テナク、此年齡ノ如何ヲ問ハス軍務ニ就カサル者ニテモ資産ナク隨テ資本稅ヲ負ハサルコトトナルカアリ、軍務ニ就ケル者ニテモ相當ノ財產ヲ有スルガアリ、隨テ資本稅ヲ負ハサルヘカラザル者カアルトスルナラハ、此補償トイフコトハ當ラサルコトトナル。特ニ若モ其軍務ニ就カサル人ノ負フ所ノ資本稅ニシテモ、其財產カ老ヒタル所有者ノ爲メヨリハ、ムシロ其相續者ノ爲メニ存スルコトヲ考フルニ於テ、其相續者カ軍務ニ就ケルモノテアルトスルト、補償ノ趣旨クライヘハ、其ニ資本稅ヲ課スヘカラストイフコトトナリ、其ノ課否ヲ決スルコトカ六ツカシクナル(註二八)。テ此ハ資本稅ニハ考察セヌカ良イ。軍務ニ就ケル人ニ對シテ優遇スルトイフナラハ、其ハ此資本稅ヲ離レテ直接ニ考究スルノヲ選ムヘシトスル。其レテ此稅ニテ資産ノミヲ課稅スルノ根據ハ之ヲ給付能力ニ求ムルノ外ナイ。ソシテ其ハ資産所

得重課ノ理由ニ求ムヘキテアル。其事ハ正シイカ、タタ其ニツキ戰爭ノ爲メニ資産階級カ特ニ富ヲ増シタカラ此稅ヲ設クルトイフノハ當ヲ得ヌ。其クライヘハムシロ戰前ト戰後トヲ比較シタ財產増價稅ヲトルヘキテアル。之ヲ資本稅トイフヤウナ一般ニ 産ニ課スル稅ヲ取ツテハ、特ニ戰爭ニヨツテ富ヲ増ササリシ者ハ迷惑至極テ、全ク不公平ナルモノトナランケレハナラス。儲テ又此資本稅ヲ資産所得重課ノ理論カラ見ルト、資産ノミ課スルノテハ不満足、隨テ不當トイフコトニナル。人的所得ニ對スル特別稅ヲ伴ハナケレハ不公平トイフコトニナル(註二九)。B)此ニ於テカ資本稅ニ附帶シテ、人的所得モ其ヲ還元シテ得タル金額ニ對シ年賦稅ヲ設ルコトニナルカ、併シ其ノ賦課カ決シテ容易ナモノテナイコトハ認メナクテハナラス(註三〇)。

(註二八)みづちゆるハ曰ク、びぐーカ四十五歲以下ノ全人民ト軍務者トナ同一視スルモ、此カ或眞ノ値ヲ有ツニハ餘リニ不精確テアル。若モ歸還兵ノ財政上ノ負擔ヲ輕クスルコトカ公平ニシテ實行スヘキモノテアルナラハ、一層直接ナル方法カ見出サルヘキテアルト。すこつこ亦曰ク。此カ全體上疑ハシキ基礎ノ上ニ立ツ。軍務ニ就ケル人カ戰爭公債ノ大ナル應募者テアツタ。彼等ニシテ財產ヲ有ツ者ハ屢々大額ノ應募者テアツタ。彼等ノ財產及貯蓄カ此資本稅ヲ課セラルヘキヤ、或ハ免セラルヘキヤ。若モ此カ課セラルルトスルト、此說ノ全原則カ破ルルコトトナリ、若モ課セラレナイコトトナルト、此稅ノ課セラルヘキ富ノ中ヨリ、頗ル大ナル額カ控除サレナケレハナラナクナル。又此見解ハ相續及遺言相續ヲ考ヘナイ。財産ヲ有ツ老人及老婦人ハ通例、其ヲ或若イ人ノ爲メニ保存シ、前者ニト

リテハ資本税ノ賦課ハ比較的小事件アル。何トナレハ其感スヘキ時カ比較の短イカラ。斯クテ眞ノ負擔ノ一大部分ハ其相續人ノ上ニ在ルテアラウ。其ノ中テ男子ノモノノ大多數ハ軍務ニ服シタ。併シ其半分又ハ半分以上ノ受益者ハ婦人テアルトイフコトモイハルル。而モ彼等ノ相續ノ要求ヲ拒ムヲ得ヌ。何トナレハ彼等ニハ士官及其他ノ軍務ニ就ケル者ノ若キ寡婦テ、頗ル多クノ場合ニ乏シキ恩給ニテ小供ヲ養育セサルヘカラサルモノヲ含ムカラ。更ニ獨逸軍カ病院船ヲ沈メ且ツ病院ヲモ攻撃シタル以來、犠牲ノ最高度ヲ示ス所ノ戰爭ノ危險カ看護婦及戰場ニ使用サレタル他ノ婦人ニアリタルコトヲ疑フヲ得ナイト。⁴³⁾

〔註二九〕 みつちのこモ此點ヨリ此稅ヲ非難ス。曰ク、此提案ハ資本の富ノミヲ稅シ、如何ニ大ナリトモ、資本ニ基カサル凡ヘテノ所得(人的)ヲシテ稅ヲ免レシムル。——何故ニ人的消費ニ達シ得ヘキ均等ノ所得(租稅ヲ拂フヘキ均等ノ能力)ヲ有スル二人カ別異ニ取扱ハルヘキヤ。單ニ凡ヘテノ租稅制度ニ避クヘカラサル轉嫁的不公平ヲ以テノミナラス、一階級ニ全負擔ヲ投シテ他階級ヲ全免スルヤト。すこつこハ曰ク、人的努力ヨリノ所得力之ニ年賦ヲ賦課シ徵收スルノ困難ナルカ爲メニ此提案ヨリ除外サルルノハ不公平アル——若モ戰爭カ凡ヘテ當時ノ租稅ニヨツテ金融サレタナラハ、此等ノ所得(人的所得)ハ實際其拂ツタヨリハ一層高キ所得及超過稅ヲ拂ツタアラウ。然ルニ此資本税ノ爲メニ、彼等カ資本税ナカリシナラハ負ヒタルヘキ租稅ヲ免ルルコトトナル。此ハ不公平アルト⁴⁴⁾其他財産稅ニ關シテモ屢々此種非難カ行ハルル。即チ其ノ人的所得ヲ漏ラスコトカ難セラ⁴⁵⁾ル。

〔註三〇〕 すこつこハ此資本税ノ場合ニ於ケル賦課及徵收ノ困難ハ頗ル大ナリトイフ。其他財産稅ニツキテモ同様ノ非難カ行ハルル。例之、ぶあいふあハ曰ク、各人ノ人的努力力ヲ如何ニ見積ルヘキヤ。人ハ如何ニシテ資本ト勞力トイフ異リタルモノニ對シ一ノ標準ヲ見出シ得ルヤ。此ニ於テ近キ解決ニ導キ得ル唯一ノ方價ハ之ヲ所得ニヨツテ見積ルコトアル。併シ此ニヨツテ財産稅カ事實上所得稅ニ變スルコトニナルト、匿名政治家ハ曰ク、人カ此人ノ營利力ノ爲メ人工的方法ニテ相當ナル財産元本又ハ資本ヲ定メテ課稅スヘキモノトシヤウトシテモ其ハ殆ント不

可能テアラウト。⁴⁶⁾

其三 自然人對法人關係

(一) 自然人ノミ課稅ノ不當 此資本税テハ前ニモイフ如ク自然人ニ課セラレテ、會社自體ニハ課セラレナイ。其結果ハ同種營業ノ會社ト箇人トテハ會社營業ヲ競争上有利トスルコトニナル。一ノ不公平ヲ齎ラスモノトモ見ラルル。

(二) 其辯護 如何ニモ此稅ニ前記ノ如キ嫌ハアルカ、會社ニモ株主ニモ双方ニ課稅シテハ二重課稅トナリ、然リトテ會社ノミニ於テ課シテハ公平テナクナル。テ此資本税ヲ相續稅ト同様ノ扱ヲシテ自然人ヲ基礎トシテ取ツタ方カ給付能力ニ適合スル上カラ、會社ノミニテ課スルヨリモ勝ル。然リトテ箇人ニ課シ會社ニ課セヌトナツテモ前記ノ不公平カアリ、此點ニ於テ此稅ハぢれんまニ候ツテ居ル。

其四 收益財産享樂財産關係

(一) 併課ノ不當 資本税テアルト、結局收益財産モ享樂財産モ其レ々々ノ價格ニ應シテ均等ノ課稅ヲスルコトニナルカ、享樂財産ハ收益ヲ生セサルモノ故、之ニ重イ稅ヲ課シテハ稅ヲ拂フ爲メニ財産ヲ賣却スルノ必要カ一層大クナリ、收益財産トノ間ニ甚シク不公平トナ

46) Scott, l. c. p. 249. Pfeiffer, a. a. O. II. S. 300, Staatsmann a. D., a. a. O. S. 179.

43) Mitchell, l. c. P. 273. Scott, l. c. p. 255-6.

44) Mitchell, l. c. p. 271. Scott, l. c. p. 248. 258-9.

45) Murhard, Theorie und Politik der Besteuerung. S. 204. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 179. Pfeiffer, a. a. O. II. S. 300.

ル。特ニ享樂財産ハ其存續期ニ差等アルモノテアルノニ、之ヲ均等課稅スル處ニモ不公平カアルトイフ者カアル(註三一)。

(註三一) ろつじあゝハ財産稅ノ缺點ノ一トシニ靜止の財産カ活動的の財産ト同丈ケ高ク課セラルルコトヲ舉ケテ居ル。匿名政治家ハ之ヲ詳説シテ曰ク、財産元本ノ一部カ享樂方便ヨリ成ルカ、此モ此稅テハ必代課稅セラルル。併シ此ハ其自身收益ヲ生シナイ。隨フテ此ニ對スル課稅ハ享樂方便ノ賣却又ハ減少ヲ生シ、隨フテ自ラ租稅物體ヲ減シ、租稅ノ永續ヲ減スルコトニナル。——特ニ享樂方便ハ其存續額多様テ、此ヨリシテモ不公平課稅カ生スルト。

(二) 其辯護 併シ享樂財産ハ夫ノ免稅點以上ノ大サニ屬スル以上ハ、奢侈的ノモノト見得ルカラ、之ニ對シ收益財産均等ノ課稅ヲセラレテモ致方モナイ。奢侈ナルモノカ本來反民主的ノモノテ(註三二)、此アルニヨツテ其レタケ多數人民ノ生活必需品ノ供給ヲ少カラシメル結果トナルトモ見ラルルモノ故ニ、之ヲ有ツ程ノ者カ之ヲ收益財産ニテ有ツナラハ課セラレル位ノ負擔ヲ覺悟スルノカ當然テアル。奢侈的の財産ヲ有ツ者ノ其租稅負擔ヲ感スル度合カ決シテ同額ノ收益財産ヲ有ツ者ノ其ヨリモ小イトイフコトハナイ。ムシロ一層大イ位テ此ニ均等課稅カ行ハルルノハ寧ロ寛大ノ處置ト見テモ良イ。假令給付能力ノ大小ヨリ見テ其カ享樂財産ニ酷ナリトシテモ、尙ホ今日及將來ニ於テ盛ナリ又盛ナルヘキ民主的の傾向カラ見レハ其モ道義上當然トイフ信念カ一般ニ行ハルルコトトナル。若夫レ享樂財産ヲ收益

47) Rocher, a. a. O. I. S. 23; Staat mann, a. D., a. a. O. S. 180.

財産ヨリモ一層重ク課稅スルコトニ就テハ、其ハ此稅ヨリモ別ノ稅ニ讓ヅテ良イ。又享樂財産ノ存續期ノ多様トイフコトニツイテハ、其ヨリ生スル利不利ハ凡ヘテ其價格ノ中ニ籠ツテ居ルカラ、其々ノ價格ニ從フテ課稅サル以上、別ニ不公平ハナイ。又享樂財産ニテハ納稅ノ爲メニ賣却ノ必要カ生スルトイフニツイテハ、此度ノ資本稅ニテハ所詮收益財産ニテモ賣却ノ必要ヲ生スルカラ、享樂財産ニ於ケル格別ナル不利ト認メルヲ得ヌ。若干程度ハ異ルテアラウケレトモ。

(註三二) 之ニツキバ「リウ」ハ曰ク、年々ノ稅ニ取リ納稅義務者ノ財産ノ擴張即チ、稅自身ト均シク同期的ノ擴張タル收實(所得)ヨリモ一層公平ナル基礎ハナイヤウテアル。——併シ民主的精神カ此評價ヲ變更スルヲ得ル。不生産的の價值(其所有カ眞ノ奢侈トナルト考ヘラレ又勞動者ノ所得ヲ減スルモノト考ヘラルル所)ニ對スル稅ノ奢侈稅トナルヘキニ重ノ利益ノ爲メニト。ふあいふあいモ亦曰ク、大ナル勉強及元氣力稅ニヨリテ罰セラレナイコトカ此財産稅ノ長所テアル。國家ハ此稅ニ於テ財産ヲ見ル。即チ各人カ營利的ニ放下シ得ルモノヲ見ル。各人カ其一部ヲ徒ラニ死藏シ又ハ奢侈ニ充ツルトモ、之カ爲メニ宥恕スルニ及ハヌ。此故ニ一般財稅ハ生産的ニ放下セラレタル財産ニテハ、所得稅ノ如ク働キ、死藏サレタル資本ニ對シテハ奢侈稅ト見ラルルヲ得ト。⁴⁸⁾

其五 收益財産相互關係

(一) 同等課稅ノ不當 資本稅テハ收益財産ニ對シテ、其價格サヘ同シケレハ均等ノ課稅ヲス

48) Parieu, Traité des impôts. 2 éd. I. p. 517-8. Pfeiffer, a. a. O. II. S. 297-8.

ル。處カ其價格ハ同テアツテモ、財産ノ種類ニヨリ又利用者ノ如何ニヨリテ收益カ異ル。其ニモ拘ラス均等課税ヲ爲スノハ不公平トイハナクテハナラヌトイフ論カ立チ得ル(註三三)

(註三三) ばすてーぶるハ之ニツキテ曰ク、財産ハ課税能力ノ公平ナル尺度テナイ。富ノ或形式ハ他ノ形式ノヨリモ低イ報酬ヲ與フルト。匿名政治家モ亦曰ク、同一ノ大サノ財産元本カ同一所得ヲ舉ルトハイヘナイ。ムシロ之ニ難多及例外カアル。随テ財産ノ課税ハ非常ニ不公平トナルト。ふいすちんぐハ曰ク、土地ノ賣價ハ還元サレタル收益額ヲ大ニ超エテ居ル。又收益ト離レテ地方事情ニモ係ル。故ニ財産税ハ此土地ヲ、嘗ニ他ノ營利財産ト比較シテ不當ナル高サニテ税スルノミナラス、異リタル土地ノ間ニ地方的價值成形成ニ關スル偶然ノ出來事ニ從ツテ、異リタル度合ニテ税スルコトトナル。——租税賦課ニツキ利益及給付能力ノ標準ニ依ルトシテ財産ノ不完全ナルコトハ、營業ノ場合ニ最明カニ現ハルル。此ニテハ多様ナル階級及動搖ニテ或ハ大ナル營業財産カ小收益ヲ生シ、或ハ小ナル營業財産カ大收益ヲ生スル。營業財産カ利益及給付能力ノ多少適當ナル標準トナルコトハ之ヲ認ムルヲ得ヌト。

(二) 其辯護 併シ此ハ必スシモ不公平テナイ。或財産カ他ノ財産ヨリモ收益大ナルニ拘ラス價格小テアルトスレハ、其ハ前者ニ危險度カ大イトカ、無形收益ノ小イトカ又ハ其カナイトカイフ如キ原因ニヨルノテ、其理合ハ必スアル。今資本税トシテ課税スル以上ハ、資本價格トイフ共通元素ニヨルノ外ナク、又之ニ依ルノテ確カニ一ノ公平ハ得ラレテ居ル。若夫レ同價財産ノ利用者ノ人ノ如何ニヨツテ收益ニ大小ヲ生スルニ至ツテハ、其ヲ一層多ク利用スルコトヲ刺戟スル爲メニ之ヲ斟酌セナイノモ不都合トハイヘナイ(註三四)。

49) Bastable, l. c. p. 470. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 179.-30 Fuisting, a. a. O. S. 362.

(註三四) ぶあいふあーハ曰ク、各人カ財産ノ一部ヲ死蔵スルトモ——之カ爲メニ宥恕スルノ理由ハナイ。——或人カ特別ノ勉強及一層大ナル技能ニヨツテ、他ノ者ヨリモ一層多ク其資本ヨリ利益ヲ舉ルトモ、彼ハ完全ニ其結果ヲ享樂スヘキテ、此カ唯々有益ナル刺戟トシテ働キ得ル。——或資本ノ大收益トイフコトカ其所有者ノ一層大ナル努力カニ歸スヘキ丈ケテハ、之ヲ課税上寛大ニ扱フコトカ出來ルト。

其六 評價問題

(一) 評價難ヨリ生スル不公平 資本税ニテハ其課税標準タル財産價值ハ見積ニ依ル。然ルニ此價格ハ所得ト異ツテ一ノ現實テナク、ムシロ抽象的ノモノテアリ、時ノ經過ニヨリ時ニ大ナル變動ヲ爲スコトモアル。随フテ此ヲ決定スルニツキ自ラノ間ニ不公平ヲ生スルヲ免レナイ(註三五)。

(註三五) みつちねるハ曰ク、所得ハ一ノ事實テアルカ、資本ハ單ニ一ノ見積テアル。——資本税ハ或特段ナル時ニ於ケル富ノ凡ヘテノ持主ノ地位ヲ見テ課スル。併シ其ハ他ノ時ニハ頗ル多ク間違トナルヘキ見積リテ、其ノ爲サルル時ノ外當ラサルモノテアルト。其他諸多ノ學者カ財産税ニツキテ之ヲ説ク所テアル。例之、ふいすちんぐハ曰ク、財産税ニ於テハ確定及評價ハ最大ナル困難ヲ生シ、賦課ノ結果ハ大ニ不確ナルモノテ、随フテ賦課ノ平等ヲ感スルコトハ出來ナイト。ばすてーぶるハ曰ク、多クノ場合ニ財産ハ唯々所得ヲ還元スルコトニヨツテ得ラレタ抽象テアル。此ハ近世株式取引所カ抜フ財産ノ大數ニツキテ確テアル。株式及公債ハ唯々其所得ノ結果タル價值テ、其資本價值ハ見積ノ方法ニヨツテ得ラルルモノテアル。此カ精密ナル測定ヲ許ササル方法ニテ斷エス變化シツツアル。然

50) Pfeiffer, a. a. O. II. S. 297. 298-9. 300.

ルニ所得ハ或與ヘラレタル期間ノ確定的收入ヲ隨テ負擔ノ爲メニハ一層其キ物體テアルト。ぶあいふあーハ曰ク、商人的財産カ非常ニ見積ルコトノ困難ナモノテアル。何トナレハ此カ時々刻々ニ變動スルカラト。ろつしあーハ曰ク、外部ヨリノ見積ハ財産稅ニテハ一層困難テアル。何トナレハ或人ノ世ニ知ラレタル支出ヨリシテ其財産ヲ決スルコトハ所得ヲ決スルヨリモ一層適切テナイカラ。特ニ最正直ナル人ニ取リテモ、自己申告カ財産ニ於テハ所得ヨリモ遙カニ困難テアル。人カ買ヒモセス又賣リモセサル多クノ財ノ價值ヲ評定スルコトノ不確ナルカ爲メニ其力困難テアルト。むるはるこハ更ニ他ノ方面ヨリ此評價ノ困難ヲ説イテ曰ク、平等及一般ノ原則ノ適用ハ唯タ此ニ對シテ共同ノ標準ノ存スル物體ニ於テノミ現ハルルコトカ出來ル。斯カル標準ハ地代、財産元本ノ純收益ニハ考ヘラレルモ種々ノ資本蓄積物其モノニハ考ヘラレナイ。收益ノ凡ヘテノモノニハ一般價值標準カアル。何トナレハ凡ヘテノ收益ハ必然或ハ直接ニ貨幣ニテ或ハ貨幣價值ヲモツ所ノ物ニテ存シナケレハナラヌカラ。——資本蓄積物ニ於テハ然ウテナイ。自然力、勞力、及積マレタル財ノ蓄ハ全ク異種ナル三ノ物テアル。此間ニハ共通標準ニテ價值比較モ改算モ行ハレナイ。——之ヲ公平課稅ノ爲メニ臺帳附ケルノニハ夫ノ收益還元ハ不満足テアル。此臺帳附ノ不可能力財産元本ノ一般直接課稅ノ不當ノ第一理由テアルト。⁵¹⁾

(二) 其辯護 併シ此困難ハ大シタコトテハナイ。所得ノ如キニテモ、現實ヲ捕捉スルコト仲々難キモノカアリ、即チ見積ニ依リ、平均トカ豫算ヲ用ユル。現實ヲ得ントシテモ動搖シツツアツテ捉ヘ難キカアル。結局類似ノ困難アルノミナラス、資本財産ニツキテモ重ナルモノハ凡ソ公定ノ相場カアツテ明ニスルヲ得ルシ、其他ニテモ相續稅等ノ先例モアツテ測定スルコト必スシモサウ六ツカシクナイ。若干測定難ノモノカナイテハナイカ、其位ノコト

51) Mitchell, l. c. p. 272. Fuisting, a. a. O. S. 362. Bastable, l. c. p. 470. Pfeiffer, a. a. O. II. S. 303. Roscher, a. a. O. I. S. 423. Murlhard, a. a. O. S. 202-4.

ハ大シタコトテハナク、此測定難ノ爲メニ生スル不公平ハ大シタモノトハイヘナイ(註三六)

(註三六) あーのるごハ曰ク、評價ノ理想的完全及精密ハ得ラレナイ。實際其ハ如何ナル租稅ノ爲メノ如何ナル賦課方法ニテモ行ハレナイ。資本稅ノ唯一ノ代用品タル高キ所得稅ヨリモ一層多ク其ノ行ハレナイモノハ他ニナイ。凡ヘテ種々ナル種類ノ財産ニツキ公平ナル評價ヲ爲スコトカ不可能ナリトイフ非難ハ許サルルコトハ出來ナイ。之ニ對シ最明ナル答ハ、評價カ既ニ相續稅ノ爲メニ爲サルルトイフコト、及ヒ死スル人ノ場合ニ爲サレ得ルコトハ資本ノ凡ヘテノ持主ノ場合ニモ爲サレ得ルトイフコトテアルト。びぐーハ曰ク、諸多ノ財産ノ中ニツキ、株債券等、現金、抵當貸等、保險證券等ハ、株主ノ手ヲ變スルコト希テ其相場力多少擬制的ナル一部ノモノヲ除ケハ、凡ヘテ大シタ評價ノ困難ハナイ。而モ此等ノモノカ合計ニテ戦後ニハ英國ニテ全財産ノ約七割ニ當ル。更ニ家屋財産、營業所及農用土地カ大體、所得稅報告ノ基礎ノ上ニ課セラルルコトカ出來ル。タタ營業財産等家具器具及雜多ナル財産ニハ唯一ノ實行スヘキ方法ハ直接測定テ、其ハ全國ニ行フニ數年ヲ要スルテアラウト。⁵²⁾

其七 脫稅問題

(一) 脫稅易ヨリ生スル不公平 資本稅ニハ脫稅ノ恐カ多ク、隨フテ此ヨリシテ不公平ヲ生スルトイフコトカ往々ニシテ唱ヘラルル(註三七)。

(註三七) あだむすハ曰ク、財産稅ハ之ヲ用井ルコトカ出來ナイ。何トナレハ隱レタル財産カ賦課ヲ免ルルカラトイフコトカ通例主張サルルト。ぼるぐこモ亦財産稅ニハ脫稅ノ危險アリトイヒ。ぶあいふあーモ亦、財産ハ所得ヨリモ一層多ク監督ノ目ヲ盜ム。營利的ニ非ル財産ノ詮索ハ家事ニ面倒ナル干渉ヲ加フルコトナシニハ、全ク不可能テアルトイフ。更ニばすてーぶるハ或形ノ富ノ持主ハ脫稅者ノ分前ヲ捕フ爲メニ不當ニ負擔セシメラルトイヒ、セリ

52) Arnold, l. c. p. 163. Pigou, l. c. p. 148-9.

ぐまんカ財産税ノ實際上ノ缺點トシテ動産ニ達スルコトニツキ失敗シタルコト、不正直ヲ刺戟スルコトヲ舉ルノハ即チ此弊ヲ指スノテアル。⁵³⁾

(二)其辯護 併シ此脱税問題ハ、程度問題テ、如何ナル税ニモ多少ハ免レナイ。此税ニ此カアツテ多少不公平トナツテモ、已ムヲ得ナイ。又之ニ代ルヘキ所得税ニテモ、同様ニアリ得ル。特ニ之ニ代ル程ノ高イ所得税トナルト一層其カ多イテアラウ。又高イ所得税ヲ永イ間年々取ル方カ、直ニ一度ニ猶豫ナク、資本税ヲ取ルヨリモ一層多ク資本ノ流出ヲ促シテ其ヨリシテノ脱税モ一層多イテアラウ(註三八)。加之或人々ハ所得税ノ下テアルト、所得ヲ生シナイテ年々ノ資本價值ノ増加ニヨツテ隠レタル所得ヲ舉ル物ヲ選ミテ放資シ以テ脱税ヲ計ルコトトナル。資本税ニナルト之ヲ防止シ之ニ課税スルコトカ出來ルコトニナル(註三九)。此等ヨリ見ルト資本税ノ方カムシロ代ルヘキ所得税ヨリモ一層公平トイフコトニナル(註三八)。あゝのるごハ曰ク、資本税ニテハ高キ所得税ヨリモ脱税少シトイフコトカ其辯護説ノ一テアルト。⁵⁴⁾

(註三九) あゝのるごハ之ヲ舉グ。ふゝくハ此アルカ故ニ、正常ノ時ニテモ亦普通ノ國費ニ關シテモ資本税カ所得税ノ不公平ヲ匡正スル爲メニ採用サレナケレハナラヌトイフ。⁵⁵⁾

結 論

要之、資本税ハ多少其仕組ノ上ニハ考慮ヲ要スル點ハアルカ、少クトモ公平負擔ノ點ヨリシテハ大體不當テナイ。所得税、特ニ之ニ代ル程ノ高キ所得税ニ比シテ公平ノ點ニツキ勝ルトモ劣ラナイ(註四〇)。今日ノ時世ニモ適合シテ居ル。勿論此税ノ批評ハ之ニテ盡キテ居ラス。尙ホ別ニ考究ヲ要スルモノハアルカ、併シ少クトモ租税ノ最重要ナル標準タル公平負擔ノ上カラ見テ正當也トイフコトハ此税ノ成立ノ上ニ非常ニ強味トイフモノテアル。

(註四〇) あゝのるごハ曰ク、租税ノ何レノ案ノ下ニモ、完全ナル平等及精密ヲ得ルコトハ不可能テアル。併シ高キ所得税ヨリモ資本税ニ於テ一層近接平等カアリ得ルト信スルト。⁵⁶⁾

(大正八年三月)

56) Arnold, l. c. p. 166.

53) Adams, Science of finance. p. 365. Porcht, a. a. O S 116. Pfeiffer, a. a. O. II S. S. 303. Seligman, l. c. p. 22 26. Bastable, l. c. p. 4; o.

54) Arnold, l. c. p. 165.

55) Arnold, l. c. p. 165-6. Hook, l. c. p. 168.

第四編 臨時資本稅ノ利弊

緒言

(一) 資本稅カ戰後財政ニ於ケル重大問題ノ一タルコトハ前ニ説キタル如クテアリ、ソシテ其カ公平負擔ノ見地カラハ大體承認ヌヘキモノタルコトモ前ニ説ク所ノ如クテアルカ、更ラニ殘ル所ノ問題ハ此稅ノ利弊如何即チ此稅ノ設ケラレタル場合ト然ラザル場合トヲ比較シテ、孰レカ經濟上、社會上、財政上等ヨリ見テ選ムヘキカトイフコトアル。此方ニ於テ斷乎タル肯定的解答ノ得ラレサル以上ハ、假令其カ公平負擔要求ニ適フトモ未タ輕々シク之ヲ採用スルコトハ出來ナイ。テ茲ニ私ハ之ニ關シテ從來爲サレタル議論ヲ蒐集整理シテ以テ世人ノ參考ニ供シヤウト思フ。

(二) 本論説述ノ順序トシテハ、先ツ經濟上ノ利弊ヲ、次キニ財政上ノ其ヲ、終リニ政治及社會上ノ其ヲ説カウト思フ。

第一段 資本稅ノ經濟上ノ利弊

其一 資本稅ノ經濟上ノ不利

(一) 生産力ノ減少

(A) 資本ノ減少

(い) 政府ノ資本引上ニ依リ——即チ資本稅カ行ハルルコトニナレハ、其レタケ政府カ資本ヲ取去リ行クコトニヨツテ國民生産力ヲ減殺スルコトトナル(註一)。特ニ其カ恰カモ此戰後改造ノ時機テアリ、流動資本ヲ最多ク要スルノ時¹⁾之ヲ失フコトヲ許スハ全ク自殺的行動トイハナクテハナラヌ(註二)。尤モ斯クノ如クニシテ政府カ民間ノ資本ヲ取上ケテ行ツテモ、別ニ其國內ノ全財産ヲ減スルノテハナイ。國內ノ甲ノ手ヨリ乙ノ手ニ移シ、即チ異リタル分配ヲ作ツタニ過キナイトモ見ラルル(註三)。併シ此場合ニ遺憾ナカラ確カニ國民ノ資本ヲ減スルコトニナル。其故如何トイフノニ、夫ノ相續稅ノ場合ノ如キテアレハ、之ヲ納ムル爲メニ人民カ財産ヲ賣却スルトモ、其ハ國民ノ中ノ何人カカ其所得ニテ買取ルコトニナリ、斯クテ其稅カ國民ノ中ノ何人カノ所得ニテ拂ハルルコトニナルケレトモ、此資本稅ノ如ク一時ニ國民ノ所得以上ノ大額ヲ、中産以上ノ有産者ノ凡ヘテノ者ニ課スルコトニナルモノハ、到底右ノ如キ何人カノ所得ニテ稅ヲ納メルコトハ難ク、多クハ各人ノ有ツ所ノ或財産元本其モノヲ以テ納稅スルコトニナル。勿論一部ハ其ヲ賣却シテ得タル金ニテ、

1) Arnold, A capital levy. (in Economic Journal, June, 1918). p. 157.

又ハ之ヲ擔保トシテ借入レタル金ニテ納メラルルコトニナルカ、ソシテ其ハ國民ノ中ノ何人カノ所得ニテ納メラルルトモイヒ得ルカ、實際此稅ノ場合ニハ其等カ到底大ナルコトヲ得ヌ。テ一大部ハ人民ノ持ツ所ノ公債其モノカ、又ハ事業證券ニテ納メルコトニナル。其公債ニテ納メラレタ場合ニハ、政府ハ其ヲ消却スルコトニナル。サウスルト、其丈ニテハ民間ニテハ信用ノ基礎カ減スルコトトナツテ事業運轉ニ入用ナル資本カ減少スルコトトナル。國民財産トシテハ其前後ニテ増減ナキ譯テアルカ、資本ノ減少トイフコトハ起ル。夫ノ公債カ尙存スレハ之ヲ有ツ人ハ之ヲ擔保トシテ金ヲ借入レテ生産活動ヲ爲スコトカ出來ル。銀行モ此信用基礎カアレハ貸出ヲ擴ゲルコトカ出來、借手ハ其丈ケ其當座預金ヲ増スコトトナツテ、其丈ケ多ク小切手ヲ發行シテ入用ナル材料ヲ調達スルヲ得ルコトトナル。夫ノ公債カナクナレハ、之カアルナラハ之ヲ以テ金融ヲ得タルヘキ人々モ、最早之カ得ラレナイコトニナリ、自然他ノ方法ニテ例之單純ナ對人信用ニテ借入レ、一層高イ利子ヲモ拂ハナクテハナラヌコトトナル。テ公債ノアツタ方カナクナツタヨリモ一層資本ノ充實トイフコトニハナル。資本稅カカツテ公債カ減スルコトニナレハ、資本ノ若干ノ減少ヲ生スルヲ免レナイ。更ラニ政府カ夫ノ稅トシテ事業證券ヲ取ル場合ニハ、恐ラクハ政府ハ多

クハ此證券ヲ其儘保存シテ之ヨリ得ル收入ニテ公債利子ヲ拂ヒ、公債其モノヲ消却セザルコトニナルテアラウ。然ルトキハ前ノ場合トハ異リ、公債ハ其儘存在シテ、民間ニ於ケル信用ノ基礎トナリ、ソシテ事業ハ持主ノ變更ハアツテモ相變ラス運轉セラレ行クコトニモナル。其レテ前者ノ弊ハ取去ルコトヲ得ルカ、此場合ニ事業證券カ政府ノ手ニ在ル爲メ、其カ民間ノ手ニアツタナラハ、之ヲ擔保トシテ借入ヲ爲シ、資本ヲ作り出シ利用スルコトノ出來タノニ、此カ出來ナイトイフ缺點カ尙ホアル。尤モ信用ニヨツテ作り出サル資本ノ發生ハ直接實物資本ヲ増加スルコトニハナラヌ。ケレトモ前者ノ發生カ臆カテ後者ノ増加ヲ刺戟スル傾ヲモツモノテハアル。又ハ少クトモ後者ノ一層有効ナル利用ヲ進ムルモノテアル。

(註一) ばすてーぶるハ曰ク、租稅ノ基礎トシテ財産ヲ用ユルコトニ於テ、社會ノ集メラレタル財源ヲ侵スノ危險カアルト。わぐな一ハ國民資本ノ課稅ハ必然、生産ノ制限ニ導クトイヒ、らうハ資本カ租稅ニヨリ減セラルトキハ財ノ生産及國民所得ノ減退ヲ生ストイヒ、ろつじあ一ハ最早其稅ヲ所得ヨリ拂フ能ハサル者カ其資本ヲ消費スルコトトナリ、其勞働力カ不具トセラレ、土地ハ所有者ノ急速ナル變更ノ爲メ盜賊農法ニヨリテ地力ヲ消耗スルコトトナルトイフ。³⁾

(註二) ふーくハ曰ク。戦後ニハ吾人ハ吾人ノ得ラレ得ル凡ヘテノ資本ヲ、戦後ノ經濟戰ニ於テ吾人自ラ保持スルヲ

2) Lawrence, A levy on capital. p. 65.
3) Bastable, Public finance. 3 ed. p. 470. Wagner, Fw. 2 Aufl. II. S. 316. Rau, Grundsätze. 5 Aufl. I. S. 397. Roscher, System d. Fw. 5 Aufl. I. S. 188.

要スル。爾ク資本ノ大切ナル時ニ之ヲ減スルノハ自殺的也トイフコトカイハルルト。⁴⁾

(註三) あゝのるごハ曰ク、此國ニテ手ニ入り得ル流動資本全額ハ此作用ノ爲メ變セラレナイ。又ハ少シモ減少シナイ——資本稅ノ下ニ個人ヨリ政府ニヨツテ取ラレタル現金ノ全額ハ、恰モ政府ヨリ他ノ人々即チ戰爭債ノ持主ニ拂ハレタル現金ノ全額ニ均シイテアラウト。ふゝくモ亦曰ク、戰爭債ヲ拂フ爲メニスル所ノ特別資本稅ハ、此國ニ於ケル利用スヘキ産業上ノ資本チ一片モ減少シナイテアラウ。此カル公債カ外國ニテ所持セラルルタケテ除イテハト。其他ヘツけるハ非常時ノ財産稅ニツキテ曰ク、之ニヨツテ個人經濟ハ縮少ヲ受クルモ、國民經濟的の所有狀態、國民財産ハ其儘ニ止マル。此カ全體ノ利益ニ於テ國民財産ノ異リタル分配ヲ表ハスト。ろつじあゝモ亦タ、租稅ニヨツテ侵サレタル私財産ノ元本損失ハ國民財産ニ取リテハ或手ヨリ他ノ手ヘノ單ナル移轉ニ過キサルトカアル。其國民經濟上ノ可否ハ兩者使用法ノ事情ニカカルトイヒ。更ラニこゝんモ國家カ其國內ノ債權者ノ全債權ヲ沒收スルトモ、國民經濟上ノ意味ニテハ財産ヲ減少シナイ。此ニ單ニ財産法上ノ債權ノ推移、國民財産ノ分配ノ變化アルノミトイフテ居ル。⁵⁾

尤モ此非難ニ對シテハ若干ノ辯解ハアル。第一資本減少ノ非難ハ或度マテハ凡ヘテノ稅ニ共通ノコトタトイフコトアルカ(註四)、其ハ此稅ニ於テ他稅ヨリモ特ニ甚シイノテアルカラ、強キ辯解ニハナラヌトシテ、更ニ第二ニ資本稅カ行ハレスシテ戰爭債カ其儘テアレハ資本ハ豊カニ利子ハ安クテ濟ムトモ、公債元利拂ノ爲メノ租稅ノ高キコトノ爲メニ營業費ノ嵩ムノト、資本稅カ行ハレテ國債カ非常ニ縮少スルカ爲メ、其後ノ借入資本ノ利子ハ多少高クトモ、租稅負擔ノ大ニ輕キコトニヨル利益ト比較シテ何レカ選ムヘキヤハ容易ニ斷

4) Hook, A tax on capital and redemption of debt. (in Economic Journal, June, 1918) p. 170.
5) Arnold, l. c. p. 157. Hook, l. c. p. 170. Heckel, Lehrbuch. I. S. 409. Roscher, a. a. O. S. 187-8. Cohn, System. S. 296.

言スルヲ得ヌトイハナクテハナラヌ(註五)。

(註四) みるハ曰ク、然ラサレハ貯蓄サレタルヘキモノノ一部ヨリ拂ハレナイ稅ハナイ。此故ニ凡ヘテノ稅ハ或意味

ニテハ一部、資本ヨリ支拂ハルルト。⁶⁾

(註五) すゝつこまハ、租稅ヨリモ一層重要ナルハ貿易ニ用井ラルル資本ノ利率テアラウトイフケレトモ、斯ク輕々ニ論斷スルコトハ出來ナイ。

ロ資本ノ外國流出ニ依リ——即チ資本稅カ行ハルルコトニナルト、之ヲ避ケントシテ資本カ外國ニ流出シテ、⁸⁾以テ其國ノ生産力ヲ減少スルコトニナルトイフ心配カアル。

成程此心配カ全クナイトハイヘナイ。人々カ斯カル稅ノ起リサウナトイフコトヲ聞イタタケテモ其資本ヲ出來ルタケ又ハ多少外國ニ出スコトニナル。併シ此心配ハ大シタモノテハナイ。何セカトイヘハ、此稅ヲ採ルコトニ決定スレハ、結局此法律發布ノ瞬間ニ於ケル狀態ニ基イテ徵收スルコトニナルカラ、サウ大シテ逃レルコトハ出來ナイ。強イテ逃レヤウト計畫スルモノハ政府力之ヲ調ヘテ取押ヘルコトカ出來ル⁹⁾。他方ニ此戦後ニハ外國テモ斯カル稅ノ設ケラルル可能カアツテ其設ケラルルタケテハ(設ケサル國モアラウカ)、此稅ノ爲メニ資本カ一國ヲ逃ルルノハ其國ノ油煎鍋カラ外國ノ火中ニ飛込ムコトニナルニ過キナイ。¹⁰⁾テ此稅ヲ起シタカラトテ資本ノ流出ハサウ大キクハナイ。ムシロ此稅ヲ

6) Mill, P. of. P. E. Bk V. Ch. II. § 7.
7) Scott, Some aspects of the proposed capital levy. (in Economic Journal, Sept. 1918) p. 260.
8) Lawrence, l. c. p. 81.
9) Lawrence, l. c. p. 81.

行ハナイテ、大ナル戰爭債ヲ其儘ニシテ置ク方カ戰後ノ資本ニ對スル所得稅等ノ負擔カ此稅ノ行ハレタル場合ヨリモ一層重イコトニナツテ、之ヲ避クル爲メニ他ノ戰後ニ租稅負擔ノ一層低キ國ニ向テ資本ノ流出スルコトカ一層多ク起リ、而モ其ハ戰後ノ永キ時ノ間ニ互ルカラ一層大イコトニナル（註六）。故ニムシロ此際資本稅ヲ取ツテシマウ方カ然ラサル場合ヨリモ資本流出ヲ少カラシムル所以テアル。尤モ資本稅ヲ採ラサル場合ノ戰後ノ租稅ハ所得稅ノミニ依ルトハ限ラナイ。所得稅外ノ奢侈稅ニヨルコトモ出來ルカ（註七）、併シ所詮之ニヨリテ大シタコトヲ期スルヲ得ヌ。矢張り主トシテハ所得稅ニ往クコトニナル。加之此資本稅ノ行ハレタル後ノ租稅負擔カ大ニ輕クナルカラシテ、當ニ資本ノ流出ヲ減少スル許リテナク、大ニ外國ヨリ資本ノ流入ヲ進ムルコトニモナル（註八）。此點ニ於テ前ノイニイヘル資本稅課徵ノ爲メノ資本減少ノ缺點ハ大ナル度ニテ補償セラルルヲ見ル。但タ併シ尙一ノ問題ハ、資本稅ノ行ハレタル場合ニ果シテ戰後ニ其行ハレサル場合ヨリモ租稅カ低キヤテアル。其疑問ノ起ルノハ、資本稅ノ行ハレタル場合ニハ、之ニヨリ國債ノ減少スルタケ、租稅ヲ負フヘキ國債利子トイフ所得カ減少スルカラテアル。併シ此國債特ニ戰爭債ノ利子ニハ所得稅免除トイフ特典ノ附イタルガアツテ、其ハ戰爭カ濟ンタカラトイフテ直

10) Lawrence, l. c. p. 81.

チニ止メルノモ穩當テナイカラ其儘ニスルトイフ場合ニハ、資本稅ノ行ハレタ方カ其行ハレサルトキヨリモ租稅負擔カ一層輕クナル。更ラニ其國債利子ニ免稅特典ナキコトヲ假定シテモ、此場合ニハ資本稅カ行ハレハ、戰後ニ國債利子ノ爲メノ租稅負擔ハ輕クナルカ國債利子テフ租稅ヲ負フヘキ所得ハナクナル。精確ニイヘハ減スルコトニナル。ソシテ資本稅カ行ハレナケレハ國債利子ノ爲メノ租稅負擔ハ重ク殘ルカ、國債利子テフ租稅ヲ負フヘキ所得ハ存續スル。何レカ稅カ輕キコトヲ得ルカトイフト、國債利子ノ其元本ニ對スル歩合カ、普通ノ國稅ノ國民財產ニ對スル歩合ヨリモ大イカラ、矢張り資本稅カ行ハレテ國債利子ト共ニ其元本財產ノナクナツタ場合ノ方カ然ラサル場合ヨリモ、國稅ノ國民財產ニ對スル歩合カ輕キヲ得ルコトニナル。テ資本稅ノ行ハレタ方カ戰後ノ租稅負擔ハ其行ハレサルヨリモ一層輕イトイフテ大過ナイ。

(註六) びぐーハ資本稅カ行ハレシテ所得稅ノ高イ場合ニツキテイフノニ、企業家及大資本案ハ其住處ヲ他處ニ移スコトノ強キ誘惑ヲ有ツコトナルテアラウ。何トナレハ假令之ヲ爲スコトニヨツテ彼等カ在英ノ財產ノ上ノ英國ノ稅（又ハ其賣價ノ上ノ此等ノ稅ノ影響）ヲ脱スルコトハ出來ナイニモヨ、少クトモ其將來ノ新蓄積及人的ノ儲ハ之ヲ免ルルヲ得ルカラト。尙ホみづちなるハ、外國ニテ放資スル英國ノ資本案ハ其財產ト共ニ彼自ラ外國ニ移住スルコトニ依ルノ外ハ、其外國放資ヨリノ所得ニツキ英國所得稅ヲ逃ルルコトハ出來ナイトイフ。此點カライフモ人

々カ其放資ニ對スル高キ稅ヲ逃ルル爲メ他國ニ移住セントスルニ至ルコトカ想像セラレル。

(註七) みつちゆるハ戰後ノ稅トシテ所得稅ノミナラス、他ノ稅ヲモ取り得ルコトヲ考へ、例之所得稅ノ最良ノ補充ハ、絶對ニ或人ノ裸體ヲ被フニ必要ナルモノヲ超ヘタル種類ノ凡ヘテノ衣裝品ノ上ノ稅ナルヘシトイフ¹¹⁾

(註八) すこつミハ英國カ資本稅ヲ課スルト、國際金融市場トシテノ倫敦ノ信用及名聲ヲ落スコトニナル。從來倫敦ニ來ル慣習テアツタ所ノ外國資本カ紐育又ハ資本稅ナキ他ノ中心(例之あんすてるだむ)ニ向フコトニナルテアラウトイフカ、成程他日又此種ノ稅ノカカルコトヲ心配シテ外國ヨリ資本ノ來ナイトイフコトカアルカモ知レヌカ、人ハ然ル稀有ノコトヲ心配スルヨリモ、ムシロ戰後ノ一般租稅ノ輕イコトニ目ヲツケルコトニナル。今資本稅ヲ課シナイ爲メニ高イ所得稅ノ行ハルルコトトナルヨリモ、資本稅ヲ行ツテ所得稅ヲ輕クシタ方カ、外國ヨリ資本ヲ呼寄セルニハ一層ノ誘惑トナル。特ニ資本稅ノ課セラレタル英國ニ多少資本ノ缺乏ヲ感スルコトトナリ、資本利子ノ高イコトモカ一層ノ誘惑トナル。安キ稅ト高キ利子、此カ外國ノ資本ヲ引寄セスニハ措カナイ。

(B) 人力ノ減少——資本稅カ行ハルルト、資本ト共ニ人間カ外國へ出テ行クコトニナリ、以テ其國ノ生産力ヲ減少スルトイフ恐カアル。

成程此心配モ全クナイトハイヘナイ。多少ハアルカ、前ニモイフ如ク、資本稅ノ場合ニハ發布ト同時ニ施行サルルコトニナルカラ、其ノ行ハルルコトハ難ク、却ツテ此資本稅カ行ハレナイトキハ、戰後ノ一般稅特ニ所得稅ナトカ重クナリ、隨フテ之ヲ嫌フテ外國ニ行

カウトイフ者カ多クナル(註九)。ソシテ資本稅ノ行ハレテ所得稅カ輕イコトカ出來レハ、外國へ出テ行ク者カ少イハカリテハナク、ムシロ却ツテ外國ヨリノ來住ヲ促シテ、生産ノ發達ヲ進ムルコトカ出來ル。

(註九) 註六參照

(二) 生産力ノ増加制限

(A) 努力及節約ノ阻碍

(イ) 二度ヒ資本稅ノ起サルルコトヲ恐レデ——一度アルコトハ二度アル。一タヒ斯カル先例カ開カルルト、他日又資本稅ノ起サルルコトヲ心配シテ國民ノ貯蓄及努力カ阻碍サルル傾アリトイフノテアル(註一〇)。ソシテ其資本増殖難トイフコトハ戰後ニ於ル資本ノ重要ノ爲メニ非常ニ困ルコトテアル(註一一)。

(註一〇) みつちゆるハ曰ク、國會ハ其後繼者ヲ拘束スルヲ得ヌ。第二ノ資本稅ノ期待ハ第一ノ其ノ蓋然的結果デアルト。すこつミハ曰ク、或政府ノ特別且ツ單一ノ場合カ其後繼者ノ慣習トナルコトカ往々ニシテ生シタ。——此課稅カ永ク記憶サレ此カ唯一回タケノモノナリトイフ抗議ニ拘ラス、再生カ恐レララルト。びぐーモ亦曰ク、此カ一度用キララルトキハ、人民ハ其再ヒ用キラルヘキコトヲ恐ルルテアラウ。——特ニ努力カ政治ニ大ナル發言權ヲ有スルニ至レハ尙更テアルト。尙ふーくニ依ルニ、でーリーてれぐらふ一九一八年一月三十一日誌上ニ左ノ文句カアツ

11) Pigon, A special levy to discharge war debt. (in Economic Journal, June, 1918.) p. 143. Mitchell, A levy on capital. (in E. J. Sept., 1918.) p. 269.

12) Mitchell, l. c. p. 270.

13) Scott, l. c. p. 259-260.

タイプ。即ち一度に換貨サレタル富ノ大ナル額ヲ有ツコトノ容易ナル方法カ發見セラルトキハ、社會主義ハ一
 或ニテハ満足シナイテアラウ。併シ其後第二、第三或チ要望シ、遂ニ何モノモ剩サナイコトニナルテアラウト。¹⁴⁾
 新ナル再生ノ危険心配ハ、第一ノ資本稅力戰爭債ノ一部ノミヲ償還スルニ止メタ場合ニ一層大イ。すこつと曰ク、
 若モ此稅力公債ノ一部ヲ償還スルノモノナレハ、其殘額ヲ消滅スル爲メニ他ノモノカ作ラレルモ知レストイフ
 恒久的心配カアルテアラウト。びぐーモ亦曰ク、若モ第一回ノ資本稅力全戰爭債ヲ消却スルニ足ルタケ十分大ナル
 テナケレハ、其繰返ヤサルヘキ心配ハ一層大イテアラウト。¹⁵⁾

尙ホ一回的ノ資本稅ノミテナクテ、一般ニ資本又ハ財産稅ニツキテ同様ノ非難ヲ爲スモノアリ。例之るじじハ資
 本稅適用ノ結果ハ企業又ハ貯蓄心ノ減却又ハ壓迫ナルヘシトイヒ、こつとモ此カ貯蓄心ヲ減少シ、資本ノ増加ヲ妨
 クルテアラウトイヒ、せりぐまんモ亦、財産稅ノ大缺點ハ貯蓄ニ對スル罰トイフコトニ在リトイフコトカ或者ニヨ
 ツテ争ハレタケレトモ、其批評ハ疑ハシイ。何トナレハ所得力消費ヲ超ヘタルタケノ所得ニ基ク有ラユル稅ニ此非
 難カ當ルカラトイフ。¹⁶⁾

(註一一) すこつとハ曰ク 戦後ノ回復率ヲ決定スヘキ重要ナル元素ノ一ハ資本力産業改造ヲ備フル爲メニ作ラレル
 速度テアルト。¹⁷⁾

成程其ハ多少ハアル。此回限リトイツタトテ、他日同モノヲ起サストイフ約束ヲ國家カ
 スル譯ニハ往カヌカラ、其力又復タ起リ得ルモノトシテ、人民ニ於テ努力貯蓄ヲ躊躇スル
 コトカナイトハイヘナイ。併シ其レニシテモ今度、又資本稅力起サルトイヘハ、ヨクヨ
 クノコトテ、メツタニナイコトテアリ、サウ近キ將來ニ繰返ヤサルトイフノテナイカラ

14) Mitchell, l. c. p. 275. Scott, l. c. p. 250. 261. Pigou, l. c. p. 139. Hook, l. c. p. 172.
 15) Scott, l. c. p. 261. Pigou, l. c. p. 139.
 16) Roger, Les impôt sur le capital. p. 13. Cossa, Grundriss d. Fw. S. 128. Seligman, Essays in taxation. 8 ed. p. 59.
 17) Scott, l. c. p. 261.

矢張り人々ハ其利己心ニ刺戟セラレテ努力且ツ節約ヲ爲ステアラウ(註一二)。却ツテ此稅カ
 行ハレテ、爲メニ所得稅等カ輕イコトニナレハ努力及節約カ一層行ハレ、此稅カ行ハレス
 シテ所得稅等カ重ケレハ、努力及節約ノ阻碍セラルルコトカ大イテアラウ(註一三)。加之、
 此度、此資本稅カ行ハレナカツタナラハ、他日同様ノ場合ニ此稅カ行ハレナイトイフ保證
 カアルカトイフト、サウテモナイカラ、他日資本稅ノ起ルヤ否ヤカ、今日此カ起サルト
 否トニ關シナイコトヲモ思ハナケレハナラヌ。凡ヘテ其ノ租稅ヲ濫用スルト否トイフコト
 ハ、全ク當時ノ人民ノ常識、教育、諸階級間ノ調和的關係等ニカカルコトテ、¹⁸⁾ 將來ノコト
 ハ之ニ信賴スルノ外ハナイ。

(註一二) ろーれんすハ曰ク、夫ノ非難ハ繰返ス所ノ租稅トシテ之ヲ提案スレハ或重ミヲ有ツモ、公債減却ノ特別ノ
 目的ニテ唯一回課スル提案ニハ當ラナイト。¹⁹⁾

(註一三) びぐーハ資本稅ナキ場合ノ重キ所得稅ハ非常ニ企業ヲ妨グトイヒふあいふあいハ財産稅ニツキテ、此ハ一
 部所得稅ニ於ケルカ如ク、大ナル勉強及大ナル元氣カ稅ニヨツテ罰セラレナイ長所ヲ有ツトイヒ、しふふれーハ又、
 財産稅カ國民ノ貯蓄心隨テ資本成形ヲ弱ムルモノト見ラレタカ、此主義ハ一般ニハ正當テナイ。財産ニ從テ測定サ
 レタル稅ハ財産元本ヨリ出サレナイテ所得ヨリ出サルル。財産ニヨル課稅ハ加之財産集積ニ對スル動機ヲ強ムルコ
 トカ出來ルトイフ。²⁰⁾

18) Hook, l. c. p. 172.
 19) Lawrence, l. c. p. 59. 80.
 20) Pigou, l. c. p. 143. Pfeiffer, Staatseinnahmen. II. S. 237. Schäffle, Steuern. A. T. S. 153.

(ロ) 努力所得ノ特別税及資産所有ノ宥恕的年賦支拂負擔ノ爲メ——資本税カ課セラレテ其ニ努力所得者ニ對スル年賦税ノ補充カ行ハレ、更ラニ 産所有者ニモ宥恕的年賦支拂ノ途カ開カルルコトニナルト、其等ノ者ニハ戰後、普通税ノ外ニ特別ナル右ノ負擔カ負ハサルコトニナリ、彼等カ其重キ負擔ニ堪エスシテ努力及節約ヲ妨ケララルコトニナリ得ル²¹⁾ 成程、論者ノイフ如キコトモアル。併シ此資本税カ行ハレナカツタナラハ重キ所得税ヲ負フコトニヨツテ同様ノ困難ヲ見ルコトヲ考エナケレハナラス。加之資本税カ行ハレタ場合ノ特別負擔ノ方カ、其カ行ハレスシテ重キ所得税トナツタヨリモ一層短期間ニ限ララルタケ、彼等カ一層努力及節約ヲ刺戟サルルトイフコトモアル。

(B) 外國資本ノ流入難——一タヒ資本税カ課セラルルト、其ノ再ヒ課セラルルコトアルノ心配ヨリ、外國資本ノ流入ヲ妨クルコトカアル。

成程、其モ全クナイトハイヘナイ。第一回ノ資本税ニテ若干ノ外國資本ヲ免除シタニシテモ十分此危險ヲ除クコトハ出來ナイ(註二四)。尤モ此資本税トイフハメツタニナイコトデアルカラ、サウ甚シク將來ノ外資流入ノ妨トナルコトハアルマイ。特ニ此資本税ノ課セラレタル後ノ所得税等カ大ニ輕イ以上ハ、却ツテ外資ヲ呼入レル誘惑モアルトイハナクテハナ

21) Scott, l. c. p. 263.

ラス。外資流入難テハナクテ、流入易カ存スルトモイヘル。ソシテ其ハ戰後ノ活動ノ爲メ一層好都合トイフコトニナル(註一五)。

(註一四) す、つミハ曰ク、英國ノ資本税ニテ政府債ニ於ケル外國人ノ放資カ免除サルヘシトイフモ、其ハ無効デア²²⁾ル。自國外ニ其資本ヲ用井ヤウトイフ資本家ハ最嚴格ナル吟味ヲ爲スモノテアル。忘想的ニセヨ不安カアレハ、之カ流レノ方向ヲ變スルモノテアルト²³⁾。

(註一五) みつちねるハ曰ク、他ノ事情カ同ナレハ、世界ノ資本ノ出來ルタケ大部分ヲ自國ニ止メルコトカ各國ノ利益テアルト²⁴⁾。

(三) 經濟界擾亂

(A) 價格ノ大下落——資本税ヲ納ムルカ爲メニ、財産ノ賣却カ一時ニ多ク生シテ、其價格ノ大下落カ生シ、恐慌ヲモ生スルコトニナルトイフコトカ想像セララル²⁴⁾。

併シ此ハ後ニ實行方法ニテモイフ如ク、納税者カ必スシモ貨幣ニテ納税スルヲ要セスシテ、戰爭債、加之國家ノ取ルコトヲ好ム所ノ種々ナル財産ニテモ納ムルコトヲ得ルノ故ニ大シテ心配ハナイ。勿論斯カル種類ノ財産ヲ有セサル人ハ勢ヒ自ラノ財産ヲ賣却スル必要ニ迫マラルケレトモ、其ハ小部分テアリ、又其場合ノ納税ニハ猶豫期間ノ與ヘラルコトモアルカラ、徐ロニ處分スルコトカ出來テ、一時ニ大ナル額ノ財産ノ賣却カ起リ、大ナ

22) Scott, l. c. p. 260.

23) Mitchell, l. c. p. 269.

24) Lawrence, l. c. p. 78.

ル價格ノ下落ヲ生スルトイフ程ノコトハアルマイ。全ク斯種影響カ生セストハイヘナイニセヨ、大シタコトテハアルマイ。尙又資本税ノ結果タル通貨緊縮ヨリ生スル價格ノ下落、金利ノ騰貴ヨリ生スル有價證券ノ下落ハアリ得ルカ、其ハ別論トスル。

(B) 營業ノ破壊——或人カ其資産ヲ凡ヘテ營業ニ投シタル場合ノ如キ其ニ資本税ヲ課スレハ其營業ヲ破壊スルコトニモナルトイフコトカアル。²⁵⁾

勿論斯カル營業者ハ其營業ノ上ニ私的擔保關係ヲ作ツテ貨幣ヲ得テ、其ヲ國家ニ出スコトモ出來ルシ、或ハ數年ニ亘リテ年賦支拂ヲ國家ヨリ許サルルコトモ出來ル。何レノ場合ニモ營業者ハ其資本税額ニ對シ利子ヲ拂フヲ要スルコトニナル。其利子ハ此税ナケレハ負フヘキ所得稅トシテ取去ラルルモノヨリハ小テアラウトイフコトカアルカモ知レヌカ、ソシテ其利子ノ支拂ニ止マル間ハ又其丈ケニテハ拂ヘヌコトハナイテモアラウカ、借テ資本税其モノヲ出スコトニナレハ、其レタケテハ矢張り結局營業財産其モノノ棄賣テモシナクテハナラヌコトモ生シ得ル。テ多少ノ困難ハ見逃スコトヲ得ヌ。

其二 資本税ノ經濟上ノ利益

(一) 努力獎勵——資本税カ行ハレテ戰後ノ所得稅等カ輕キコトカ出來レハ、努力者ハ益々

25) Lawrence, l. c. p. 79.

26) Lawrence, l. c. p. 79.

努力甲斐アルコトトナツテ、盛ニ努力スルコトトナル(註一六)。尤モ資本税施行當時ニ於ケル努力所得者カ補充税ノ爲メ或期間苦シムトイフコトハアルケレトモ、其期間カ過クレハ之ヲ感セストイフコトニナリ、其他ノ努力所得者ニ至テハ、非常ニ輕イ負擔、然ラサレハアルヨリモ輕キ負擔ノ爲メニ益々努力ヲ勵ムコトニナル。

(註一六) 註一三、ぶあいふあー説參照

成程右イフ如キコトトナル傾ハアル。併シ反面ニ資本税ノ再生ヲ恐レテ、若干貯蓄ヲ躊躇スルコトアルヲ免レヌトイフコトカアル。或ハ高イ所得稅ハ大シテ努力ノ元氣ヲ銷磨スルモノテナイトイフ論者モアルカ(註一七)、其ハ必スシモ據ルコトヲ得ナイ。

(註一七)

例之みつちけるハ曰ク、若モ所得稅カ比例率ヨリ餘リ遠カラサルモノ(輕キ差等ノ累進率)ニテ課セラレルナラハ頗ル高キ所得稅ノ結果カ爾ク明カタナク、元氣及企業ノ大小ノ相對的結果ハ同一ニ止マル。——夫ノびぐーノ高キ所得稅ニ對スル非難ハ烈シキ累進稅ノ下ニ生スル元氣及企業ノ衰神ニ向ケラルルヤウテアルト。²⁷⁾

(二) 資本増加

A) 貯蓄増加——資本税カ行ハレナケレハ戰後ノ所得稅等カ重ク、貯蓄ノ餘裕ノ少イコトニナルノニ、資本税カ行ハレハ所得稅等カ輕ク、貯蓄ノ餘裕ノ多イコトニナリ、其上ニ

27) Mitchell, l. c. p. 269.

モ後者ノ場合ニハ前ニイフ努力者ノ一層ノ努力トイフコトモアル。加之此場合多少資本ノ
 缺乏ヲ生シ利子ノ高クナル傾カアリ、此點ヨリシテモ貯蓄ノ刺戟力大イ(註一八)。

(註一八) ありすまゝニ依ルト、ふらんくふるてる新聞一九一七年十二月七日誌上ニ、此資本税カ奮勵努力及節約ノ
 精神ニヨツテ、失ハレタル資本ヲ回復スル爲メノ最高ノ刺戟ヲ凡ヘテノ關係者ニ與フルテアラウト説カレテアルト。²⁸⁾

(B) 外資流入——資本税カ行ハレテ所得税等カ輕キコトカ出來レハ、其ノ然ラサル場合ヨ
 リモ一層外資ノ流入ヲ進メルトイフコトカアル。此事ハ既ニ前ニモ一言セル通りテアル。
 (三) 通貨緊縮——資本税カ行ハルル結果ハ、大體通貨緊縮ヲ生シテ經濟生活ヲ安易トスルノ
 傾ヲ有ツ(註一九)。

(註一九) ろーれんすハ曰ク、資本税カ戰爭債其モノ又ハ他ノ政府債ニテ支拂ハレ、其政府ニ於ケル領收ニ際シテ消
 却サルルタケテハ、其結果ハ通貨緊縮ヲ生スルテアラウ。此税カ所得ヨリ貯蓄セラレタル貨幣ニテ支拂ハレ、此貨
 幣カ國家ニヨリ公債ヲ消却スル爲メニ用井ラルルタケテハ、通貨緊縮カ又生スル(此場合ハ一時ノ緊縮)。夫ノ税カ
 他ノ既存ノ株等ニテ拂ハルルトキニモ、通貨緊縮ヲ生スルテアラウ。何トナレハ此等ノ物カ最早私人ノ手ニ存セサ
 ルトキニ、信用カ此等ノ物ノ上ニ立テラルルコトカ出來ナイカラ。他方ニ信用ノ新ナル道具例之抵當カ此税ヲ拂
 爲メニ生セラレタルタケテハ通貨緊縮カ生シナイテアラウ。斯クテ此ニ或場合ニハ附加的通貨膨脹カアルテアラウ。
 併シ此税ノ純結果ハ商品ノ價格ノ低下スルコト及生活ヲ安易トスルコトテアラウ。他方ニ證券ノ價格ハ低クセラ
 ルヨリハムシロ高クセラレルコトテアラウト。²⁹⁾

28) Haristoy, Finances d'après-guerre et conscription des fortunes. p. 130.

29) Lawren e, l. c. p. 754

成程資本税ニテ公債其他ノ證券等ニテ政府ニ取上ケララルルタケテハ、信用ノ基礎カ民間
 ニ少クナルカラ其レタケ信用的通貨ノ緊縮スルコトハ確カテアル。斯クテ戰爭ニヨリ膨脹
 シ過クルコトトナレル通貨ヲ緊縮スルノハ經濟界ヲ常調ニ復セシム。以テアリ、物價カ
 低下シテ労働者ノ生活ヲ樂ニスルトイフコトモアルカ、併シ其過渡ノ時代ニハ企業家ヲ苦
 シメ労働者ニ失業ノ危険モアルコトヲ見逃シテハナラヌ。尤モ其ニ對シテノ救濟方法カ別
 ニナイ譯テナイカラ、其アルノ故ニ資本税ヲ止メルトイフニハ當ラナイ。
 (四) 國際活動ノ容易——右記ノ諸項即チ努力カ獎勵セラレ資本カ豊富トナラントシ、通貨緊
 縮シテ物價低廉ナラントスルハ何レモ一國民ノ國際活動ヲ容易ニスルモノテアル。一時多
 少利子カ高クナルトモ其ハ懸カテ緩メラレヤウシ、特ニ所得税等カ輕イトナレハ確カニ此
 活動カ容易トナルヲ得ルテアラウ(註二〇)。

(註二〇) ありすまゝニ依ルト、このみすま一九一七年十一月二十四日誌上ニ表ハレタル論文ニ下ノ文句カアル。
 曰ク、世界ノ市場ニ現ハレテ商權ヲ握リ、萬足ヲ以テ資本ヲ増加シ益々發展スル國民ハ、戰爭ヨリ生スル重キ負擔
 ヲ其肩ノ上ヨリ最速カニ逃ルルコトトナレル國民ナルコトハ確カテアルト。³⁰⁾

(五) 財産回復——資本税ニヨツテ一タヒハ國民ノ財産ヲ減少スルコトニナツテモ、此カ一回
 限リテアル以上ハ、右記ノ如キ諸結果カ起リ、結局段々ト回復サルルコトカ出來ルテアラ

30) Haristoy, l. c. p. 125.

ウ(註二)。

(註二) 匿名政治家曰ク、財産税ハ其唯一回ノ使用ニ於テ、固ヨリ國民財産ニ對スル攻撃力爲サルルトモ、其結果ハ容易ニ回復サルルテアラウト³¹⁾

(六) 有限責任會社ノ地位ノ改良——此ハ特殊ノ事項テハアルカ、資本税ノ一結果トイフコトヲ得ル。即チ此種會社ハ一方ニハ資本税ノ行ハルルタケ其資本税ヲ自ラ負フコトナクシテ所得税ノ負擔ノ輕キコトヲ得ルコトナリ、他方ニハ資本税ノ行ハルル其結果トシテ國債償還カ行ハレ、其償還ヲ得タル箇人カ其得タル金ヲ此會社ニ投下スルコトノ多クナルトイフコトモアルカラテアル³²⁾

第二段 資本税ノ財政上ノ利弊

其一 資本税ノ財政上ノ不利

(一) 資本税ノ爲メニ、然ラサレハ生スヘキ利益ヲ失フコト、
(A) 公債ニ關シ——資本税ヲ行ハス隨フテ公債償還ヲシナイテ措クト、財政トシテ色々ナル利益ノ得ラルルノニ、資本税ヲ行ヘハ之ヲ失フトイフコトカアル。先ツ公債ニツイテ見ルト、

31) Staatsmann a. D., Fw S. 276.

32) H ok, l. c. p. 170-1.

(イ) 國民經濟力ノ進歩ニ依ル公債ノ負擔輕易ノ利益ヲ失フコトニナル。資本税ヲ行ハス隨フテ公債償還ヲ後日ニ延ハシテ置ケハ、國民經濟力カ進ムカラ、今日急イテ返スヨリモ國民力隨テ財政カ一層樂ニ返スヲ得ルコトニナル。テアルカラ今急イテ資本税マテ取ツテ返スノハ愚テアルトモイヘル。

成程其モサウテアル。國民經濟力カ進ムト假定シテ、今日一圓返スヨリハ數十年後ニ一圓ヲ返ス方カ樂ニハ相違ナイ。然リトテ後世ニハ又後世ノ負擔モアルカラ、其アルカ故ニ餘リ負擔ヲ後世ニ殘スノハ考物トイハナケレハナラス。加之其假定タル國民經濟力ノ進歩トイフコトカ果シテ、資本税ヲ行ハス隨フテ所得税等ノ重キ状態ノ下ニ望ムコトヲ得ルヤニモ疑ナキヲ得ナイ。次キニハ

(ロ) 通貨價值ノ下落ニ依ル公債ノ負擔輕易ノ利益ヲ失フコトカアル。通貨價值ハ大勢カライヘハ下落シツツアル。其點カライフモ今急イテ返スヨリハ、後日安クナツタ通貨ニテ返ス方カ、財政トシテハ利トイヘル。隨フテ今資本税ヲ起シテ急イテ公債ヲ返スハ愚トイフコトニナル。

成程此モ永イ間ヲ取ツテ見レハ斯クイヘルカ、若モ短キ時ヲ取ツテ見レハ、此戦後ニハ

戦時中ニ比シテ、通貨緊縮カ行ハレテ、通貨價值ノ多少上ル傾カアル。然ルトキハ少クトモ此間ニ於ケル國債元利拂ハ、此高クナルヘキ通貨ニテ爲サレナケレハナラヌカラ、國債ヲ今其儘ニシテ置クヨリハ、尙通貨ノ安イ間ニ急イテ元金ヲ返シテ夫ノ負擔ヲ免ルルヲ選ムヘシトイハナクテハナラヌ(註二二)。

(註二二) ろーれんズハ曰ク、數年ニ亘リ所得ヨリ利子ト減債金トヲ拂フ他ノ(資本税ヨリモ)方法ハ國家チシテ高キ物價ノ中ニ起シタル債務ヲ低キ物價時代ニ拂ハシムルコトナルト。³³⁾

ハ低利債ニ借換ヲ爲スコトニ依ル公債ノ負擔輕易ノ利益ヲ失フトイフコトモアル。後日ニナレハ政府ノ信用モ進ミ又金融界モ順調ニナツテ低利借換ノ便ノ生スル見込モアル。今急イテ返ヘセハ此利ヲ失フトイフコトニナル。

成程其モサウテハアルカ、前ニモイフ如ク後世ニハ後世ノ負擔アリトイフコトヲ考ヘナクテハナラヌシ、又資本税ヲ行ハス重キ所得稅ヲ續クルカ如キ状態ノ下ニ、果シテ期待セラルル如キ借換ノ好機ノ來ルヤニ疑アルコトモ思ハナクテハナラヌ。

(B) 租税ニ關シ——資本税ノ行ハレサル場合所得稅等カ重クテ溜マラヌトイフカ、其負擔ハ國富ノ増進、公債ノ借換、減債ノ續行等ニヨツテ漸次低下スル見込カアル(註二三)。資本

33) Lawrence, l. c. p. 74

税ヲ行フトキハ、然ラサレハ生スヘキ此等ノ利ヲ失フトイフコトニナル。

(註二三) す、つミハ曰ク、(資本税ノ行ハレサル場合ニ)所得稅率ノ下ルヘキ可能カアル。一部ハ公債ノ借換ニヨリ、

一部ハ減債基金ノ働ニヨリ、一部ハ租税ヲ賣フヘキ所得ノ次第二増加スルコトニヨリテアルト。³⁴⁾

成程サウモイヘルカ、國富ノ増進、公債ノ借換、減債ノ續行等カ果シテ期待セラルル如ク實現サルルヤニ疑モアルコト故、此ハサウ大シタ問題テハナイ。

(二) 資本税ノ爲メニ生スル損害

(A) 財政ノ放漫——資本税ニヨツテ戰爭債カ大減少又ハ全滅スルコトニナレハ、其後ノ財政ハ餘程樂ニナルカラ、財政カ放漫ニナリ、爲メニ所得稅等モサウ輕クナラヌトイフコトカアル(註二四)。

(註二四) す、つミハ曰ク、資本税カ行政ニ於ケル浪費ノ繼續ニヨツテ、其場合ノ小減債基金ノ匹敵又ハ代リトナル程ニ、資本税外ノ税ヲ増加スル可能チモツト。³⁵⁾

成程イフ所ノ如キ傾アルコトハ確テアル。併シ左様ノコトカアルカラトイフテ、態々大公債ヲ其儘ニシテ負擔シテ居ルトイフ必要ハナイ。又此戦後ニハ只サヘ戦後經營トシテ財政上爲スヘキコトカ多イカラ、此戰爭債カ殘ラナイトテモ、到底戦後財政カ放漫ニナルナ

34) Scott, l. c. p. 263.

35) Scott, l. c. p. 254.

トイフ餘裕ハナイ。

(B) 租税收入ノ減少——資本税カ行ハルレハ私人ノ富力減少スルカラ、其後ノ租税收入ニ大減少ヲ生スルコトニナルヲ免レヌ(註二五)。

(註二五) ろれんすハ注意シテ曰ク、此税ニヨツテ私人ノ富ノ減退ヲ生シ、租税ノ興ヘラレタル率ニテ其後國家ニヨリ取得セラルル額ヲ減スルテアラウ。此カ相續税、超過税及不勞所得税ニ當ル。此等カ累進率トナル故、富ノ減少ノ割合以上ニ減少スルコトトナルテアラウ。他方ニ努力所得ハ一般ニ無影響ニ止マルヘク、隨ツテ此等ノモノノ上ノ租税收入ハ減少セラレナイテアラウ。關稅、内國消費税、郵便及電信收入及他ノ雜收入モ大シテ減少セラレナイテアラウト。ふくモ相續税所得税ニ關シテ將來ノ國家收入ノ減スヘキコトヲ注意ス。³⁷⁾

此事ハ諸多ノ學者カ財產税ニツキ注意スル所テモアル。例之らうハ(資本ニ對スル税ニヨリ)國民カ貧乏トナルコトニヨツテ租税能力ノ減少ヲ生スルトイヒ、³⁶⁾ といへるハ亦、租税ハ財產元本ヲ侵スカ如ク制定サレテハナラヌ。何トナレハ之ニヨツテ個人ノ經濟上ノ地位カ不長トセラレ、國家カ自ラ其租税力ヲ奪去ルコトトナルカラトイヒ、こゝら一ゴモ、租税ハ唯々所得又ハ純收益ヨリノミ取ラレヘキテアル。何トナレハ然ラサレハ此カ資本ヲ侵シ、國ノ給付能力ヲ永續的ニ減少スルカラトイヒ、ばるぐさモ、財產税ハ永續的租税徵收ノ爲メノ重要ナル基礎ノ破壞ニ導クトイフ。³⁷⁾

成程其ハ確カテアル。併シ其反面ニ、資本税ノ行ハレタ場合ニハ、公債ニ對スル國家支出ノ減スルトイフコトカアルカ、然ラサレハ政府ノ資本税トシテ領收スル財產ヨリノ收入

36) Lawrence, l. c. p. 74. Hook, l. c. p. 174.
37) Rau, a. a. O. I. S. 397. Eheberg, Fw. 9 Aufl. S. 176, Conrad, Grundriss Fw. 2 Aufl, S. 27. Borghit, Fw. S. 89

カアルカシテ埋合セテ成ス。尙ホ其上ニ戰後ノ輕イ租税負擔ノ下ニ其國民ノ經濟力、隨フテ租税給付能力ノ大ナル勢ニテ増進スルトイフコトモアル(註二六)。

(註二六) ふくハ此(資本税ニヨル租税收入ノ)減少ニ對シテハ、此國ノ一層進歩スル所ノ産業生活、及帝國(英全土)ノ財源ノ一層大ナル發達ヨリ生スル此等ノ税ノ可能的ナル大收額ヲ置クコトヲ得ヘシトイフテ居ル。³⁸⁾

(三) 其他資本税ノ缺點トシテ擧ケラルルモノノ中ニツキ先ツ

A) 資本税ハ其タケニ於テ一ノ公債破棄也トイフ非難カアル(註二七)。

(註二七) ありすあニ依ルト、でーリー(らふいつく一九一七年十二月十九日分ニ、資本沒收ハ他ノ詞ニテイヘハ吾人ノ國債ノ一部破棄テアルトイフテ居ル。³⁹⁾

併シ此非難ハ正當テハナイ。却ツテ此方法ハ公債破棄ヲ行ハサランカ爲メニ採ラレタ方法テアツテ、公債ヲ正當ニ支拂ヒ、公約ヲ嚴守スル爲メニ課税ヲ行フテ居ルノニ外ナラナイ(註二八)。

(註二八) ろれんすハ曰ク、此資本税カ根本的ニ公債破棄ト異ル。⁴⁰⁾ 此カ信義ノ破棄テナイ。⁴¹⁾ 此カ一般ニ凡ヘテノ英國人タル財產所有者ニ歸スヘク、國家ニ貨幣ヲ貸シタル人ヲ不利トシナイ。⁴²⁾ 此カ外國ニ生活スル外國人ニハ歸シナイ。⁴³⁾ 此カ僅少ナル戰時貯蓄證券ヲ有ツ細民ニハ歸シナイ。⁴⁴⁾ 此カ此國ノ財政及産業ヲ混亂シナイトイフ。⁴⁵⁾

B) 或ハ資本税ハ公債破棄ト革命トノ中間通路ナトイフモアル(註二九)カ、此等モ決シテ

38) Hook, l. c. p. 174
39) Lawrence l. c. p. 79.
40) Haristoy, l. c. p. 123.
41) Lawrence, l. c. p. 79.

正確ナル詞ヲハナイ。

(註二九) ありすまゐニ依レハ、このみすま一九一七年十二月二十七日誌上ニ此言アリ。⁴²⁾

(C) 或ハ此資本税ニハ脱税カ多カラウトモイフカ、其モ成程多少ハアル。併シ其ハ如何ナル戦後財政處理法ニモ免レス、特ニ此ニ代ハルヘキ高キ所得税ニハ尙更ラテアラウカラ、大シタ特別ノ缺點トハイヘナイ。

其二 資本税ノ財政上ノ利益

(一) 收入ノ確實——資本税ヲ採レハ兎モ角戦後ノ第一年ニ現實ニ大收入ヲ得テ戦後財政處理カ出來ル。之ヲ課シナイテ置イテ、後日ノ收入ノ多カラントヲ望ンテモ、其カ果シテ期待ノ如クナルヤ覺束ナク、人ヤ物カ外國ニ逃レテ爲メニ收入カ十分ニ擧ケラレナイカモ知レナイ。目前ニ大收入ヲ擧ケテ置ク方カ確カトイフコトニナル。尤モ反面カライフト、永遠ノ壽命ヲモツ國家ハサウ目前ノ事ノミ考ヘ、特ニ其自ラノ收入ハカリ考ヘナイテ、進ンテ永久ニ亘ル人民ノ活動ノ基礎ヲ殘スコトヲ考ヘナクテハナラヌトイフコトモアル。

(二) 租税負擔ノ輕易——資本税ヲ行クト、一時ハ苦シカラウカ、戦後ノ所得税等カ輕イノテ樂テアルトイフコトカアル。尤モ資本税カ行ハレナケレハ、此アレハ國家ニ取ラルヘキ資

42) Haristoy, l. c. p. 126.

本カ民ニ殘ルカラ、此場合ノ重キ所得税等ノ堪エラレヌトイフコトハナカラウトモ考エラルルカ(註三〇)、一方其場合ニハ其國ヲ去ルヘキ資本モアルヘク、他方其トキノ税ハ國債ノ元金償却部ノ外、利子額ヲモ含メタルモノテアルカラ、或ハ比較的ニモ重キ負擔トナルテアラウト考ヘ直シテ見ナケレハナラヌ。

(註三〇) すこつミハ曰ク、一國カ資本税ヲ堪ユルヲ得ル程ナレハ、其ニ代ルヘキ租税ニモ堪ユルコトヲ得ルテアラウト。⁴³⁾

(三) 財政信用ノ回復——資本税ヲ思切ツテ行ツテ、其國ノ公債ヲ減ラセハ、之ヲ行ハサルニ比シ其財政信用ノ高マルコトハ論ナキコトアル(註三一)。勿論公債カ殘ツテモ國民經濟ノ大發展サヘ起レハ、財政信用ハ回復スルトモイヘルカ、併シ資本税ハ行ハス大公債ヲ其儘ニスル状態ノ下ニ斯カル國民經濟ノ大發展カ行ハルルヤ、疑ハシイ。

(註三一) ありすまゐニ依ルト、ふらんくふるてる新聞一九一七年十二月七日誌上ニ、國ノ財政力及信用ヲ回復スル爲メニハ戰爭債ノ一大部ヲ解放スルコトカ、他ノ方法ヨリモ一層重要テアラウトイフテ居ル。⁴⁴⁾

第三段 資本税ノ政治及社會上ノ利弊

其一 資本税ノ政治及社會上ノ不利

43) Scott, l. c. p. 266.

44) Haristoy, l. c. p. 130.

本稅ニ對シ政治及社會上ノ弊害トシテ先ツ(一)此カ社會主義ノ第一歩也トイフコトカ擧ケラルル(註三二)カ、此稅ハ決シテ社會主義說ヨリ成ツタモノテナイ。現在ノ經濟組織ノ下ニ單ニ財政上ノ必要ニ應スル爲メニ財產ノ一部ヲ取立ツルモノニ過キナイ(註三三)。

(註三二) ありすさあニ依ルト、でいりーぐらふいつくノ一九一七年十二月十九日誌上ニ、彼レはーなーろーハ、此案カ戰費ヲ供スル目的ニテハ非スシテ、國民ノ凡ヘテノ資本ヲ國家ノ手ニ置クヘキ社會主義者ノ理想ニ近ツク爲メニ作ラレタルコトヲ知ラナカツタトイフ擲論カ出テ居ル。⁴⁵⁾

(註三三) ありすさあハ曰ク、財產沒收ノ考ハ社會主義的ノ考テナナイ。——資本稅ハ富ノ生産流通及分配ニ大變化ヲ齎ラスモノテナハナ。此ハ社會的不平ヲ調整スルモノテナク、生産要具及資本一般ノ共有又ハ國有ヲ定ムルモノテナイ。此カ單ニ國ノ財政上ノ必要ニ從ツテ處置スル一ノ例外的方便ヲ成シ、單ニ財產ノ一部ノ沒收、資本ノ一時の減少ニ關スル。予ハ財產ノ平均ヲ提案シナイ。予ハ國民資本及私人資本ノ不可侵ノ古キ原則ヲ固守スル。——財產沒收ノ思想ハ(社會的ノ考テナナクテ)一ノ國民的ノ考トナラナクテハナラヌト。⁴⁶⁾

(二)其他、此稅カ政治上ニ濫用セラレテ、一部ノ者ヲ壓迫スルノ道具トナルコトカアリ得ル(註三四)。斯カル事カ常ニアルトハイヘナイニセヨ、其ノ起リ得ルコトハ否ムコトヲ得ヌ。

(註三四) ばーりゆーハ曰ク、資本稅ノ運用ハ非常ニ微妙ナル。特ニ政黨カ非常ニ亂暴ナル處、行政カ安定及公平ヲ得ナイ處テハサウテアル。然ルトキハ此カ類廢シテ、壓迫道具トナルノ危險カアルト。⁴⁷⁾

(三)或ハ又此稅カ産業ノ壓迫ヲ來シ、勞働者ニ支拂フヘキ資金ヲ減スルタケテハ勞働者ノ不

利トナルコトヲ免レナイ(註三五)。尤モ假令勞働者ノ受ル賃金ハ少クナツテモ物價力之ニ應シテ安クナレハ別段彼等ノ苦痛テハナイシ、資本稅ノアル方カ其ノ之ナキヨリモ一層多ク産業ヲ壓迫スルヤニハ疑問カアル。故ニ此非難ニハ餘リ重キヲ置クコトハ出來ナイ。

(註三五) わぐな一ハ通例ハ其避クヘカラサル賃金ノ低下ニ於テ、下層勞働階級カ最重キ壓迫ヲ感スルテアラウトイヒ、らうハ資本カ稅ニヨリ減シタトキニ——最早同丈ケノ財產カ勞働者ノ仕事ニ對シテ之ナキコトニナリ、其所得ノ一部ヲ減損スルコトトナルトイフ。⁴⁸⁾

其二 資本稅ノ政治社會上ノ利益

(一)資本稅ノ政治及社會上ノ長所トシテ重要ナルハ、此カ之ナキ場合ヨリモ富者特ニ無努力所得者ヲ一層重ク課稅シ、中以下ノ努力所得者ヲ一層輕ク課稅スル傾アルコトテアル(註三六)。勿論、努力所得者ト雖モ補充稅ヲ課セラルルコトニハナルカ、併シ其ハ財產ニ課セラルル本稅ヨリハ割合ニ輕カルヘキテアル。ソシテ又其一定限以下ノ者ハ凡ヘテ免稅サルルコトトナルカラ、大體右ノ如キ結果トナル譯テアリ、其事ハ確カニ一般政治及社會關係上、良好ノ狀勢ヲ齎ラスヘキテアル。

(註三六) ろーれんすハ曰ク、此方法ニテ中位ノ所得ヲ有スル營業者ハ、然ラサレハ課セラルヘキ重キ所得稅ヨリモ此資本稅ヲ其營業ニトリ一層小ナル障礙ト見出ステアラウ。資本稅ノ重サヲ最甚シク感スヘキ人ハ、大富者、及其

48) Wagner, a. a. O. S. 316. Rau, a. a. O. I. S. 397.

45) Haristoy, l. c. p. 123.

46) Haristoy, l. c. p. 132 141.

47) Beaulieu, Traité de la science des finances. 5 éd. l. p. 500.

放資ノ爲メ人的努力ナクシテ生活スル人々ヲアラウト⁴⁹⁾
 (二) 次キニハ此税ハ無産者ノ資本金ニ對スル反感ヲ緩和スルノ效果ヲ有ツ(註三七)。ソシテ斯ノ如キハ確ニ現代ノ社會ノ秩序ヲ保全スル爲メニ肝要ナルコトアル。

(註三七) ありすまわニ依ルト、⁵⁰⁾このみすこ一九一七年十二月二十七日誌上ニ、此税カ資本集積ニ與ル機會ヲ有タナイテ、ムシロ其資本利子ヲ支拂フ爲メニ租税ヲ負ハナクテハナラヌコトヲ豫見スル者ノ怨恨ヲ和クルノ效果カアルト論シテ居ル。⁵¹⁾

(三) 終リニ此税ノ實行方法ニ依ルコトテハアルカ、提案者ノイフ如ク、必ズシモ之ヲ現金ヲ納メナイテ或種ノ資本其モノニテ納ムルコトモ許サルコトナレハ、則チ自然其結果トシテ、國家カ鐵道、鑛山、船舶、銀行、保險、軍器工場等ノ株ヲ有ツコトニナルカ、其カ廳カテ國家ノ此等ノ公共的事業ニ對スル干渉ヲ十分ナラシメ、從來ノ如ク此等ノモノニツキテノ資本金的特徴ヲ減シテ餘程、社會一般消費者ト労働者トノ爲メヲ計ルコトカ多クナル傾ヲ有ツコトニナルトイフ利益カアル(註三八)。

(註三八) ろーれんすハ曰ク、資本税ノ賦課ハ國家ニ、或國民的公共勤務ニ於ケル直接ノ財政上ノ利益ヲ與フルテアラウト⁵¹⁾

結 論

以上、資本税ノ利弊ヲ考察シタル結果ハ、此點ニ於テハ到底前回ニ述ヘタル公平負擔ノ批評ノ如ク斷乎タル決定ノ出來難キコトヲ見出サナクテハナラヌ。其長所ニハ生産又ハ經濟上ヨリイフテモ、財政上カライフテモ、將タ政治及社會上カライフテモ非常ニ重要ナルモノカアルカ、然リトテ反面ニ重大ナル缺點モアツテ、其ノ何レニ重キヲ置クカトイフコトハ人々ノ見解次第テアルトイハナクテハナラヌ。到底精密ニ輕重ヲ定メルコトハ出來ナイ私自身トシテハムシロ其利益ニ重キヲ置クコトニ傾クモノテアルカ、然リトテ反對ノ立場ニ立ツ人ニモ相當ノ敬意ヲ表スル所テアル。斯カル問題ニツキテハ學者トシテハ唯ダ想像スヘキ種々ノ事項ヲ出來ルタケ多ク列舉シテ、實際家ノ取捨ニ任カスノカ適切テアラウト思フ。(大正八年五月)

49) Lawrence, l. c. p. 77.

50) Haristoy, l. c. p. 126.

51) Lawrence, l. c. p. 73.

第五編 臨時資本税ノ課徴方法

緒言

(一)前編并ニ前々編ノ論文ニ於テ、資本税ニ關スル根本ノ問題ヲ説明シ、其ノ必スシモ不當ナラサル所以ヲ明ニシタ。詳シクイヘハ公平負擔ノ要求カライヘハ、其カ正當ナモノテアリ、其利弊カライヘハ、利弊半ハシテ取捨ニ苦シマシムルカ、兎モ角其利益ニ重大ナルモノノ存スルコトヲ認メナイ譯ニハ往カナイ。其處テ資本税ニ關シテ殘ル所ノ問題ハ、其實行ニ適當ノ方法アリヤトイフコトテ、此ニ就キ斷乎タル肯定的答辯ノ與エラレサル以上、之カ實施ニ躊躇シナケレハナラヌ。併シ何分ニモ此税ニハ未タ先例ノナイコトテアルカラ此點ノ議論ハ甚タ六ツカシイ。トイツテ之ヲ不問ニ附スル譯ニモ往カヌカラ、一通リ諸家ノ議論ヲ參照シテ、其ヲ考查シタ上、一應ノ意見ヲ立テヤウト思フ。敢テ此ニ之ヲ説ク所以テアル。

(二)説述ノ順序トシテハ、先ツ其賦課方法ヲ説キ、ソレヨリ其徵收方法ニ及フ。ソシテ賦課方法テハ課税物件ノ捕捉ト其評價トニ分ツテ之ヲ説クコトトスル。

第一段 資本税ノ賦課方法

其一 課税物件ノ捕捉

(一)課税物件捕捉ノ方法——資本税ノ實行上、先ツ問題トナルノハ其課税物件ノ捕捉テアルカ之ニ就キテハ先ツ以テ各人ヲシテ、税法發布及施行當時ノ財産状態ヲ申告セシメル。即チ此自己申告ニ待ツノ外ナキ譯テアルカ(註一)、其ノ虚偽ニ亘ルノヲ制スル爲メニハ更ラニ英國ノ如キナレハ所得税相續税ニ關スル材料ヲ用キ、尙ホ其上ニモ政府ニテ相當ノ調査ヲ行フヘキテアル。

(註一) こんらーじハ財産税ニハ自己申告ヲ缺クコトヲ得ヌトイヒ、ばりゆーハ一般財産及所得税ノ實施ヲ合圖スルモノハ、納税者ノ或度ノ正義、忍耐及自發ノ必要テアルトイフ。²⁾

(二)捕捉上ノ困難及疑問

A 捕捉ノ困難

(イ)虚偽申告ノ行ハレ易キ物——斯クシテ大體ハ捕捉シ得ナイコトモアルマイカ、就中無記名證券³⁾ノ如ク所有者ヲ曖昧ナラシメ得ルモノ、家具什器ノ如ク家庭ノ内部ニ立入ラサレハ明カニシ得サルモノ(註二) 特ニ寶玉類ノ如ク隱匿ノ全ク容易ナルモノニハ虚偽申告ノ

1) Lawrence, A levy on capital. p. 81.

2) Conrad, Grundr. ss. Fw. 2 Aufl. S. 39. P. rieu, Traité. 2 éd. l. p. 482-3.

3) Lawrence, l. c. p. 81.

行ハルルヲ免レナイ。併シ此事ハ獨リ資本税ニ限ツタコトヲナク、所得税相續稅奢侈稅等資本税ニ代ハルヘキモノニモ均シク免レナイコト故、此カ爲メニ資本税ヲ探ラヌトハイヘナイ。之ニツキ相當ノ取締ヲ行ツタ以上、若干ノ脱稅カ行ハレテモ、其ハ已ムヲ得ナイトイフヨリ外ハナイ。更ラニ

(註二) ぶあいふあハ財産税ニ就キ、營利的ナラサル財産ノ詮索ハ、私事情ニ對シ面倒ナル干渉ヲ行ハナイテハ全ク不可能テアルトイフ。⁴⁾

(ロ) 財産状態ノ變動常ナキコト——ノ爲メニモ此税ノ課稅物件ノ捕捉難ヲ生スル(註三)。成程此税ニテハ稅法發布隨テ施行當時ノ状態ニ依ツテ課スルトイフカ、ソシテ所得税相續稅等ノ材料ニ依ツテ虚偽申告ヲ牽制スルトイフケレトモ、後者ノ材料ニ現ハレタル財産状態ト、前者ノ爲メノ状態トハ時間的ニ多少異ルカラ、必スシモ満足スヘキ牽制ニハナラヌ。其ニテ當事者ニ多少虚偽ヲイフ間隙ヲ與フルコトニナリ、又當人ニテハ別ニ虚偽ニ出ツル意思カナクトモ、或瞬間ニ於ケル財産状態ヲ嚴正ニ定ムルコトカ、變動常ナキ状態ニ就テハ事實困難トイフコトモカアリ得ル。併シ租稅事項ニハ凡ヘテ精密ナルコトノ望メヌトイフコト、并ニ租稅ニハ若干ノ捕捉ノ避クヘカラサルコトヲ是認スルナラハ、其レ位ノ缺點

4) Pfeiffer, Staatseinnahmen. II S. 303.

ハ宥恕スルノ外ナイトイフコトニナル。

(註三) ぶあいふあハ特ニ商人的財産ハ見積ルコトカ困難テアル。何トナレハ此カ時々刻々ニ變動スルカラトイヒむるはるモ亦タ、財産税ノ缺點トシテ、財産カ永續的ノ大サヲナクテ、各分間ニ變動シ、其カ當ニ其額ニ於テノミナラス其所有ニ於テモ變動スルコトヲ擧グル所テアル。⁵⁾

(B) 捕捉上ノ疑問——本税ノ賦課上、或人ニ屬スル財産トシテ捕捉スルニ就キ、多少疑問トナルノハ信託、清算及遺産ニ關聯スルモノテアルカ、之ニ就キテハ便宜上、一定ノ標準ヲ與フルコトカ必スシモ難クナイ。ろーれんすハ之ニツキ下ノ如クニ解決方法ヲ提案シテ居ル。⁶⁾ 即チ信託カ此稅法ノ發布前ニ設定セラレ、且ツ結果ヲ生シタ場合ニハ、其各特段ナル利益ノ還元價值ハ此信託ニ依リ利益ヲ受クル箇人又ハ法人ノ一般財産中ニ込メ、之ニ從フテ其箇人又ハ法人ヲ課稅スルコトトスル。信託カ此法律發布後ニ設定サレタ場合ニハ、信託ノ資本ハ此法律發布當時ニハ尙未タ贈與者ノ財産ノ一部ヲ成シタ。隨フテ租稅ノ支拂ハ此者ノ全體ノ財團ヨリ爲サルコトトナル。遺言者カ此法律發布ヨリ少シ前ニ遺言シテ、其發布少シ後ニ死亡シタ場合ニハ、當然第二ノ場合ノ如クニ解決スヘキテアルカ、其テハ困難ナル場合ヲ生スルカラ、遺言者カ此法律發布後一定期限内(例之三箇月内)ニ死亡シ其遺言カ此法律前ノ日附ヲ有ツ場合ニハ、凡ヘテノ各箇ノ遺産ニ於テ比例的減却ヲ行フトイフ特

5) Pfeiffer, a. a. O S. 303. Murhard, Theorie und Politik der Besteuerung S. 205.

6) L w ence, l. c. p. 82.

別ノ規定ヲ設クヘシトイフノテアル。

其二 課税特件ノ評價

(一) 課税物件評價ノ方法——此税ノ課税物件ノ評價ニ就キテハ、先ツ納税義務者ヲシテ申告又ハ自己評價ヲ爲サシメル。此ニ從ツテ彼ヲシテ一應納税セシメタ上、政府ニ於テ其評價ヲ審査シ修訂シテ、此ニ從ヒ義務者ヲシテ追加拂ヲ爲サシメ、又ハ彼ニ過大取立ノ分アラハ之ヲ返戻スルコトトスヘキテアル。⁹⁾ ソシテ此政府ノ審査修訂ニツキテハ、彼カ別ニ有スル所ノ所得税相續税等ノ材料ヲ利用スルコトカ出來ルシ、且ツ義務者ノ評價ニ在ツテハ、特ニ其ノ多少困難ナル特殊ノモノ、例之、土地ノ大部分、建物、家具、寶玉、箇人經營ノ工場、貯藏品、記帳貸借ノ如キモノノ評價ニハ専門家ノ評定ヲ要スルコトト定メテモ良イ。¹⁰⁾

(二) 評價上ノ困難及煩累

(A) 評價ノ困難——斯クテ此評價トイフコトハ、今日ノ如ク資産ノ有價證券化ノ廣ク行ハルル時世ニハ、大體サウ六ツカシクハナイ。既チ株、債券(其等ノモノニ市價ノ存スルタケテハ)、現金、貸金、保險證券等ニツキテハ大體容易テアルカ、¹¹⁾ 其他ノモノニハ多少ノ困難カ伴フ。其ハ恣意不確トイフコトカ伴フトイフノテアル(註四)。勿論英國ナトテハ前者カ

7) Lawrence, i. c. p. 81.
8) Arnold, A capital levy. (Economic Journ. l. June, 1918) p. 164.
9) Arnold, l. c. p. 164.
10) Lawrence l. c. p. 81.
11) Mitchell. A levy on capital. (Economic Journal Sept. 1918.) p. 274.
21) Pigou, A special levy to discharge war debt. (Economic Journal, June, 1917.) p. 148.

戦後ニハ全財産ノ七割モ占ムルトイフカラ、¹³⁾ 大體評價カ困難テハナイカ、併シ他ノモノニ於テハ困ル。其中土地、家屋、營業所等ノ如キ不動産ニハ、所得税相續税等ノ材料カ利用セラルルトシテモ、¹⁴⁾ 少クトモ雜多ナル動産記帳貸借ノ如キニハ、面倒ナル測定ヲ要スルコトトナル。之ニツキ信據スヘキ結果ヲ得ヤウトスレハ、政府ノ手テ全國ニ亘ツテ數年ヲ要スルコトトナル。¹⁵⁾

(註四) トラハ財産税ニ於ケル物體ノ評價カ恣意ト不確實トニ餘地ヲ與フルコトヲ難ス。¹⁶⁾

(B) 評價上ノ煩累——右ノ如クニシテ少クトモ或種ノ物ノ評價ノ爲メニ數年ヲ要スルトナレハ、其ハ此評價ニ伴フ煩累トイハナクテハナラヌカ、尙ホ其レニ附帶シテ、納税義務者ヲシテモ別ニ之ニツキ専門家ノ評定ヲ爲サシムルトスレハ、其ニハ費用ヲ要スル。其ヲ政府ノ負擔トスルナラハ、¹⁷⁾ 其レタケハ又政府ノ厄介ヲ加フルモノトイハナクテハナラヌ。

第二段 資本税ノ徵收方法

(一) 徵收方法其ノモノ

(A) 其大綱——本税ハ元來、特別ノ目的ヲモツモノ故、其徵收方法カ他税トハ全ク別ナル

13) Pigou, l. c. p. 148.
14) Pigou, l. c. p. 148. Arnold, l. c. p. 165.
15) Pigou, l. c. p. 149.
16) R. u. Grundsätze. 5 Aufl. II. S. 204.
17) Mitchell, l. c. p. 274.

コトヲ得ル。他稅即チ普通ノ稅テアレハ、現金ニテ取ルコトニナルカ、此稅ニ在テハ、政府カ戰爭債ヲ消却スル爲メ、又ハ其負擔ヲ減少スル爲メニ取ルトイフノアルカラ、必スシモ現金ヲ取ルニ及ハナイ¹⁸⁾。直接ニ、戰爭債ニテ取ルコトモ出來レハ、一般國債ニテモ可テアリ、其他ノ財産ニテモ一定種ノモノナレハ亦可トイフコトニナル。此等ノ物ニテ納ムルコトノ出來サルタケテハ、其ノ有ツ所ノ財産ヲ擔保トシテ年賦支拂ヲ爲スコトモ許サル¹⁹⁾。又ハ其ヲ賣却シ又ハ其ヲ擔保トシ借入レヲ爲シテ現金ヲ調エ、納稅スルコトモ出來ル²⁰⁾。其細目——今少シク此關係ヲ主トシテろーれんす²⁰⁾ニ從ツテ詳説スルト、政府ハ義務者ニ對シ必スシモ現金納稅ヲ要求シナイ。此ニテ拂フカ、一定財産ニテ納ムルカヲ選擇セシメル。政府カ現金以外ノ物ニテ受取ツタ場合ニハ、必スシモ之ヲ直チニ市場ニ賣却シナイソシテ右ノ選擇ハ單ニ一定ノ財産ノミ許スカラ、之ヲ許サレサル財産ノアルコト勿論テアル。其處テ資本財産ヲ大別三種トスル。ソシテ其ノ第一及第二種ノモノニハ之ヲ許シ、第三種ノモノニハ許サヌコトニナル。其第三種ニハ之ニテ納稅スルコトハ許サヌカ、併シ之ヲ一種ノ擔保トシ、國家管理ニ置イテ租稅ノ年賦支拂ヲ許サルコトニハナル。第一種ノモノハ、國家カ或理由テ自ラ有ツコトヲ好ムモノテ、第二種ノハ、國家カ特ニ其ヨリ生

18) Pigon, l. c. p. 149.

19) Pigon, l. c. p. 150.

20) Lawrence, l. c. p. 62-66.

スル所得ノ爲メニ有ツコトヲ好ムモノ、第三種ノハ其以外ノモノテアル。第一種財産ノ例ハこんぞる、戰爭債、國庫債券手形及證券、及其他ノ國債、信用アル外國及殖民地證券、英國ノ鐵道、礦山、船舶、銀行、保險會社、及武器工場ニ於ケル株、債券及其他ノ利益テ凡ヘテ此等ノモノハ、納稅義務者カ之ヲ選ンタナラハ、其時ノ市價ニテ又ハ特ニ稅法ニ定メタル價格ニテ取ラレルコトニナル。而シテこんぞる、戰爭債、及其他ノ國債ハ、政府ニ收納サルルト同時ニ消却セラレ、外國及殖民地證券ハ當分政府ニ保持セラレテ、便宜ナル時ニ戰爭債ノ外國人ノ手ニアルモノト換エラレルコトトナル。英國ノ諸企業ニ於ケル株、債券ニテ入り來ルモノハ、國家カ其永久ノ財産ノ一部トシテ保持スルコトトナル。或ハ事情ニヨリテハ之ヲ賣却シ得タル金ニテ又ハ其證券ト交換ノ形式ニテ公債消却ヲ行フコトモ出來ル。第二種ノ財産ハ第一種ニ屬セサル凡ヘテノ信託證券、國家カ損失ノ面倒又ハ心配ナクシテ持テ得ル其他ノ株、債券、國家カ自ラ又ハ地方自治體ノ代理ニヨリ經濟的ニ處理シ得ルカ如キ土地ニ於ケル利益、國家カ有ツコトヲ正當ト考フルカ如キ特ニ大ナル會社又ハ他ノ事業ニ於ケル利益テ、此等ハ必スシモ國家ノ永久ノ財産トハ見做サレナイ。國家カ所持シテ居ルニシテモ、其ハ戰爭債ノ利子ニ對スル所得ヲ供スルモノト見做サレ、終局ニ

ハ其一部丈ケカ永久的財産トセラルルコトカアリ得ヘク、他ノモノハ寧ロ國債消却ノ資金ヲ作ル爲メニ應カテ賣却セラレ、或ハ直接ニ國債ト交換セラレ(註五)、或ハ又他ノ永續的財産ヲ買收スルカ爲メニ賣却セラルルコトトナル。而カモ兎モ角此資本稅ノ支拂トシテハ承認セラレ、或多少永キ時ノ間、國家ノ手ニ收メラレテ市場ニハ賣出サレサルコトトナル。ソシテ富者ノ多クハ其富ノ大ナル部分ヲ、右ノ第一種又ハ第二種ノ財産ニテ持ツテアラウカラ、彼等カ直接ニ其一部ヲ政府ニ渡スコトニ依ツテ此稅ヲ納メルコトカ出來ルテアラウソシテ又何レ此稅ハ大ナル累進率トナルカラ、右ノ富者ノ支拂カ此稅ノ負擔ノ大部分ヲ占ムルテアラウ。タタ一部ノ人々ハ其富ヲ第三種財産タル右第一及第二種以外ノ雜多ナル財産ニテ有ツコトニナル。此ハ國家カ直接取ルコトヲ不便トスル。其處テ此等ノ人々ハ此財産ヲ直チニ市場ニ賣却シ、又ハ之ヲ擔保トシ借入ヲ爲スコトニ依ツテ納稅スルコトモ出來ル。カ彼等カ之ヲ希望セサルタケテハ、租稅ノ年賦拂ヲ許スコトニナル。其場合ニハ其財産ハ之ヲ國家ノ或種ノ管理ノ下ニ置キ、其ニ對シ義務者カ利子ヲ拂フコトニナリ、且ツ義務者ノ選擇ニヨリ何時テモ即時拂ヲ爲スコトヲ許サルコトトナル。尙ホ此種ノ財産ヲ銀行擔保トシテ借入レヲ爲スコトニ就キテハ、あーのるごノ注意スル如ク、²¹⁾ 國家ニ於テ之ニ

21) Arnold, l. c. p. 16c-161.

ツキ銀行ガ特別ノ便宜ヲ計ルヤウニ特別ノ指圖ヲ爲シ、其カ爲メ銀行ノ損失シタル場合、政府ヨリ補償スルコトトスヘキテアル。ソシテ斯クテ銀行ヨリ借入レヲ爲シタル箇人ハ現金ヲ銀行ヨリ引出スノテナク、戰爭債其他ノ有價證券ヲ得レハ可テアリ、銀行カ之ニ應スルニ於テ左マテ困難ヲ感シナイ。ソレカラシテ其際用キラレタルモノカ國債テアルナラハ政府ハ之ヲ受取ルト同時ニ消却スルコトトナルノハ勿論ノコトテアル。

(註五) あーのるごカ此ヲ説明シテ曰ク、國庫カ一定ノ證券ヲ取ツタ場合ニ、政府カ直チニ之ヲ賣却シナイテ、徐々ニ戰爭債ノ所有者ト任意且ツ同意サレタル條件ノ下ニ交換スル。其際、價格ニ於ケル少許ノ利益カ戰爭債ノ持主ニ之ニ應スル誘惑ヲ與フルテアラウ。特ニ人々カ之ヲ選ムノハ、高級證券(國債)ノ利率ハ漸次、借換等ニ依ツテ下ルノニ、一定ノ利率ヲ有シ、且ツ借換エラレサル良キ證券ハ、戰爭債ヨリモ永久的ノ持物トシテ一層良イモノテアルカラト。²²⁾

(二) 其結果

(A) 國家ノ側ニ於テ——ハ國債ノ減少又ハ其負擔減少トイフコトカ生スル。即チ納稅義務者カ現金ヲ納メタ場合ニハ、政府ハ之ニテ國債ヲ消却シ之ヲ減少セシメルコトトナル。戰爭債其他ノ國債ヲ納メタ場合ニモ、同様之ヲ消却スルコトトナリ、²³⁾ 其他ノ財産ニテ納メタ場合ニモ、應カテ之ヲ賣却シテ得タル金ニテ國債ヲ消却シ、又ハ之ヲ國債ト交換スルコト

22) Arnold, l. c. p. 159.

23) Lawr. nec. l. c. p. 64.

ニ依ツテ國債ノ消却ヲ行フコトニナル。而シテ夫ノ財産ヲ保持スル場合ニハ、國債ハ減少シナイカ、其財産ヨリ生スル所得カ其ニ相當スル國債利子ヲ産ミ出シテ餘アルコトニナル。²⁴⁾年賦支拂ノ許サレタル場合ニモ、相當利子カ義務者ヨリ支拂ハレテ、之ニ當タルコトニナル。

(B) 人民ノ側ニ於テ

(イ) 有利ナル結果——トシテハ此稅ノ爲メニ大體、大シテ財産價格ノ下落ヲ生スルコトハナイ。即チ政府カ國債以外ノ財産ヲ取ツタニシテモ、之ヲ急ニハ賣出サナイテ、適宜賣却スルカラ、一時ニ賣物カ出テ大下落スルトイフ程ノコトハナイ(註六)。國債其モノヲ取り、政府ニテ直チニ之ヲ消却スルタケテハ、尙未償還ニ屬スル國債ノ需要ヲ高メテ其市價ヲ上クルコトトナルトモ、下ケルコトニハナラス。又政府カ現金ニテ稅ヲ取り、之ニテ國債ヲ消却スルトキニハ、右ト同様ニ未償還ノ國債ノ値ヲ高ムルノミナラス、從來ノ國債所有者テアツテ此際償還ヲ得タモノカ、其得タル金ニテ他ノ證券又ハ其他ノ財産ヲ買ハウトイフコトトナルタケテハ、此等ノ國債以外ノ財産ノ價ヲ上クルコトニサヘモナル。²⁵⁾

(註六) みつちゆるハ此稅ノ爲メニ戰爭債以外ノ證券ノ下落ヲ生スヘシトイフカ、斯クシテ政府カ戰爭債以外ノ證券

24) Lawrence, l. c. p. 64.

25) Pigou, l. c. p. 150. Arnold, l. c. p. 163.

26) Mitchell, l. c. p. 275.

チモ稅トシテ取り、ソシテ其チ多少永ク抑エテ居ル以上ハ、大シタ下落ヲ生セナイテアラウト思ハルル。

(ロ) 不利ナル結果

1) 價格下落——價格ニツキテハ、右ノ如ク大體不利ニハナラヌヤウテアルカ、義務者カ夫ノ第三種財産シカ有タヌ場合ニハ、之ニ對シテ租稅ノ年賦支拂カ許サルトハイヘ、並ニ銀行信用ヲ利用スル餘地アリトハイヘ、其モ義務者ニ於テ段々ト面倒ニナリ又ハ苦シクナツテ、ムシロ財産ヲ賣却スルコトトナルテモアラウシ、或ハ初メヨリ直チニ其財産ヲ賣却シテ納稅スルカモ知ラナイ。斯クシテ其賣却カ多少一時ニナルタケテハ、矢張り多少財産價格ノ下落トナルカモ知レナイ。加之、此稅ノ徵收ノ爲メニ通貨緊縮ヲ生スルタケテハ、一般ニ諸財産ノ價格ヲ下ラシメ、金利騰貴ヲ生スルタケテハ、有價證券價格ヲ下ラシムルコトモアリ得ル。尤モ此終ノ二ノモノハ有利ナリト見ラルル點モアルカラ、此ニ不利ナル結果ノ中ニ數フルハ或ハ當ラナイ。

(2) 營業困難——其レカラ營業者ニトリテハ、此稅カ行ハレテ彼等カ第三種財産シカ有タヌ場合ニ、年賦支拂ヤ銀行信用利用ヤハ出來テモ、其結果矢張り彼等ノ營業上必要トスル信用ヲ得ルノニ不利トナルノテ、之ヲ嫌フトイフコトカアリ、²⁷⁾旁々其營業財産ヲ賣却ス

27) Arnold, l. c. p. 161.

ルコトニモナルカ、假令右ヲ利用スルトシテモ、其間彼等ノ營業困難トイフコトヲ免レナイ。

結 論

以上、本税ノ實行方法ハ大體ニ於テ見當カツイテ居ル。併シ未タ經驗モナキコト故、借テ實行ニ取懸ツテ見ルト、思ヒモ寄ラヌ諸多ノ困難カ生シヤウシ、今日之ヲ概見シタルタケテモ、其結果カ満足トハイヘナイ。若干ノ困難、又不利カアル。其位ノコトハ此戰後ノ大公債整理トイフコトヲ行フニ就キ、如何ナル方法ニ出テモ免レナイカラ、²⁸⁾辛棒スル外ナシトイヘハ其迄テアルカ、兎モ角之ニツキ一考ハシテ見ナクテナラナイ。

(大正八年六月)

28) Lawrence, l. c. p. 81.

第二部 消費 稅

第六編 消費稅カ生産者ニ及ホス影響ノ

社會政策的考察

緒 言

(一) 各稅ヲ社會政策上ヨリ批判スルコトハ、今日ノ時世益其必要カ感セラルル。特ニ消費稅ハ由來此種ノ批評ヲ待ツコトノ大ナル稅トセラレテ居ルカ、併シ其ハ通例消費者側カラ見ラレ、其ノ力爲メニ下層社會ノ負擔カ上層社會ノ其ニ比シテ、給付能力ノ割合ニハ一層重クナル。隨フテハ其生活ヲ壓迫スル。其レテ社會政策上望マシカラストセラレルノテアル。此モ確カニ重大テアル。ソシテ消費稅ノ利害關係者トシテハ、其ノ太タ廣キニ亘レル消費者ノ立場ヲ考慮シテ見ルコトニ重キヲ置クトイフノモ正シイ。併シ其外ニ生産者側カラ觀テ均シク社會政策上好マシカラサルモノノ存スルコトヲ見逃シテハナラス。私ハ今此點ヲ明カニシタイト思フ。ソシテ同時ニ其ノ此ニ依リテ生スル弊害ヲ匡正スル方策如何トイフ點ニモ説キ及ンテ、實際家ノ向フヘキ或モノヲ示サウト考エル。尤モ茲ニ消費稅トイ

フテモ其ニ色々ノ形式カアル、其ニツキ各異リタル事項カアルカ、一々其ヲイフハ煩ニ堪ヘス。故ニ主トシテ普通ノ形ニ於ケル消費税、即チ消費者ニ對スル負擔トシテハ最公平ナリト見做サルル製造品税(註一) 詳シクイヘハ製造家ニ就キ製造品ノ標準ニヨリ取ルモノニ就キテ説明シヤウト思フカ、併シ設備税原料税ニテモ同様ノコト、又ハ其ヨリモ一層著シイ影響力認メラレル所テアル。其點ヲ不注意ニ看過スルノテハナイ。又廣ク消費税ノ生産者ニ及ホス影響トイヘハ、其カ大體、生産者ノ生産ヲ妨ケ併シ課税方法ノ如何ニヨリテハ生産改良ノ刺戟ヲ與フルトイフ方面モアルカ、其ハ別論ニ譲リ、茲ニハ標題通り社會政策上ノ方面ニツキテノミ述フ。

(註一) しむふれーハ火酒税ニ就キ最合理的ノ徵收方法ハ製品税ナリトイヒ、こんらーゴモ酒税ニツキ製品税ノ課税ノ最自然的方法テ、此カ消費 負擔ニ最良ク適應シ及輸出ニ際シ下戻率ノ最正當ナル考慮ヲ許スモノテアルトイヒ、火酒税ニツキテモ右同様ノ理由ニヨリ理論上製品税ヲ最正當ナリトイフ。ろつしあーニ至テハ更ラニ一般ニ製品税カ生産者ヲ最公平ニ課税スト爲ス。¹⁾

(二) 本文説述ノ順序トシテハ、先ツ消費税カ社會政策上、生産者ニ及ホス不良ノ影響ノ本質并ニ其起因ヲ説キ、次イテ其ノ之ニ對スル救済策ニ及ハウト思フ。

第一段 消費税ノ社會政策上生産者ニ及ホス不良影響

其一 不良影響ノ本質

(一) 消費税ハ其税ノ負擔者、即チ多クハ物ノ消費者ニ對シ、其中、富者資産者階級ヨリモ貧者勞働者階級ニ對シ過重ノ負擔ヲ加フル(註二)。ソシテ後者ノ生活ヲ壓迫スルモノ(註三) ナルト均シク、生産者ニ對シテハ、大生産者ヨリモ小生産者ニ向テ過大ノ負擔ヲ課シ、特ニ前者ニ利益ヲ與ヘツツ後者ニハ或不利ヲ與エ、斯クテ後者ノ存立ヲ危ウクシ又ハ少クトモ其發達ヲ抑エル所テアリ(註四)、社會政策ノ一部タル中等 級政策上好マシカラサル結果ヲ生スルノ傾ヲモツ。即チ獨立生存ヲ遂ケ一層平和的要素タル小經營企業者ヲ失フコトハ此社會政策上望マシクナイ(註五)。尙ホ又特ニ獨逸ナトテハ特ニ火酒税ニツキテ農業トノ特別關係カアリ(註六)、隨フテ此税カ小農民ノ地位ヲ危ウクスルトイフ特別ノ事カアル。勿論實際ノ事情如何ニ依リテハ必スシモ其ヤウニナルトハ限ラヌカ(註七)、大體ハ先ツ右ノ如クニナル傾カアリ、社會政策上ハ不良トイハナケレハナラヌ(註八)。

(註二) 廣ク消費税ノ負擔ニ於ケル不公平トイヘハ¹⁾消費者相互ノ間ノ其ノミナラス、²⁾生産者相互ノ間ノ其モアリ

2) Dierschke, Progressive Besteuerung des Grossbetriebes bei einigen Verbrauchssteuern. S. 51.

1) Schäffle, Steuem. B. T. S. 300. Conrad, Grundriss. Fw. 2. Aufl. S. 79. 86. Ro cher, System d. Fw. 5. Aufl. II. S. 26.

(3) 更ラニ生産者商人等ト消費者トノ間ノ轉嫁關係ニヨリ生スルモノモアル。其中(1)ノ消費者相互間ノ不公平カ社會政策上ノ見地カラハ最多ク問題トセラレ。ソシテ(2)ノ生産者相互間ノカ本論文ノ主トスル所テアリ、(3)ニ至テハ社會政策上ノ問題トシテハ最少ク取扱ハルル⁽²⁾ハ別トシ、(1)ニツキテハ「こんら」曰ク此稅ニハ或階級ノ過重負擔ノ危險カアル。何トナレハ經驗ニ依レハ富者カ間接方法ニテハ相當ニ課稅セラレナイカラト。ふおつけモ此稅カ其基ク所ノ前提、即チ此カ其屬スル所ノ物體ノ消費者ヨリ完全ニ且ツ公正ナル度ニテ擔ハルルコトノ前提ヲ充タサナイトイヒ、わぐな一ハ此ニテハ大所得ニ比シ小所得チ反對累進的ニ負擔セシメ、財產所得ニ比シテ勞働所得チ壓迫的ニ負擔セシムル所トイフ。わる。一モ間接稅ハ下ノ方ニ累進的ニ働クトイヒ、ぼりりゆ一モ亦タ消費稅ハ負擔者ノ所得ニ對シ直接稅ヨリモ一層少ク比例的ナリトイフ。ソシテ(2)一ハ其課稅物件カ必要品トナレハナル程又品質ニヨリ稅步ヲ定ムルコトカ出來サレハ出來サルホト、此カ愈々多ク人頭稅ノ性質ヲ持チ、愈々重ク其負擔カ下層社會ニ負ハサルルコトニナルトイヒ、ぼるぐミハ必要の需要品ノ課稅ニ於テ及不要ナル併シ一般的使用ノ物體ニ於テハ、貧民カ富者ヨリモ一層強ク負擔セシメラルルノ危險カ存ストイフ。尙ホ特定ノ消費稅ニツキ、例之、匿名政治家ハ、酒精飲料ノ消費ノ大小ハ當該消費者ノ富裕ノ確カナル證明ニ非ストイフ。一然ルニ一部ノ人ハ此點ヨリ見テ消費者カ格別公正ニ反セスト爲ス。例之、こ一ハ消費稅ハ營利稅及各種ノ稅ト均シク公正ノ原則ニ反セストイフ。其趣旨ハ、直接稅テモ公正課稅上均シク缺點カアツテ、消費稅カ之ヲ補充スル所ナルヲ指スニ在ル。び一るざつくカ麥酒稅ニツキ同事チ他ノ根據ヨリ説明ス。曰ク麥酒ハ人民ノ凡ヘテノ階級ヨリ消費セラレ。併シ通例富者ニ依テ貧者ヨリモ高キ度ニテ消費セラレ(？)。此故ニ此稅ヲ以テ、平均ニ於テ人頭稅的ニ働クトイフコトヲ得ナイ。隨フテ此稅カ課稅原則ニ一致セザル稅ト見ルヘキモノテナイト。³⁾

(3) ニツキテハわぐな一ハ、所得課稅ノ少クトモ近接平等比例の高サノ指導原則ハ消費稅ニヨル價格ノ上ノ稅ノ轉嫁ニ於テ容易ニ又ハ多クハ多少勞働及小所得ノ持主ノ不利ニヨツテ破ラルトイフ。⁴⁾

3) Conrad, a. a. O. S. 25. Vocke, Fw. S. 83. Wagner, Fw. 2 Aufl. II. S. 655. Walcker, Fw. S. 97. Beaulieu, Traité. 5 éd. I. p. 634. Eheberg, Fw. 9 Aufl. S. 398. Borcht, Fw. S. 134. Staatsmann a. D., Fw. S. 308. Cohn, System d. Fw. S. 485. Biersack, Ueber Besteuerung. S. 176.
4) Wagner, a. a. O. S. 651.

(註三) ぼ一ハハ曰ク、愈々多ク又愈々高ク此稅カ必要ナル消費物ヲ課稅スレハスルホト、愈々多ク此カ非自由所得ヲ稅シ生活維持ヲ壓迫シ其昂上ヲ妨クルコトナルト。⁵⁾

(註四) 例之、たつけ一ハ、火酒製造場ニツキ、其小工業の製造場ノ數カ漸次減少シテ、生産力日々大設備ニ集中セラルルコトハ確テアルトイフ、(尤モ大製造場カ小ナル特ニ農業の製造場ヲ壓迫シ盡シハシナカツタ。此小ナルモノカ大ナルモノニ利用サレ且ツ必要テアツタカラ)。⁶⁾

(註五) ふおつけニ至テハ此理由ヲ高調シテ、消費稅排斥ノ主根據トス。曰ク、消費稅カ凡ヘテノ事情ノ下ニ、小經營ヲ大經營ヨリモ一層多ク壓迫スル狀態ニ於テ、社會政策上ノ考慮ニ於ケル眞面目ナル指針カアリ、而シテ消費稅ヲ出來ルタケ制限シテ租稅(普通ニイフ直接稅ニ當ル)ヲ薦ムヘキ切ナル要求カアルトイフ。⁷⁾

(註六) 火酒製造ノ農業トノ深キ關係ニツキテハ諸書ニ散見ス。茲ニ管々シク説カス。⁸⁾

(註七) 之ニツキげつハ論シテ曰ク、英國テハ三大企業カ火酒ノ全國需要ヲ充タシタカ、獨逸テモ斯クナルヘキコトノ心配ハ不當ノ如クアル。其故ハ獨逸テハ土地ノ分配及 營カ英國ヨリモ一層良好テアルカラト。⁹⁾

(註八) 日本テハマタ著シクハナイカ、唯々多少規則正シク酒造場ノ數ノ漸減及製造集中ノ趨勢ヲ認ムル左ノ如シ。¹⁰⁾

清酒製造場數	査定石高	一場平均石數
四十四年	一〇、七六六	三九二
大正元年	一〇、六六五	三六七
同 二年	一〇、五七六	三九二
同 三年	一〇、三九〇	三九四
同 四年	一〇、一九七	三六一
同 五年	一〇、一五四	四四四

5) Eheberg, a. a. O. S. 398.
6) Taquet, Le monopole de l'alcool. p. 7. 8.
7) Vocke, Die Abgaben Anlagen und die Steuer. S. 532.
8) Conrad, a. a. O. S. 84. Walcker, a. a. O. S. 107. Umpenbach, Fw. S. 306. Borcht, a. a. O. S. 119. Hoffmann, Steuern. S. 267. Dierschke, a. a. O. S. 52. Ginsberg, Die deut. elc. Branntweinsteuerung. S. 7. Scheele, Deut. ches Reichsge. etz. beireifend die Besteuerung des Branntweins. S. 48-49.
9) Getz, Das Branntwein monopol als Besteuerungsform. S. 35.
10) 大藏省主稅局四十四回統計年報書、

(二)勿論右ノ影響ヲ以テ全然不良トハイヒ得ナイ。生産者相互ノ間ニハ不利ナル分配關係ヲ生スルコトニナルカ、(A)有利ナル影響モ別ニ存スル。即チ其ハイ(イ)先ツ生産上ノ利益テ、夫ノ大企業ノ盛ニナリ行ク結果ハ、生産設備ノ改良カ益々行ハレ、生産費カ小企業ヨリモ一者小ナルコトカ出来、國民經濟上ニハ確カニ一層經濟的ニ物ヲ生産スルコトニナル。隨フテハ一般消費者モカ一層安ク物ヲ買ヒ得ルコトニナル(註九)。或ハ此場合、生産者カ其獨占的地位ノ結果トシテ暴利ヲ貪リ、爲メニ消費者ニ生産費減少ノ利益ニ均霑セシメサルコトトナリ得ルモ、而カモ其利益ハ兎モ角生産者ノ手ニハ殘ルコトトナリ、社會全體ヨリ見レハ確カニ生産上有利トイヒ得ル。斯ク生産消費者間ノ分配上ノ缺點ヲ齎ラス餘地ハアルカ(註一〇)、生産上ニハ有利テアル。此點ニ於テ小企業ノ方ヲムシロ不利トイハナケレハナレヌ。¹¹⁾ロ加之、酒ノ場合ノ如キニ於テハ、小企業ノ存在普及カ飲酒ノ普及ヲ助長スル傾モアリ(註一一)、健康ニ有害ナル物ヲ供給スルノ危険モアル(註一二)。而シテ大企業ノ發達ハ此等ノ弊ヲ幾分減少スルノ利カアル(註一三)。(B)又他方、今日問題トナレル生産者相互間ノ分配カラ見テモ、成程小生産者カ大生産者ニ對シ立行カナクナツテ、彼等ノ地位カ失ハレ茲ニ小生産者小企業者トイフ或中等階級ヲ減少スルコトニハナルカ、併シ大企業ノ愈々大ト

11) Dierschke, a. a. O. S. 51.

ナル結果、此ニ民吏階級ヲ生シテ、新ナル中等階級ノ生スルコトヲ見逃シテハナラヌ。¹²⁾其ニツキ如何ニモ分配上社會上ニハ、非獨立ナル民吏ヨリモ獨立自營ノ小生産者ノ存在ノ方カ選フヘキテハアルカ、爲メニ全然中等階級ノナクナルノテハナク、特殊ナル智識ノ中等階級ノ代ツテ發達スル所テアルカラ、此消費稅ノ生産者相互ニ及ホス影響ヲ以テ甚シク不良ノモノトハイヒ得ナイ。斯ク論シ來レハ之ニ對スル政策トシテモ、絶對ニ此大企業發展ノ勢ヲ阻止スヘキテハナク、其急激ナル變化ヲ緩和スル位ニ止ムルノ外ナキコトニナル(註一四)。併シ兎モ角、前記ノ如ク此稅カ生産者相互ノ間ニ、中等階級政策上、或不良ノ影響ヲ及ホスコトハ爭ハレナイ。

(註九) 尤モ其ノ物ノ安イコトカ眞ニ消費者ノ利トナルカハ物ニ依リテハ疑ハシイ。例之火酒ノ如キモノニハ餘リ安クナイ方カ良イトモイヘル。之ニツキはつふまんハ火酒製造ノ改良ノ發明者ハ過度ノ火酒享樂ノ悲シムヘキ結果ニ對シテ責任アリトイヒ、ぼーでんはいまーハ小及不完全ナル火酒製造ヲ壓迫シタル大裝置、及改良シタル技術カ火酒價格ノ下落ヲ促シ、國民ノ倫理及經濟上ノ點ニ關シ不完全ナル法制ノ下ニ、實際的危險カ現ハルル程テアルトイフ。¹³⁾

又此物ノ安クナルコトヨリモ、火酒ノ如キニ就テハ農業ノ受クル利益ノ方ヲ重ク見ル人モアル。例之、しほーれハ集中ノ不利ヲ農業カ負フコトトナルヘク、此不利ハ生産費ノ節約ヨリモ一層大ナルヘシトイフ。¹⁴⁾

(註一〇) 此方面ヨリノ考察ニツイテハ別論文ニ讓ル。

12) Dierschke, a. a. O. S. 51.

13) Hoffmann, a. a. O. S. 269. Bodenheimer, Zur Frage einer eidgenössigen Steuer auf Tabak und Branntwein. S. 64.

14) Scheele, a. a. O. S. 59.

(註一一) 之ニツキば、大酒製造場ハ少數ノ專任ノ使用人ヨリ從事セラレテ、夫ノ多數ノ家族及僕婢ニ火酒ヲ飲ミ悲シムヘキ酒飲トナル日々ノ機會ヲ奪フトイヒ、こんら一己ハ近時恰カモ小火酒製造場カ、自己ノ產物ヲ頗ル多ク日常ノ營養物トシテ利用シ、加之賃金ノ一部トシテ計算スルノ故ニ、飲酒ヲ普及スルコトヲ證明シタトイフ。尙ホげつつモ小製造場ノ大ナル有利ハ酒精問題ヨリイヘハ悲シムヘキ方策テアルトイヒ、べるぎうスニ依レハ、いんげるモ小火酒製造場ノ租稅恩典ニ反對シ、此カ火酒飲用ヲ増加スルコトヲ信シタリトイフ。尤モ大企業トナリテモ飲酒ノ普及ハ少カラストイフ説モアル。例之じいれハ小火酒製造ノ禁止ニヨリ飲酒ノ緩和ノ生セラルルコトヲ證明スルコトハ困難テアルトイヒ、其例證トシテ少數製造場ヲ有スル英國ニ火酒消費大ニシテ無數ノ小經營製造場ヲ有スルウゆるてんべるひニテ其消費量ノ小ナルコトヲ舉グ。

(註一二) げつつハ經驗ニ依レハ飲酒慾ノ住家ニシテ甚大ナルふーぜる含有量ニヨリテ大ナル度ニテ健康ヲ害スル全ク不良ナル產物ヲ供スル所ノ小製造場ノ過大ナル恩典ヲ以テ弊害ノ本ト爲シ、ぢーるじゆけハ小火酒製造場ハ大ニふーぜる含有火酒ノ供給ニヨリテ飲酒ノ弊害ヲ大ナル度ニテ烈シカラシムルコトヲ責メラル。ソシテ此非難ニハ盡然ノ或度ヲモツトイフ。¹⁵⁾

(註一三) 此アルノ故ニ、瑞西ノ專賣ニテハ、少クトモ年二百五十へくざりーさるノ純酒精ヲ供給スル能ハサル凡ヘテノ經營ヲ許サナイコトトシタ。¹⁶⁾

(註一四) ぢーるじゆけハ曰ク、國家干渉ハ凡ヘテノ小經營ノ退却ヲ永ク妨グルコトハ出來ナイ。又妨ケテハナラナイ。此干渉ハ唯々小經營中ノ比較的給付能力アル者ヲ維持スルコトニ用立ツヘク、此カ更ニ急激ナル過渡ヲ妨グルコトトナルヘキモノテアルト。¹⁷⁾

其二 不良影響ノ原因

然ラハ右不良影響ハ如何ニシテ生スルカ。其ハ或ハ自然ノ大勢トシテ生スルノヲ防止セサルニ依リ生ストイフヘキカアリ、或ハ法律人爲ノ積極的施設ノ結果ト見ルヘキカアル。

(一) 自然ノ大勢ニ放任スルノ結果——即チ大企業ニ於ケル有利ナル生産條件ハ自ラ大企業者ヲシテ有利ナラシムルノニ、普通ノ消費稅力ヲ放任シ、大企業者ノ此有利ナル大勢ヲ利用スルノニ任カストイフ事カアル。

(A) 大企業ニ於テ生産費ノ小ナルコト——元來大企業ニテハ生産條件カ有利ナル爲ニ、或ハ優良機械優良生産方法ヲ採用スルコトカ出來(註一五)、有利ナル條件ニテ資本勢力ヲ利用スルコトモ出來、有利ナル條件ニテ補助機關ヲ利用スルコトモ出來、其他、材料ヲ買收スルニモ製品ヲ販賣スルニモ有利テ、結局生産費カ一層小ナルコトヲ得、何等人爲的防制カナケレハ、大體、大企業者ノ優勢ヲ生スヘキテアル(註一六)。稅法カ大小企業ニ對シテ對等ノ課稅ヲ爲ストイヘハ、別ニ其カ大企業者ニ積極的ニ或恩典ヲ與ヘタノテハナイカ、消極的ニムシロ彼等ノ間ノ立場ヲ對等トスル爲メニ爲スヘカリシ或負擔ヲ大企業者ニ加エナカツタトイフ憾ハアル。或ハソシテ事ハ租稅ノ爲スヘキ範圍外テアル。租稅ハ左ヤウナ社會又ハ經濟政策ヲ行フヘキモノテナク、ムシロ給付能力アル處ニ相當ノ負擔ヲ課スルコトニ

15) Bodenheimer, a. a. O. S. 80. Conrad, a. a. O. S. 84. Getz, a. a. O. S. 53.
 Bergius, Grundsätze d. Fw. S. 357. Scheele, a. a. O. S. 59.
 16) Getz, a. a. O. S. 2. Dierschke, a. a. O. S. 54.
 17) Dierschke, a. a. O. S. 87. Ronald, Finanzen und Branntweinbesteuerung des Deutschen Reichs. S. 69.
 18) Dierschke, a. a. O. S. 51.

止ムヘキテアルトイフカモ知ラヌカ、其點カラ見テモ斯ク大小企業ノ間ニ生産上ノ利不利カアル以上ハ、其大生産者ノ有利ハ即チ其處ニ給付能力ノ大ナルモノノ存スルトシテ、特別ノ負擔ヲ課シテ良イ。或ハ又其ノヤウナ事ハ租税ノ中テハ營業稅ノ爲スヘキコトテ、¹⁹⁾消費稅ノ爲スヘキコトテナイトイフカモ知レヌ。併シ其ハ營業稅ノ制度ニヨリテハ即チ外形の標準ニ依ル主義ノ處テハ決シテ其ニ適當トイヒ難ク、其ニツキ營業稅ト消費稅トニ大シテ適不適ノ差等ハナイ。又營業稅トイヒ消費稅トイヒ、其間ニサウ明瞭ニ分別シテ考フヘキモノテハナク、消費稅ニテ營業稅ノ事ヲ、營業稅ニテ消費稅ノコトヲモ考フヘキモノテ、今日ノ税ハ決シテ各單獨ニテ意味アルモノテナク、其綜合シタル處ニ意味ノ深キモノ故、假令夫ノ生産上ノ有利カ本来營業稅ノ處ニテ考慮スヘキモノトシテモ、其ヲ消費稅ニテ考慮シテモ良イ。更ニ又消費稅カ消費者ニ其消費ニ應シタル負擔ヲ爲サシムル點カライフモ大小生産者ノ收益率ノ相違ヲ消費稅ニテ考慮シナイノテハ不十分不完全トイハナケレハナラヌ(註一七)。加之、租税ヲ以テ單ニ給付能力ノ觀點ノミナラス、國家政策ノ一手段トシテ廣ク經濟社會政策ヲ考慮シテ差支ナク、又ムシロ之ヲ考慮スルノカ至當テアリ、旁々大生産者ノ自然的ニ有利トイフニ於テハ、是非トモ之ニ應シテ其ニ割合重キ負擔ヲ爲サシムヘ

19) Dierschke, a. a. O. S. 55.

ク、之ヲ爲ササリシトスレハ、税法ノ本来爲スヘキモノヲ爲ササリシニ依リテ、消費稅カ夫ノ不良影響ノ發生ニ與カツタトイフヘキテアル。

(一五) ほつふまんハ火酒製造ニツキ、唯大資本ヲ以テ大ナル規模ニテ營ム火酒製造場ノミカ有ラユル改良ヲ採用スルヲ得タトイヒ、ぢーるしゅけハ十八世紀ノ終以來爲サレタル技術上ノ進歩ノ結果トシテ小經營力或特殊仕事ニ關シナイタケテハ、其生産物ヲ大經營ノ如ク安ク生産スルコトハ出來ナカツタ。特ニ此カ火酒製造場酒釀造及製糖ニ當ルトイヒ、ぼーでんはいまーハ改良シタル製造法ヲ有スル大火酒製造場ノ設備力漸次、田舎ニ廣マリタル小火酒製造場ノ少カラサル制限ヲ促シタトイフ。²⁰⁾

(註一六) ふおつけハ大企業カ小企業ヨリモ優勢ナルコト(例之、麥酒火酒製造場ノ如キ)ハ、大企業カ同一原料ヨリ一層多クノ製品ヲ生産シ、随フテ之カ爲メニ小企業ヨリモ一層少キ税ヲ拂フコト(此點ハ原料稅ノ影響)此カ爲メニ大企業ハ彼カ拂ヒタルヨリハヨリ多クノ税ヲ買手ヨリ賠償セシムルコトニ因ル。此故ニ大企業ハ原料及生産費ノ節約ト税ノ利益ト二重ノ利ヲ受クルトイヒ、實例トシテ英國ニテ小麥酒釀造場ハ一部ハ大資本ノ威力ニヨツテ倒レタトイフ。尙ホ其ノ如クニ大經營ノ經濟的ナリヤニツキテハ、ぼーでんはいまーハ火酒製造ニ關シテ原因ヲ擧グ

- (1) 大火酒製造場ニテハ、大ナル設備費ニ拘ラス多クノ小火酒製造場ニ於テヨリモ一層小ナル資本ヲ道具ニ置クコト。
- (2) 經營費一層小ナルコト。
- (3) 得ラレタル滓カ一層良好ナルコト。
- (4) 滓ヲ飼料トスル事カ冬期間不間斷ナルヲ得ルコト。
- (5) 玉蜀黍ノ加味ニヨリ一層集約的經營カ達セララルコト(一層多クノ家畜、乳、肥料)。

20) Hoffmann, a. a. O. S. 267. Dierschke, a. a. O. S. 33. Bodenheimer, a. a. O. S. 64.

- (6) 製造カ一層合理的ナルコトノ爲メニ、一般ニ經營カ一層集約トナリ、利得カ一層大トナルコト。
- (7) 大火酒製造場ハ上等酒精ヲ製造スルコト。
ちゝるじゆけモ亦火酒製造ニ關シテ、大小經營ノ生産費ニ於ケル差等ヲ條件スル動機ヲ左ノ如ク列舉ス。
- (1) 大火酒製造場ハ一層其キ方法ヲ使ハスルヲ得。
- (2) 大火酒製造場ニテハ、經營中止カ一層少シ。何トナレハ機械道具力必要ナルタケテハ多クハ二重ニ存スルカラ。
- (3) 大經營ハ學識アル指導者ヲ使用スルヲ得ル。何トナレハ之ニ對スル俸給力大ナル産物量ニ分配サルカラ。
- (4) 教育アル指導者ノ俸給ト同事ハ一般ニ生産費ニツキテモイフコトヲ得。
- (5) 大火酒製造場ハ信用ノ方法ニテ、其ノ左ナクトモ大ナル資本ヲ頗ル大ニ増加スルコトヲ得。²¹⁾
- (註一七) すゝるゝふのハ曰ク、原料ヨリ課セラレタル麥酒税ハ生産收益ニ於ケル技術上ノ相違(此ノ如キモノカ規則正シク現ハルタケテハ)ニ出來ルタケ税率ノ相當ノ分級ニヨリテ適應スルコトヲ求メナケレハナラヌ。其ハ消費ニ定メラレタル生産物ノ其性質ヨリ生スル平等ナル租税負擔ヲ出來ルタケ保證スル爲メニト。²²⁾

(B) 大企業ニハ租税轉嫁困難ノ場合ノ抵抗力大ナルコト——大生産者ハ普通、自己ノ資本モ大テアリ又他有資本ヲ利用スルコトモ大イ傾カアル。彼ハ之ヲ以テ消費税ノカカリ又ハ重クナツタ場合ニ、之ヲ消費者ニ轉嫁スルカ爲メノ争闘ニ於テ、小企業者ヨリモ永ク此争闘ヲ續クルコトカ出來、其結果小生産者ハ倒レテ大生産者ノミ残り、大生産者ハ多少ハ從來小生産者ノ占メタル地歩ヲ併吞スルコトカ出來ル。元來普通ノ消費税ハ消費者ニ轉嫁

21) Voelke, Fw. S. 72-83, Bodenheimer, a. a. O. S. 78-9. Dierschke, a. a. O. S. 33-34.

22) Struve, Zur Frage d. Brausteuern Staffeung. S. 60.

サルヘク豫期サレタモノテハアルカ、事實其通りニナラヌコトカアリ得ル。即チ消費者ノ方カ經濟市場ニテ生産者ヨリモ一層優勢ナル場合ニハ少クトモ一時、生産者ニ於テ租税ヲ負擔シナケレハナラヌ。此場合、大生産者ハ大ナル資本力ヲ以テ之ニ堪ユルコトヲ得ルカ小生産者ハ其カ出來スシテ、早ク敗北スルコトニナル。

(C) 大企業ニハ稅務吏買收ノ便利大ナルコト——當業者カ收稅吏ヲ買收シテ稅法ノ適用ヲ有利ナラシムルコトハ勿論不當ノコトテアリ、日本ニテハ多分多クハナカラウシ又然ルコトカ希望セラルルカ、外國テハ實際其カ多少行ハルル可能アリトセラルル(註一八)。假リニ此アリトスレハ此場合大企業者ハ小企業者ヨリモ提供スル所ノ賄賂カ一層大ナルコトヲ得ルカラ、之ヲ爲スニ都合カ良イ。役人モ兎角小イ處ニ行ツテ嚴格ノコトヲイフテハ居テモ大イ處テハ案外ニ寛大ナコトヲイフ傾カナイテモナイ。勿論此ハ一概ニハイヘナイ。役人ニヨリ特ニ彼カ近代思潮ニ觸レテ來ルト、自己ノ小利益ニ顧ミス、全體ノ福利ヲ考エテ、大企業ノ方ニ、ムシロ嚴シクスルカモ知レナイ。併シ役人ノ普通ノ人情カライヘハ、均シク賄賂ヲ取ルトスレハ、大キナ賄賂ハ受ケルカ、小ナル賄賂ハ跳ネ付ケルノテハアルマイカ。若シ此カ起ルナラハ此モ大企業者ノ資力ノ大ナルコト、及社會上ノ地位ノ高キコトナ

トイフ彼ノ生産條件有利ノ結果アル。

(註一八) 收稅吏ノ賄賂可能ニツキテハ、こゝらに及るつしあ一參照²³⁾

(D) 租稅取締規定カ大企業者ニ一層安易ナルコト——同一ノ取締規定モカ小企業者ニ於テハ、生産物取扱高ノ比較的小ナルタケ、割合ニ煩雜厄介ナルヲ免レナイ。反對ニ大企業者ニハ割合ニ安易ニナル。此點カライフテモ大企業ニ有利、小企業ニ不利トイハナケレハナラヌ(註一九)。

(註一九) れるハ製品稅力製造場ヲ細密ニ追跡スルノ監督ニ依リテ徵收セラルトキニ、此力經營ニトリテ頗ル厄介ナル。而モ其力容易ニ小企業ノ破壊ニ導クトイヒ、ふおつけハ課稅物件ノ唯小額ヲ生産シ得ル者モ、監督(稅務上ノ)ノ爲メニ、大額ノ者ト同一條件(同一ノ届出等)ヲ充タサナケレハナラヌ。此ノ如クニシテ小經營ハ既ニ之ニヨリテ大經營ニ比シテ不利ヲ被ラサル。而シテ通例智慧ノ少キ小手工業者ニハ、大製造家ニ對シテヨリモ一層多ク監督規定ノ無意識の過重ノ危險モアル。又手工業者ハ其經營ヲ監督者ノ指定スル時ニ行ハナケレハナラヌ。此力必然彼ニ厄介ナル擾亂ト不利トナ結果スルモノテアルトイヒ、英國テハ小麥酒釀造場ハ一部ハ租稅制度ニ置カレタル障礙及困難ニヨリテ倒レタトイフ²⁴⁾

(二) 稅法ノ積極的施設ノ結果——

(A) 小企業ノ禁止——稅法ハ課稅ノ便宜ヨリ課稅企業ヲ一定ノ大サ以上ノ少數ノ者ニ集中

セシメヤウトスル傾カアル(註二〇)。現ニ日本ノ酒造稅ニ於テ一定ノ大造石高(舊、百石、新、三百石)以上作ルモノヲナケレハ出來ナイトイフコトニシテ居ル。此ハ明白露骨ニ小企業ヲ排斥シタモノテ、收稅ノ便宜上ノ目的ニ適ヒ、ソシテ生産衛生及倫理上ノ目的ニモ適フ。タタ社會政策上或不良影響ヲモツトイフニ止マル。

(註二〇) につちハ製造ノ上ノ稅力便利ニ適用スルヲ得ンカ爲メニハ、其生産力少數ノ場ニ集中シ、容易ニ監督ヲ爲シ得ルコトヲ要求スルトイヒ、こゝらハ内國産物ノ消費課稅ニ於ケル補助手段ハ集中チ人工的ニ作ルコトニアリトイフ。こゝらに及ハ特ニ麥酒稅ニ關シテ製品稅力形稅ノ容易及隨テ頗ル綿密ナル監督ノ必要ヲ缺點トシ、隨テ之カ大工場ニテノミ適用スルヲ適當トスルコトトナルトイヒ、火酒稅ニツキテモ同事トイヒ、ばすて一ふるハ麥酒ト火酒トノ生産ヲ少數ノ中心ニ集中スル近代ノ傾向カ此稅ノ制度チ一層面倒少カラシムルコトトナツタトイフ²⁵⁾

(B) 課稅標準ノ定メ方——ニヨリテハ、即チ例之、原料稅設備稅ノ場合ニハ大企業者ハ唯サヘ有利ナル生産條件ヲ一層多ク利用シテ、一層有利ナルコトヲ得ル(註二一)。

(註二一) ふおつけハ小經營ニ一層不利ナハ出來上リタル生産物ヲナクテ、材料力課稅標準トナルトキテアル。設備力課稅標準トナルトキハ尙一層不長テアル。即チ大經營テハ小手工業者カ其多費ノ爲メニ備ヘ能ハサル長キ設備ニ依リテ材料ヲ遙力ニ一層長ク利用シ、課稅法ニテ豫定シタル標準以上ニ材料利用ノ行ハルコトカ生産者ニ全過剩生産ノ爲メニ全體ノ稅ヲモ節スルヲ得セシムルコト(小企業者ハ其製品ヲ大製造家ヨリモ高ク賣却スル能ハサルノ故ニ、夫標準ヨリモ後ルルコトニ於テ、全體ノ稅ヲ自ラ負ハサルヘカラサルニ對シテ)ハ長ク人ニ知ラレタル

23) Conrad, a. a. O. S. 86. Roscher, a. a. O. S. 7.

24) Schäffle, a. a. O. S. 300. Voelke, Abgaben etc. S. 531. 532. Derselbe, Fw. S. 72.

25) Nitti, Principes de science des finances. p. 563. Cohn, a. a. O. S. 499. Conrad, a. a. O. S. 79-80. 86. Bastable. l. c. p. 520.

第二段 消費税ノ社會政策上生産者ニ及ホス 不良影響ノ匡正策

右述フル如ク消費税カ社會政策上、小生産者ヲ壓迫シ排斥スル傾アリト爲シ、ソシテ之ヲ以テ不良ナリトシ、少クトモ或點ニ於テ望マシカラサルモノトシテ之ヲ匡正シヤウトイフナラハ、如何ナル方策ヲ以テスルカカ次ノ問題テアル。カ此ハ結局次ノ方策ノ外ナイト思フ。

(一) 根本策——最根本的ナルハ普通ノ消費税ヲ政府獨占又ハ專賣ニ改造スルノテアル。然ルトキハ之ニ依リテ小企業者ノ復活ヲ生シハセヌカ、併シ大生産者テフ少數者ヲ有利トシテ小生産者テフ多數者ヲ不利トスル弊ハナクナル。大小企業者ヲナクスルコトニ依リテ、企業上ノ利益ハ租税ニ當ルヘキ部分ト共ニ政府ニ收納セラレテ、其得ラレタル利益ハ過去ノ大小企業者并ニ其他ノ一般人民ノ上ニ均霑セラレルコトニナル。社會上ノ不公平ハ取除カレルコトニナル。集中ノ有利ナル處ニハ政府獨占モ相當ニ有利テアリ(註二二)、其利益ハ之

26) Voocke, Abgaben eto. S. 532.

ヲ多數ノ人々ニ均霑セシムルコトカ望マシイ。一方大工業集中ノ實際ノ大勢力少クトモ政府獨占ニ對スル人々ノ嫌惡ヲ緩和スルコトニモナル(註二三)。特ニ此政府獨占ノ場合ニシテ而カモ物ノ製造カ民間ニ任カサレ之カ販賣ニツキテノミ政府ノ獨占ノ行ハルルトキニハ、買上價格ヲ小經營者ニ大經營者ヨリモ高ク定メルコトニヨリテ、後ニイフ累進ト同事ヲ行フテ小企業者ヲ有利トスルヲ得ル。尤モ其定メ方ニ多少ノ困難ハアルカ。尙ホ又政府獨占ニハ右ノ外色々ノ長所モアリ并ニ短所モアリ(註二四)、詳シクハ其ヲ凡ヘテ考察スルコトヲ要スル。其ハ追テ述ヘヤウト思フカ、少クトモ前記ノ點ヨリイヘハ、ムシロ普通ノ消費税ノ缺點ヲ補フ根本的の利益カアル。

(註二二) こつさハ大ナル且ツ國ノ少數ノ場處ニ限ラレタル工場ニテ行ハレタル或工業、又ハ餘リニ大ナル經濟上ノ不利ナシニ又ハ生産及販路ノ餘リニ大ナル實際上ノ困難及錯雜ナシニ人工的ニ少數ノ場處ニ集中サレ得ル或工業ニハ、獨占ハ經濟上堪エ得ヘキモノテアルトイヒ、ほつくモ略ホ同様ニ、其生産力或ハ自ラ非常ニ少數ノ點(場處)ニ制限セラレルカ或ハ國民經濟ニ對シテ餘リニ大ナル不利ナシニ人爲的ニ少數ノ場處ニ制限セラレ得ル物體ニノミ實行スヘキモノトイヒ、へつけるハ火酒專賣特ニ其完全獨占ニツキ此ニ好果ヲ以テ移ルコトハ大經營ニテ頗ル集中シタル火酒製造場ヲ前提スト爲ス²⁸⁾。

(註二三) につちハ曰ク、大企業間ノ競争カ日々愈々危険ニナル。而シテ初メニハ有害ト考エラレタル財政獨占ニ對スル嫌惡カ日々減少スルト²⁹⁾。

27) Dierschke, a. a. O. S. 93.

28) Cossa, Grundriss d. Fw. S. 108. Hock, Die öffentlichen Abgaben und Schulden. S. 155. Heckel, Lehrbuch. II. S. 85. Derselbe, Branntweinsteuer. (Conrad, Hwb. 3 Aufl. III) S. 211.

29) Nitti, l. c. p. 578.

(註二四) 就中、政府獨占トナレハ改良進歩ノ止マルトイフ非難カアル。此ハ可ナリ重イ非難テアルカ、併シ或度マテハ私人ノ事業 大集中隨テ獨占トナルコトニ依リテモ起ルコトテアル。

(二) 應急策——若モ現在ノ消費稅制度ヲ其儘トスルト假定スレハ、其場合ニ於テ夫ノ弊害ヲ妨クノニハ左ノ何レカ又ハ凡ヘテヲ行フ外ナイ。併シ之ニヨリテハ多キヲ望ムヘカラサルカ、實行困難ナルカ、又ハ他ノ弊害カアリテ躊躇セシムルカテアル。

(A) 大小企業ニ差等課稅シ、特ニ累進稅ヲ課スルコト——此ハ從來ノ實例ニ依ルト(註二五)、製造品稅ノミニ行ハレス、ムシロ多ク原料稅ニ行ハレタカ、製品稅ニモ行ハレナイコトハナイ。ソシテ此ハ從來學者ノ苦心シタ所テ、前記小企業者ノ大企業者ニ比シテ給付能力ノ乏シキコトヨリイヘハ當然行フヘキコトテアル(註二六)。ソシテ其差等又ハ累進ノ定メ方ハ其當時ノ普通生産狀態ニ應シテ適當ニ定ムヘク、其結果、夫ノ小企業破壊ヲ阻止スルコトトナルト考エラルルカ、併シ反面ニ困難ヲ伴フ(註二七)トイフノハ、企業者ノ能力ノ大小カ單純ニ生産額トカ原料使用高トカイフ如キ客觀的要素ニノミ依ラナイ(註二八)カラ、此制度カ本來不公平トナル可能カアリ、其決定カ結局多少恣意的タルヲ免レヌノト(註二九)、其ハ斯カル事項ニハ止ムヲ得ヌ、暫ラク恕スルトシテモ、或時ニ定メラレタル適當ナル稅率ノ

30) Pfeiffer, Staatseinnahmen I. S. 182.

割合カ、時勢ノ變ニヨリ生産方法ノ改良ノ行ハルルニ從ヒ大體不適當トナリ(註三〇)、特ニ同種企業中、各企業ノ改良方法採用ノ度合ノ異ルニヨリテモ不公平ニナル。尤モ獨逸ノ實蹟テハ累進課稅ニヨリ大體小企業維持ノ目的タケハ達シタトイフ(註三一)ケレトモ、決シテ精密ニイフテ良イ仕方トハイヘナイ。

(註二五) (1) 火酒——古クバードンノ一八二八年ノ火酒稅法(釐稅)カ一釐ニツキ農業者二—四くらいつあ、工業的製造者四—八くらいつあトイフテ使用材料ノ種類ニ應シテ課シタ。併シ此ハうおるふノイフ如ク恐ラクハ農業的製造者カ半年休テアツタ爲メテ、此ニヨリ彼ニ別段ノ恩典ノ與エラレタノテハナク、單ニ標準力齎ラサレタモノテアラウ。其後、小經營ニ對スル實際的恩典チ一八六八年ノ北獨租稅同盟ノ火酒稅法カ與エタ。即チ本稅二二、九リ—さるニ就キ三十ふいんにつひ、十一月ヨリ翌年五月十六日マテ經營シ、前ノ夏期チ全休シ唯々自ラ獲得スル產物ヲ使用シ一日一〇三〇リ—さる半ヨリ多クヲ產セサル農業的火酒製造場ニハ二二、九リ—さるニ就キ二十五ふいんにつひヲ課スルコトトナツタ。類似ノ例ハばいゐるんニモアル。ソレカラ大小經營ニ依ル累進課稅ハ一八八七年ノ全獨逸ニ亘レル火酒稅法ニ於テ之ヲ見ル。即チ農業的火酒製造場カ麥芽入桶稅ヲ課セラレ、其桶ノ容積一ヘクミリ—さる毎ニ一馬克三一布ヲ課セラレ、特ニ十月一日ヨリ六月十五日マテ營マルル農業的火酒製造場ニテハ、

- (a) 一日平均 一〇五〇、リ—さる ヨリ多カラス生産スルモ 二正常率ノ十分六
- b) 一五〇〇、リ—さる 十分八
- c) 三〇〇〇、リ—さる 十分九

尙ホ別ニ小範圍ナカラモ小ナル工業的火酒製造場モ考慮セラル。即チ一年度ニ一五〇〇、ヘクミリ—さるヨリモ多

カラス生産スル者、又ハ唯自己ノ麥酒生産ノ滓ノミヲ使用シ又ハ單ニ非粉狀材料(糖蜜、砂糖芋、又諸芋汁ヲ除ク)ノミヲ使用スルモノハ、州政府ヨリ法律ニテ指定サレタル經營設備又ハ監督ノ免除ヲ與エラルコトヲ得ル。更ラニ一八八七年四月一日ニ存在シ一日、一〇、〇〇〇リニシテヨリ多カラス生産スル工業的火酒製造場ハ從來ノ經營ノ範圍ニ對シ、純酒精一リニシテニツキ四布タケ附加税ノ輕減力與エラレ、一〇、〇〇〇リニシテヨリ多ク併シ二〇、〇〇〇リニシテ以下ノニハ二布ノ輕減力與エラレ。其レカラ一八九五年ノ蒸溜税モカ産額ノ大小ニ依ル累進課税ヲ行ヒ、一九〇九年ノ火酒税ニテハ生産年額三十リニシテ超エサルトキハ十分ニダケ輕減セラレ、副税タル經營税力製造場ノ大サニヨリ段階ツケラル。奥匈ニテモ農業的火酒製造場ニ恩典ヲ與フル例カアリ、其ハ工業的ノニモ多少行ハレ、佛ニテモ少クトモ自家用火酒製造ノ恩典カアル。露國ニモ小經營及農業ヘノ恩典ノ例カアリ、自耳義ニモ農業的ノニ對スル恩典カアツタシ、端西ニハ自家用又ハ自産原料火酒製造ノ恩典カアツタ。伊太利ニモ嘗テ自家用火酒製造ノ恩典カアリ。せるびあニモアツタ。

(2) 麥酒税——ばいゐるん、うゆるてんべるひ、ばいでんノ三國ニテ經營ノ大小ニ依ル麥酒税ノ累進力アリ、奥匈ニテモ中小麥酒製造家ニハ正常率ニ比シテ特段ナル宥恕力與エラレ、其力經營ノ小ナルホト大テアツタ。又丁抹ニモ短期間ノ存続テハアツタカ、經營ノ大サニ依ル麥酒税ノ階段制カ行ハレタ³¹⁾

(註二六) ちゐるしゆけハ大經營ヲ消費税ノ方法ニテ一層重ク課税スルノ案ハ與エラレタル事情ノ下ニハ正當ナルカ如シトイヒ、ふおつけハ一定量ヨリ少キ麥芽ヲ使用スル小麥酒製造場ニハ適當ナル分級ニテ税ノ輕減ノ與エラルトキ(ばいゐるん)ニ、此力長ク考エラレタル方策アルトイヒ、すゐるゝふゝモ原料ニ依ル麥酒税ハ生産收益ニ於ケル技術上ノ相違ニ(此ノ如キモノカ規則正シク現ハルルタケテハ)出來ルタケ税率ノ相當ナル分級ニヨリテ適應スルコトヲ求メナケレハナラヌトイフ。³²⁾

31) Dierschke, a. a. O. S. 7-13. 18-20. 22. 24. 26-32. Heckel, Lehrbuch. II. S. 63. 70-73. 92-93. 98.
32) Dierschke, a. a. O. S. 57. Vocke, Fw. S. 74. Struve, a. a. O. S. 10.

尤モリ一でるハ麥酒税ヲ段階ツケルコトヲ、消費税ノ理想ニ反ストシタ³³⁾。蓋シ此力消費ニ達スル麥酒ヲ平等ニ且ツ其生産所ヨリ獨立シテ課スヘキ消費税トシテノ性質ニ一致セナイカラテアル。

(註二七) すゐるゝふゝハ租稅段階 原則上ノ正當ハ(一定限界内ニ)疑ナシトハイヘ、經驗ニ依レハ、其實際上ノ適用ハ常コトナラシメテト説ク³⁴⁾

(註二八) わぐなゝハ各箇ノ生産者ハ其人的經濟的及技術的の諸多ノモノニ依リ(大小經營ニ於ケル)、固定及運轉資本ノ上ニ資本ノ分配ニヨリ、其設備ノ場處的地位ニヨリ全ク不平等ナル度ニテ、彼等ヨリ拂ハレタル税ヲ轉嫁スル能力ヲモ。往々ニシテ此税ノ一部力彼等ノ上ニ止マル。併シ此力全ク異レル度ニテ起ルトイヒ、すゐるゝふゝモ、租稅段階ノ實際ノ適用ノ多ク不満足ナルノハ、此ニ於テ前提サレタル生産收益ニ於ケル相違力實際製造場ノ經營ノ大サニカカルトイフコトカ精密ニ現ハレヌ又一般ニ適當ナル模型ヲ齎ラシメナイコトニ基クトイフ。³⁵⁾

(註一九) ふおつけハ口ク、夫ノ輕減ノ度及分級ノ方法ハ常ニ恣意的テアルト。すゐるゝふゝモ亦曰ク、一般ノ徵候ヨリ單一ノ原因ニ歸スルコト及此ニヨリ租稅ノ税率階ヲ一定ノ規模ノ大サニヨリ定ムルコトハ、立法ニ於テ常ニ或恣意ヲ伴フヘシトイフ。³⁶⁾

(註二〇) すゐるゝふゝハ曰ク、多様ナル、數十年來益々發展シタル技術的進歩(其ハ小規模ノ釀造場ニモ愈々多ク有利トナリ、而シテ小及大規模ニ於ケル收益ノ差異ヲ本質的ニ減少シタ所ノ)ノ爲メニ、租稅 階ノ標準トナレル規模ト收益トノ關係力愈々分解シタ。而シテ結局ノ經營ノ成績ヲ條件スル動機力愈々複雑トナリ、其影響及交互關係力推移シタ³⁷⁾

(註三一) ちゐるしゆけノ研究ニ依レハ、獨逸ニテ火酒ニ於ル蒸溜税ノ結果、小火酒製造場ニテハ、退却ノ猶豫力現ハレ、大火酒製造場ニツキテハ、此税ノ影響ハ確實ニハ確定セシメストイフ。尙ホばいゐるんタケノ麥酒原料税ノ

33) Struve, a. a. O. S. 9.
34) Struve, a. a. O. S. 10.
35) Wagner, a. a. O. S. 643. Struve, a. a. O. S. 10.
36) Vocke, Fw. S. 74. Struve, a. a. O. S. 11.
37) Struve, a. a. O. S. 11.

結果ハI)大麥酒釀造場テハ經營ノ數ニ於テ原料使用量ニ於テ減退ヲ見タ。併シ此ハばいゝるんヨリノ麥酒輸出ノ減少ヲ結果シナイテ、唯々自國內ニ於ケル大經營産ノ麥酒販路ノ制限ヲ結果シタ。²⁾中經營ハ其數及原料使用量ニ於テ増加シタ。其競争能力ハ他ノ麥酒釀造業ニ比シテ改善セラレタ³⁾小釀造場ハ税率ノ階級ニヨリ得ラレタル節約ヲ多ク經營改良ニ利用シ、此釀造場ノ舊時ノ退却ノ猶豫力齎ラサレタトイフ。³⁸⁾

(B) 税法ニ於ケル小企業不許可ノ規定(前掲日本ノ酒稅ノ如キ)ヲ解放スルコト——モ亦一方法テハアル。併シ此ハ稅務行政上不便ヲ増シ、並ニ生産上ニモ有利ナラス、衛生及倫理上ニモ不利トナルカラ、其採用ニ躊躇セシメル。或ハ

(C) 稅務官吏ノ間ニ社會政策上ノ觀念ヲ鼓吹スルコト——モ一ノ匡正ニハナル。彼等ニ之ニ關スル明確ナル觀念カアルト、大企業者ニハ嚴重トナリ、小企業者ニハ寛大トイフコトモアリ得ルカ、併シ其適當ナル程度トイフコトカ六ツカシク、之ヲ濫用スルコトトナルノ恐モアル。餘リ之ニ重ヲ置ク譯ニハ往カナイ。

結 論

以上要之、普通ノ消費稅ハ自然ノ大勢ヨリ並ニ税法ノ結果トシテ、生産者相互ノ間ニ於ケル社會政策上不利ナル影響ヲ齎ラス。ソシテ其カ中等階級政策上不利ト認メラルル。勿

38) Dierschke, a. a. O. S. 80. 85.

論其ニ不利ノミ伴フノテハナイカ、此不利ヲ不利ト認メ、之ヲ排除スルニハ、色々ノ方法カ考エラルルカ、現在ノ租稅制度ヲ維持シテ行フノ方策ハ餘リ賛成ノ出來ナイ缺點ヲ有ツ其處テ此點カラ見テ政府獨占ニ移ル方ガ一層問題ノ解決ヲ簡單ニスルモノト思ハルル。之ニヨリテ政府使用人テフ中等階級維持ニモナリ、ソシテ事業利益ヲ一般人民ニ均霑セシムルコトヲモ得ル。尤モ政府獨占トナレハ決シテ此レタケテハ問題カ決セラレナイ。他ニ更ニ色々ノ事ヲ考エナケレハナラヌカ、其ハ後文ニユツリ、今ハ此一點ヨリシテ暫ラク政府獨占ヲ勝レリトシテ置ク。(大正九年二月)

第七編 消費稅ニ於ケル累進課稅

緒言

(一) 給付能力ノ大ナル者カ其ノ小ナル者ヨリモ一層大ナル負擔ヲ爲スヘキモノテアルトイフコト、而モ其カ絶對的ノミナラス、相對的ニモ一層大ナル負擔ヲ爲スヘキモノナルコトハ爭ヲ容レナイ。即チ稅率トシテ累進ノ適當ナルコトハ、原則トシテ之ヲ認メナクテハナラヌ。古クハ色々ト之ニ對シテ異說モ出テタケレトモ、今日ノ通說ハ正サニ此原則ヲ承認シテ居ル。但タ併シ此累進カ所得稅、相續稅、土地又ハ財産ノ增價稅ノ如キモノニ行ハレ易ク、隨フテ實際此等ノ稅ニ於テ其採用サレタ例ハ少クナイカ、收益稅ヤ消費稅ノ如キモノテハ行ハレタ例カ乏シク、又其ノ行ハレ難キモノト見做サレタ。併シ本來、累進ハ必スシモ前ノ種類ノモノノミニ行ヒ得又行フヘキモノテハナク、後ノ種ノ稅ニモ行ヘルタケ行フヘキテアリ、且ツ多少ハ行ヒ得ル所テモアル。其中ニ就テモ收益稅ノコトハ暫ラク措キ消費稅ノミカライフテモ、一層大ナル消費ヲ爲ス者ハ一層小ナル消費ヲ爲ス者ニ比シテ其給付能力ノ一層大ナルコトヲ推定スルコトハ大體ニ於テ難カラサル所テアリ、隨フテ此ニ

モ理論トシテ出來ルタケ累進稅率ヲ採ルヘキテアル。唯タ其處テ問題ハ如何ニ之ヲ採リ入ルルカトイフコトニ存スル。私カ嘗テ提案シタ統一消費稅又ハ統一奢侈稅ノ如キモノカ行ハルルナラハ、此ニモ累進率カ容易ニ採用サルルカ、斯カル稅ノ實施其モノカ大困難ニ遭遇スルトシテ、現行普通ノ消費稅ニテ果シテ其カ行ヒ得ルヤ又行フテ能ク公平負擔ノ理想ニ近クコトヲ得ルヤカ問題テアル。此ニツキテハ由來、學者ノ注意ヲ引クコトカ少ク、又殆ント其ヲ以テ不能ニシテ問題外タルカ如クニ考エテ居ル人モ少クナイ。併シ私ノ見ル所テハ實際隱然トシテ其カ行ハレテ居ルノ實例モアリ、多少ハ其カ公平負擔ノ目的ニ適ヒ、又其ヲ擴充シテ一層能ク此目的ニ適フ方法ノ工夫攻究ノ餘地モアリト考エラルル。私ハ仍チ此問題ニ關スル學者實際家ノ注意ヲ促サンカ爲メニ、茲ニ一文ヲ草スルモノテアル。

(二) 說述ノ順序トシテハ、先ツ由來消費稅ニツキ累進課稅ヲ行フトシテ考エラレタル方法ヲ示シ、並ニ其ノ說明ヲ爲シ、次キニ其ニ對シテ若干ノ批判ヲ加エ、更ラニ改造策ニ及ハウト思フ。

第一段 消費稅ニ於ケル累進課稅ノ

方法及其說明

(一)方法ノ大別——廣ク普通ノ消費稅ニ於ケル累進課稅トイヘハ、課稅物件タル消費物ノ生産經營ノ規模ノ大小ニ依リ此間ニ累進課稅ヲ爲スモノト、當該消費物ノ種類品等ニ應シテ累進課稅ヲ爲スモノトニ分レル。而シテ其第一ノモノニ就テハ、既ニ前回ノ論文ニ論究シタカラ、今茲ニ之ヲ省略スルコトトナシ、唯專ラ第二ノモノノミヲ説クコトトスル。而シテ此消費物ノ種類品等ニ依ル累進課稅ノ方法カ更ラニ二ニ分レル。其第一ハ各種消費稅相互ノ間ニ於テ、奢侈的意義アル物ニ重ク課稅シ、必要的性質アル物ニ輕ク課稅スルコトニ依リテ、消費稅ノ全體ニ亘リテ其全體トシテ累進課稅カ行ハレタトイフコトノ出來ル(註一)モノテアリ、第二ハ各箇ノ消費稅ニ於ケル消費物ノ種類品等ニ依ル累進課稅テ(註二)アル。尤モ此中ニ就キ前者ハ普通ノ意味ニテ累進稅カ行ハレタトハイヘナイカ、併シ結果ニ於テハ當サニ累進カ行ハレタト同トナリ、廣義又ハ寛カナル意味ニテ茲ニモ累進課稅カ行ハレタトハイヒ得ル。之ト異リ後者ハ即チ最固有ナル累進テアル。消費稅ニ於ケル課稅物件タル消費物ノ種類品等ニ依ル累進トシテハ、當サニ此ニ重キヲ置カナケレハナラヌ。物ノ消費者即チ消費稅ノ擔稅指定者タル消費者ノ間ノ負擔ノ公平ヨリ見テ重要ナルハ即チ此累進テナケレハナラヌ。固ヨリ此觀點ヨリシテ各種消費稅間ノ累進課稅モ均シク重要テハアル

カ、此方ハ實際既ニ自ラ相當ニ注意セラレ、略ホ目的ヲ達シテ居ル。然ルニ此各箇消費稅ニ於ケル其ハ、兎角初メヨリ行ヒ難キモノトシテ取扱ハレテ居リ、斯クテ實際ニ於テ各箇ノ消費稅ハ普通ニ、從價又ハ從量ニテ比例率ヲ採ツテ居リ、其結果ハ反對累進ニナル傾向カ大イ(註三)。其ハ餘リニ不公平テアルカラ、是非トモ此ニ累進ヲ行ツテ此不公平ヲ緩メタイトイフコトニナラナケレハナラヌ。今日實際立法ノ改善ノ爲メニハ此ニ於テ尙ホ盡スヘキモノカ存スル。因テ下ニ項ヲ改メテ此點ヲ詳説スルテアラウ。

(註一)之ニツキしほふれハ注意シテ曰ク、間接稅ニ於テ或物體及同種物體ノ或品質ノモノノ重負擔ハ——弱キ租稅力ノ租稅負擔輕減ノ考ノ延長ニ過キナイ。——ソシテ斯クノ如ク重負擔ヲ爲サシムル事ハ、第一ニ強キ租稅力アル特ニ然ラ奢侈的ナル物體力制度ノ中ニ入レルルコトニ依リテ行ハルルト。其他ろつじあモ亦、人カ間接稅ヲ當該消費ノ其他ノ價值ニ應シテ分級スルコトヲ得ル。必要品ニハ出來ルナラハ全ク免稅シ、絶對ニ無害ナル享樂品ハ頗ル輕ク課稅シ、相對的ニ無害ナル物ハ一層高く、相對的ニ有害ナル物ハ頗ル高く課稅スヘシトイフテ居ル。¹⁾

(註二)しほふれハ之ニツキ、割合ニ重ク負擔セシムル目的ノ爲メノ第三ノ方法ハ、同種ノ物ノ中ニテ同等ニ課稅スヘキ品質力同等ニ課稅サルルコトテアル(品質稅率)。此ハ價值ニ依ル測定ニ從ヒ、並ニ或物體ノ性質(例之、酒ノ場合ノあるこゝる度)ノ標準ニヨリテ行ハルルコトヲ得ルトイヒ、へつけるモ亦タ、人ハ(消費稅ニ於テ)稅率ノ累進ノ一種ヲ唯タ次ノコトニ依リテノミ違スルコトヲ得ル。即チ人カ其高サヲ課稅物ノ品質ニ適應セシメントシ高キ價格ニ高キ稅率ヲ適用スルコトヲ出發點トスルコトニ依リテアルトイフテ居ル。²⁾

1) Schäffle, Steuern. B. T. S. 250. Roscher, System d. Fw. 5 Aufl. II. S. 2.

2) Schäffle, a. a. O. S. 251. Heckel, Lehrbuch d. Fw. II. S. 39.

(註三) わが國ハ消費稅ハ反對累進的ニ大ナル所得ニ對シテ小所得ヲ負擔セシムルモノトイヒ、更ニ、通例ノ消費稅ハ容易ニ、高キ富メル所得者階級ヲ間接ニ有利トスルコトナル。之ニ加フルニ直接ノ有利トナルコトモアル。何トナレハ同一租稅物體ノ品質又ハ價值ハ通例稅率ノ確定ニ於テ考慮セラレナイカ、又ハ唯々僅力考慮セラレ、即チ品質稅率カ多ク缺ケテ居ルカラトイフ。わるかハ間接稅ハ下ノ方ニ累進ニ働クト爲シ、ばりりハ消費稅ハ擔稅者ノ所得ニ對シ、直接稅ヨリモヨク少ク比例的テアルトイフ。³⁾

(二) 問題ノ累進——

(A) 關稅及使用稅ノ範圍ニ於テ——各箇ノ消費稅ニ於ケル消費物ノ種類品等ニ依ル累進課稅カ問題テアルトイフタカ、其中ニ就キテモ關稅ト使用稅トニ於テハ夙ニ此種ノ累進課稅カ可ナリ行ハレテ居ル。(イ) 特ニ關稅ニ至テハ其カ本來單一ノ稅テハナクテ、數多ノ其ノ合體シタルモノ故。此ニ於テ恰モ各種消費稅相互ノ間ニ於ケル累進課稅ト同様ノ意味ノ注意カ行ハレ、物ノ種類ニ依リテ稅率ニ差等ノ設ケラルルノミナラス、尙其上ニ同種ノ物ニテモ品等ヲ考エテ稅率ニ差ヲ附セラレテ居ルコトカ少クナイ。此ハ確カニ累進課稅テ、人ノ氣ノ附カヌ處ニ累進ノ行ハレテ居ル處テアル。尤モ其ニテ同種ノ物ノ優劣等ニ應スル分級カ餘リニ精密テナイトイフ嫌ハアル。又其等ノ分級カ夫ノ擔稅指定者ノ給付能力ニ比シテハ眞ニ累進ニナルトイフ程ノモノテナイトイフコトハ多カラウカ、兎モ角茲ニ累進課稅

3) Wagner, Fw. 2 Aufl. II. S. 655. 660. Walcker, Fw. S. 97. Beaulieu, Traité de la science des finances. 5 éd. I. p. 634.

ノ存スルコトハ認メナケレハナラス。(ロ) 其レカラ使用稅ニモ例之車稅トイヘハ、單純一率ノ稅テナク、自動車自轉車馬車人力車等ノ區別ヲ爲シ、更ラニ其ニ各等級ヲモ附シテ分級累進課稅ヲ爲ストイフコトハ決シテ珍シイコトハナイ。孰レニセヨ此使用稅ノ如キハ結局直接ニ消費者ニ就イテ課セラルルノテアルカラ、累進課稅ヲ行フニ都合良キ點カアル。テ、今日普通ニ行ハルルモノヨリモ今一層踏込ンテ累進課稅ヲ行ハウト思ヘハ、同種同等ノ物ニテモ其ヲ持ツ人ノ財力ヲ測ツテ、之ニ應シテ累進課稅ヲ爲スコトモ出來ル。私ハ稅法カ其處マテ進ムコトヲ獎ムルモノテアル。其ハ全ク公平負擔ノ當然ノ要求テアル。

(B) 普通ノ狹義消費稅ノ範圍ニ於テ——

(イ) 消費稅ノ中テモ最重要ナル地位ヲ占ムルモノハ上記ノ關稅ト使用稅トテナクテ、此ニイフ狹義ノ内國消費稅テナクテハナラス。本問題ノ重點モ亦タ此ニ存スル。試ミニ日本ノ稅制ニ就キテ此方面ニ於ケル累進課稅ノ實現ト否ト、並ニ其實現ノ程度如何ヲ檢スルノニ、通行稅ト狩獵免許稅トハ交通稅ニ屬スルカ消費稅ニ屬ズルカ其部屬ニツキ争ハアルカ暫ラク之ヲ消費稅ト見テ之ニ分級カ行ハレテ居リ、通行稅ノ方ハ課稅物件ノ等級ニ應シテ稅率ヲ異ニスルコトトナリ、狩獵免許稅ノ方ハ義務者ノ所得狀態ヲ考慮シテ分級率ノ行ハ

ルルコトトナツテ居ルケレトモ、此等ノモノハ兎モ角特殊ノ稅テアルカラ茲ニ多ク問ハストシテ、何人モ消費稅トシテ疑ハサル、ソシテ最廣ク行ハルル種類ノモノノ稅率ヲ見ルト日本ノハ大抵比例率カ採ラレテアルコトヲ知ル。尤モ其比例ニモ二種アル。一ハ從量テ他ハ從價テアル。即チ麥酒稅、醬稅稅(醬油ト溜トノ間ニ極輕微ナル差等課稅ヲ爲スコトヲ別トシ)、石油稅、骨牌稅ハ一定量ニ同一稅額ヲ課スルノ從量比例率ヲ採リ、織物稅ト賣藥印紙稅トハ從價比例率ヲ採ツテ居ル。斯クテ日本ノ固有ノ消費稅ハ大體比例主義ヲ採ツテ居ルカ獨リ酒造稅(及ヒ酒精及酒精含有飲料稅)ト砂糖稅トニ於テ分級率カ行ハレテ居リ、ソシテ其酒稅ノ方ハ含有酒精分ノ多少ニ依テ即チ其課稅物件ノ化學的成分ニヨリテ分級セラレ砂糖稅ノ方ハ砂糖ノ色相ニヨリ即チ課稅物件ノ物理的狀態ニヨリテ分級セラレテ居ル。處テ酒精分ノ多少ト酒ノ品等又ハ價值トハ必スシモ並行シナイ。並行スルコトモアルカ並行セザルコトカ少クナイ。其並行シナイ丈ケテハ、之ニ依リテ眞ニ消費稅ニ於ケル消費物ノ品等ニ依ル累進課稅カ行ハレタリトイヘナイ。唯タ單純ナル從量比例率ノ時ヨリハ累進ニ近ツクトイヒ得ルノミテアル。砂糖ノ色相ニ依ル分級ノ方ハ大體、其砂糖ノ價值ノ高下ト並行スルケレトモ此トテモ其價值ノ上リ方ト此ニ課セラルル稅ノ上リ方ト並行スルタケテ

ハ從價ニシテ見レハ單ニ比例率ニ止マルコトニナリ、加之價值ノ上リ方カ稅ノ上リ方ヨリモ進メルタケテハ、反對累進トサヘナリ得ル。併シ何レニスルモ、從量比例即チ同一量ノ砂糖ニ同一稅額ヲ課シタルニ比スレハ餘程累進課稅ニ近ツクトハイヒ得ヘク、又價值ノ上リ方カ稅ノ上リ方ニ後ルルタケテハ、眞ニ從價累進トイヒ得、隨フテ正サニ消費物ノ品等ニ依ル累進課稅カ行ハレタリトイフコトカ出來ル。併シ此ノ如キコトハ恐ラクハ極小範圍ニ於テノミ現ハルルニ過キサレ所テアラウト思フ。要スルニ日本ノ此二ノ代表的消費稅ニ於テ折角分級ヲ行フテハ居ルカ、ソシテ此ハ日本ノ他ノ多數ノ消費稅ニ於ケル從量比例ヨリハ累進ニ近イカ、從價比例ヨリモヨリ多ク累進的ノ實アリヤハ疑ハシク、ムシロ此分級ヲ行フコトニヨリテ、結局、漸ク從價比例ニ近カシメントスルノニ止マリ、否ナ加之、酒ノ場合ノ如キハ其サヘモ疑ハシト見ナケレハナラヌ。即チ日本ノ重ナル消費稅ニハ未タ眞ニ消費物ノ品等價值ニ依ル累進カ良ク行ハレテ居ラヌトイフテ良イ。此ノ如キハ獨リ我邦ノ消費稅ニ於テ見ルハカリテナク、消費稅トイヘハ通例此ノ如クナルヲ免レナイ。(ロ)併シ若シ此ニ不滿ヲ感シテ眞ニ此ニ累進ヲ行ハヅトスルナラハ、假令此種消費稅ニテハ、消費者ノ所得ノ大小ニ依リテ等差課稅ヲ爲スコトタケハ、技術上行ヒ難キニセヨ(註四)、消費物ノ

品等又ハ一層精密ニイヘハ其價格ニ從フテ累進率ヲ適用シ、即チ大ナル價格アル物ニハ比例以上ニ一層大ナル稅ヲ課スルコトヲ行フノ外ナク、又行フテ然ルヘキモノテアル。而シテ又其ハ後ニイフ如キ面倒困難ヲ辭セナイナラハ、行フテ行ヘナイコトハナイ。而シテ其ノ之ヲ行フヘシトイフノハ、箇々の且ツ間接的ナル消費稅ノコトテアルカラ、消費者ノ所得狀態ヲ調ヘテ其大小ニ依リ差等課稅ヲ行フコトカ出來ナイニセヨ、切メテハ或物ニ就キ同量ニテモ優等高價ノ物ヲ消費スル人ハ、其消費ニ於テ一層大ナル所得、又ハ給付能力ヲ表ハシタルモノト見ルコトカ公平テアリ、之ニ應シテ累進課稅ヲ行フヲ至當トシナケレハナラヌトイフニ在ル。此際、一層優等高價ノ物ヲ消費スル者カ一層ノ貧者又ハ一層ノ小所得者トイフコトハ事實アリ得テモ、其ヲ一々問フコトハ此種消費稅ノ性質上出來ナイカラ、此ニテハ單ニ消費ニ於ケル樣式ヲ見テ負擔ノ大小ヲ定ムルヨリ外ハナイ。

(註四) へつけるハ之ニ就キテ曰ク、消費稅ニ於テハ、累進ノ實行カ一層大ナル困難ニ遇フ。租稅技術力此ニテハ各箇消費物ノ課セラルル稅率ヲ、消費者ノ所得又ハ經濟上ノ地位ニ應シテ分級スルコトヲ許サナイト。わがな一モ亦消費稅ニテハ平等原則カ破ラルト爲シ、其理由ノ一トシテ、此稅ハ其カ被稅者ニ達スル全範圍ニ於テ先ツ消費ノ大サニ依リ所得ノ大サニヨリテ達シナイカラトイフコトヲ擧ケテ居ル。⁴⁾

4) Heckel, Lehrbuch. II. S. 39. Wagner, a. a. O. S. 652.

第二段 消費稅ニ於ケル累進課稅ノ批評 及其改造

(一) 批評——

(A) 上ニイフ如ク普通ノ消費稅ニ於テ累進稅ヲ行ハウトイフト、消費物ノ價格ニ從ヒテ累進率ヲ適用スルコトトスヘキモノトナルカ、(イ)併シ此ニ於テ大缺點ハ恣意ヲ容ルル餘地ノ大ナルコトテアル(註五)。即チ先ツ段階ノ分別決定ノ仕方カ恣意ヲ免レナイ。此ハ累進稅率ニハ凡ヘテ免レ難イコトテ止ムヲ得ナイコトトシテモ、其消費物ノ價格ヲ捕捉スルコトニモ亦恣意カ加ハル。價格ハ時々刻々ニ變動シツツアル。一定時ノトイツテモ、其大勢ヲ知ルコトカ難ク、其ハ知レテモ儲テ一々ノ物カ何レニ當ルカトナルト、決定者ノ恣意ノ加ハル餘地カ大イ。此ニ賄賂トカ情實トカカ行ハレ、又決定者ノ眼ヲ眩セントシテ色々ノ詐欺的行爲モ行ハルルコトトナル。其モ從價比例ニ止マレハ斯カルコトニナル誘惑モ少イカ、累進トナレハ此弊一層多クナル。價格ノ差異カ稅額ノ上ニ大影響ヲ持ツカラテアル。從價比例サヘ夫ノ價格決定ノ困難ノ爲メニ、ムシロ從量比例ヲ用キントスル程テアル。從價累

進ノ困難想ヒ知ルヘシテアル。(ロ)或ハ此種累進課税ハ少數ノ奢侈的消費税ニ就テノミ行ハルトイフテ輕視セラルルケレトモ(註六)、此カ必要的消費物ニ於テ絶對ニ行ヘストイフノテナク、唯タ奢侈的消費物ニ於テ一層多ク行ヒ得ルトイフニ止マルカラ、其ハ根本的ノ非難トハナラナイ。例之、同シ米鹽ノ如キモノニテモ品等ニヨリ税ニ差等ヲ附スルコトカ絶對ニ行ヘナイコトテハナイ。

(註五) ふいつつハ之ヲ指摘ス。曰ク、累進ハ葡萄酒ノ如キ消費税ニ定メラレテハナラナイ。何トナレハ此ノ如キモノハ管ニ殆ント實行スヘカラサルノミナラス避クヘカラサル恣意ヲ齎ラスカラト。⁵⁾

(註六) へつけるは曰ク、夫ノ(消費税ニ於ケル累進)ノ手續ハ決シテ一般ニハ適用スルヲ得ヌ。多クノ消費税ニテハ通例全ク否定セラレ、唯タ各個ノ飲料税(葡萄酒、じやんぱん税)、煙草税等ニ此試力爲サレタト。⁶⁾

(B) 然ラハ此從價累進ノ困難ヲ避クル爲メニ、日本ノ酒税ヤ砂糖税ニ於ケルカ如ク、外形的累進ニ満足シヤウカ。如何ニモ此等ノモノノ如ク物ノ物理的又ハ化學的性質ニ依ル等級ニ依ルコトトスレハ、恣意ノ容レラルル餘地ハ少ク、夫ノ困難ヲ除クコトハ出來ル。併シ此ハ恐ラクハ結局從價ニシテ見レハ精々比例ニ止マリ、場合ニヨリテハ此從價ヨリ見テ反對累進ニサヘナリ、即チ例之、酒ニシテモ酒精含有量ノ少キ優等酒カ其多キ劣等酒ヨリモ輕ク課セラルルコトナリ得ルノテ、到底課税ハ公 上許シ難イ。望マシクナイ。技術上便利テ

5) Fitz, Die Weinstener. S. 40.

6) Heckel, Lehrbuch. II. S. 39.

ハアルカ、大事ナ公平原則ニ遠カルノハ遺憾テアル。採リタクナイ。

(二) 改造——以上ノ如ク論シ來ルト、普通ノ消費税ニテハ、消費物ノ品等價格ニ應シテ累進課税ヲ行フトイフコトハ公平原則上望マシイケレトモ、實行カ六ツカシイトイフコトニナル。此ニ於テ此カ困難ヲ避ケ、而カモ公平課税ノ趣旨ヨリ累進課税ヲ行フノニハ矢張り何ウモ政府專賣又ハ獨占ニ行クヨリ外ナク、此カ夫ノ目的ヲ達スル最良ノ方法ト考エラルル(註七)。現代消費税ノ此ニ依ル改造カ取モ直サス、消費税ヲシテ消費者ニ對シテ比較的公平ナル負擔ヲ爲サシムルニ最適切ナル手段、又ハ其豫備手段トイフコトニナル。私ノ兼テ考エテ居ル統一支出税又ハ統一奢侈税カ行ハルレハ良シ、左モナケレハ此政府專賣ニ行ツテ消費者ニ對シテ公平ナル消費税負擔ヲ爲サシムルヨリ外ナイ。蓋シ例之酒ナレハ酒ヲ一旦政府專賣トスルニ於テハ、其消費税ニ當ルモノハ其場合ノ酒ノ價格ノ中ニ込メラルルカラ、政府ニ於テ、優等ノ酒ニシテ富者大所得者ノ消費スル傾アリト認ムル物ニハ、ウント價格ヲ高く定メテ、生産費ヲ遙カニ超ユルモノトシ、下等ノ酒テ貧乏人ノ消費スル物ハ之ト比シテ遙カニ安く定メ、時トシテ生産費ニ喰込ム位ニサヘ定ムルコトヲ得ル。斯ノ如クニシテ消費税ニツキ貧富者ノ間ニ其給付能力カ少クトモ其消費ニ現ハルルタケテハ、最モ

簡單容易ニ累進課税スルコトヲ得ル。若夫レ政府專賣ノ下ニ其元賣捌人小賣人ノ價格ニ於ケル干涉ニ至テハ、別ニ法令ヲ以テ一定ノ限度ヲ指定スルコトヲ得ヘク、豫定通りニ擔稅指定者ニ當ル所ノ消費者ニ負擔セシメルコトヲ得ル(註八)。但タ或消費稅ノ行ハレ又ハ行ハルヘキ消費物ニツキ政府專賣ヲ行フヘキヤ否ヤ、如何ナル物ニ行フヘキヤハ、理論トシテ又實際トシテ別ニ考慮スヘキ色々ノ事項ヲ考慮シタ後テナケレハ決セラレナイ。單ニ上記ノ一點ノミヨリ速斷スルノハ早計テアルカ、併シ少クとも累進課税問題ヨリシテハ政府獨占ヲ薦ムルコトトナラナケレハナラヌ。

(註七) 既ニ諸多ノ學者力之ヲ認ム。例之、ほつくハ政府獨占ノ利トシテ、獨占物體ノ價格又ハ品質ニ於ケル差等力質者富者ノ課税ニ於テ分級ヲ爲スニ適當スルコトヲ舉ケ、(1) べるひモ國家獨占ノ利トシテ、此ニテ最易ニ、租稅ヲ產物ノ價值ニ應テ分級スルコトノ違セラルルコトヲ舉ケ、ぼるぐまモ之ニ於テ、消費稅ノ消費者ノ給付能力ニ適應スルコトカ、價格力生產物ノ異リタル種類ニ應セシメラルルコトニ依リテ容易ニセラルルトイヒ、リつばーマハ政府獨占ハ製造品ノ價格ニ應シテ分級サレタル獨占附加物ニヨリテ、比例又ハ累進課税(消費稅ニテハ殆ント其能力ヲ缺ク所ノ)ヲ齎ラスコトヲ得ヘシトイヒ、ろつしやーモ 稅セラルル所ノ奢侈品ノ異リタル財ノ度ニ就キテハ、間接稅ハ唯タ國家獨占ノ大ニ疑問アル形ニテノミ之カ十分ナル考慮ヲ取ルコトヲ得トイヒ、へつけるモ亦タ火酒稅ノ租稅技術上ノ困難ハ、國家力自ラ生産、加工、販賣又ハ凡ヘテ此 機能ヲ併セ行ヒ火酒專賣ヲ定ムルトキニ多クノ方向ニ簡單ニセラル。何トナレハ此カ最易ニ生産物ノ事實上ノ價值ニ應シタル稅率ノ相當ナル分級ヲ許スカラトイフテ居ル。

7) Hock, Die öffen lichen Abgaben und Schulden. S. 156. Eheberg, Fw. 9 Aufl. S. 362. Borght, Fw. S. 137. Lippert, Das Alkohömonopol. S. 69. Roscher, a. a. O. S. 2. Heckel, Lehrbuch. II. S. 85. Derselbe, Branntweinsteuer. (Conrad, Hwb. 3 Aufl, III.) S. 211.

(註八) ぼるぐまハ曰ク、此獨占ニテハ、消費負擔は直接ニ其隨着スヘキ消費者ニ行クコトトナルト。

結 論

以上要之、租税ニ於テ公平負擔トイフコトカ、財政上カラシテモ社會政策上カラシテモ重大テ、切ナル要求ノ存スル所テアリ、其カ爲メニハ一般ニ累進課税ノ望マシキ所テアルカ、從來兎角消費稅ニテハ此カ行ヒ難キモノトセラレ、又實際ニモ唯タ不完全又ハ皮相的ニシカ此カ行ハレテ居ラス。少クとも完全ノ意味ニテハ行ハルルコトカ少イカ、併シ理論上ハ之カ行ヒタキコトテアリ、又實際行ヘナイコトテハナイ。タタ其二大ナ困難ノ存スルヲ免レヌ。其處テ其ヲ避ケテ而カモ同趣旨ヲ貫カウトスルト、何ウシテモ政府獨占ニ行クヨリ外ハナイ。消費稅ヲ政府獨占ニ改造スルコトニヨリ初メテ之ヲ達スルヲ得ルコトニナル。テ若モ夫ノ公平課税隨テ累進課税ヲ重シトシ、其ヲ消費稅ニモ及ホサウトスルナラハ少クとも此點ヨリシテハ政府獨占ニ行クヨリ外ナイ。否ナ私ノ兼ネテ考フル統一支出又ハ奢侈稅ニ行クコトヲ避クルナラハ、切メテハ政府獨占ニ行クヨリ外ハナイ。固ヨリ政府獨占ハ此點ノミヨリ決スヘキモノテハナイカ、併シ彼ヲ採ルニツキニ此點カ可ナリ重イコトハ争ハレナイ。(大正九年三月)

8) Borght, a. a. O. S. 137.

第八編 酒ノ政府專賣ト公益

緒言

(一) 私ハ今日、日本ノ實際財政策ノ一トシテ、酒ノ政府專賣ヲ薦ムル者テアル。其理由、之カ利害ヲ今一々述フルコトハ爲サナイカ、既ニ私ノ一般官業ニ關スル意見ニ於テ、¹⁾略ホ其ノ一般官業ニ共通ナルタケニ就イテノ事項ハ言ヒ盡シテ居リ、其ニ依レハ大體、財政上ニハ利害相半ハシ、政治及生産政策上ニテハ不利ニ傾キ、社會政策上ニハ有利トイフノテアツタ。其レタケテハ未タ酒專賣ヲ肯定スルニハ幾分不満足ノ嫌ハアルカ、其レニシテモ既ニ諸多ノ觀察點ノ中ニ就キテ社會政策上ノ點カ重キヲ成ス今ノ時世ニ於テハ、之ヲ以テシテモ尙ホ酒專賣ニ大反對ヲ爲スコトタケハ出來ナイ。然ルニ夫ノ前回及前々回ノ論文ニ於テ私カ論究シタ所ニ依ルト、酒ノ課税ニツキテモ、專賣ニ依ルコトニヨリテ、社會政策上并ニ公平課税上重大ナル利益ヲ擧ケラルルコトノ明カニナツタニ就キテハ、酒專賣ノ爲メニ一層有利トナツタ。併シ其等ノ論點ハ何レモ酒ノミニ關シタコトテハナク、又見様ニヨリテハ左マテ重大テナイトモイヒ得ル所テ、其タケテ以テ酒專賣ヲ主張スルニハ物足ラヌ

¹⁾ 拙著、租稅研究、一頁以下、

感ヲ免レナイ。然ルニ茲ニ此酒ニツキテハ公益上或重大ナル觀點カアツテ其ヨリシテハ是非トモ政府專賣ヲ勸メシムルコトトナリ、其國民全體ニ對スル重要ノ程度カ、之ニ伴フ若干ノ不利ヲ優ニ忍ハシムルニ足ル所テアル。私ハ仍チ茲ニ此點ヲ明カニシタイト考フル。

(二) 本文説述ノ順序トシテハ、先ツ本問題ノ前提トシテ、公益ノ意義及其ノ本問題ニ於ケル重要ヲ説ギ、然ル後、本問題ニ入りテ、酒其モノノ消費ノ方面ヨリト、其原料タル米ノ方面ヨリトニ分ツテ述ヘヤウト思フ。

第一段 本問題ノ前提

其一 公益ノ意義

(一) 茲ニ公益トイフノハ財政關係以外ノ國民全體ニ交渉アル利益トイフコトテアル。廣ク公益トイヘハ之ニ財政關係ノ利益モ當然含マルルカ、便宜上カラハ其ヲ除イタ其以外ノ公共的利益トモ解シ得ラルル。今此意味ニテ之ヲ使用スル。而シテ又斯カル公益ハ之ヲ酒ノ場合ニツキテ見レハ、其ニ關聯スル倫理衛生及經濟上ノ利益ニ外ナラナイ。詳シクイヘハ酒ノ濫費カ人々ノ健康ヲ傷ケ、其道義ヲ破リ、其經濟ヲ苦シメ、引イテハ生産能率ヲ減退セ

シメ、資本ヲ減少セシメ、社會及家庭ノ平和ヲ紊シ、隨フテ管ニ文化政策上好マシカラサル結果ヲ齎ラスノミナラス、生産及社會政策上ニモ有害ナル結果ヲ生スル。其ニ加フルニ日本ノ酒ノ原料タル米カマタ食料問題上ニ重大ナル意義ヲ有シ、酒隨テ酒造用米ノ濫費トイフコトハ、國民ノ健康ニモ將タ其道義ノ上ニモ、隨テハ又社會政策上ニモ大ニ不良ナル影響ヲ有ツ。私ハ此等ノ觀點ニヨリテ本問題ヲ扱ハウト思フ。

(二) 所テ右ノ如ク公益ヲ以テ、財政關係以外ノ公共的利益トシタニハシタカ、其中テモ特ニ倫理及衛生上ノ利益カ一層重大ト考ヘラルル。其カ引イテ生産政策並ニ社會政策上ニモ更ナル影響ヲ與フルカ、其ハ兎ニ角トシ倫理衛生上ノ利益其モノカ其タケニテ絶大ナル價値ヲ有ツト認メラルル。酒ノ消費ノ爲メニ人ノ經濟ヲ壓迫スルトイフ點ノ如キハ、此ハ前者ニ比シテハムシロ輕イモノト見ルヘキテアル。其レ故ニ私ハ下ニ主トシテ倫理衛生上ノ點ヨリ公益ヲ見テ本問題ヲ説カウト考フル。

其二 公益ノ本問題ニ於ケル重要

(一) 凡ソ國家ハ公益ヲ計ルヘキ使命ヲ有ツ。公益上必要ト認ムルニ於テハ、私人ノ經濟ニ不利ヲ加フルコトヲ辭スヘキテナイ(註一)。之ト同時ニ彼ハ其財政ノ爲メニ公益ヲ無視スヘカ

ラスシテ、ムシロ公益ノ示ス所ニ從テ財政策ヲ立ツヘキモノテアル。動モスレハ財政家ハ其課税ニツキテモ先ツ以テ財政收入關係ヲ考フル、カ其ハ誤テアル。本來最良ノ財政家ハ最良ノ政治家テナケレハナラヌ。彼ハ財政ヲ以テ單ニ一般國務、隨テ公益ノ爲メノ手段タルコトヲ考エ、手段ノ爲メニ目的ヲ没却シテハナラヌ。財政收入ヲ漁ルノ餘リ、大切ナル國民ノ健全ナル發達、隨テ其倫理衛生上ノ利益ヲ忽ニシテハナラヌ。之ヲ忽ニシテ居ツテハ、如何ニ豊富ナル財政收入アリトモ其ハ無用テアル。勿論、一方ニハ豊富ナル收入ヲ得テ國民ノ倫理衛生上ノ利益ヲ進捗スルトイフコトモアルカ、併シ其前ニ是非トモ此收入ヲ舉ルニ就キテ此利益ヲ保護シナケレハナラヌ。收入ヲ舉ルニ當リ既ニ此倫理衛生上ノ利益ヲ傷ケテハ、後ニナツテ幾ラ補修シタトモ最早本復ハ出來ナイ。初メヨリシテ此大切ナルモノニ甚大ノ考慮ヲ拂ツテ收入策ヲ立ツヘキテアル(註二)。

(註一) げつハ曰ク、吾人は公權力ニ權利及權力目的ノ外ニ、一般福祉保護目的ノ爲メニ經濟及社會生活ニ干渉スヘキ權能ヲ認ムト。

(註二) たつけーノ如キハ實際觀察ノ結果「凡ヘテノ國家獨占ニ就キテ財政上ノ利益力常ニ結局他ノ利益ヲ壓スルモノテアル」トイフテ、右ト反對ノ見解ヲ取ルモ、私ハ飽クマテ理論上私ノ説ノ正當ヲ固持スル。

(二) 酒ノ課税ニツキテモ均シク右ノ説ヲ適用シナケレハナラヌ。財政家ハ之ニツキ公益ノ示

2) Getz, Das Branntweinmonopol als Besteuerungsform. S. 22.

3) Taquet, Le monopole de l'alcool. p. 319.

ス所ニ從ツテ私人ノ經濟ヲ壓迫スルモ辭スヘキテナク、又公益ノ指定スル以上ハ財政利益ヲ犠牲ニ供スルモ辭スヘキテナイ。勿論財政利益ヲ相當ニ進メツツ、之ト並行シテ公益特ニ夫ノ倫理衛生上ノ利益ヲ進メルコトハ出來ル。何レニセヨ飲酒ハ公益上抑制スヘキモノテアリ(註三)、此酒ノ課税ニツキテハ、酒ノ此特段ナル性質ニ考エテ特ニ此公益ニ重キヲ置キテ考究シナケレハナラヌ。即チ酒ノ課税ニ於テハ倫理衛生上ノ觀點カ其重點トイフテ良イ(註四)。由來酒税ハ實際ニ於テ財政收入ノ大ナルモノテアリ(註五)、而シテ之ヲ政府專賣化スルコトニ依リテ一層多ク此目的ヲ達スルコトヲ得ルノ見込カアリ(註六)、特ニ此ニ於テ租税時代ヨリモ簡易ナル手續ニヨリテ增收ヲ計ルコトノ出來ル便モアリ(註七)、旁々此專賣ヲ以テ主トシテ財政收入ノ爲メニ行フモノト見ヤウト思フ傾カアルケレトモ、此等ハ何レモ捉ハレタ。テアツテ、矢張り飽ク迄モ原則通り公益、此場合ニハ特ニ倫理衛生ニ重キヲ置キテ之ヲ考察スヘキテアル。若モ財政收入ニ重キヲ置クトイフナレハ、酒ノ如キモノカラ取ルヘキテハナク、所得税其他ノ如ク倫理衛生關係ノ問題トナルコトノ少キモノカラ取ルヘキテナル。又均シク酒ヨリ取ルトシテモ單ニ收入タケノ爲メナラハ普通ノ税ノ儘テモ宜シク、態々專賣ニ依ルニハ及ハナイ(註八)。

(註三) げつつハ飲酒ニヨリテ生セラレル國民健康、國民道義及國民經濟ノ損害カ重要テ、公權力ニ此弊害ヲ抑制スルノ義務カ生スルトイヒ、こんらーゴモ亦醫學及經驗カ飲酒ニヨリテ利益ヨリモ一層多ク損害ノ生スルコトヲ示シタトイフテ居ル。⁴⁾

(註四) ばりゆーハ火酒税ハ其税率ノ決定力、恐ラクハ負擔ノ公平ナル分配ヨリモ異リタル道義上ノ考ニ依リ解セラレ且 指示サレタル稀ナル例ノ一ヲ示ストイヒ、ばすてーぶるハ道義化ノ手段トシテ租税ヲ用ユルコトハ、今日ニテモ酒精飲料税ノ示ス如ク重要ナル事項テアルトイフ。⁵⁾

(註五) ふおつけハ酒精飲料、到ル處ニ凡ヘテノ消費税ノ出發及中心點ヲ成ス。イヒ、ばーでんばいまいハ火酒は全ク大ナル租税收入ヲ生スルモノト爲ス。ソシテばすてーぶるハ採用スル形式ハ何テアルニシテモ、酒類ト煙草トハ間接税ノ一ニスルタケテハ近キ將來ニ重ナル財源テナケレハナラヌトイヒ、ばーりゆーハ消費税中、最廉ムヘキモノハ煙草税テ、其次カカ火酒税テアルトイフテ居ル。⁶⁾

(註六) りつばーは酒精獨占ノ凡ヘテノ形式ニ共通ナノハ、租税負擔ノ強キ引上又ハ此税源ノ多收ノ向上ノ可テアルト爲シ、へつけるモ火酒獨占ハ最容易ニ火酒税收入ノ望マシキ増加ヲ許スト爲シ、わーべるひモ火酒獨占ノ利益トシテ、財政收入カ大ニ増加セラレ得ルコトヲ擧ケテ居ル。其他につちハ一般ニ政府獨占ノ選マルル重ナル原因ハ、或場合ニハ凡ヘテ他ノ製造又ハ消費ノ税ヨリモ一層大ナル收入ヲ保證スルコトニ在リト爲シ、ぼるぐも此財政獨占カ事情ニ依リテハ消費税ヨリ生スヘキ收益ヲ増加スルノ特ニ有力ナル方法テアルトイフテ居ル。⁷⁾

(註七) れういんハ曰ク、獨占採用前ニハ各ノ租税引上ハ、法的方法ヲ採ルコトヲ要シテ困難ニ遭遇シタ。然ルニ獨占ハ此問題ヲ頗ル簡便トシタ。即チ大藏大臣ノミニテ火酒ノ價ヲ最高額マテ勝手ニ引上クルコトヲ得タト。⁸⁾

(註八) ねらすハ曰ク、人カ大ナル收入ヲ火酒消費税ヨリ得ヤウトスルナラハ、必スシモ獨占ヲ要シナイト。⁹⁾

4) Getz, a. a. O. S. 11. Courad, Grundriss. Fw 2 Aufl. S. 72.
 5) Papien, Traité des impôt. 2 éd. II. p. 450. Bastable, Public finance 3 ed. p. 506-7.
 6) Voelke, Fw. S. 68. Bodenheimer, Zur Frage einer eigenständigen Steuer an Tabak und Branntwein: S. 58 Bastable, l. c. p. 540. Beaulieu, Traité de la science des finances. 5 éd. l. p. 707.

第二段 本 問 題

其一 酒ノ消費ノ方面ヨリ見タル本問題

(一) 酒ノ消費量ヨリノ觀察

(A) 消費量ノ調節——酒ノ消費ハ利ヨリモムシロ害カ多ク、倫理衛生上ヨリ見レハ全ク無トスルカ、少クトモ之ヲ適度トスルカ良イ。適度カ困難トアレハ無トスルノ外ナク、恐ラクハ其處ニ最後ノ歸趨カラウカ、併シ其モ亦タ行ヒ難キモノカアリ、特ニ財政上困マルトイフニ就イテハ(註九)、矢張り適度ノ消費ヲ導クコトニ來ラサルヲ得ナイ。而シテ其ニハ二ノ方法カアル。一ハ一人當リ年最高消費量幾計ト指定シテ、其者ニ一年中ニ全計其レタケ以上ノ賣却ヲ禁スルコトテ、他ハ別ニ此ノ如キモノヲ定メスシテ、唯タ酒ノ價ヲ大體高クシ、持ニ高等品ニハ非常ニ之ヲ高クシテ、一般人ヲシテ自ラ酒ノ消費ヲ節セサルヲ得サラシムルコトテアル(註一〇)。實際ニ於テハ此二ノ中ノ何レカヲ選ムノ外ナイ(註一一)。ソシテ其中テハ前者カ消費ヲ適度ニスルニ最適切テハアルカ、併シ此ハ監督カ面倒テアルノミナラス、財政收入ニ重大ナル不利ヲ生スルトイフコトモカアル。テ多分財政上ノ利益モ相

7) Lippert, Das A'koho'monop'ol, S. 68, Heckel, Lehrbuch. II. S. 85. Derelbe, Branntweinsteuer. (in Conrad' Hwb. 3 Aufl. III.) S. 211. E' eberg. Fw. 9 Aufl. S. 362. Nitti, Principes de science des finances. p 577 Borgh, Fw. S 137

當ニ收メラレ、而カモ消費量ノ取締モ入ラスシテ自然ニ其量ノ調節ノ行ハルル第二ノ方法カムシロ多ク行ハルルコトトナラウ。此ハ前者ニ比シテ倫理衛生上ノ不満足ノ嫌カアルカ、夫ノ無制限自由ヨリハ既ニ若干ノ制限カアリ、隨テ倫理衛生上ニ貢獻スルノ故ニ採用セラレルコトニナル。尤モ其ノ孰レヲ採ルカハ精密ニイヘハ時ノ國民ノ輿論又ハ其道義標準ノ高サニ係ルコトテアル。併シ其ノ孰レヲ採ルヲ問ハス、兎ニ角消費量調節ノ爲メニハ政府專賣テアル方カ良イ(註一二)。第一ノ方法ヲ採ル場合ニハ、政府專賣ノ下ニ民業ノ下ニ於ケルヨリモ分量制限カ一層有功ニ行ハルル。第一方法ニテモ亦、第二方法ニテモ、政府專賣トナレハ、民業ノ場合ト異リ時トシテ財政收入上ノ利益ヲ犧牲ニシテモ倫理衛生上ノ目的ヲ計リ得ル。第二ノ方法ノ下ニハ第一ノ方法ニ比シテ財政收入ノ利益ヲ重ンズルコトニナリ易イカ、其テモ政府獨占ノ下ニ於テハ之ヲ抑エテ公益ヲ計ルコトカ民業課稅時代ヨリハ一層容易テアル。而シテ普通ノ場合ニハ政府專賣ノ下ニ民業ノ下ニ於ケルヨリモ一層多ク酒價ヲ引上ケルコトトナツテ、政府ノ收入ヲ減少スルコトナクシテ一層多ク消費ヲ節セシメ、夫ノ倫理衛生ノ目的ヲモ達セシメル(註一三)。此等ノ點ヨリ見テ酒ノ如キモノハ政府專賣ニシテ夫ノ目的ヲ一層ヨク達スルノカ選ムヘキテアル。